

令和5年度

児童教育学科 初等教育学専攻

授 業 要 覧

SYLLABUS

YJC 山口短期大学
Yamaguchi Junior College

授業要覧

目 次

基礎教育科目

宗教学	1
生活と芸術	3
余暇生活論	6
比較文化概説（一般学生対象）	8
比較文化概説（留学生対象）	10
日本国憲法	12
現代社会問題	14
行動科学	16
物理学	18
生物学	22
データサイエンス入門	24
学問と人間の探求	26
国際交流	28
言葉とコミュニケーション（一般学生対象）	30
言葉とコミュニケーション（留学生対象）	32
英語会話	35
英語会話	37
ハングル	39
日本語（留学生対象）	42
健康科学	45
スポーツ教育	47

児童教育学科 初等教育学専攻

専門教育科目

国語（書写を含む。）	49	外国語指導法	165
国語表現学	52	教育方法学	168
社会	54	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	171
算数	57	情報処理実習Ⅰ	174
理科	60	情報処理実習Ⅱ	176
生活	64	プログラミング教育	178
音楽	67	進路指導の理論と指導法	180
声楽	70	生徒指導と教育相談	184
器楽Ⅰ	72	特別支援教育	187
器楽Ⅱ	74	ボランティア実習	191
図画工作	76	教育実習指導	194
工芸	80	教育実習	197
体育Ⅰ	83	学校体験活動	199
体育Ⅱ	86	教職実践演習（小学校）	202
リズム運動	89		
家庭	92	幼稚園教諭二種免許状に 関わる科目	
外国語	96		
特別講義	100		
卒業研究	102	幼児教育課程論	204
現代教師論	104	幼児指導法	208
学校教育の制度と経営	107	保育内容の指導法（健康）	211
教育原論	109	保育内容の指導法（人間関係）	215
教育心理学	113	保育内容の指導法（環境）	218
児童心理学	116	保育内容の指導法（言葉）	222
初等教育課程論	118	保育内容の指導法（表現Ⅰ（音楽・造形））	228
国語科指導法	122	幼児理解と教育相談	236
社会科指導法	125	保育・教職実践演習（幼稚園）	239
算数科指導法	129	幼児と言葉	241
理科指導法	133	幼児と音楽表現	244
生活科指導法	137	幼児と造形表現	246
音楽科指導法	140	幼児と健康	250
図画工作科指導法	143	幼児と人間関係	254
体育科指導法	148	幼児と環境	257
家庭科指導法	152		
道徳の理論と指導法	155		
総合的な学習の時間の指導法	159		
特別活動の指導法	162		

基礎教育科目

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
宗教学 Religion		全学科		23BAHU1001	1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	島田 一道			
ディプロマ ポリシー との関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	この講義の目標は宗教を知ることである。世界には数多くの宗教が存在し、その形態もさまざまである。日本においてもこれまでいくつもの宗教が誕生して、他国からも伝わってきている。まずはそれらを概観していく。そして、日本人はこれまで宗教とどのように関係してきたのか、それを歴史や文化の中からうかがっていく。 そして、現代に生きる我々がこれからどう宗教と向き合っていくのかを探っていきたい。					
到達目標	(1) 世界三大宗教（特に仏教）を知り、その内容を説明することができる。 (2) 日本における宗教の歴史を説明することができる。 (3) 浄土真宗や親鸞のことを説明することができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	宗教とは何か	宗教全般について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	2	キリスト教	配布資料を読み込み、キリスト教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	3	イスラム教	配布資料を読み込み、イスラム教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	4	釈尊の生涯と仏教の誕生	教科書（講義時に指示）を読み込み、釈尊について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	5	仏教 その1	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	6	仏教 その2	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	7	仏教の伝播（インド→中国→日本）	教科書（講義時に指示）を読み込み、仏教について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	8	日本宗教史 その1（古代～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（古代～）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	9	日本宗教史 その2（中世～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（中世～）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	10	日本宗教史 その3（近世～）	配布資料を読み込み、日本宗教史（近世～）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間
	11	親鸞の生涯と浄土真宗の誕生 その1	教科書（講義時に指示）を読み込み、親鸞の生涯（前半）について調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行う。	2 時間

	12	親鸞の生涯と浄土真宗の誕生 その2	教科書（講義時に指示） を読み込み、親鸞の生涯 （後半）について調べて くる。	2 時間	授業の振り返りを行 う。	2 時間
	13	浄土真宗 その1	教科書（講義時に指示） を読み込み、浄土真宗に ついて調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行 う。	2 時間
	14	浄土真宗 その2	教科書（講義時に指示） を読み込み、浄土真宗に ついて調べてくる。	2 時間	授業の振り返りを行 う。	2 時間
	15	まとめ	過去 14 回の講義内容 を振り返ってくる。	2 時間	授業の振り返りを行 う。	2 時間
成 績 評 価		定期試験（100%）				
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法		試験において、ルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび 参 考 文 献		『高校生からの仏教入門－釈尊から親鸞聖人へ－』小池秀章 著 本願寺出版社 2009 年				
メ ッ セ ー ジ な ど		皆さんにとって「宗教」とはどんなイメージですか。そして、生きていく中で「宗教」 を必要だと感じますか。 様々な宗教を知ることを通してこれらの問いを共に考えていきましょう。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 世界三大宗教 （特に仏教）を知 り、その内容を説明 することができる。	ほぼ完璧にで きる。	大きな間違い がなく、基本 を説明するこ とができる。	多少間違える が、最低限の 基本は説明で きる。	説明できない。	定期試験 （知識・理解）	35%
(2) 日本における宗 教の歴史を説明す ることができる。	ほぼ完璧にで きる。	大きな間違い がなく、基本 を説明するこ とができる。	多少間違える が、最低限の 基本は説明で きる。	説明できない。	定期試験 （知識・理解）	35%
(3) 浄土真宗や親鸞 のことを説明する ことができる。	ほぼ完璧にで きる。	大きな間違い がなく、基本 を説明するこ とができる。	多少間違える が、最低限の 基本は説明で きる。	説明できない。	定期試験 （知識・理解）	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
生活と芸術 Life and Art		全学科		23BAHU1002	1 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	田中 奏子 他			
ディプロマ ポ リ シー と の 関 係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	芸術は生活分野から切り離すことが出来ない。芸術とは特定の芸術家だけの特権ではないし、高尚な芸術作品を美術館で鑑賞することや、クラシカルな演奏会へ行くことだけでもない。「生活と芸術」とは、“生活に密着した芸術”であり、“生活に役立つ芸術”、“生活を豊かにする為の芸術”であるとも言える。ここでは、日本の伝統文化の一つである華道、様々なジャンルの音楽、五感に触れる造形作品、絵手紙、カード制作をする中で、生活の中に芸術を取り入れるセンスと方法、技術を身につける。世界でたった一つの自分の作品を制作する喜びと達成感を味わう。					
到達目標	(1) 身近に「芸術」を取り入れて生活を豊かにするための感性を養うことができる。					
	(2) 自分や周囲の人の生活に彩りを与え豊かにするための「感性を磨く意欲」を高める事ができる。					
	(3) 生活の中で「使う、飾る、プレゼントする」目的で作品を描き、制作する事ができる。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション ー生活と芸術とはー 授業について			「生活と芸術」の関 係について、自分の 考えをまとめる	2 時間
	2	花に触れる① ーいけばなの基礎ー	事前に配布したプリン ト資料を読んでくる	2 時間	ワークシートに基づ き振り返る	2 時間
	3	絵手紙の制作① ー絵手紙とはー 落款の制作	「絵手紙」について調 べてくる	2 時間	落款の試し押しをし てみる	2 時間
	4	花に触れる② ー伝統から自由花へー	事前に配布したプリン ト資料を読んでくる	2 時間	ワークシートに基づ き振り返る	2 時間
	5	絵手紙の制作② 墨で練習してみよう ー良い線とは、顔彩とはー 線の練習 葉っぱを描こう	前時に配布したプリ ントを読んでおく（静 物画について）	2 時間	墨と顔彩、落款のバ ランスがうまくとれ ているか検討する	2 時間
	6	芸術鑑賞① ークラシック音楽(1) バロック・古典派ー	クラシック音楽の指 定された時代の中か ら1曲リストアップし てくる	2 時間	授業を振り返り自分 の考えをまとめ復習 する	2 時間
	7	絵手紙の制作③ 季節の果物を描いてみよう	前時に配布したプリ ントを読んでおく（静 物画について）	2 時間	果物の絵の構図につ いて検討する	2 時間
	8	芸術鑑賞② ークラシック音楽(2) ロマン派・近現代ー	クラシック音楽の指 定された時代の中か ら1曲リストアップし てくる	2 時間	授業を振り返り自分 の考えをまとめ復習 する	2 時間

	9	絵手紙の制作④ Xmas カードを描いて送ってみよう	クリスマスカードのアイディアスケッチをする	2 時間	様々なカードの種類について調べる	2 時間
	10	芸術鑑賞③ ー世界の音楽(1) 様々なジャンルに触れるー	クラシック音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2 時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2 時間
	11	絵手紙の制作⑤ 年賀状を書いてみよう	年賀状のアイディアスケッチをする	2 時間	様々な干支の絵を調べる	2 時間
	12	芸術鑑賞④ ー世界の音楽(2)映画音楽とクラシック音楽の関係ー	クラシック音楽の指定された時代の中から1曲リストアップしてくる	2 時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2 時間
	13	絵手紙の制作⑥ 字手紙を描いてみよう	字手紙について調べておく	2 時間	字の画面に対する入れ方を検討する	2 時間
	14	プレゼンテーション ー「私」と音楽ー	好きな1曲についてプレゼンテーションの準備をしてくる	2 時間	授業を振り返り自分の考えをまとめ復習する	2 時間
	15	絵手紙の制作⑦ 額縁に入れてみよう	額縁に入れる効果について考える	2 時間	展示した作品の鑑賞をお互いにする	2 時間
成 績 評 価	作品 (40%)、授業への取り組み (60%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法						
テキストおよび参考文献	テキスト：なし (プリントを随時配布)					
メ ッ セ ー ジ な ど	田中担当授業回：花材費として、1000 円程度必要です。それ以上かかることはありません。詳しくは初回授業日に説明します。					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 身近に「芸術」を取り入れて生活を豊かにするための感性を養うことができる。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力が十分にある。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を概ね理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を理解できず、生活を豊かにするための感性を養うことができない。	作品 (知識・理解・技能・判断力・作品の完成度)	10%
	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力が十分にある。	生活の中の「芸術」を理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を概ね理解し、生活を豊かにするための感性を養うことができる能力がある。	生活の中の「芸術」を理解できず、生活を豊かにするための感性を養うことができない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%
(2) 自分や周囲の人の生活に彩りを与え豊かにするための「感性を磨く意欲」を高める事ができる。	生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲が十分にある。	生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲がある。	不十分ではあるが生活の中に「芸術」を取り入れるための感性を磨く意欲がある。	生活の中に「芸術」を取り入れることができる感性を磨く意欲がない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	50%
(3) 生活の中で「使う、飾る、プレゼントする」目的で作品を描き、制作する事ができる。	実際に使用したり、飾ったり、誰にでもプレゼントできるような作品を制作することができる。	実際に使用したり、飾ったり、知人であればプレゼントできるような作品を制作することができる。	人にプレゼントはできないかもしれないが、飾ったり、使用できる作品を制作することはできる。	実際に使用したり、飾ったり、人にプレゼントできるような作品を制作することができない。	作品 (知識・技能・創造性・表現力・作品の完成度)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
余暇生活論 Study on Leisure Life		全学科		23BAHU1003		1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員
講義	2	選択	正長 清志				
ディプロマ ポ リ シー と の 関 係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。						○
概 要	人間と社会のあり方を余暇生活というプラットフォームから見つめ、学習者一人ひとりが、これからの豊かなライフスタイルを創造していくことをねらいとして、余暇生活の概要、余暇生活のデザインを創造していく。						
到達目標	(1) 余暇生活、余暇活動についての基本を説明することができる。 (2) 各自が余暇生活を振り返り、自らの余暇生活を他者に説明できる。 (3) 余暇生活に関わる身近な問題について、自分の考えや意見を述べることができる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	授業ガイダンス自らのライフスタイルを振り返る				配付資料 1	2 時間
	2	少子高齢社会における余暇生活について		配付資料 1	2 時間	配付資料 2	2 時間
	3	余暇生活とレクリエーション①		配付資料 2	2 時間	配付資料 3	2 時間
	4	余暇生活とレクリエーション②		配付資料 3	2 時間	配付資料 4	2 時間
	5	余暇生活とレクリエーション③		配付資料 4	2 時間	配付資料 5	2 時間
	6	余暇生活能力の向上に必要なこと①		配付資料 5	2 時間	配付資料 6	2 時間
	7	余暇生活能力の向上に必要なこと②		配付資料 6	2 時間	配付資料 7	2 時間
	8	余暇生活能力の向上に必要なこと③		配付資料 7	2 時間	配付資料 8	2 時間
	9	自らのライフスタイルを振り返る報告会		配付資料 8	2 時間	配付資料 9	2 時間
	10	余暇生活を創造する①個人・グループ作業 テーマ「豊かな学生生活を送るために」		配付資料 9	2 時間	配付資料 10	2 時間
	11	余暇生活を創造する②個人・グループ作業 参考文献・先行研究の調査		配付資料 10	2 時間	配付資料 11	2 時間
	12	余暇生活を創造する③個人・グループ作業 これまでの情報・調査収集のまとめ		配付資料 11	2 時間	配付資料 12	2 時間
	13	今後の創造的な余暇生活をめざして		配付資料 12	2 時間	配付資料 13	2 時間
	14	グループディスカッション①		配付資料 13	2 時間	配付資料 14	2 時間
	15	グループディスカッション② 総括		配付資料 14	2 時間	配付資料	2 時間

成 績 評 価	定期試験 (60%)、課題・レポート (20%)、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (20%)
課題 (試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	毎時間の、授業振り返りシートにコメントを記載し、次の授業時に返却します。定期レポート結果は、ルーブリック評価にあわせて結果を返却します。課題についての振り返りと、フィードバックについては課題レポート提出後に解説します。
テキストおよび 参 考 文 献	参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付していく。配付した資料を各自のファイルに整理し課題を振り返り、提出に備えてください。 【持 参 物】 記録用ファイル ※オープン教材を使用することがあります。
メ ッ セ ー ジ な ど	入学してきた学生のみなさんと、豊かな余暇生活（学生生活）を送っていくためさらに、充実した人生のプログラムを開発しながら、自らの創造的な余暇生活を創造していきましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 余暇生活、余暇活動についての基本を説明することができる。	ほぼ完璧に説明できている。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが最低限の基本を説明できている。	説明できていない。	グループディスカッション (知識・理解)	60%
(2) 各自が余暇生活を振り返り、自らの余暇生活を他者に説明できる。	ほぼ完璧に説明できている。	大きな間違いがなく、説明できている。	間違いはいくつかあるが最低限の説明ができている。	説明できていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	20%
(3) 余暇生活に関わる身近な問題について、自分の考えや意見を述べることができる。	ほぼ完璧に自分の考えや意見を述べている。	大きな間違いがなく、自分の考えを述べている。	間違いはいくつかあるが最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
比較文化概説 Introduction to Comparative Culture		全学科 (一般学生対象)		23BAHU1004	1 年次	後期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
講義	2	選択	林 伸一				
ディプロマ ポリシー との 関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○	
概 要	日本の文化や風習を知り、自分の出身国（日本人の場合は外国）との違いを認識するとともに、異なる文化の存在への関心と理解を深める。						
到達目標	(1)文化、異文化について説明することができる。 (2)周りにいる人の異なるバックグラウンドを理解し、自身の価値観を探究することができる。						
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。						
	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	Introduction、「異文化を理解する」		Day 2 の資料を読む。	2 時間		
	2	「文化とは」 （その 1）		Day 3 の資料を読む。	2 時間	Day 1 の振り返り。	2 時間
	3	「文化とは」 （その 2）		Day 4 の資料を読む。	2 時間	Day 1-3 の振り返り、レポート 1 に備える。	2 時間
	4	「異文化適応」		Day 5 の資料を読む。	2 時間	Day 4 の振り返り。	2 時間
	5	「シミュレーション」		Day 6 の資料を読む。	2 時間	Day 5 の振り返り。	2 時間
	6	「違いに気づく」		Day 7 の資料を読む。	2 時間	Day 6 の振り返り、レポート 2 に備える。	2 時間
	7	「異文化の認識」		Day 8 の資料を読む。	2 時間	Day 7 の振り返り。	2 時間
	8	「差別を考える」		Day 9 の資料を読む。	2 時間	Day 8 の振り返り。	2 時間
	9	「世界の価値観」		Day 10 の資料を読む。	2 時間	Day 9 の振り返り、レポート 3 に備える。	2 時間
	10	「異文化トレーニング」		Day 11 の資料を読む。	2 時間	Day 10 の振り返り。	2 時間
	11	「異文化受容」		Day 12 の資料を読む。	2 時間	Day 11 の振り返り。	2 時間
	12	「自分を知る」		Day 13 の資料を読む。	2 時間	Day 12 の振り返り、レポート 4 に備える。	2 時間
	13	「非言語コミュニケーション」		Day 14 の資料を読む。	2 時間	Day 13 の振り返り。	2 時間
	14	「アサーティブコミュニケーション」		Day 15 の資料を読む。	2 時間	Day 14 の振り返り。	2 時間
15	「多文化共生社会の実現に向けて」		Day 1-15 の資料を読む。	2 時間	Day 1-15 の振り返り、最終レポートに備える。	2 時間	

成 績 評 価	課題・レポート (50%)、グループワーク・グループ討議 (50%)
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	ポートフォリオと感想文、レポートにはコメントを書いて返却する。
テキストおよび参考文献	資料は配布します。【参考文献】「異文化理解入門 原沢伊都夫 研究社」「グローバル社会における異文化コミュニケーション 池田理知子・塙幸枝 三修社」「よくわかる異文化コミュニケーション 池田理知子 ミネルヴァ書房」
メ ッ セ ー ジ な ど	クラスメートとの協同学習に積極的に取り組む態度を求めます。内容・予定は変更する場合があります。楽しい授業を心がけたいと思いますので、学生の皆さんのご協力をお願いします。

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 文化、異文化について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解)	50%
(2) 周りにいる人の異なるバックグラウンドを理解し、自身の価値観を探究することができる。	周りにいる人を理解し、自身の価値観を探究できる。	ある程度、周りにいる人を理解し、自身の価値観を探究できる。	ある程度周りにいる人を理解し、ある程度自身の価値観を探究できる。	周りにいる人を理解しようとせず、自身の価値観も探究できない。	グループワーク・グループ討議 (関心・意欲・態度・技能・表現力)	50%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
比較文化概説 Introduction to Comparative Culture		全学科 (留学生対象)		23BAHU2005	2 年次	後期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担当教員			実務家 教員	
講義	2	選択	林 伸一				
ディプロマ ポリシー との関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○	
概 要	日本の文化や風習を知り、自分の出身国（日本人の場合は外国）との違いを認識するとともに、異なる文化の存在への関心と理解を深める。						
到達目標	(1) 日本の文化について理解することができる。 (2) 日本文化と異文化について説明することができる。 (3) 母国の文化と日本の文化の違いについて、テーマを選び、発表することができる。 (4) 日本事情を理解し、日本式のマナーを実践できる。						
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。						
	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	おもてなしの心・日本式のマナーと日本事情		オリエンテーション		該当箇所の復習。	2 時間
	2	山口事情と山口の伝統文化・歴史		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	3	日本の若者のファッション：ダメージジーンズ		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	4	高齢化社会の日本事情		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	5	健康にいい日本食：栄養バランス		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	6	日本の映像芸術：フォトコンテスト		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	7	日本の色形容詞と実際の色彩		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	8	日本の四季：春夏秋冬（雪景色）		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	9	日本のソフトパワーとなったアニメ		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	10	山口の温泉と足湯		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	11	ヒューマンライブラリー（人間図書館）		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	12	朗読に挑戦してみよう！（金子みすゞ・中原中也）		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	13	世界に広がる日本文化		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	14	紙芝居で知る日本の昔話（桃太郎、一寸法師、かぐや姫など）		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	15	紙芝居で知る世界の昔話（裸の王様、ジャックと豆の木など）		該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間

成 績 評 価	定期試験 (80%)、小テスト (10%) 発表・プレゼンテーション(10%)
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法	小テストを採点し、返却時に間違った箇所を解説する。 課題の作文などを添削し、返却時に誤用例や模範例を示して解説する。
テキストおよび 参 考 文 献	PPT(パワーポイント) 教材、大人が読んで考える絵本・紙芝居教材
メ ッ セ ー ジ な ど	日本文化や異文化を絵本や紙芝居やパワーポイント教材で学びます。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 日本の文化について理解することができる。	日本文化についてほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いなく、ほぼ日本文化を理解できる。	間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化理解ができる。	日本の文化について理解することができない。	定期試験 (知識・理解)	上 段 20% 下段 5% 小計 25%
	日本文化についてほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いなく、ほぼ日本文化を理解できる。	間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化理解ができる。	日本の文化について理解することができない。	小テスト (知識・理解)	
(2) 日本の文化について説明することができる。	日本文化についてほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく、ほぼ日本文化を説明できる。	間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化の説明ができる。	日本の文化について説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	上 段 20% 下段 5% 小計 25%
	日本文化についてほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく、ほぼ日本文化を説明できる。	間違いはいくつかあるが、基本的な日本文化の説明ができる。	日本の文化について説明することができない。	小テスト (知識・理解)	
(3) 母国の文化と日本の文化の違いについて、テーマを選び、発表することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、発表することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、説明することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができない。	定期試験 (態度・表現力・判断力)	上 段 20% 下段 5% 小計 25%
	母国の文化と日本の文化の違いについて、発表することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、説明することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができる。	母国の文化と日本の文化の違いについて、理解することができない。	発表・プレゼンテーション (態度・表現力・判断力)	
(4) 日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できる。	日本式のマナーを実践し、日本事情をよく理解できる。	日本式のマナーを適切に実践し、日本事情をほぼ理解できる。	ある程度、日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できる。	日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できない。	定期試験 (態度・表現力・判断力)	上 段 20% 下段 5% 小計 25%
	日本式のマナーを実践し、日本事情をよく理解できる。	日本式のマナーを適切に実践し、日本事情をほぼ理解できる。	ある程度、日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できる。	日本式のマナーを実践し、日本事情を理解できない。	発表・プレゼンテーション (態度・表現力・判断力)	

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
日本国憲法 The Constitution of Japan		全学科		23BASO1001		※ 令和5年度生は令和6年度前期に実施	
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家教員
講義		2	選択				
ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。						○
概 要	私たちが暮らしている日本の国の憲法はどのような考え方・理念をもとに制定されているのか、人権尊重や民主主義の歴史的背景について理解しながら深めていきたいと思います。「日本国憲法」と聞くと、難しいという印象を持つ人も多いかもしれませんが、質問にも随時受け付け、映像なども用いて、憲法に関わる様々な社会の問題を身近な事柄として考えてもらえる授業を目指します。						
到達目標	(1) 日本国憲法の基本原理である基本的人権の尊重、国民主権、平和主義等の考え方や理念について理解を深めたいと、説明できる。 (2) 憲法制定の背景、近代化の流れを理解しながら、近現代史をあらためて多角的に捉え直し、現在の社会の出来事についても興味、関心を持ち、説明できる。 (3) 最高法規である憲法に規定されている内容を理解し、論理的かつ説得力ある説明ができる。						
授業内容と進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。						
	回	授業内容		予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	日本国憲法の構成と特徴		日本国憲法の特徴	0.75 時間	日本奥憲法の構成	0.75 時間
	2	大日本帝国憲法と戦前の日本		戦前の憲法	0.75 時間	大日本帝国憲法	0.75 時間
	3	日本国憲法の制定		GHQ について	0.75 時間	憲法の制定	0.75 時間
	4	前文と三大原理		前文について	0.75 時間	三大原理について	0.75 時間
	5	国民主権と民主主義		民主主義とは	0.75 時間	国民主権	0.75 時間
	6	欧米近代化の歴史と人権思想		人権とは	0.75 時間	近代化と人権	0.75 時間
	7	基本的人権①－個人の尊重・平等権－		基本的人権	0.75 時間	法の下での平等	0.75 時間
	8	基本的人権②－自由権－		自由権とは	0.75 時間	自由権の種類	0.75 時間
	9	基本的人権③－生存権－		社会権とは	0.75 時間	生存権とその施策	0.75 時間
	10	基本的人権④－参政権・新しい人権－		選挙権とは	0.75 時間	参政権	0.75 時間
	11	平和主義－第9条解釈・平和的生存権－		平和主義とは	0.75 時間	9条の解釈	0.75 時間
	12	統治機構－三権分立－		三権分立とは	0.75 時間	統治機構	0.75 時間
	13	日本の裁判制度と法律家		裁判制度	0.75 時間	民事刑事裁判	0.75 時間

	14	裁判員制度	裁判員制度の概要	0.75 時間	裁判員制度の内容	0.75 時間
	15	まとめ	憲法とは	0.75 時間	まとめ	0.75 時間
成 績 評 価		定期試験 (50%)、課題・レポート (50%)				
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法		定期試験および課題(レポート)については、模範解答を提示する。				
テキストおよび参考文献		テキスト：授業で参考資料を配布 参考文献：必要に応じて紹介				
メ ッ セ ー ジ な ど		難しい言葉や歴史も一つ一つ丁寧に理解を積み重ねていくと、今まで分からなかった世界が身近になり、広がっていきます。がんばりましょう！ 幼稚園教諭二種、小学校教諭二種：「必修」				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 日本国憲法の基本原理である基本的人権の尊重、国民主権、平和主義等の考え方や理念について理解を深めたうえで、説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	25%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解)	25%
(2) 憲法制定の背景、近代化の流れを理解しながら、近現代史をあらためて多角的に捉え直し、現在の社会の出来事についても興味、関心を持ち、説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解)	10%
(3) 最高法規である憲法に規定されている内容を理解し、論理的かつ説得力ある説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
現代社会問題 Issues in Modern Society		全学科		23BASO1002	1 年次	後期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
講義	2	選択	今川 晋平				
ディプロマ ポ リ シー と の 関 係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○	
概 要	子どもはみな、それぞれの「時代性」を背負って生きている。現代の子どもたちは、どのような問題を抱えているのでしょうか？子どもの生活を激変させた第二次世界大戦終戦から、現在に至るまで、それぞれの時代の子どもの姿を捉えながら、現代の子どもの問題について考える。						
到達目標	(1) 時代背景に合わせた子どもの問題の変化について説明できる。 (2) 子どもに関わる問題について具体的に述べることができる。 (3) マスコミ（新聞、テレビ等）のニュース報道に興味を湧き自分の意見を持って協議する。						
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。						
	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション		配布資料を読んで おく	2 時間	課題を探す	2 時間
	2	終戦前後の子ども文化		配布資料を読んで おく	2 時間	課題を探す	2 時間
	3	戦後の社会的養護		配布資料を読んで おく	2 時間	課題を探す	2 時間
	4	教育制度・集団就職		配布資料を読んで おく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
	5	高度経済成長期の子どもたち テレビの世界		配布資料を読んで おく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
	6	加熟化する進学塾		配布資料を読んで おく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
	7	いじめ		配布資料を読んで おく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
	8	平成時代の子どもたち ファミコン・シンдрローム		配布資料を読んで おく	2 時間	発表準備	2 時間
	9	少年A		配布資料を読んで おく	2 時間	発表準備	2 時間
	10	学校に行けない子ども、行かない子ども		配布資料を読んで おく	2 時間	発表準備	2 時間
	11	特別な支援の必要な子どもたち		配布資料を読んで おく	2 時間	発表準備	2 時間
	12	「モンスター・ペアレント」の出現		配布資料を読んで おく	2 時間	発表準備	2 時間
	13	女性に社会進出と保育ニーズ		配布資料を読んで おく	2 時間	発表準備	2 時間
	14	ポスター発表		発表準備	2 時間	振り返りシート の記入	2 時間
	15	スマホ世代の子どもたち		配布資料を読んで おく	2 時間	課題レポート	2 時間
※授業内容を一部変更する場合があります。							

成 績 評 価	定期試験 (40%)、課題・レポート (15%)、授業への取り組み (30%)、発表・プレゼンテーション (15%)
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	試験やレポートは、ルーブリック評価での結果を渡す。
テキストおよび参考文献	授業時にプリント配布 参考文献：深谷和子編 児童心理「子どもの問題70年」金子書房
メ ッ セ ー ジ な ど	社会人に求められる教養、技能、品格を授業の中で身につける人生で最後の時間です。自覚して頑張りましょう。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 時代背景に合わせた子どもの問題の変化について説明できる。	子どもの問題の変化を的確に説明できる。	子どもの問題の変化について大体のことを説明できる。	時代背景に合わせた子どもの問題の変化を間違いはあるが説明できる。	時代背景に合わせた子どもの問題の変化を説明できていない。	定期試験 (知識・思考力・表現力)	40%
(2) 子どもに関わる問題について具体的に述べることができる	子どもに関わる問題についての的確に認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について大体のことを認識し、自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について認識の間違いはあるが、最低限の自分の考えを述べている。	子どもに関わる問題について認識できておらず、自分の考えを述べていない。	課題・レポート (知識・思考力・判断力・表現力)	30%
(3) マスコミ(新聞、テレビ等)のニュース報道に興味を湧き自分の意見を持って協議する	的確な問題意識を持って協議している。	問題意識を持ち、協議している。	間違いはいくつかあるが、協議に参加している。	身近な問題に触れようとせず、協議していない。	授業への取り組み (関心・意欲・思考力・表現力)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別	
行動科学 Behavioral Science		全学科		23BASO1004		1 年次		前期	
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定	担当教員					実務家教員
講義		2	選択	田中 佑弥					
ディプロマ・ポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。								○
概 要	心理学がどのような学問であるかを紹介し、認知心理学、学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学といった各領域の基礎的な内容を概説する。授業は、テキストを用いて解説する。また、各授業中に講義内容について考えたことについて記入する授業課題を課す。								
到達目標	(1) 行動科学・心理学がどのような学問であるかを理解し、基礎的な知識を有している。								
	(2) 心理学の知識に基づいて、自分や他者の行動を説明することができる。								
	(3) 心理学の知識を糸口として自己や社会等から課題を見だし、取り組むことができる。								
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。								
	回	授業内容		予習内容		予習時間	復習内容		復習時間
	1	オリエンテーション行動科学・心理学とは		-			本時の内容をまとめる。		2 時間
	2	感覚・知覚		キーワードの印象を書く。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間
	3	記憶		キーワードの印象を書く。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間
	4	学習		キーワードの印象を書く。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間
	5	感情		キーワードの印象を書く。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間
	6	動機づけ		キーワードの印象を書く。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間
	7	知能		キーワードの印象を書く。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間
	8	パーソナリティ		キーワードの印象を書く。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間
	9	発達		キーワードの印象を書く。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間
	10	発達障害		キーワードの印象を書く。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間
	11	ストレス		キーワードの印象を書く。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間
	12	社会		キーワードの印象を書く。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間
	13	心理療法		キーワードの印象を書く。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間
	14	心理カウンセリング		キーワードの印象を書く。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間
	15	まとめ		テキストや配布資料を読む。		2 時間	配布資料を読み、まとめる。		2 時間

成 績 評 価	授業の感想・振り返り，授業課題（関心・意欲・態度）50%、 レポート（知識・理解）25%、 レポート（思考力・判断力・表現力）25%
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	授業課題への回答は必要に応じてフィードバックを行う。 レポートと授業課題はルーブリック評価に基づき結果を示す。
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト：米谷 淳（編著）行動科学への招待 福村出版
メ ッ セ ー ジ な ど	各授業の授業課題は成績に反映されるため、積極的に記入してください。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 行動科学・心理学がどのような学問であるかを理解し、基礎的な知識を有している。	心理学の各領域の基礎用語を十分に説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語を概ね説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語について最低限の内容を説明することができる。	心理学の各領域の基礎用語を説明することができない。	レポート （知識，理解）	25%
(2) 心理学の知識に基づいて、自分や他者の行動を説明することができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連の見出し、説明した上で自分の考えを述べることができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連を見出し、説明することができる。	毎時の内容と、自分や他者の行動との関連の見出しが不十分である。	毎時の内容を通して、自分や他者の行動を説明できない。	授業の感想・振り返り，授業課題 （関心,意欲，態度）	50%
(3)心理学の知識を糸口として自己や社会等から課題を見だし、取り組むことができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができ、表現したうえで実際に取り組むことができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができ、表現することができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができるが、表現が不十分である。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができない。	レポート （思考力，判断力、表現力）	25%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
物理学 Physics		全学科		23BANA2002	2 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	吉村 洋輔			
ディプロマ ポ リ シー と の 関 係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	物理学の基礎的・基本的事項を理解し、科学的なものの見方・考え方を養う。					
到達目標	(1) 力の表し方 合力、分力の求め方 2 力のつり合いの関係と作用反作用の関係との違いが理解できる。 (2) 重さ (N) と質量 (kg) の定義付けが正しく理解でき、重さは測定する場所によって異なり、質量は絶対不変の量であることが理解できる。 (3) 静止摩擦力について、最大静止摩擦力は垂直抗力に比例することが理解できる。圧力、浮力が正しく理解できる。 (4) 剛体のつり合いについて正しく理解できる。 (5) 速度、加速度の概念を理解し、相対速度、等加速度直線運動について理解できる。落体の運動を等加速度直線運動と結び付けてグラフを活用して、分析する。慣性力、遠心力について理解する。 (6) 仕事と仕事率、仕事量と力学的エネルギーについて理解する。 (7) 熱とエネルギー 熱の本性、セルシウス℃と絶対温度について理解する。仕事による熱の発生と熱の仕事当量について理解する。 (8) 比熱と熱容量について理解し、熱量計算ができるようにする。 (9) 気体の熱的性質について 気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解し、熱と仕事、断熱変化について理解する。 (10) 波の伝わり方、波の速さ、波長、振動数、周期について理解する。横波、縦波の伝わり方について理解する。ドップラー効果について理解する。 (11) 電流と電気抵抗について、電気回路、オームの法則、電気抵抗、電圧降下、電流と仕事ジュールの法則、電力と電力量について理解する。 (12) 物理学の基礎・基本的事項について、問題形式の課題を提出し、知識・理解、思考力、判断力の再確認をする。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	力の合成と分解	力の表し方、合力、分力の求め方。	2 時間	2 力のつりあいと作用反作用の違いが説明できる。	2 時間
	2	重さと質量	重さは測定する場所によって異なり質量は不変の量であるがわかる。	2 時間	重さと質量の関係が正しく理解できる。	2 時間
	3	いろいろな力	静止摩擦力、圧力、浮力が正しく図示できる。	2 時間	静止摩擦力、圧力、浮力が正しく理解できる。	2 時間
	4	剛体のつりあい	大きさのある物体について、力のモーメントが理解できる。	2 時間	力のモーメントのつりあいを使って大きさのある物体のつりあいを求めることができる。	2 時間
	5	速度と加速度	速度と加速度の概念が正しく理解できる。	2 時間	等速度運動、等加速度運動についてグラフに表し、グラフから速度、加速度、移動距離を求めることができる。	2 時間

	6	落体の運動	真上に投げた物体、水平に投げた物体の運動が正しく解説できる。	2 時間	等加速度直線運動の4つの公式を使って落体の運動を解説できる。	2 時間
	7	慣性力	電車内で天井からつるした物体にはたらく力を正しく図示でき、みかけの力慣性力を正しく説明できる。	2 時間	慣性力＝－質量×加速度を電車の運動、等速円運動において説明できる。	2 時間
	8	仕事と仕事率	仕事と仕事率を正しく理解できる。仕事の原理がわかる。	2 時間	ジュール、ワット単位次元についても理解する。	2 時間
	9	仕事量と力学的エネルギー	運動エネルギー、位置エネルギー。力学的エネルギーについて理解する。	2 時間	保存力だけがはたらく場合力学的エネルギーは保存されることを使って、真上に投げた物体の運動、水平に投げた物体の運動を解説できる。	2 時間
	10	熱とエネルギー	熱の本性について正しく理解し、様々な熱現象を原子、分子の概念を用いて説明できる。	2 時間	セルシウス度、絶対温度、熱の仕事当量について理解を深める。また熱量計算ができる。	2 時間
	11	気体の熱的性質	気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイルシャルルの法則を正しく理解する。	2 時間	気体の内部エネルギー、熱力学の第一法則断熱変化について理解する。	2 時間
	12	波の伝わり方	波の伝わり方を媒質の概念から説明できる。	2 時間	横波、縦波、ドップラー効果について理解を深める。	2 時間
	13	電気と電圧、電流と電子	電流回路、抵抗、電圧降下、抵抗率、オームの法則を理解する。	2 時間	抵抗を直列、並列接続した回路で抵抗を流れる電流を求める。	2 時間
	14	電気エネルギー	ジュールの法則、電力、電力量、電力の単位を理解する。	2 時間	電気器具を消費した時間から消費電力を求めることができる。	2 時間
	15	問題演習	問題演習課題プリント	2 時間	プリントの問題が確実に解けるようにする。	2 時間
成 績 評 価		定期試験 (80%)、課題・レポート (20%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		ループリック評価をフィードバックする。				
テキストおよび参考文献		作成プリントを使用				
メ ッ セ ー ジ な ど		日常生活でよく出会う物理事象を取り上げ、おもしろく興味ある授業にする。				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 力の表し方 合力、分力の求め方 2力のつり合いの関係と作用反作用の関係との違いが理解できる。	ベクトル作図を使ってほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく基礎・基本的事項は理解できている	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(2) 重さ (N) と質量 (kg) の定義付けが正しく理解でき、重さは測定する場所によって異なり、質量は絶対不変の量であることが理解できる。	ほぼ完璧に理解できている。	大きな間違いはなく基礎・基本的事項は理解できている	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	5%
(3) 静止摩擦力について、最大静止摩擦力は垂直抗力に比例することが理解できる。圧力、浮力が正しく理解できる。	力のベクトル作図を使って説明でき、ほぼ完璧に理解できている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	いくつかの間違いはあるが、最低限の基本は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(4) 剛体のつり合いについて正しく理解できる。	ほぼ完璧に理解できている。応用力も身につけている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%
(5) 速度、加速度の概念を理解し、相対速度、等加速度直線運動について理解できる。落体の運動を等加速度直線運動と結び付けてグラフを活用して、分析する。慣性力、遠心力について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いはなく基本的事項は理解できている。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	9%
(6) 仕事と仕事率、仕事量と力学的エネルギーについて理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、思考力応用力も身につけている。	基礎・基本的事項が大きな間違いがなく、ほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	8%
(7) 熱とエネルギー 熱の本性、セルシウス度と絶対温度について理解する。仕事による熱の発生と熱の仕事当量について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	5%
(8) 比熱と熱容量について理解し、熱量計算ができるようにする。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	7%
(9) 気体の熱的性質について 気体の圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則について理解し、熱と仕事、断熱変化について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%

(10) 波の伝わり方、波の速さ、波長、振動数、周期について理解する。横波、縦波の伝わり方について理解する。ドップラー効果について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	6%
(11) 電流と電気抵抗について、電気回路、オームの法則、電気抵抗、電圧降下、電流と仕事ジュールの法則、電力と電力量について理解する。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	定期試験	10%
(12) 物理学の基礎・基本的事項について、問題形式の課題を提出し、知識・理解、思考力、判断力の再確認をする。	基礎・基本的事項がほぼ完璧に理解できおり、思考力応用力も身につけている。	大きな間違いがなく、基礎・基本的事項をほぼ理解している。	いくつかの間違いはあるが最低限の基本事項は理解できている。	理解できていない。	課題・レポート	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
生物学 Biology		全学科		23BANA2004	2 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	安藤 稔朗			
ディプロマ ポリシー との 関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	生物学への興味と関心が遠ざかった学生や、高校で生物を履修してこなかった学生も考慮に入れながら、生物学の基礎的・基本的事項について学習し、生物学的思考力を養う。 生物学の基礎となる理論、現象について学習する。					
到達目標	(1) 生物分野において、科学的なものの見方、考え方を培うための内容について、具体的な資料を活用しながら説明できる。 (2) 生物学で取り扱う教材の特性や着眼点などについて、レポートにまとめ説明できる。 (3) テキストの生物教材をとおして、自然現象の解明の仕方を説明できる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション	テキスト 1～5 ページを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
	2	生物学のあゆみ	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
	3	生命とは何か ー生命とその特徴ー	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
	4	生命の基本単位 ー細胞ー	テキスト6～11 ページを調べておく	2 時間	単細胞生物と多細胞生物をまとめる	2 時間
	5	植物の構成と機能	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
	6	植物の成長	テキスト 12～13Pを調べておく	2 時間	植物の成長について特色を整理する	2 時間
	7	環境と植物	用意したプリントを読んでおく	2 時間	環境と植物のかかわりをまとめる	2 時間
	8	動物の働き ー生理作用ー	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
	9	動物の行動	テキスト 20～25Pを調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容を復習する	2 時間
	10	生殖と発生	テキスト 14～16Pを調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
	11	遺伝	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
	12	生物の多様性と進化	用意したプリントを読んでおく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
	13	生物の生活と生産	テキスト 26～30Pを調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
	14	生物界のつりあいと自然環境 保全	テキスト 31～32Pを調べておく	2 時間	授業を振り返り、内容をまとめる	2 時間
	15	地球環境と生命	テキスト 33～34Pを調べておく	2 時間	授業を振り返り、要点をまとめる	2 時間
成 績 評 価		定期試験（30%）、課題・レポート（30%）、教材作成（40%）				

課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト：安藤稔朗「生物学」山口短期大学 資料・プリント：その都度配布
メ ッ セ ー ジ な ど	講義で学び取る学習から、講義を契機に自分の頭で思考する学習への転換をはかることが肝要である。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 生物分野において、科学的なものの見方、考え方を培うための内容について、具体的な資料を活用しながら説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、内容を説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	30%
(2) 生物学で取り扱う教材の特性や着眼点などについて、レポートにまとめ説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (関心・意欲)	30%
(3) テキストの生物教材をとおして、自然現象の解明の仕方を説明できる。	ほぼ完璧に授業を工夫できる。	大きな間違いがなく、授業を工夫できる。	間違いはいくつかあるが、授業を工夫できる。	工夫できていない。	教材作成 (思考力・判断力・表現力)	40%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
データサイエンス入門 Introduction to Data Science		全学科		23BANA1001	1 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	横山 修			
ディプロマ ポリシー との 関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	数理・データサイエンス・AI は、私たちの日常生活や社会の諸問題を解決する有力なツールである。この講義では、数理・データサイエンス・AI がどのような領域でどのように利活用されているのかを現場での事例を挙げて説明する。また、数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり、留意すべき事項についても解説する。さらに、データを適切に処理・分析する力を養うため、実データを用いた演習を行う。					
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化およびデータ・AI の利活用の最新動向について説明できる。 (2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AI の活用領域について説明することができる。 (3) データ・AI の利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。 (4) 数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり留意すべき事項（ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等）を説明できる。 (5) データを適切に処理・分析し、データが持つ意味を説明できる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション ―数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化―	シラバスを読み、科目の内容を把握する	1 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	2	社会で利活用されているデータとその活用法および活用領域	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	3	データ・AI の利活用のための技術	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	4	現場におけるデータ・AI 利活用の事例紹介	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	5	データ・AI 利活用の最新動向	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	6	情報セキュリティ、データ・AI 利活用における法と倫理	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	7	データを読む① ―量的データと質的データ、データの分布と代表値―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	8	データを読む② ―データのばらつき―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	9	データを読む③ ―誤差、打ち切り、脱落を含むデータの取り扱い―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	10	データを読む④ ―データの相関―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	11	データを読む⑤ ―クロス集計―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間

	12	データを読む⑥ ー母集団と標本ー	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	13	データを説明する ーデータのグラフ・チャート化ー	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	14	データを扱う① ーデータ解析ツールの使用方法ー	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
	15	データを扱う② ーデータの集計・並べ替え・ランキングー	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を復習する	2 時間
成 績 評 価		課題・レポート（80%）、授業への取り組み（20%）				
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法		定期試験とレポートはルーブリック評価に基づき結果を示す。				
テキストおよび 参 考 文 献		テキスト：なし				
メ ッ セ ー ジ な ど		小学校教諭二種免許状、幼稚園教諭二種免許状：必修、情報メディア学科：卒業必修				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化およびデータ・AI の利活用の最新動向について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	20%
(2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AI の活用領域について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(3) データ・AI の利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(4) 数理・データサイエンス・AI の利活用に当たり留意すべき事項（ELSI、データ倫理、情報セキュリティ等）を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の説明はできる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	10%
(5) データを適切に処理・分析し、データが持つ意味を説明できる。	ほぼ完璧に、データ処理・分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	大きな間違いがなく、データ処理・分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限のデータ処理・分析ができ、データが持つ意味を説明できる。	データの処理・分析ができない。	授業への取り組み（知識・理解・技能・思考力・判断力）	20%
					課題・レポート（知識・理解・思考力・判断力）	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
学問と人間の探求 Study on Academics and Human Beings		全学科		23BAGE1001	1 年次	前期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
講義	2	必修	柴田 道信・佐藤 嘉倫				
ディプロマ ポリシー との 関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○	
概 要	新入生が大学生活に円滑に適応し、学友とともに有意義な学生生活を送れることを目的とする。本学の理念と方針、学生生活の心得、大学での学びへの理解を深めるとともに、これからの人生を見据えた学生生活のあり方を学生自ら考える時間とする。						
到達目標	(1) 大学での学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。 (2) 大学生としての基本的なアカデミック・スキルが身に付いている。 (3) 異なる考え方や知識を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。						
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。						
	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション		シラバスを読み、科目の内容を把握する	1 時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2 時間
	2	本学を知る ～建学の精神と 3 つのポリシー～		学生便覧の該当箇所を読む	2 時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2 時間
	3	学生生活について①学生生活の心得		学生便覧の該当箇所を読む	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
	4	学生生活について②安全・安心な生活		消費者問題について調査する	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
	5	大学での学びとキャリアデザイン		大学での学びの意義を考え、まとめる	2 時間	授業内容を振り返り、自己分析を行う	2 時間
	6	Google Classroom の利用①基本的な使用方法		Google Classroom について調べておく	2 時間	授業内容を振り返り、課題に取り組む	2 時間
	7	Google Classroom の利用②課題等の提出方法		どのような提出方法があるか調べておく	2 時間	授業内容を振り返り、課題に取り組む	2 時間
	8	レポートの書き方①レポートとは？		レポートとは何かを調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
	9	レポートの書き方②原稿用紙の使い方		原稿用紙の使い方を調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
	10	レポートの書き方③論理的な書き方		論理的な書き方とは何か考える	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
	11	レポートの書き方④引用のルール		引用のルールについて調べる	2 時間	課題レポートを作成する	2 時間
	12	グループ討議について		グループ討議の発散・収束手法を調べる	2 時間	授業内容を振り返る	2 時間
13	グループ討議①選択型		選択型グループ討議について調べる	2 時間	授業内容を振り返り、グループ討議の意義を考える	2 時間	

	14	グループ討議②課題解決型	課題解決型グループ討議について調べる	2時間	授業内容を振り返り、グループ討議の意義を考える	2時間
	15	まとめ	授業全体を振り返る	2時間	授業内容を振り返り、考えをまとめる	2時間
成績評価		課題・レポート (30%)、授業への取り組み (40%)、グループワーク・グループ討議 (30%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		授業において提示した課題については、授業内で個人あるいは全体に対してフィードバックする。				
テキストおよび参考文献		必要に応じてプリント配布				
メッセージなど						

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 大学での学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。	大学での学びと自らの将来を十分に関連付け、主体的に学ぶことができる。	大学での学びと自らの将来をある程度関連付け、主体的に学ぶことができる。	最低限ではあるが、主体的な学びの姿勢が見られる。	主体的な学びの姿勢が見られない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	40%
(2) 大学生としての基本的なアカデミック・スキルが身に付いている。	ほぼ完璧にアカデミック・スキルが身に付いている。	大きな間違いもなく、アカデミック・スキルが身に付いている。	最低限のアカデミック・スキルは身に付いている。	アカデミック・スキルが身に付いていない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	30%
(3) 異なる考え方や知識を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。	積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考えを大きく発展させることができる。	コミュニケーションを図り、自らの知識や考え方をある程度広げることができる。	最低限のコミュニケーションは図ることができる。	コミュニケーションを図ることができない。	グループワーク・グループ討議 (態度・思考力・表現力・協働性)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
国際交流 International Activities		全学科		23BAGE2002	2 年次	通年	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
演習	2	必修	中津 愛子・寺本 公思・柴田 道信・ 田中 奏子・呉 靱				
ディプロマ ポリシー との関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○	
概 要	文化的背景の異なる人々との交流を通じて、様々な文化・風習・考え方に触れ、異文化への理解を深める。また、実際の体験に基づき異文化理解を深めることを目的とする。						
到達目標	(1) 外国事情や異文化に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。 (2) 異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図るための態度と能力を身に付けている。 (3) 複眼的な視点で異文化を捉え、異文化に理解を示すことができる。						
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。						
	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション 私と国際交流 1（まとめる）		シラバスを読む	1 時間	自分の人生における国際交流をまとめる	1 時間
	2	私と国際交流 2（共有する）		自分の人生における国際交流をまとめる	1 時間	グループ活動の結果をまとめる	1 時間
	3	私の国際交流体験記 1 （日常生活）		日常生活における常識と非常識を考える	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
	4	私の国際交流体験記 2 （食文化）		自国の食文化の特徴をまとめる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
	5	私の国際交流体験記 3 （コミュニケーション）		日常使うジェスチャーを考える	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
	6	私の国際交流体験記 4 （価値観）		自身の価値観を考える	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
	7	海外の生活文化や習慣を知る 1		指示された国について調べる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
	8	海外の生活文化や習慣を知る 2		指示された国について調べる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
	9	海外の生活文化や習慣を知る 3		指示された国について調べる	1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
	10	まとめ		前期の授業内容を振り返りまとめる	2 時間		
	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	11	オリエンテーション 国際交流活動について調べよう 1			1 時間	外務省の HP 等で調べる	1 時間
12	国際交流活動について調べよう 2		資料を自分で見つける	1 時間	資料を読みまとめる	1 時間	

	13	国際交流活動について調べよう 3	資料を読んでおく	1 時間	資料を読みまとめる	1 時間
	14	海外で活躍する人々		1 時間	本時の内容を振り返る	1 時間
	15	異文化理解講座 1		1 時間		1 時間
	16	異文化理解講座 2		1 時間		1 時間
	17	異文化理解講座 3		1 時間		1 時間
	18	異文化理解講座 4		1 時間		1 時間
	19	異文化理解講座 5		1 時間		1 時間
	20	まとめ	全授業内容を振り返りまとめる	1 時間		
成 績 評 価		課題・レポート (30%)、授業への取り組み (70%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		授業において提示した課題については、授業内で全体に対してフィードバックする。				
テキストおよび参考文献		適宜プリントを配布				
メ ッ セ ー ジ な		海外を訪れ、異文化を体験するということは、何事にも代え難い経験であり、その後の人生の大きな糧となります。これをきっかけに皆さんが海外の文化に関心を持ち、海外を視野に活躍する人材となることを期待しています。				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 外国事情や異文化に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。	外国文化へ高い興味・関心を示し、意欲的に学ぶ姿勢が見られる。	外国文化へ興味・関心を持ち、学ぶ姿勢も十分見られる。	外国文化への興味・関心は低い、最低限の学ぶ姿勢は見られる。	外国文化への興味・関心が低く、学ぶ姿勢が見られない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	50%
(2) 異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図るための態度と能力を身に付けている。	完璧に身に付いている。	十分に身に付いている。	最低限であるが身に付いている。	身に付いていない。	授業への取り組み (態度・表現力・協働性)	20%
(3) 複眼的な視点で異文化を捉え、異文化に理解を示すことができる。	自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察し、異文化経験を解釈できる。	自身の世界観およびこれと異なる世界観の見方から異文化を観察することができる。	自分の世界観を中心に異文化を見ているが、異文化を理解しようとする姿勢は見受けられる。	自分の世界観のみを通して異文化を見ており、異文化への理解・も低い。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	30%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
言葉とコミュニケーション Language and Communication			全学科 (一般学生対象)		23BAGE1004	1 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定	担当教員			実務家教員
講義		2	選択	小河原 香代子			
ディプロマポリシーとの関係		何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要		英語でコミュニケーションを図る際に大切なことは何だろうか？英語と日本語の言語文化の違いから日本人が陥りやすい問題点に焦点を当て、会話を円滑に続けられる能力を身につけるためのストラテジー（方略）について学ぶ。					
到達目標		(1) 英語と日本語の言語表現のストラテジーの違いについて説明できる。					
		(2) 英語コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。					
		(3) 言語文化の違いについての気付き、考え方を述べることができる。					
授業内容 と 進め方		山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
		回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
		1	イントロダクション Unit 1 困っている人に話しかける			Unit 1: テキストの内容、英語表現を復習する。	2時間
		2	Unit2 初対面の人と会話を続ける	Unit 2: テキストを読んで内容を理解する。わからない単語は調べておく。 Exercises をする。	2時間	Unit 2: テキストの内容、英語表現を復習する。 音声が開けるところは音声を聞いて練習する。	2時間
		3	Unit 1, 2 復習	Unit 1、2: 練習問題のやっていない箇所	2時間	Unit 1、2: テキストにある表現を覚える。音声が開けるところは音声を聞いて練習する。	2時間
		4	Unit 3 ポジティブ/ネガティブな意見を述べる	Unit 3: テキストを読んで内容を理解する。わからない単語は調べておく。 Exercises をする。	2時間	Unit 3: テキストの内容、英語表現を復習する。 音声が開けるところは音声を聞いて練習する。	2時間
		5	Unit 4 体調を伝える	Unit 4: 同上	2時間	Unit 4: 同上	2時間
		6	Unit 5 注意する	Unit 5: 同上	2時間	Unit 5: 同上	2時間
		7	Unit 6 提案する	Unit 6: 同上	2時間	Unit 6: 同上	2時間
		8	Unit 7 スケジュールを調整する	Unit 7: 同上	2時間	Unit 7: 同上	2時間
		9	Unit 8 依頼を断る	Unit 8: 同上	2時間	Unit 8: 同上	2時間
		10	Unit 9 解決策を提案する/協同作業する	Unit 9: 同上	2時間	Unit 9: 同上	2時間
		11	Unit 10 お願いする	Unit 10: 同上	2時間	Unit 10: 同上	2時間
		12	Unit 11 アドバイスをする	Unit 11: 同上	2時間	Unit 11: 同上	2時間
		13	Unit 12 発言を聞き返す	Unit 12: 同上	2時間	Unit 12: 同上	2時間
		14	Unit 13 相手を励ます	Unit 13: 同上	2時間	Unit 13: 同上	2時間
		15	Unit 14 誤解を解く/真意を伝える復習	Unit 14: 同上	2時間	Unit 14: 同上	2時間

成 績 評 価	定期試験（70%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（30%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートを評価し、次の授業時に返却する。
テキストおよび参考文献	NUST-HAVE English Skills for Global Communication グローバル人材をめざす大学生の英語スキル&コミュニケーション
メ ッ セ ー ジ な ど	実際にペアワークやグループワークでコミュニケーションを取りながら行うアクティブラーニング型の授業です。互いに学び合う、積極的な授業参加を望みます。予習、復習が必要です。

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 英語と日本語の言語表現のストラテジーの違いについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく、基本的概念を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本的概念を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	30%
(2) 英語コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に場面や状況に応じた表現を実践することができる。	課題に対する認識に誤りや大きな論理的問題もなく、場面や状況に応じた表現を実践することができる。	課題に対する認識に間違いがいくつかあるが、場面や状況に応じた表現を最低限実践することができる。	課題に対する認識に間違いがあり、場面や状況に応じた表現ができていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	40%
(3) 言語文化の違いについての気付き、考え方を述べることができる。	言語文化の違いについて理解し、自分の気付き、考え方を明確に述べている。	言語文化の違いについて、認識に誤りや大きな論理的問題もなく、最低限の自分の気付き、考え方を述べている。	言語文化の違いについて、認識に間違いがいくつかあるが、最低限の自分の気付き、考え方を述べている。	言語文化の違いについて、認識に間違いがあり、自分の考えを述べていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
言葉とコミュニケーション Language and Communication		全学科 (留学生対象)		23BAGE2005	2 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家 教員
講義	2	選択	林 伸一			
ディプロマポリシーとの関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	日本語でコミュニケーションを図る際に大切なことは何だろうか？母語と日本語の言語文化の違いから日本語学習者が陥りやすい問題点に焦点を当て、読解力と会話を円滑に続けられる能力を身につけるためのストラテジー（方略）について学ぶ。					
到達目標	(1) わからない言葉の意味を聞いて、どうすればいいのか確認することができる。 (2) 頼みにくいことを丁寧に頼むことができる・感謝の気持ちを表すことができる。 (3) 事情を説明して丁寧に謝ることができる・変更をお願いすることができる。 (4) 人や物の様子を詳しく説明することができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	お願いがあるんですが（頼みにくいことを丁寧に頼む・感謝の気持ちを表す）／畳	オリエンテーション		該当箇所の復習。	2 時間
	2	何のことですか（わからない言葉の意味を聞いて、どうすればいいのか確認する）／外来語	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	3	遅れそうなんです（事情を説明して丁寧に謝る・変更をお願いする）／時間よ、止まれ！	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	4	伝言お願いできますか(伝言を頼む・受ける・留守番電話に伝言を残す)／電話嫌い	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	5	どう行ったらいいのでしょうか（行き方を尋ねる・教える・道順を尋ねる・教える）／地図	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	6	行かせていただきたいんですが（許可を得たいと申し出る）／メンタルトレーニング	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	7	楽しみにしています・遠慮させてください（誘いを受ける・断る）／まんじゅう、怖い	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	8	迷子になっちゃったんです（人や物の様子を詳しく説明する）／科学者ってどう見える？	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	9	どこが違うんですか（希望や条件を伝える・比較し選択する）／カラオケ	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間

	10	そんなはずはありません（誤解されたことに冷静に反応する）／記憶型と注意型	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	11	お勧めのところ、ありませんか（提案する・提案を受け入れる）／白川郷の黄金伝説	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	12	ご迷惑をかけてすみませんでした（謝る・事情を説明する）／日本で暮らす（座談会）	該当箇所の予習。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	13	まとめと復習（弱点補強） 1	既習事項まとめ。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	14	まとめと復習（弱点補強） 2	既習事項まとめ。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
	15	まとめと復習（弱点補強） 3	既習事項まとめ。	2 時間	該当箇所の復習。	2 時間
＊ 1 レッスン 1 課を目安としていますので予習、復習をしっかりとて授業に臨むこと。						
成 績 評 価	定期試験（80%）、小テスト（20%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	小テストを採点し、返却時に間違った箇所を解説する。 課題の作文などを添削し、返却時に誤用例や模範例を示して解説する。					
テキストおよび参考文献	小テストとして、日本語能力試験問題集などを用いる					
メッセージなど	日本語と日本文化に興味を持って、会話練習などの活動に積極的に授業参加されることを望みます。予習、復習が必要です。					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) わからない言葉の意味を聞いて、どうすればいいのか確認することができる。	ほぼ完璧に確認できる。	大きな間違いなく、確認できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の確認はできる。	確認することができない。	定期試験 (知識・理解)	20%
	ほぼ完璧に確認できる。	大きな間違いなく、確認できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の確認はできる。	確認することができない。	小テスト (知識・理解)	5%
(2) 頼みにくいことを丁寧に頼むことができる・感謝の気持ちを表すことができる。	ほぼ完璧に依頼し、感謝することができる。	大きく礼を失うことなく依頼し、感謝できる。	表現上の間違いはいくつかあるが、おおよそ依頼し、感謝できる。	依頼し、感謝することができない。	定期試験 (知識・理解)	20%
	ほぼ完璧に依頼し、感謝することができる。	大きく礼を失うことなく依頼し、感謝できる。	表現上の間違いはいくつかあるが、おおよそ依頼し、感謝できる。	依頼し、感謝することができない。	小テスト (知識・理解)	5%
(3) 事情を説明して丁寧に謝ることができる・変更をお願いすることができる。	ほぼ完璧に事情説明し謝れる。変更依頼ができる。	大きな間違いなく事情説明し謝れる。変更依頼ができる。	表現上の間違いはいくつかあるが、おおよそ事情を説明し、変更できる。	事情を説明して丁寧に謝ることができない。変更をお願い出ることができない。	定期試験 (態度・表現力・判断力)	20%
	ほぼ完璧に事情説明し謝れる。変更依頼ができる。	大きな間違いなく事情説明し謝れる。変更依頼ができる。	表現上の間違いはいくつかあるが、おおよそ事情を説明し、変更できる。	事情を説明して丁寧に謝ることができない。変更をお願い出ることができない。	小テスト (態度・表現力・判断力)	5%
(4) 人や物の様子を詳しく説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	表現上の間違いはいくつかあるが、ほぼ説明できる。	人や物の様子を詳しく説明することができない。	定期試験 (態度・表現力・判断力)	20%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	表現上の間違いはいくつかあるが、ほぼ説明できる。	人や物の様子を詳しく説明することができない。	小テスト (態度・表現力・判断力)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別	
英語会話 English Conversation		全学科		23BAFL1001		1 年次	通年	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員	
演習	2	必修	Inkster Ryan					
ディプロマ ポ リ シー と の 関 係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。						○	
概 要	(概要)様々な状況における実用的な英語会話能力を養成する。正確な発音や文法よりも、コミュニケーション能力の養成を重視する。読む・書く作業も若干含む。 (目標) 自己紹介、人物や服装の描写ができる、事物の比較ができる、好みについて表現できる、能力について述べられる、自由時間の使い方・好き嫌いについて表現できる、道順を教えたり理解したりできる、過去の出来事について話せる、指示を与えたり、規則について話したり、助言を与えたりできる。							
到達目標	(1) 英会話に役に立つ語彙や文法を学ぶ (2) 英語を聞く力を養う。 (3) さまざまなトピックで英会話を練習する							
授業内容 と 進め方								
	回	授 業 内 容	予 習 内 容	予 習 時 間	復 習 内 容	復 習 時 間		
	1	(Assessment & Placement) 英会話レベル判定	中高英語内容の復習	2 時間	中高英語内容の復習	2 時間		
	2	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 5 読む	2 時間	Pg.6 読む	2 時間		
	3	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 7 読む	2 時間	Pg8-9 読む	2 時間		
	4	Japanese Music (音楽)	Pg 11 読む	2 時間	Pg12 読む	2 時間		
	5	Japanese Music (音楽)	Pg. 13 読む	2 時間	Pg. 14-15 読む	2 時間		
	6	Japanese Food (食べ物)	Pg. 17 読む	2 時間	Pg. 18 読む	2 時間		
	7	Japanese Food (食べ物)	Pg. 19 読む	2 時間	Pg 20-21 読む	2 時間		
	8	Japanese Holidays (祝日)	Pg 29 読む	2 時間	Pg. 30 読む	2 時間		
	9	Japanese Holidays (祝日)	Pg 31 読む	2 時間	Pg. 32-33 読む	2 時間		
	10	Japanese Games	Pg. 35 読む	2 時間	Pg. 36 読む	2 時間		
	11	Japanese Games	Pg. 37 読む	2 時間	Pg. 38-39 読む	2 時間		
	12	Famous Cities (観光)	Pg. 41 読む	2 時間	Pg. 42 読む	2 時間		
	13	Famous Places (観光)	Pg. 43 読む	2 時間	Pg. 44-45 読む	2 時間		
	14	REVIEW (復習)	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間		
	15	REVIEW (復習)	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間		
	TEST(復習)							
	回	授 業 内 容	予 習 内 容	予 習 時 間	復 習 内 容	復 習 時 間		
16	(Assessment & Placement) 英会話レベル判定	中高英語内容の復習	2 時間	中高英語内容の復習	2 時間			

	17	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 5 読む	2 時間	Pg.6 読む	2 時間
	18	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 7 読む	2 時間	Pg8-9 読む	2 時間
	19	Japanese Music (音楽)	Pg 11 読む	2 時間	Pg12 読む	2 時間
	20	Japanese Music (音楽)	Pg. 13 読む	2 時間	Pg. 14-15 読む	2 時間
	21	Japanese Food (食べ物)	Pg. 17 読む	2 時間	Pg. 18 読む	2 時間
	22	Japanese Food (食べ物)	Pg. 19 読む	2 時間	Pg 20-21 読む	2 時間
	23	Japanese Holidays (祝日)	Pg 29 読む	2 時間	Pg. 30 読む	2 時間
	24	Japanese Holidays (祝日)	Pg 31 読む	2 時間	Pg. 32-33 読む	2 時間
	25	Japanese Games	Pg. 35 読む	2 時間	Pg. 36 読む	2 時間
	26	Japanese Games	Pg. 37 読む	2 時間	Pg. 38-39 読む	2 時間
	27	Famous Cities (観光)	Pg. 41 読む	2 時間	Pg. 42 読む	2 時間
	28	Famous Places (観光)	Pg. 43 読む	2 時間	Pg. 44-45 読む	2 時間
	29	REVIEW (復習)	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間
	30	REVIEW (復習)	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間	コミュニケーション サマリー 学習	2 時間
TEST(復習)						
成 績 評 価		その他 (100%)				
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法		マンツーマンインタビュー				
テキストおよび 参 考 文 献		Explain It: Talking about Japanese Culture in English. Robert Long. Perceptia Press, Nagoya. ISBN: 9784939130793				
メ ッ セ ー ジ な ど		ネイティブ講師による基礎的な日常会話 (コミュニケーション) 授業				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 英会話に役に立つ 語彙や文法を学ぶ	ほぼ完璧に学 ぶことができる。	あまり問題な くできる。	少しは問題が あるが、最低限 はできる。	語彙や文法を 学ぶことがで きない。	その他	34%
(2) 英語を聞く力を養う	ほぼ完璧に学 ぶことができる	あまり問題な くできる。	少しは問題が あるが、最低限 はできる。	聞く力を養う ことができない。	その他	33%
(3) さまざまなトピック で英会話を練習する	ほぼ完璧に学 ぶことができる	あまり問題な くできる。	少しは問題が あるが、最低限 はできる。	英会話ができ ない。	その他	33%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
英語会話 English Conversation		全学科		23BAFL1001		1 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員
演習	2	必修	大野 厚子				
ディプロマ ポ リ シー と の 関 係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。						○
概 要	英語学習初心者を対象とする。英語の基礎から紹介していく。						
到達目標	(1) 学習者が英語に抵抗がなくなり、慣れ親しむことができる。						
	(2) 会話に必要な語彙を楽しく学んで、身につけることができる。						
	(3) 文法を会話の中で自然に使うことができる						
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	(Assessment 1 & Placement)		P10,11 をやる。	1 時間	NA	
	2	Daily Life		P16,17 をやる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	3	Weekend Events-		P22,23 をやる。	1 時間	Dialog を練習する	0.5 時間
	4	Small Talk		P30,31 をやる。	1 時間	Dialog を練習する	0.5 時間
	5	Likes and Dislikes		P36,37 をやる。	1 時間	Dialog を練習する	0.5 時間
	6	Student Life		P42,43 をやる。	1 時間	Dialog を練習する	0.5 時間
	7	Family		P52,53 をやる。	1 時間	Dialog を練習する	0.5 時間
	8	Friends		P60,61 をやる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	9	Going Out		P66,67 をやる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	10	Restaurants		P74,75 をやる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	11	Shopping		P80,81 をやる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	12	Strengths and Weaknesses		P86,87 をやる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	13	Places		P94,95 をやる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	14	Vacations		P100,101 をやる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	15	Experiences		P106,107 をやる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	16	Hi, is this seat taken?		日本語の表現 を調べる。	1 時間	NA	
	17	That's a lovely T-shirt.		日本語の表現 を調べる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間

	18	Pardon?	日本語の表現を調べる。	1 時間	Dialog を練習する	0.5 時間
	19	I really enjoyed it.	日本語の表現を調べる。	1 時間	Dialog を練習する	0.5 時間
	20	Is that right?	日本語の表現を調べる。	1 時間	Dialog を練習する	0.5 時間
	21	How about you?	日本語の表現を調べる。	1 時間	Dialog を練習する	0.5 時間
	22	Thank you so much.	日本語の表現を調べる。	1 時間	Dialog を練習する	0.5 時間
	23	Excuse me, but...	日本語の表現を調べる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	24	This is my fault.	日本語の表現を調べる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	25	I'd rather not say.	日本語の表現を調べる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	26	Could you tell me the way to the station?	日本語の表現を調べる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	27	How about next Sunday?	日本語の表現を調べる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	28	I'll think about it.	日本語の表現を調べる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	29	That's a good idea, but...	日本語の表現を調べる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
	30	I'd better be going.	日本語の表現を調べる。	1 時間	Dialog を練習する。	0.5 時間
成績評価		定期試験（100%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		発表させてその時にコメントを言う。				
テキストおよび参考文献		Free Talking: Basic Strategies for Building Communication Keep Talking				
メッセージなど						

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 学習者が英語に抵抗がなくなり、慣れ親しむことができる。	ほぼ完璧にできる。	あまり躊躇なく、できる。	少しは抵抗があるが、最低限はできる。	慣れ親しむことはできない。	定期試験（知識・理解・技能）	30%
(2) 会話に必要な語彙を楽しく学んで、身につけることができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、身につけることができる。	間違いはあるが、最低限を身につけることはできる。	身に付けることができない。	定期試験（知識・理解・技能）	30%
(3) 文法を会話の中で自然に使うことができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いなく、使うことができる。	間違いはあるが、最低限を使うことはできる。	文法を会話で使うことはできない。	定期試験（知識・理解・技能）	40%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
ハングル Korean Language		全学科		23BAFL1002	1 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	選択	朴 賢珠			
ディプロマ ポ リ シー と の 関 係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	ハングルの文字や基礎文法を学びながら日韓の文化について考えるようになる。韓国人留学生と一緒に勉強することで異文化コミュニケーションを図る授業になる。					
到達目標	(1) ハングル文字の書き方や読み方を学び、単語や表現の読み書きができる。 (2) 韓国人留学生との交流を通して日韓の文化理解を深める。 (3) ハングルの基本的な文法を学び、応用できる。 (4) 学習した単語や表現を使って簡単な韓国語会話ができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	ハングルの仕組み① 文字の組み合わせパターン	テキスト 2～3 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 2～3 ページを復習する。	2 時間
	2	ハングルの仕組み② 基本母音	テキスト 4～5 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 4～5 ページを復習する。	2 時間
	3	ハングルの仕組み③ 基本子音	テキスト 6～7 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 6～7 ページを復習する。	2 時間
	4	ハングルの仕組み④ 濃音	テキスト 8～10 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 8～10 ページを復習する。	2 時間
	5	ハングルの仕組み⑤ 複合母音	テキスト 13～14 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 13～14 ページを復習する。	2 時間
	6	ハングルの仕組み⑥ パッチム (1)	テキスト 15～17 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 15～17 ページを復習する。	2 時間
	7	ハングルの仕組み⑦ パッチム (2)	テキスト 15～17 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 15～17 ページを復習する。	2 時間
	8	日本語のハングル表記	テキスト 18～20 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 18～20 ページを復習する。	2 時間
	9	ハングルの仕組みのまとめ	テキスト 19～20 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 19～20 ページを復習する。	2 時間
	10	中間テスト	テスト範囲を勉強しておく。	2 時間	テスト範囲をまとめる。	2 時間

11	視聴覚教育・映画観賞① －前半－	テーマに沿って事前調査をしておく	2 時間	テーマに沿って事前調査をする。	2 時間
12	視聴覚教育・映画観賞② －後半－	テーマに沿って事前調査をしておく	2 時間	テーマに沿って事前調査をする。	2 時間
13	「名詞＋です」文の作り方	テキスト 36～37 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 36～37 ページを復習する。	2 時間
14	「名詞＋ですか」文の作り方	テキスト 38～39 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 38～39 ページを復習する。	2 時間
15	まとめ	テキスト 23～42 ページを読んでおく。	2 時間	テキスト 23～42 ページを復習する。	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	前期の復習① 1 回目	テキスト 4～21 ページを読んでおく。	2 時間	前期の復習① －1 回目－	2 時間
17	前期の復習② 2 回目	テキスト 23～42 ページを読んでおく。	2 時間	前期の復習② －2 回目－	2 時間
18	動詞・形容詞の丁寧形① 「です/ます形」	テキスト 46～47 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の丁寧形① －です/ます形－	2 時間
19	動詞・形容詞の丁寧形② 「ですか/ますか形」	テキスト 54～57 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の丁寧形② －ですか/ますか形－	2 時間
20	視聴覚教育	テーマに沿って事前調査をしておく。	2 時間	視聴覚教育	2 時間
21	助詞のまとめ	テキスト 48～49 ページを読んでおく。	2 時間	助詞のまとめ	2 時間
22	中間テスト	テスト範囲を勉強しておく	2 時間	中間テスト	2 時間
23	指示代名詞を使った表現	テキスト 58～59 ページを読んでおく。	2 時間	指示代名詞を使った表現	2 時間
24	人称代名詞を使った表現	テキスト 60～61 ページを読んでおく。	2 時間	人称代名詞を使った表現	2 時間
25	「イダ」否定形	テキスト 62～63 ページを読んでおく。	2 時間	「イダ」否定形	2 時間
26	動詞・形容詞の前置否定形	テキスト 66～69 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の前置否定形	2 時間
27	動詞・形容詞の後置否定形	テキスト 66～69 ページを読んでおく。	2 時間	動詞・形容詞の後置否定形	2 時間
28	否定形のまとめ	テキスト 70～71 ページを読んでおく。	2 時間	否定形のまとめ	2 時間
29	尊敬形	テキスト 72～77 ページを読んでおく。	2 時間	尊敬形	2 時間
30	まとめ	テキスト 46～77 ページを読んでおく。 2 時間	2 時間	まとめ	2 時間

成 績 評 価	定期試験 (25%)、課題・レポート (35%)、授業への取り組み (25%)、発表・プレゼンテーション (15%)
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	試験や課題及びレポートは、チェックして次の授業時に渡す。
テキストおよび参考文献	朴 賢珠 他「サランヘヨ！ハングルー初級から中級へー」白帝社、2015 年
メッセージな	山口は韓国と深いつながりがある場所です。 韓国の留学生と一緒にハングルを勉強しましょう。

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) ハングル文字の書き方や読み方を学び、単語や表現の読み書きができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、読み書きができる	最低限の読み書きができる	読み書きができない。	定期試験 (関心・意欲・知識)	10%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、読み書きができる	最低限の読み書きができる	読み書きができない。	課題・レポート (関心・意欲・知識)	10%
(2) 韓国人留学生との交流を通して日韓の文化理解を深める。	発表や発言など積極的に参加する	発表や発言などに積極的ではないが参加する	発表や発言など部分的に参加する	発表や発言などに参加しない	課題・レポート (意欲・理解・表現力)	10%
	発表や発言など積極的に参加する	発表や発言などに積極的ではないが参加する	発表や発言など部分的に参加する	発表や発言などに参加しない	授業への取り組み (意欲・理解・思考力)	10%
(3) ハングルの基本的な文法を学び、応用できる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、応用できる	最低限の文法の応用ができる	文法の応用ができない。	定期試験 (知識・理解・表現力)	15%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、応用できる	最低限の文法の応用ができる	文法の応用ができない。	課題・レポート 課題・レポート (意欲・理解・表現力)	15%
(4) 学習した単語や表現を使って簡単な韓国語会話ができる。	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、韓国語会話ができる	最低限の会話ができる	簡単な韓国語会話ができない。	授業への取り組み (意欲・理解・思考力)	15%
	ほぼ完璧にできる	大きな間違いがなく、韓国語会話ができる	最低限の会話ができる	簡単な韓国語会話ができない。	発表・プレゼンテーション (知識・理解・表現力)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
日本語（留学生対象） Japanese Language		全学科		23BAFL1003	1 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	選択	林 伸一			
ディプロマ ポリシー との関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	基本的な日常会話力、コミュニケーション能力を身につける。 日本語の特色を理解する。 日本語能力試験等の資格を取得する。 日本の生活習慣・ものの考え方・風習・文化の違いを知ることによって、自国と日本の関係への理解を深め、国際社会を生きる力を培う。					
到達目標	(1) 基本文型を理解し、留学生生活を支える基礎的な日常会話ができる。 (2) カタカナ・ひらがな・教育漢字をマスターし、平易な文章の読み書きができる。 (3) 敬語・オノマトペ・慣用句など、日本語の特色を知り、会話の中で使うことができる。 (4) 1 級または 2 級の日本語能力試験の資格取得を目標とする。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション、学習 のすすめ方			「テキスト日常会話 1 課の和訳暗誦」「自 己紹介文」	2 時間
	2	日常会話の基礎①－自己紹 介、挨拶、基本会話	「日常会話 1 課和 訳」「自己紹介」「目 的別の自己紹介文下 書」	2 時間	「会話 1 課暗誦」「自 己紹介文清書」「日常 生活基本語①を覚え る」	2 時間
	3	日常会話の基礎②－日常生 活の基本語彙	「会話 2 課」「基本語 ①のテスト」	2 時間	「会話 2 課」「基本語 ①誤答再学習」	2 時間
	4	日本語の文字－ひらがな、 カタカナ、漢字、	「50 音図」「会話 3 課」「基本語②」	2 時間	「50 音図再学習ブリ ント」「会話 3 課」「基 本語②」	2 時間
	5	日本語の発音・イントネー ション	「会話 4 課」「基本語 ③」「漢字 1026 字へ の挑戦テスト①」	2 時間	「会話 4 課」「基本語 ③」「漢字再問題①」	2 時間
	6	日常会話の基本単語①－発 音練習－	「会話 5 課」「基本語 ④」「漢字②」	2 時間	「会話 5 課」「基本語 ④」「漢字②」	2 時間
	7	日本語能力試験への対応の 仕方①	「会話 6 課」「基本語 ⑤」「漢字③」「日本 語能力試験 2 級練習 問題」	2 時間	「会話 6 課」「基本語 ⑤」「漢字③」「日本 語能力試験 2 級復習 ①」	2 時間
	8	日常会話の基本文形①－ 5 W 1 H	「会話 7 課」「基本語 ⑥」「漢字④」「日本 語能力試験②」	2 時間	「会話 7 課」「基本語 ⑥」「漢字④」「日本 語能力試験②」	2 時間
	9	日常会話の基本文形②－動 詞の活用－	「会話 8 課」「基本語 ⑦」「漢字⑤」「日本 語能力試験③」	2 時間	「会話 8 課」「基本語 ⑦」「漢字⑤」「日本 語能力試験③」	2 時間
	10	日常会話の基本文形③－過 去、現在、未来－	「会話 9 課」「基本語 ⑧」「漢字⑥」「日本 語能力試験④」	2 時間	「会話 9 課」「基本語 ⑧」「漢字⑥」「日本 語能力試験④」	2 時間

11	日常会話の基本文形④－希望、意思・推量の言い方－	「会話 10 課」「基本語⑨」「漢字⑦」「日本語能力試験⑤」	2 時間	「会話 10 課」「基本語⑨」「漢字⑦」「日本語能力試験⑤」	2 時間
12	日常会話の基本文形⑤－否定、疑問	「会話 11 課」「基本語⑩」「漢字⑧」「日本語能力試験⑥」	2 時間	「会話 11 課」「基本語⑩」「漢字⑧」「日本語能力試験⑥」	2 時間
13	日常会話の基本文形⑥－使役・可能・受身・自発、経験	「会話 12 課」「基本語⑪」「漢字⑨」「日本語能力試験⑦」	2 時間	「会話 12 課」「基本語⑪」「漢字⑨」「日本語能力試験⑦」	2 時間
14	日本語の特色①－補助用語・複合語－	「会話 13 課」「基本語⑫」「漢字⑩」「日本語能力試験⑧」	2 時間	「会話 13 課」「基本語⑫」「漢字⑩」「日本語能力試験⑧」	2 時間
15	日本語の特色②－敬語－	「会話 14 課」「基本語⑬」「漢字⑪」「日本語能力試験⑨」	2 時間	「会話 14 課」「基本語⑬」「漢字⑪」「日本語能力試験⑨」	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	学習のすすめ方、前期の学習の復習	「会話 15 課」「基本語⑭」「漢字⑫」「日本語能力試験⑩」		「会話 15 課」「基本語⑭」「漢字⑫」「日本語能力試験⑩」	2 時間
17	日本語能力試験への対応②－語彙・文字－	「会話 16 課」「基本語⑮」「漢字⑬」「日本語能力試験⑪」	2 時間	「会話 16 課」「基本語⑮」「漢字⑬」「日本語能力試験⑪」	2 時間
18	日本語能力試験への対応③－聴解－	「会話 17 課」「基本語⑯」「漢字⑭」「日本語能力試験⑫」	2 時間	「会話 17 課」「基本語⑯」「漢字⑭」「日本語能力試験⑫」	2 時間
19	日本語能力試験への対応④－文法－	「会話 18 課」「基本語⑰」「漢字⑮」「日本語能力試験⑬」	2 時間	「会話 18 課」「基本語⑰」「漢字⑮」「日本語能力試験⑬」	2 時間
20	日本語能力試験への対応⑤－読解－	「会話 19 課」「基本語⑱」「漢字⑯」「日本語能力試験⑭」	2 時間	「会話 19 課」「基本語⑱」「漢字⑯」「日本語能力試験⑭」	2 時間
21	日本語の特色③－慣用語、ことわざ－	「会話 20 課」「基本語⑲」「漢字⑰」「日本語能力試験⑮」	2 時間	「会話 20 課」「基本語⑲」「漢字⑰」「日本語能力試験⑮」	2 時間
22	日本語の特色④－部首・同音異義語－	「会話 21 課」「基本語⑳」「漢字⑱」「日本語能力試験⑯」	2 時間	「会話 21 課」「基本語⑳」「漢字⑱」「日本語能力試験⑯」	2 時間
23	日本語の特色⑤－オノマトペ・ことわざ・慣用句－	「会話 22 課」「漢字⑲」「日本語能力試験⑰」	2 時間	「会話 22 課」「漢字⑲」「日本語能力試験⑰」	2 時間
24	日本語の特色⑥－方言と共通語－	「会話 23 課」「漢字⑳」「日本語能力試験⑱」	2 時間	「会話 23 課」「漢字⑳」「日本語能力試験⑱」	2 時間
25	日本の国語教科書①－教科書概観・音読－	「会話 24 課」「漢字㉑」「日本語能力試験⑲」	2 時間	「会話 24 課」「漢字㉑」「日本語能力試験⑲」	2 時間
26	日本の国語教科書②－教科書輪読－	「会話 25 課」「漢字㉒」「日本語能力試験⑳」	2 時間	「会話 25 課」「漢字㉒」「日本語能力試験⑳」	2 時間
27	日本の国語教科書③－教科書発表－	「漢字㉓」「教科書音読」「日本語能力試験㉑」	2 時間	「漢字㉓」「教科書音読」「日本語能力試験㉑」	2 時間
28	日本語によるスピーチ①－スピーチ原稿作成－	「漢字㉔」「教科書音読・練習」「日本語能力試験㉒」	2 時間	「漢字㉔」「教科書視写」「日本語能力試験㉒」	2 時間
29	日本語によるスピーチ②－発表－	「漢字㉕」「スピーチ原稿下書」「日本語能力試験㉓」	2 時間	「漢字㉕」「スピーチ原稿暗誦」「日本語能力試験㉓」	2 時間

	30	日本語によるスピーチ③－ 発表－	「スピーチ練習」 （「日本語能力試験 ②④」	2 時間	「スピーチ原稿清 書」「日本語能力試験 ②④」	2 時間
成 績 評 価		定期試験、発表・プレゼンテーション（70%）、小テスト（30%）				
課題（試験・レポート 等）に対する フィードバックの方法		毎回の授業の小テストを自己採点し、結果を記録表に記録。誤答を再試験する。 ルーブリック評価に基づいて、再指導・再テストを行う。				
テキストおよび 参 考 文 献		テキスト：テキスト・プリントをその都度配布				
メ ッ セ ー ジ な ど		日本での生活を充実したものにするためには、日本語の習得がなにより大事です。日常会話力を身につける中で、日本の文化や風習、日本人の国民性などへの理解を深め、国際交流を楽しんでほしいと願っています。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 基本文型を理解し、留学生活を支える基礎的な日常会話ができる。	ほぼ完璧にできる。	聞き取ることが完璧にでき、話すこともほぼできる。	間違いはあるが、最低限の会話はできる。	日常会話ができない。	定期試験 （態度・創造性・判断力）	30%
	ほぼ完璧にできる。	聞き取ることが完璧にでき、話すこともほぼできる。	間違いはあるが、最低限の会話はできる。	日常会話ができない。	発表・プレゼンテーション （態度・創造性・判断力）	
(2) カタカナ・ひらがな・教育漢字をマスターし、平易な文章の読み書きができる。	ほぼ完璧にできる。	間違いはあるがほぼできる。	間違いは多いが、最低限の基本的なことはできる。	平易な文章の取の読み書きも難しい。	小テスト （知識・理解）	30%
(3) 敬語・オノマトペ・慣用句など、日本語の特色を知り、会話の中で使うことができる。	意味を理解し、積極的に会話の中で使うことができる。	基本的なことは理解しているが、使いこなすことはできない。	聞き取ることができるが使うことはできない。	会話の中で使うことはできない。	定期試験 （知識・理解）	20%
(4) 最低 2 級の日本語能力試験の資格を取得する。	能力試験 2 級に合格している。	校内 2 級試験に合格している。	3 級レベルには到達している。	3 級レベルにも到達していない。	定期試験 （知識・理解）	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
健康科学 Health Science		全学科		23BAHP1001	1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	1	必修	上地 広昭			
ディプロマ ポリシー との 関係	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					○
概 要	運動、睡眠、および食行動などの健康行動が生活習慣病に及ぼす影響を説明し、健康行動変容に関する理論・モデルを紹介する。また、健康増進のためのプログラム作りなども行い理解を深める。					
到達目標	(1) わが国における健康行動（運動、睡眠、食行動）の実施状況についての説明					
	(2) 健康行動（運動、睡眠、食行動）の重要性とそのメカニズムについての説明					
	(3) 健康行動変容の理論と実際についての説明					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	イントロダクション（健康に関する用語の整理）	健康に関する身近な情報の収集	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	2	運動と疾病予防	運動実施状況についてのセルフモニタリング	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	3	運動とメンタルヘルス	ストレス解消のための運動についてレポート	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	4	食行動と疾病予防	日常の食事についてのセルフモニタリング	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	5	睡眠と疾病予防	睡眠習慣についてのセルフモニタリング	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	6	ダイエット行動と健康	自分のダイエット経験についてレポート	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	7	行動変容に関する理論	行動変容理論についての事前調べ	1 時間	授業内容のまとめ ノート整理	1 時間
	8	まとめ	試験準備	1 時間	試験の問題の振り返り	1 時間
成 績 評 価	定期試験（100%）					
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法	事前学習で行わせる課題については、授業中に実施状況を確認し、授業の中で活用する。また、試験については、合格基準に達していない場合、再度、同様の範囲から試験を行う。					
テキストおよび 参 考 文 献	テキストの購入は必要ない					
メ ッ セ ー ジ な	生涯を通して健康管理を行うための知識を身につけてもらいたい。					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) わが国における健康行動（運動、睡眠、食行動）の実施状況についての説明	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 （知識・理解）	30%
(2) 健康行動（運動、睡眠、食行動）の重要性とそのメカニズムについての説明	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 （知識・理解）	30%
(3) 健康行動変容の理論と実際についての説明	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いなく説明できる。	最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 （知識・理解）	40%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別		
スポーツ教育 Sport Education			全学科		23BAHP1002		1 年次		前期		
講義・演習・実技・実習・実験		単位数	卒業認定	担 当 教 員						実務家 教員	
実技		1	必修	青山 翔							
ディプロマポリシーとの関係		何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有するとともに、専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。								○	
概 要		現代社会は生涯を通じてスポーツに参加することが国民の教養の一つになっている。そのような状況をふまえて、本授業では、仲間と協力してスポーツに取り組むことを通して、生涯に渡ってスポーツに参加する意識を高めスポーツに関する基本的な知識や技能を修得する。									
到達目標		(1) 自らの技量に応じて積極的にスポーツを楽しむことができる。 (2) 生涯を通じてスポーツを楽しむことのできる基本的知識を修得する。 (3) スポーツを楽しむための基礎的な知識や技能を修得する。									
授業内容 と 進め方											
		回	授業内容			予習内容		予習 時間	復習内容		復習 時間
		1	オリエンテーション						バレーボールについて調べる。		2 時間
		2	バレーボール①（基本技能やルールの確認をして試しのゲームを行う）			バレーボールの基本的確認。		2 時間	バレーボールについて調べる。		2 時間
		3	バレーボール②（パスに関する基本技能の練習を中心に取り組み、ゲームを行う）			次時の学習内容の確認。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		4	バレーボール③（サーブに関する基本技能の練習を中心に取り組み、ゲームを行う）			次時の学習内容の確認。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		5	バレーボール④（アタックに関する基本技能の練習を中心に取り組み、ゲームを行う）			次時の学習内容の確認。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		6	バレーボール⑤（練習方法を考えてゲームを行う）			次時の学習内容の確認。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		7	バレーボール⑥（前回のゲームの振り返りをもとに練習方法や作戦を工夫してゲームを行う）			次時の学習内容の確認。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		8	バレーボール⑦（バレーボールの学習について振り返りを行う）			次時の学習内容の確認。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		9	バスケットボール①（基本技能やルールの確認をして試しのゲームを行う）			バスケットボールの基本的確認。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		10	バスケットボール②（ドリブルに関する基本技能の練習を中心に取り組み、ゲームを行う）			次時の学習内容の確認。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
		11	バスケットボール③（シュートに関する基本技能の練習を中心に取り組み、ゲームを行う）			次時の学習内容の確認。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間
12	バスケットボール④（練習方法を考えてゲームを行う）			次時の学習内容の確認。		2 時間	学習内容の復習。		2 時間		

	13	バスケットボール⑤（前回のゲームの振り返りをもとに練習方法や作戦を工夫してゲームを行う）	次時の学習内容の確認。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	14	バスケットボール⑥（対戦相手に合わせた作成を考えてゲームを行う）	次時の学習内容の確認。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
	15	バスケットボール⑦（バスケットボールの学習について振り返りを行う）	次時の学習内容の確認。	2 時間	学習内容の復習。	2 時間
成 績 評 価		授業への取り組み（20%）、授業内レポート（30%）、ゲーム中におけるパフォーマンス評価（50%）				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		基本的には実技であるため、活動中に振り返りの時間を設け、フィードバックする。				
テキストおよび参考文献		必要があれば、適宜プリントを配布する。				
メッセージなど		自分たち自らスポーツを楽しむために必要な言動を意識的に身につけるように努力してほしい。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 自らの技量に応じて積極的にスポーツを楽しむことができる。	自らの技量に応じてスポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じてある程度スポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じて最低限スポーツを楽しむことができる	自らの技量に応じてスポーツを楽しむことができない	授業への取り組み（関心・意欲・思考力・創造性）	20%
(2) 生涯を通じてスポーツを楽しむことのできる基本的知識を修得する。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	授業内レポート（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	30%
(3) スポーツを楽しむための基礎的な知識や技能を修得する。	ほぼ完璧に修得している	大きな間違いがなく修得している	最低限のことは修得している	修得していない	ゲーム中におけるパフォーマンス評価（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	50%

專門教育科目

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
国語（書写を含む。） Japanese Language (including Calligraphy)		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS1001	1 年次	通年	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業 認定	担 当 教 員			実務家 教員	
演習	2	必修	中村 浩			○	
実務家教員 の詳細	中学校国語科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。						
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○	
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○	
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。						
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。						
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○	
概 要	1 小学校の教壇実践の対象となる教科「国語」の〔知識及び技能〕を整理・把握する。 2 学習指導要領国語の「書写に関する事項」を基に書写指導の実践を学習する。 3 上代から近代に至るまでの「日本文学史」を、代表的な作品をたどりながら概観する。						
到達目標	(1) 小学校国語教科書で記載されている国語的術語の説明ができる。 (2) 小学校で取り上げられている楷書・行書が硬筆・毛筆などの様々な道具で書写できる。 (3) 上代から近代までの文学史を時代背景と主たる作品で概観を語ることができる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	「国語」の学習の意味と内容		これまでの学習を振り返る。	0.5 時間	ワークシートに授業後の感想を書く	1 時間
	2	国語科の目標 ― 3つの内容と構成―		学習指導要領の目標を読む	1 時間	学力観の推移を整理する	2 時間
	3	国語科の〔知識及び技能〕の概観		学習指導要領の内容を読む	2 時間	ワークシートに基づき整理する	2 時間
	4	国語の音韻に関する事項		資料を基に音韻の特色を考える	1 時間	ワークシートに基づき整理する	2 時間
	5	文字に関する事項 ①漢字と仮名		仮名の発明の歴史を調べる	2 時間	万葉仮名の特色をまとめる	1 時間
	6	文字に関する事項 ②漢字の成り立ち		六書について調べる	2 時間	六書を基に漢字の例を調べる	2 時間
	7	文字に関する事項 ③漢字の部首・熟語		二字熟語の特色を調べる	2 時間	部首熟語について例示する	2 時間
	8	表記に関する事項		漢字仮名交じりの問題点を考える。	1.5 時間	表記上の問題点をまとめる	2 時間
	9	文及び文章の構成に関する事項		文節相互の関係について調べる	2 時間	単文複文重文について整理する	2 時間

10	言葉遣いに関する事項	敬語の種類について調べる	2 時間	これからの敬語について考える	1 時間
11	語句に関する事項 ①語彙の種類	資料を基に語句の分類を調べる	1 時間	慣用句の例を基に特徴をまとめる	2 時間
12	語句に関する事項 ②語彙の学習	資料を基に言葉の由来を調べる	1 時間	美しい言葉と語についてまとめる	2 時間
13	言葉の働きや特徴に関する事項	言葉の働きの二面性について調べる	2 時間	多義語対義語等の用語を整理する	2 時間
14	方言に関する学習	教科書の方言の取り上げ方を調べる	1 時間	方言の発声に関する考えをまとめる	2 時間
15	言語文化に関する事項	資料の例文を音読する	1 時間	音読を重視する効果についてまとめる	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	「書写」学習の意義と内容	資料に沿って意義を考える	1 時間	ワークシートに基づき整理する	2 時間
17	硬筆による書写（低学年）	手本に基づき「試書」する	1 時間	学習の要点を基に書く	2 時間
18	フェルトペンによる書写（中学年）	「字形」を念頭に「試書」する	1 時間	テキストの手本で練習する	1 時間
19	毛筆による書写 ①楷書・漢字（中学年）	毛筆の書写の注意点を調べる	1 時間	「止め」と「払い」を復習する	1 時間
20	毛筆による書写 ②楷書・仮名（中学年）	資料を基に運筆について調べる	2 時間	手本以外の字の練習をする	1 時間
21	毛筆による書写 ③漢字と仮名（高学年）	学習指導要領の運筆の要点を掴む	1 時間	之雨天に基づき再度書いてみる	2 時間
22	毛筆による書写 ④行書（高学年）	楷書と行書の違いを考える	1 時間	行書を段階別書いてみる	2 時間
23	筆ペンによる書写 ①平仮名	資料を基に筆ペンに慣れる	2 時間	「いろは歌」を楷書・行書で書く	2 時間
24	筆ペンによる書写 ②日常の書式	資料により地名を書いてみる	2 時間	葉書の様式に沿って練習する	2 時間
25	筆ペンによる書写 ③連綿	資料を基に「連綿」を知る	2 時間	テキストに基づき「連綿」で書く	2 時間
26	「日本文学史」上代の文学	資料を基に「上代」を概観する	1 時間	上代の作品を読む	2 時間
27	「日本文学史」中古の文学	資料を基に「中古」を概観する	1 時間	中古の作品を読む	2 時間
28	「日本文学史」中世の文学	資料を基に「中世」を概観する	1 時間	中世の作品を読む	2 時間
29	「日本文学史」近世の文学	資料を基に「近世」を概観する	1 時間	近世の作品を読む	2 時間
30	「日本文学史」近代の文学	資料を基に「近代」を概観する	1 時間	近代の作品を読む	2 時間

成 績 評 価	定期試験（50%）、課題・レポート（20%）、作品（30%）
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法	① 授業後提出された感想カードやレポートにコメントを書き、次時に返却する。 その際幾つかのものは全体に紹介する。 ② 書写の作品を提出させ、添削・評価をし、次時に返却する。 ③ 文学史は、毎時間レポートさせ、最後に総括的なレポートを書かせて提出させる。 それにコメントと評価を示し、後日返却する。
テキストおよび 参 考 文 献	演習用テキスト「国語（前期）」「国語（後期）」（和田征文編著） 文部科学省「小学校学習指導要領解説・国語編」 秋山 虔・三好 行雄「新日本文学史」文英堂 「国語便覧」浜島書店・教研出版・東京書籍
メ ッ セ ー ジ な ど	1 2年次生での学習の基になる授業・教員採用試験必出の授業 2 書写の実地指導・日本の古典への読書指導を可能にする授業「必修」 小学校教諭二種免許状：必修科目

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 小学校国語教科書 で記載されている国 語的術語の説明がで きる。	具体例を使っ てわかるよう に説明できる。	術語の意味を 間違いなく説 明できる。	国語科の中 での働きと関 わりなく語と しての意味が 言える。	各術語の説明 が適切にでき ない。	定期試験 （知識・理 解）	50%
(2) 小学校で取り上げ られている楷書・行書 が硬筆・毛筆などの 様々な道具で書写で きる。	それぞれの道 具の特徴を生 かした書写が できる。	トメ・ハネ・ハ ライ等を手本 に沿って書く ことができる。	筆の特徴や各 字の運筆に関 係なく手本通 りに書ける。	毎時間の作品 がきちんと提 出できない。	作品 （関心・意 欲・思考力・ 判断力・表 現力）	30%
(3) 上代から近代まで の文学史を時代背景 と主たる作品で概観 を語ることができる。	各時代の時代 的な特徴と作 品との関係を 語ることがで きる。	各時代の特徴、 代表的な文学 作品の説明が できる。	各時代を代表 する作品の概 略や特徴の説 明ができる。	時代の特徴へ の意識なく作 品の説明をす る。	課題・レポ ート （関心・意 欲・思考力・ 判断力・表 現力）	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
国語表現学 Expression in Japanese Language		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2002	2 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	必修	中村 浩			○
実務家教員 の詳細	中学校国語科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	「音声言語」と「文字言語」による表現方法について、小学校における実践を念頭に置いた教材の開発とその指導法について実践的に学習する。 併せて、国語科の今日的な課題を意識した国語科の授業者としての素養と指導力を醸成する。					
到達目標	(1) 教材文の特性と学習のねらいに沿って、それぞれに適した音読・朗読・群読をすることができる。 (2) 題材の設定・情報の収集・内容の検討・構成の検討・考えの形成・記述・推敲・共有の各段階における留意点を実作に生かすことができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	I 「音声言語」による表現方法 「小学校学習指導要領・国語」における「表現」の指導	学習指導案の「表現」に関わる内容を読む	2 時間	テキストの「まえがき」とからめて本授業の意図を考える	1 時間
	2	「音読」の意義	資料にある「解説」を読む	1 時間	授業を振り返り、意義を整理する	1 時間
	3	音読による授業づくり	音読と朗読の違いを考えておく	1 時間	音読を重視する訳を整理する	1 時間
	4	「発音チェック」と詩の音読	資料に沿って予習をする	1 時間	詩の音読に挑戦する	2 時間
	5	一斉音読・役割音読、群読	音読の授業の流れを考えておく	1 時間	事例に基づき学習指導案を創る	2 時間
	6	朗読「声を読もう・声で描こう」	資料を読み、音読の練習をする	2 時間	「日本語一音一音法」の感想を書く	1 時間
	7	朗読・読み方を考えよう	資料中の詩の読み方を考える	1 時間	他の班の朗読について感想を書く	2 時間
	8	朗読・相手に聞かせる工夫	資料中の散文の読み方を考える	2 時間	授業で取り組んだ朗読を繰り返す	1 時間
	9	II 「文字言語」による表現方法 句読点の打ち方・原稿用紙の使い方	資料中の句読点の打ち方を考える	2 時間	原稿用紙の書き方の例題をする	1 時間

	10	新聞コラムや先輩の作品による「随想」の実際と創作上のヒント	3つの例の感想を書いておく	2時間	「ネタとテーマ」観点で整理する	1時間
	11	書き出しの効用と実作 ―「書き出しは読者への誘惑である」―	資料に沿って考えをメモする	1時間	自分の書き出し例を数点書く	2時間
	12	実作へのアプローチ ①「テーマとネタ」（主題・取材）を考える。	「テーマとネタ」を考える	1時間	自分の作品について準備する	2時間
	13	実作へのアプローチ ②「文章の構成」（構想）を考える。	例を参考に「構成」について考える	1時間	自分の作品の下書きを考える	2時間
	14	実作へのアプローチ ③「説明と描写の効果」（叙述・推敲）を考える。	例文を比較し考えをメモする	2時間	自分の作品の下書きを考える	2時間
	15	「随想」への挑戦 ―「今の自分」を「外部視点」をもって書く。―	例示された「随想」の感想を書く	1時間	自分の随想を清書する。	2時間
成績評価		作品（25%）、授業への取り組み（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（25%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		① 授業のねらいに沿った活動（音読・朗読、話し合い等）からの意見や感想について、それぞれコメントし、次時に返却する。 ② 授業中の書く活動や感想の提出に対してコメントする。提出された随想を評価し、後日返却する。				
テキストおよび参考文献		上條 晴夫 編著「音読・朗読・群読の授業づくり」学事出版 家本 芳郎 編・脚色「群読・ふたり読み」高文研 「美しい日本語のしらべ」東京出版 和田 征文 監修・山口県中学校国語教育研究会「中学校国語表現ノート」新学社 その他授業の内容に合わせて紹介したもの				
メッセージなど		国語教室づくりへのヒント、「随想」を書き上げる経験を得る授業 小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教材文の特性と学習のねらいに沿って、それぞれの音読・朗読・群読をすることができる。	教材文の特性を理解した音声言語による確かな読みができる。	仲間の意識や場面に合わせた声を出した読みができる。	教材や場面の特性に関係なく指示に従った音読・朗読ができる。	意識的に声を出す活動が不十分である。	授業への取り組み （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%
	教材文の特性を理解した音声言語による確かな読みができる。	仲間の意識や場面に合わせた声を出した読みができる。	教材や場面の特性に関係なく指示に従った音読・朗読ができる。	意識的に声を出す活動が不十分である。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%
(2) 題材の設定・情報の収集・内容の検討・構成の検討・考えの形成・記述・推敲・共有の各段階における留意点を実作に生かすことができる。	作文の各過程の主旨が例文と共に理解でき、創作に生かせる。	授業で個別に取り上げる各過程の要点が理解でき、創作に生かそうとする。	授業で個別に取り上げる例示の主旨は理解できる。	作文についての苦手意識から脱皮できない。	授業への取り組み （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%
	作文の各過程の主旨が例文と共に理解でき、創作に生かせる。	授業で個別に取り上げる各過程の要点が理解でき、創作に生かそうとする。	授業で個別に取り上げる例示の主旨は理解できる。	作文についての苦手意識から脱皮できない。	作品 （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	25%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
社会 Social Studies		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS1003	1 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	選択	加藤 浩久			○
実務家教員 の詳細	中学校社会科教員としての実務経験を生じ、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	社会科全般についての基礎的な知識を身につけるとともに、社会的な見方や考え方ができるようになり、よりよき市民・国民としての自覚をもつことができるようになる。 併せて、社会科教師として使命感・責任感をもって教壇に立つ心構えを醸成する。					
到達目標	(1) 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、「社会生活」「国土」「歴史」等について具体的な資料活用しながら、その内容をわかりやすく説明できる。					
	(2) 社会的事象の意味について、多面的・多角的に考察することができる。					
	(3) 社会的事象に関心を持ち、積極的に調査し、資料を整え、説得力ある発表ができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	社会科の目標と構造	解説の社会科の目標を確認する	2 時間	授業内容の振り返り	2 時間
	2	指導案から考える社会科の構造	自分が受けてきた授業を思い出す	2 時間	作成方法の確認	2 時間
	3	地理的な見方・考え方から考える社会科の構造	解説で見方・考え方を確認する	2 時間	見方・考え方の振り返り	2 時間
	4	歴史的な見方・考え方から考える社会科の構造	解説で見方・考え方を確認する	2 時間	見方・考え方の振り返り	2 時間
	5	現代社会に対する見方・考え方から考える社会科の構造	解説で見方・考え方を確認する	2 時間	見方・考え方の振り返り	2 時間
	6	第 6 学年の社会科 現代の日本と世界	日本の現代史の俯瞰	2 時間	第二次世界大戦の 処理の振り返り	2 時間
	7	第 6 学年の社会科 近代の日本と世界	日本の近代史の俯瞰	2 時間	帝国主義の振り返り	2 時間
	8	第 6 学年の社会科 近世の日本と世界	日本の近世史の俯瞰	2 時間	町人の活躍の振り返り	2 時間
	9	第 6 学年の社会科 中世の日本と世界	日本の中世史の俯瞰	2 時間	産業の発達の振り返り	2 時間

10	第6学年の社会科 古代の日本と世界	日本の古代史の俯瞰	2時間	律令制度の振り返り	2時間
11	第6学年の社会科 古代以前の日本と世界	日本の原始時代の俯瞰	2時間	国家成立までの振り返り	2時間
12	第6学年の社会科 日本国憲法	日本国憲法の俯瞰	2時間	日本国憲法の三大原則の振り返り	2時間
13	第5学年の社会科 日本の国土	日本地図の俯瞰	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
14	第5学年の社会科 日本の食糧生産	日本の農業の俯瞰	2時間	日本の農業の特色の振り返り	2時間
15	第5学年の社会科 日本の工業生産	日本の工業を俯瞰する	2時間	日本の工業の特色の振り返り	2時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	第5学年の社会科 日本の第3次産業	日本の第3次産業の俯瞰	2時間	情報化を中心とした振り返り	2時間
17	第5学年の社会科 環境問題	日本社会が直面している環境問題の俯瞰	2時間	生活との関連に注目した振り返り	2時間
18	第4学年の社会科 自分が住む県の大観	自分の出身県の大観	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
19	第4学年の社会科 住みよさに注目した考察	住みよさに注目した出身県の考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
20	第4学年の社会科 防災に注目した考察	防災に注目した出身県の考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
21	第4学年の社会科 郷土の伝統、文化、先人	伝統・文化に注目した出身県の考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
22	第4学年の社会科 地域の特色	特色に注目した出身県の考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
23	第3学年の社会科 市町村規模の地域	自分の出身市町村の大観	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
24	第3学年の社会科 市町村における生活	産業に注目した出身県考察	2時間	地理的な見方・考え方の振り返り	2時間
25	社会科における指導と評価	これまで作成した指導案の確認	2時間	評価の観点の振り返り	2時間
26	総合的な学習の時間と社会科	学習指導要領で総合学習の概要を確認する	2時間	共通点の振り返り	2時間
27	特別の教科道徳と社会科	学習指導要領で道徳科の概要を確認する	2時間	共通点の振り返り	2時間
28	特別活動と社会科	学習指導要領で特別活動をj確認する	2時間	共通点の振り返り	2時間
29	主体的、対話的で深い学びと社会科Ⅰ	これまで作成した指導案を深い学びという視点から考察する。	2時間	深い学びに必要な要件の振り返り	2時間

	30	主体的、対話的で深い学びと社会科 I	これまで作成した指導案を深い学びという視点から振り返る	2 時間	深い学びに必要な要件の振り返り	2 時間
成 績 評 価	定期試験 (40%)、課題・レポート (10%)、授業への取り組み (50%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。					
テキストおよび参考文献	テキスト：小学校社会科用教科書「新しい社会（3～6 年）」東京書籍 参考文献：文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」東洋館出版社					
メッセージなど	社会科好きの子どもを一人でも多く育てるために、社会科の授業づくりを創意工夫する科目 小学校教諭二種免許状：選択必修科目					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、社会的事象の考察を中心とした授業構想を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・知識・理解)	50%
(2) 社会的事象の意味について、多面的・多角的に考察することができる。	様々な角度から考察できる。	いくつかの角度から考察できる。	1 つ以上考察できる。	考察できない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	40%
(3) 社会的事象に関心をもち、積極的に調査し、資料を整え、説得力ある発表ができる。	ほぼ完璧に発表できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて発表できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を発表できる。	発表できない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
算数 Arithmetic		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS1004	1 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	選択	西 田 稔			○
実務家教員 の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	算数科の各領域 6 学年にわたるそれぞれの指導内容、系統、関係等について学び、算数を指導するための基礎的な知識を習得する。また、学習内容に合わせた課題に取り組むことを通して、数学的な見方・考え方の重要性や指導者として把握が必要な数学的な背景について理解を深め、今後の実践的な学習や算数科指導の在り方等の学習に生きて働く力を養う。					
到達目標	(1) 算数科で扱う内容について、教師として必要な基礎知識を獲得し説明することができる。 (2) 学習内容に付随した算数の問題解決や問題作成、教材作成に主体的に取り組むことができる。 (3) 演習や宿題で提示した課題を的確に解くことができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション・数と四則演算			数の分類、演算の可能性のまとめ。	2 時間
	2	数(整数)概念の形成	整数概念について調べ考えをまとめる。	2 時間	数概念に関する提示課題への回答。	2 時間
	3	命数法と記数法	命数法、記数法について調べ分かったことをまとめる。	2 時間	各国の命数法、記数法の特徴について整理する。	2 時間
	4	十進数、非十進数	十進数以外の記数法の仕組みについて調べる。	2 時間	練習課題を通して n 進数への理解を深める。	2 時間
	5	加法の意味と計算	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	加法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。	2 時間
	6	減法の意味と計算	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	減法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。	2 時間
	7	乗法の意味と計算	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	乗法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。	2 時間
	8	除法の意味と計算	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	除法の定義及び用いられる場、演算法を整理する。	2 時間

	9	整数の性質	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	整数の諸性質をもとにした定義、定理を整理する。	2 時間
	10	概数、概算	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	概数、概算についてまとめ、演習課題を解く。	2 時間
	11	小数の意味と計算	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	小数の意味、標記の仕組み、演算法を整理する。	2 時間
	12	分数の意味と加法、減法	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	分数の意味、標記の仕組み、加減算について整理する。	2 時間
	13	分数の乗法、除法	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	分数の乗法、除法の意味、演算法を整理する。	2 時間
	14	量概念の形成と測定	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	量の類型、比較方法、度量衡の歴史について整理する。	2 時間
	15	長さ、重さ、時間、容積、角度	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	量の種類や測定や単位との関連等を整理する。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	平面図形、平面図形の性質	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	定義・性質一覧表を作成し、整理する。課題プリント。	2 時間
	17	立体図形、立体図形の性質及び展開図	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	定義・性質一覧表を作成し、整理する。課題プリント。	2 時間
	18	図形の合同	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	合同の証明に関する課題プリントをやる。	2 時間
	19	図形の対称、拡大、縮小	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	拡大、縮小に関する課題プリントをやる。	2 時間
	20	円と正多角形	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	円と正多角形に関する課題プリントをやる。	2 時間
	21	平面図形の面積	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	平面図形の面積に関する課題プリントをやる。	2 時間
	22	円周と円の面積	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	演習と縁の面積に関する課題プリントをやる。	2 時間
	23	立体の体積	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	立体の体積や容積に関する課題プリントをやる。	2 時間
	24	平均、単位量、速さ	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	円と正多角形に関する課題プリントをやる。	2 時間
	25	割合とグラフ、比	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	割合、グラフ、比に関する課題プリントをやる。	2 時間
	26	比例、反比例	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	一次関数、二次関数に関する課題プリントをやる。	2 時間
	27	量の単位とメートル法	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	単位の換算に関する課題プリントをやる。	2 時間
	28	計算法則と演算の工夫	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	計算法則や法則利用に関する課題プリントをやる。	2 時間
	29	資料の整理とグラフ	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	柱状グラフ等に関する課題プリントをやる。	2 時間
	30	場合の数	学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。	2 時間	場合の数や確率に関する課題プリントをやる。	2 時間

成 績 評 価	定期試験 (40%)、課題・レポート (30%)、授業への取り組み (15%)、発表・プレゼンテーション (15%)
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業内容の整理メモや課題プリントへのコメント記入や採点を行い、必要に応じて再提出を求めたり発展的な課題を課したりすることにより、理解定着と達成感、成就感の醸成を図る。
テキストおよび参考文献	テキスト：講義資料はその都度、プリント類は必要に応じて配付する。 文部科学省「小学校指導要領解説 算数編」 小学校算数教科書 各学年 啓林館
メッセージなど	小学校 6 年間の算数科学習内容の重要事項を領域・系統に沿って体系的に学習し、算数の有用性や数学的な考え方のよさを見出しましょう。 小学校教諭二種免許:選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 算数科で扱う内容について、教師として必要な基礎知識を獲得し説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる	大きな間違いがなく内容に関する基礎知識の説明ができる。	間違いはあるが、最低限の基礎知識の説明ができる。	基礎知識が身についておらず、説明ができない。	定期試験 (知識・理解・技能・思考力・判断力)	40%
(2) 学習内容に付随した算数の問題解決や問題作成、教材作成に主体的に取り組むことができる。	主体的に取り組む、ほぼ完璧に成し遂げることができる。	主体的に取り組む、大きな間違いをせずに成し遂げることができる。	主体性に課題はあるがほぼ成し遂げることができる。	主体的に取り組めず、ほとんど成し遂げることができない。	授業への取り組み (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	15%
	主体的に取り組む、ほぼ完璧に成し遂げることができる。	主体的に取り組む、大きな間違いをせずに成し遂げることができる。	主体性に課題はあるがほぼ成し遂げることができる。	主体的に取り組めず、ほとんど成し遂げることができない。	発表・プレゼンテーション (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	15%
(3) 演習や宿題で提示した課題を的確に解くことができる。	ほぼ完璧な解決ができる。	単純ミスはあるが、大きな間違いをせずに解決できる。	いくつかの間違いはあるが、ほぼ的確に解決できる。	間違いが多く、ほとんどの確な解決ができていない。	課題・レポート (技能・思考力・判断力・表現力・問題解決力)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
理科 Science		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS1005	1 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	選択	西田 稔			○
実務家教員 の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	自然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、自然の事物や現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成する小学校理科教育について学び、学校現場で役立つ教育実践力を身につける。					
到達目標	(1) 小学校理科教育の各学年の目標や学習内容を理解し、説明することができる。					
	(2) こどもの発達・自然認識の仕方を理解し、具体的に説明することができる。					
	(3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度の育成技術を身につけ、説明することができる。					
授業内容 と 進め方						
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	教科「理科」について理科の目標と内容	学習指導要領理科編を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	2	「理科」でつけるべき学力について	学習指導要領理科編を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	3	第3学年の理科の目標及び「風とゴムの力の働き」	3年理科教科書の「風とゴムの力のはたらき」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	4	第3学年の理科「光と音の性質」	3年理科教科書の「光と音の性質」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	5	第3学年の理科「磁石の性質」	3年理科教科書の「磁石の性質」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	6	第3学年の理科「電気の通り道」	3年理科教科書の「電気の通り道」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	7	第3学年の理科「身の回りの生物植物」	3年理科教科書の「身の回りの生物植物」を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

	8	第4学年の理科の目標及び「空気と水の性質」	4年理科教科書の「空気と水の性質」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	9	第4学年の理科「月と星」	4年理科教科書の「月と星」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	10	第4学年の理科「月と星 観察の仕方」	4年理科教科書の「観察の仕方」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	11	第4学年の理科「電流のはたらき」	4年理科教科書の「電流のはたらき」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	12	第4学年の理科「ものづくり」	4年理科教科書の「ものづくり」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	13	第4学年の理科「もののあたたまりかた」	3年理科教科書の「もののあたたまりかた」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	14	第4学年の理科「人の体のつくりとはたらき」	4年理科教科書の「人の体のつくりとはたらき」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	15	第4学年の理科「季節と生物」	4年理科教科書の「季節と生物」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	第5学年の理科の目標及び「物の溶け方」	5年理科教科書の「物の溶け方」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	17	第5学年の理科「振り子の運動」	5年理科教科書の「振り子の運動」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	18	第5学年の理科「電流がつくる磁力」	5年理科教科書の「電流がつくる磁力」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	19	第5学年の理科「植物の発芽、成長、結実」	5年理科教科書の「植物の発芽、成長、結実」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	20	第5学年の理科「動物の誕生 魚」	5年理科教科書の「魚の誕生」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	21	第5学年の理科「動物の誕生 人」	5年理科教科書の「人の誕生」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	22	第5学年の理科「流れる水の働き」	5年理科教科書の「流れる水の働き」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	23	第5学年の理科「天気の変化」	5年理科教科書の「天気の変化」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	24	第6学年の理科の目標及び「燃焼の仕組み」	6年理科教科書の「燃焼の仕組み」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間

	25	第6学年の理科「水溶液の性質」	6年理科教科書の「水溶液の性質」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	26	第6学年の理科「人の体のつくりとはたらき」	6年理科教科書の「人の体のつくりとはたらき」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	27	第6学年の理科「生物と環境」	6年理科教科書の「生物と環境」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	28	第6学年の理科「てこの規則性」	6年理科教科書の「てこの規則性」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	29	第6学年の理科「土地のつくりと変化」	6年理科教科書の「土地のつくりと変化」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	30	第6学年の理科「月と太陽」	6年理科教科書の「月と太陽」を読んでおく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
成績評価		定期試験（30%）、課題・レポート（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（20%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業後実施する振り返りを確認するとともに、毎回講義用学習シートをチェックして次の授業時に返却する。レポートや定期試験はルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび参考文献		小学校理科教科書 3年、4年、5年、6年 文部科学省「小学校指導要領 理科編」 文部科学省「小学校学習指導要解説 理科編」				
メッセージなど		理科好きな子どもを育てる楽しい理科教育の実践と理科授業におけるアクティブラーニングについて学習します。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校理科教育の各学年の目標や学習内容を理解し、説明することができる。	目標や内容を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。	目標や内容は理解しているが、完璧な説明はできない。	目標や内容の理解に問題点があるが、説明が何とかできる。	目標や内容を理解しておらず、説明もできない。	課題・レポート (知識・理解)	15%
	目標や内容を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。	目標や内容は理解しているが、完璧な説明はできない。	目標や内容の理解に問題点があるが、説明が何とかできる。	目標や内容を理解しておらず、説明もできない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(2) こどもの発達・自然認識の仕方を理解し、具体的に説明することができる。	こどもの発達・自然認識の仕方を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。	こどもの発達・自然認識の仕方を理解しているが、完璧な説明はできない。	理解は十分とはいえないが、説明が何とかできる。	理解しておらず、説明もできてない。	課題・レポート (知識・理解)	15%
	こどもの発達・自然認識の仕方を理解しており、ほぼ完璧な説明ができる。	こどもの発達・自然認識の仕方を理解しているが、完璧な説明はできない。	理解は十分とはいえないが、説明が何とかできる。	理解しておらず、説明もできてない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度の育成技術を身につけ、説明することができる。	心情や態度の育成技術を身につけ、ほぼ完璧に説明できる。	身にはつけているが、完璧な説明ができない。	十分とは、言えないが、何とか説明はできる。	身についてないため、説明もできない。	課題・レポート (思考力・判断力・技能)	20%
	心情や態度の育成技術を身につけ、ほぼ完璧に説明できる。	身にはつけているが、完璧な説明ができない。	十分とは、言えないが、何とか説明はできる。	身についてないため、説明もできない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・態度)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
生活 Life Environments		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2006	2 年次	通年
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	選択	川上 認			○
実務家教員 の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	小学校 1、2 年生対象の総合的な教科である生活科の特設的な意義を知り、その目標や内容の理解を深める。 「直接的な活動や体験重視」の教科であり、3 学年以上の「理科や社会科の基礎」を培うという特質の性格を究明していく。					
到達目標	(1) 小学校低学年に新設された趣旨や意義を理解し説明できる (2) 生活科の 4 つの目標と 9 つの内容とその扱い方が分かり、指導できるようになる (3) 指導計画作成上の留意点を把握し、模擬年間・単元計画や指導案が作成できるようになる (4) 生活科の特質を理解し、望ましい学習指導・評価の在り方を説明できる					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	生活科設置の背景と趣旨	テキスト 1～7P を読む	1 時間	理由をまとめる	1 時間
	2	生活科の目標	要領解説 8～22P を読む	2 時間	改訂点をまとめる	1 時間
	3	生活科の内容 1～3	テキスト 11～16P を読む	1 時間	内容をまとめる	2 時間
	4	生活科の内容 4～6	テキスト 17～19P を読む	1 時間	内容をまとめる	2 時間
	5	生活科の内容 7～9	テキスト 20～22P を読む	1 時間	内容構成図を書く	2 時間
	6	自然との触れ合い計画立案	自然の教材をさがす	2 時間	計画案を検討する	1 時間
	7	春の遠足実習	実施上の配慮を書く	1 時間	報告書を書く	1 時間
	8	栽培活動（1）畑づくり	春野菜の種類を調べる	1 時間	植栽方法を書く	1 時間
	9	栽培活動（2）野菜の植栽	植付の仕方を調べる	1 時間	自己評価表を書く	1 時間
	10	飼育活動（1）メダカの飼育方法	メダカの特徴を調べる	1 時間	注意点をメモする	1 時間
	11	飼育活動（2）飼育の実際	メダカ新聞をつくる	2 時間	感想文を書く	1 時間

	12	交流授業の計画（対）～小学校参観	訪問時の挨拶を書く	1 時間	日程表を作る	1 時間
	13	交流授業の実践	指導案を読んでおく	2 時間	令状を書く	1 時間
	14	遊び教材づくり（例）空気鉄砲	子供の遊びを調べる	2 時間	関連教材を調べる	1 時間
	15	遊びの実践	指導上の留意点を調べる	2 時間	相互評価する	1 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	生活科の全体計画・年間計画	要領解説 73P～86を読む	1 時間	模擬計画を作る	2 時間
	17	生活科の単元計画の作成	要領解説 87～93を読む	1 時間	計画を修正する	1 時間
	18	指導案の作成（1）作成上の留意点	指導案事例を読む	2 時間	案を作成する	2 時間
	19	指導案の作成（2）指導案の作成	指導案の作成	3 時間	案を修正する	1 時間
	20	生活科の評価の基本	配布プリントを読む	1 時間	自己評価してみる	1 時間
	21	評価基準と評価規準	テキスト 3Pを読む	1 時間	違いをまとめる	1 時間
	22	自然との触れ合い体験計画	注意点を調べる	2 時間	準備物を整える	1 時間
	23	秋の野山の散策 例）右田ヶ岳	持ち物等を整える	1 時間	感想文を書く	1 時間
	24	栽培活動の実践（1）秋植えの野菜	秋野菜の種類を調べる	1 時間	野菜の絵を描く	1 時間
	25	栽培活動の実践（2）秋の収穫体験	収穫物の活用を書く	1 時間	自己評価する	1 時間
	26	交流活動の計画（対）小学校	計画書を作製する	2 時間	形式を調べる	1 時間
	27	交流活動の実践	訪問マナーをメモする	1 時間	相互評価する	1 時間
	28	自然物を使った遊び（例）糸電話等	糸電話について調べる	1 時間	遊びを絵にする	1 時間
	29	季節的行事の計画	伝統行事を調べる	2 時間	発表材料を作る	2 時間
	30	季節的行事の実践（例）もちつき	餅つきについて調べる	1 時間	正月行事を調べる 1 時間	1 時間
成 績 評 価		定期試験（25%）、課題・レポート（25%）、指導案（10%）、教材作成（15%）、授業への取り組み（15%）、発表・プレゼンテーション（10%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		・過去の活動体験時に作成した累積成果物等によりフィードバックする				
テキストおよび参考文献		文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」 東洋館出版 山口短期大学授業用テキスト「生活」 山口短期大学				
メ ッ セ ー ジ		体験活動を重視した教科なので、大学キャンパスより外に学習の場を設けることもあり、広く実践的に社会や自然に働きかける活動を行います。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校低学年に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	ほぼ確実に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	十分に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	おおむね新設された趣旨や意義を理解し説明できる	まったく新設された趣旨や意義を理解し説明できない	定期試験 (理解)	10%
	ほぼ確実に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	十分に新設された趣旨や意義を理解し説明できる	おおむね新設された趣旨や意義を理解し説明できる	まったく新設された趣旨や意義を理解し説明できない	課題・レポート (知識)	10%
(2) 生活科の4つの目標と9つの内容とその扱い方が分かり、解できるようになる	ほぼ確実に生活科の目標と内容を記述できる	十分に生活科の目標と内容を記述できる	おおむね生活科の目標と内容を記述できる	まったく生活科の目標と内容を記述できない	定期試験 (理解)	15%
	ほぼ確実に生活科の目標と内容を記述できる	十分に生活科の目標と内容を記述できる	おおむね生活科の目標と内容を記述できる	まったく生活科の目標と内容を記述できない	課題・レポート (知識)	15%
(3) 指導計画作成上の留意点を把握し、模擬年間・単元計画や指導案が作成できるようになる	ほぼ確実に指導計画や指導案が作成できる	十分に指導計画や指導案が作成できる	おおむね指導計画や指導案が作成できる	まったく指導計画や指導案が作成できない	指導案 (技能)	10%
	ほぼ確実に指導計画や指導案が作成できる	十分に指導計画や指導案が作成できる	おおむね指導計画や指導案が作成できる	まったく指導計画や指導案が作成できない	発表・プレゼンテーション (表現力)	10%
(4) 生活科の特質を理解し、望ましい学習指導・評価の在り方を説明できる	ほぼ確実に学習指導・評価の在り方を説明できる	十分に学習指導・評価の在り方を説明できる	おおむね学習指導・評価の在り方を説明できる	まったく学習指導・評価の在り方を説明できない	教材作成 (意欲)	15%
	ほぼ確実に学習指導・評価の在り方を説明できる	十分に学習指導・評価の在り方を説明できる	おおむね学習指導・評価の在り方を説明できる	まったく学習指導・評価の在り方を説明できない	授業への取り組み (関心)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
音楽 Music		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS1007	1 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	必修	久保田 尚			○
実務家教員 の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					
概 要	小学校の教員として児童の音楽的感性と表現力を育てていくためには、教員自身の音楽的な知識と基礎能力が必要である。そのために、ここでは音楽理論と歌唱の基礎、リズム奏の基礎・基本を習得し、音楽的感性と音楽的技能を養う。 グループ演習をとおしてアンサンブルをする技能を習得する。					
到達目標	(1) 基本的な音楽理論（楽典）の習得ができる。					
	(2) 器楽演奏や歌唱の基本を学び、その基礎力の体得ができる。					
	(3) 音楽における基礎能力の感性を助長し、技能を向上させることができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	講義の全体目標及び概要説明	テキスト 1 ページ を読 んでおく	1 時間	理解して自分の考 えをまとめる。	1 時間
	2	音の長さ・音符と休符について	テキスト 27 ページを読 んでおく	1 時間	プリントパート 1 でまとめる	1 時間
	3	音の高さ・音名と階名	テキスト 28 ページを読 んでおく	1 時間	プリントパート 2 でまとめる	1 時間
	4	音の強さ・音の色・味わいの 考察	テキスト 30 ページを読 んでおく	1 時間	プリントパート 3 でまとめる	1 時間
	5	音楽用語と各種記号の意味す るところ	教科書 242,243 ページ を読んでおく	2 時間	用語を暗記する	1 時間
	6	リズムと速度、リズムと拍子 について	教科書 244,245 ページ を読んでおく	2 時間	プリントパート 2 でまとめる	1 時間
	7	ソルフェージュ・聴音	テキスト 7 ページを読 んでおく	1 時間	添削指導の復習 練習	1 時間
	8	リズムの変化、反復、終止感	テキスト 31,32 ページ を読んでおく	1 時間	プリントパート 6 でまとめる	1 時間
	9	曲想、アンサンブル ーグル ープ演習ー	教科書 82 ページを読ん でおく グループで練習する	2 時間	プリントパート 7 でまとめる	2 時間
	10	指揮の仕方、指揮者の役割	テキスト 34 ページ、教 科書 141 ページを読ん でおく	1 時間	プリントパート 5 でまとめ、会得する	2 時間

	11	ハ長調の音階とイ短調の音階	テキスト 33 ページを読んでおく	1 時間	プリントパート 3,4 でまとめる	1 時間
	12	アンサンブルと指揮者の務め	教科書 143 ページを読んでおく 自分の割り当てを練習しておく	1 時間	実習、演習し会得する	2 時間
	13	音楽の歴史の概要をつかむ	テキスト 4,5 ページを読んでおく	1 時間	記憶、暗記し、まとめる	1 時間
	14	形式美・鑑賞教材のとらえ方	テキスト 34,35,36 ページを熟読しておく	2 時間	内容をまとめる	2 時間
	15	移調・転調、楽典総論	テキスト 37,38 ページを読んでおく	1 時間	プリントパートまとめ 1 から 3 でまとめる	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	ハ長調の主要三和音 I・IV・V の和音	テキスト 14 ページを読んでおく	1 時間	実際に演習する	2 時間
	17	コードネームについて	テキスト 14 ページを読んでおく	1 時間	振り返りシートによりまとめる	1 時間
	18	ハ長調の主要三和音 I・IV・V の和音	テキスト 16 ページを読んでおく	1 時間	鍵盤で会得する	1 時間
	19	ト長調の主要三和音 I・IV・V の和音	テキスト 17 ページを読んでおく	1 時間	鍵盤で会得する	1 時間
	20	メジャーコード・マイナーコード	テキスト 16 ページを読んでおく	1 時間	検眼で実習する	1 時間
	21	イ短調の主要三和音 I・IV・V の和音	テキスト 14 ページを読んでおく	1 時間	実際に演習する	2 時間
	22	セブンのコード C7.F7.G7.D7.E7	テキスト 14 ページを読んでおく	1 時間	鍵盤で会得する	2 時間
	23	コードによる平易な伴奏	テキスト 18 ページを読み鍵盤奏をしておく	1 時間	練習し会得する	2 時間
	24	ハ長調→ト長調、ハ長調→ハ長調への移調奏	教科書 139 ページの鍵盤奏をしておく	1 時間	練習し会得する	2 時間
	25	旋律を歌い、コードによる伴奏をつける	テキスト 25,26 ページを読んでおく	1 時間	練習し会得する	2 時間
	26	コードのみの伴奏で旋律を歌う	テキスト 29 ページを読んでおく	1 時間	練習し会得する	2 時間
	27	弾き歌いを人前で発表する	テキスト 30 ページの鍵盤奏をしておく	1 時間	他人のを聞いて自分へ取り込む	2 時間
	28	和音の教え方 アクティブラーニング	テキスト 19 ページを読み、考える	1 時間	自分の考えをまとめる	2 時間
	29	グループによる A L の成果発表	前時のまとめをしておく	1 時間	発表シートをまとめる	2 時間
	30	コードを使って即興演奏に挑戦	自由課題に取り組む	2 時間	演習・実践あるのみ	2 時間
成績評価		定期試験 (60%)、その他 (40%)				
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法		プリント 10 パートの習得及び繰り返しの実技検定やレッスンをとおし、課題を段階的にクリアさせる。やる気を引き出し技能の習得を目指させる。				
テキストおよび 参考文献		初等科音楽教育法・小学校教員養成課程用 (音楽之友社) 小学校学習指導要領 第 6 節 音楽				
メッセージ な		義務教育で学んだ音楽知識を体系化し、さらに楽典を総括的に学びましょう。 演習の楽しさを体験し、将来の活動に生かせる素地をつくりましょう。 能力にあった器楽伴奏法を習得し、楽しく児童をリードする力を養いましょう。 小学校教諭二種免許状：必修				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本的な音楽理論（楽典）の習得ができる。	音楽の三要素（旋律・リズム・和音）を記号化した楽典を全体的にほぼ完璧に理解し活用できる。	理論として理解でき、活用 of 段階で実用できる程度に習得できる。	ほぼ理解でき、実用実践 of 段階で混乱せずに活用できる理論が習得できる。	合理性に富む楽典理論が理解習得できていない。	定期試験 (知識・理解)	50%
(2) 器楽演奏や歌唱の基本を学び、その基礎力の体得ができる。	鍵盤楽器を中心として、弾き歌いの技量など、ほぼ完璧に出来る	器楽と歌唱の別々でなら、ほぼ完璧に表現できる。	基本的、基礎的な演奏力がほぼ身に着いている。	基礎的、基本的技量が全く身に着かない。	その他 (技能・表現力)	30%
(3) 音楽における基礎能力の感性を助長し、技能を向上させることができる。	自らの力で自らの感性を磨く練習ができ、技能の向上に努めることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ完璧に表現でき、感性を助長させることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ正確に表現できるが、感性を助長させるまでには至らない。	楽譜等の指示に従って正確に表現できない。技能の向上がみられない	定期試験 (知識・理解)	10%
	自らの力で自らの感性を磨く練習ができ、技能の向上に努めることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ完璧に表現でき、感性を助長させることができる。	楽譜等の指示に従ってほぼ正確に表現できるが、感性を助長させるまでには至らない。	楽譜等の指示に従って正確に表現できない。技能の向上がみられない	その他 (技能・表現力)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
声楽 Vocal Music		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS1008	1 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	必修	上田 奈奈・宮本 千穂			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	初等科音楽教育における歌唱共通教材の音楽的歌唱方法の基本を習得し、ピアノでの弾き歌いができる。また、合唱（輪唱・二部合唱）や声楽アンサンブルの体験をし指導法を習得する。					
到達目標	(1) 歌唱共通教材 24 曲の内容を理解し、歌うことができる。 (2) 歌唱共通教材 24 曲をピアノで弾き歌いが演奏できる。 (3) 合唱（輪唱、二部合唱）の声楽アンサンブルで歌うことができる					
授業内容 と 進め方						
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	歌唱演習 1 学年共通教材より	テキスト 136～ 142 を譜読みして おく	1 時間	授業を振り返り楽 譜を見て復習する	1 時間
	2	歌唱演習 2 学年共通教材より	テキスト 144～ 150 を譜読みして おく	1 時間	授業を振り返り楽 譜を見て復習する	1 時間
	3	歌唱演習 3 学年共通教材より	テキスト 152～ 158 を譜読みして おく	1 時間	授業を振り返り楽 譜を見て復習する	1 時間
	4	歌唱演習 4 学年共通教材より	テキスト 160～ 168 を譜読みして おく	1 時間	授業を振り返り楽 譜を見て復習する	1 時間
	5	歌唱演習 5 学年共通教材より	テキスト 170～ 180 を譜読みして おく	1 時間	授業を振り返り楽 譜を見て復習する	1 時間
	6	歌唱演習 6 学年共通教材より	テキスト 182～ 188 を譜読みして おく	1 時間	授業を振り返り楽 譜を見て復習する	1 時間
	7	簡単な声楽アンサンブル	指定された楽譜を 譜読みする。	1 時間	授業を振り返り楽 譜を見て復習する	1 時間
	8	ピアノによる弾き歌い ①	指定した曲の譜読 みし弾き歌いの練 習をする	1 時間	授業を振り返り楽 譜を見て復習する	1 時間

	9	ピアノによる弾き歌い ②	指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
	10	ピアノによる弾き歌い ③	指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
	11	ピアノによる弾き歌い ④	指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
	12	ピアノによる弾き歌い ⑤	指定した曲を譜読みし弾き歌いの練習をする	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
	13	輪唱・二部合唱 ①	授業の中で決めた合唱曲を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
	14	輪唱・二部合唱 ②	授業の中で決めた合唱曲を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
	15	輪唱・二部合唱 ③	授業の中で決めた合唱曲を譜読みしておく	1 時間	授業を振り返り楽譜を見て復習する	1 時間
成 績 評 価		定期試験 (50%) 授業への取り組み(50%)				
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法		毎回の授業の曲を復習する。				
テキストおよび参考文献		初等科音楽研究会 編「最新 初等科音楽教育法」音楽之友社 小学校学習指導要領 第6節 音楽				
メッセージなど		小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 歌唱共通教材 24 曲の内容を理解し、歌うことができる。	ほぼ完璧に、歌うことができる。	大きな間違いがなく、歌うことができる。	最低限で、歌うことができる。	習得していない。	定期試験 (意欲・技能・表現力)	50%
	ほぼ完璧に、歌うことができる。	大きな間違いがなく、歌うことができる。	最低限で、歌うことができる。	習得していない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	15%
(2) 歌唱共通教材 24 曲をピアノで弾き歌いが演奏できる。	ほぼ完璧に、弾き歌いが演奏できる。	大きな間違いがなく、弾き歌いが演奏できる。	最低限で、弾き歌いが演奏できる。	弾き歌いができていない。	授業での取り組み (関心・意欲)	20%
(3) 合唱 (輪唱、二部合唱) の声楽アンサンブルで歌うことができる。	ほぼ完璧に、合唱やアンサンブルで歌うことができる。	大きな間違いがなく、合唱やアンサンブルで歌うことができる。	最低限で、合唱やアンサンブルで歌うことができる。	合唱や、アンサンブルができていない。	授業での取り組み (技能・表現力・作品の完成度)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
器楽 I Instrumental Music I		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS1009	2 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	必修	上田 奈奈・宮本 千穂			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	初等科音楽教育に必要なピアノ演奏技術と歌唱教材伴奏の修得を目指す。 それぞれのピアノ演奏技術の向上を目指す。 個人レッスンの形態で演習する。					
到達目標	(1) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。 (2) 正しい楽譜の読み方を学べる。 (3) 学んだことを応用し、表情豊かに演奏できる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	ピアノの扱い方 演奏の方法 演奏楽曲の説明	テキストを読んでおく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	2	ピアノ演奏① バイエル 15 番	バイエル 15 番を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	3	ピアノ演奏② バイエル 15 番	バイエル 15 番を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	4	ピアノ演奏③ バイエル 28 番	バイエル 28 番を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	5	ピアノ演奏④ バイエル 28 番	バイエル 28 番を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	6	ピアノ演奏⑤ バイエル 48 番	バイエル 48 番を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	7	ピアノ演奏⑥ バイエル 48 番	バイエル 48 番を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	8	ピアノ演奏⑦ バイエル 51 番	バイエル 51 番を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	9	ピアノ演奏⑧ バイエル 51 番	バイエル 51 番を譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	10	音階について① ハ長調、ニ長調、ヘ長調	譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	11	音階について② ト長調、イ短調	譜読みしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	12	「ブルグミュラー 25 の練習曲」以上の教材より選択 -1 週目-	課題曲の練習をしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	13	「ブルグミュラー 25 の練習曲」以上の教材より選択 -2 週目-	課題曲の練習をしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間

	14	「ブルグミュラー 25 の練習曲」以上の教材より選択 -3 週目-	課題曲の練習をしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
	15	「ブルグミュラー 25 の練習曲」以上の教材より選択 -4 週目-	課題曲の練習をしておく	2 時間	授業を振り返り習った曲を復習する	2 時間
成績評価		定期試験（66%）、授業への取り組み（34%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		日々の練習の成果を復習練習でフィードバックし、実技試験の場で発表する。				
テキストおよび参考文献		「バイエル教則本」全音出版社 「ブルグミュラー 25 の練習曲」全音出版 小学校学習指導要領 第 6 節 音楽				
メッセージなど		小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) ピアノ演奏技術の基礎を習得できる。	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基礎を習得している。	間違いはあるが、最低限の基礎を習得している。	習得できていない。	定期試験（関心・意欲・態度）	18%
	ほぼ完璧に習得している。	大きな間違いがなく、基礎を習得している。	間違いはあるが、最低限の基礎を習得している。	習得できていない。	授業への取り組み（知識・技能）	17%
(2) 正しい楽譜の読み方を学べる。	ほぼ完璧に学んでいる。	大きな間違いがなく、基礎を学んでいる。	間違いはあるが、最低限の基礎を学んでいる。	学べていない。	定期試験（関心・意欲・態度）	30%
(3) 学んだことを応用し、表情豊かに演奏できる。	ほぼ完璧に演奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を演奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を演奏できる。	演奏できていない。	定期試験（関心・意欲・態度）	18%
	ほぼ完璧に演奏できる。	大きな間違いがなく、基礎を演奏できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を演奏できる。	演奏できていない。	授業への取り組み（知識・技能）	17%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
器楽Ⅱ Instrumental Music Ⅱ		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2010	2 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	安部 浩信			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関 係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	器楽合奏法は初等音楽教育に必要な様々な楽器の知識を習得し、合奏方法とその指導法を学ぶ。 また、歌唱教材のピアノ伴奏法を習得する。					
到達目標	(1) リコーダーの基礎奏法を習得し、各学年の対象曲が演奏できる。					
	(2) 様々な合奏楽器の特徴を知り、適切な奏法を習得する。					
	(3) 様々な合奏楽器を使って合奏ができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	リコーダー演習法 ―1 週目―	リコーダーの運指 を教科書を見なが ら練習しておく	2 時間	授業で練習した音 階と曲を練習する	2 時間
	2	リコーダー演習法 ―2 週目―	♯、♭の指使いを予習 しておく	2 時間	授業で練習した音 階と曲を練習する	2 時間
	3	リコーダー演習法 ―3 週目―	指定された曲を練 習しておく	2 時間	授業で練習した音 階と曲を練習する	2 時間
	4	合奏楽器の特徴と扱い方 ―1 週目―	合奏曲で使用する 打楽器、鍵盤楽器の 練習をしておく	2 時間	授業で練習した楽 器の練習をする	2 時間
	5	合奏楽器の特徴と扱い方 ―2 週目―	合奏曲で使用する 打楽器、鍵盤楽器の 練習をしておく	2 時間	授業で練習した楽 器の練習をする	2 時間
	6	合奏① ―1、2、3 年生対象曲 1 週目―	合奏曲で使用する 打楽器、鍵盤楽器の 練習をしておく	2 時間	授業で練習した楽 器の練習をする	2 時間
	7	合奏② ―1、2、3 年生対象曲 2 週目―	合奏曲で使用する 打楽器、鍵盤楽器の 練習をしておく	2 時間	授業で練習した楽 器の練習をする	2 時間
	8	合奏③ ―1、2、3 年生対象曲 3 週目―	合奏曲で使用する 打楽器、鍵盤楽器の 練習をしておく	2 時間	授業で練習した楽 器の練習をする	2 時間
	9	合奏（創作）① ―4、5、6 年生対象曲 1 週目―	合奏曲のリズムを 工夫しておく	2 時間	授業で創作したリ ズムを練習する	2 時間
	10	合奏（創作）② ―4、5、6 年生対象曲 2 週目―	創作したリズムを 発展させておく	2 時間	授業で創作したリ ズムを練習する	2 時間

	11	合奏（創作）③ —4、5、6年生対象曲3週目— （発表会）	創作リズムの練習 をしておく	2時間	合奏曲の仕上げ練習 をする	2時間
	12	ピアノ伴奏法① —歌唱教材伴奏 法1、2年	指定された曲を練習 しておく	2時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2時間
	13	ピアノ伴奏法② —歌唱教材伴奏 法3、4年	指定された曲を練習 しておく	2時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2時間
	14	ピアノ伴奏法③ —歌唱教材伴奏 法5、6年	指定された曲を練習 しておく	2時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2時間
	15	ピアノ伴奏法④ まとめ	指定された曲を練習 しておく	2時間	授業を振り返り楽譜 を見て復習する	2時間
成績評価		定期試験（51%）、授業への取り組み（49%）				
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法		毎回授業の終わりに出来ているか個別に確認をする。				
テキストおよび 参考文献		泉 靖彦 他「初等科 音楽教育法」音楽之友社 小学校学習指導要領 第6節 音楽				
メッセージ など		初等科音楽教育の実践的指導法を学びます。				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) リコーダーの基礎 奏法を習得し、各学年 の対象曲が演奏できる。	ほぼ完璧に演奏 できる。	大きな間違い がなく、基礎 を演奏できる。	間違いはある が、最低限の 基礎を演奏できる。	演奏できていない。	定期試験 （知識・理解）	18%
	ほぼ完璧に演奏 できる。	大きな間違い がなく、基礎 を演奏できる。	間違いはある が、最低限の 基礎を演奏できる。	演奏できていない。	授業への取り組み （技能）	17%
(2) 様々な合奏楽器の 特徴を知り、適切な奏 法を習得する。	ほぼ完璧に習 得している。	大きな間違い がなく、基礎 を習得している。	間違いはある が、最低限の 基礎を習得している。	習得できていない。	定期試験 （技能）	18%
	ほぼ完璧に習 得している。	大きな間違い がなく、基礎 を習得している。	間違いはある が、最低限の 基礎を習得している。	習得できていない。	授業への取り組み （関心・理解）	17%
(3) 様々な合奏楽器を 使って合奏ができる。	ほぼ完璧に合 奏できる。	大きな間違い がなく、基礎 を合奏できる。	間違いはある が、最低限の 基礎を合奏できる。	合奏ができていない。	授業への取り組み （知識・技能）	15%
	ほぼ完璧に合 奏できる。	大きな間違い がなく、基礎 を合奏できる。	間違いはある が、最低限の 基礎を合奏できる。	合奏ができていない。	定期試験 （作品の完成 度）	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
図画工作 Arts and Handicrafts		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS1011	1 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	必修	佐古 淳子・西村 直記			○
実務家教員 の詳細	中学校美術科教員としての実務経験を生じ、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	図画工作における領域の中で、絵画・デザインを主におこなう。工作は教材研究に、鑑賞は美術史に託しながら相互に行っていく。絵画ではデッサン・水彩画を、デザインはポスターを作製する。採用試験対策のため、持ち込み不可の試験を行う。色彩関係について知識を得られるような内容にする。					
到達目標	(1) 水彩画、ポスター の制作の手順や画材、用具、色彩について説明する事ができる。 (2) 水彩画、ポスターの特質を知り、意欲的に取材し、画面構成力を高める事ができる。 (3) 透明水彩、ポスターカラーの扱いに熟達し、表現したい内容を描く事ができる。 (4) お互いの作品を鑑賞して考えを説明し合い、高め合うことができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション・人物ク ロッキー	テキスト P.3～P.7 を読んでおく。	0.5 時間	授業を振り返り、 人物クロッキーの 自己評価をする。	0.5 時間
	2	鉛筆デッサン・ものの見方 ー手・器と視点ー	テキストP.8、P.9の演 習 1),2)を予習する。	0.5 時間	授業を振り返り、 2つのデッサンの 自己評価をする。	0.5 時間
	3	鉛筆デッサン ー人物の顔ー	テキスト P.10 を読 んで実践してみる。	1 時間	授業を振り返り、デ ッサンの途中段階 の自己評価をする。	0.5 時間
	4	鉛筆デッサン ー人物の顔の仕上げー			デッサンの完成度 を高め、自己評価を して次時提出する。	2 時間
	5	水彩画の制作 ーモチーフの選択・レイアウトー	テキスト P.11 ～ P.18 を読んでおく。	1 時間	授業を振り返り、 制作の自己評価を する。	0.5 時間
	6	下描き① ー構図決定（鉛筆）ー			授業を振り返り、 制作の自己評価を する。	0.5 時間

7	下描き② ー細部描画（鉛筆）ー			授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間
8	着彩① ー薄塗りー	テキスト P.19 ～ P.21 を読んでおく。	1 時間	授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間
9	着彩② ー画面全体を見ながら色を重ねていくー			授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間
10	着彩③ ー色を重ねて深みを出すー			授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間
11	着彩④ 同上			授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間
12	着彩⑤ 同上			授業を振り返り、制作の自己評価をする。	0.5 時間
13	評価・講評			授業を振り返り、鑑賞内容や言葉の表現が適切だったか自己評価をする。	0.5 時間
14	演習グラデーション① ー色についてー	テキスト P.24 ～ P.27 を読んでおく。	1 時間	授業を振り返り、疑問点などをまとめる。	0.5 時間
15	演習グラデーション② ーポスターカラーの使い方ー			授業を振り返り、課題の制作状況の自己評価をする。	0.5 時間
				修正箇所を見直し、課題の完成度を高め、提出する。	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	ポスターについて	テキスト P.22,P.23, P.30 を読んでおく。	1 時間	授業を振り返り、自分の主題、構想、資料収集に取り掛かる。	2 時間
17	レタリング ーゴシック体と明朝体①ー	テキスト P.28、P.29 を読んで演習 1)、2) を予習する。	2 時間	授業を振り返り、予習した内容を見直す。	1 時間
18	レタリング ーゴシック体と明朝体②ー			授業を振り返り、演習シートを完成させ、次時提出する。	2 時間
19	資料収集・構想・アイデアスケッチ	構想シートに数種類、構想を描く。	2 時間	授業を振り返り、構想を何度も見直す。	2 時間
20	コピー・レタリングの考案	構想シートに数種類、構想を描く。	2 時間	授業を振り返り、構想を何度も見直す。	2 時間
21	下描き① ー構図決定ー	構想シートに数種類、構想を描く。	2 時間	授業を振り返り、構想を何度も見直す。	2 時間
22	下描き② ーレタリングのトレースや細部ー			授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間
23	着彩① ーモダンテクニックについてー	テキスト P.31 を読んでおく。	0.5 時間	授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間

	24	着彩②			授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間
	25	着彩③			授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間
	26	着彩④			授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間
	27	着彩⑤			授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間
	28	着彩⑥			お互いに鑑賞しあいながら意見交換をして作品の完成度を高め、次時提出する。	2 時間
	29	評価・講評			授業を振り返り、鑑賞内容や言葉の表現が適切だったか自己評価をする。	0.5 時間
	30	まとめ			授業を振り返り、自己評価をする。	0.5 時間
成 績 評 価		定期試験 (5%)、課題・レポート (10%)、作品 (40%)、授業への取り組み (40%)、発表・プレゼンテーション (5%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		学生は授業の振り返りシートに課題に対する疑問や感想、自己評価を記入し連絡ボックスに入れる。それに対して次時までコメントを記入し返却する。課題の評価は作品完成時に口頭で、試験の評価は点数 (100 点中～80 点：優、79～70 点：良、69～60 点：可、60 点未満：不可) で知らせる。正解とともに返却する。場合によっては個人的に呼び出して指導することもある。				
テキストおよび参考文献		テキスト『図画工作』 山口短期大学 佐古淳子 小学校学習指導要領 第7節 図画工作 中学校学習指導要領 第6節 美術				
メッセージなど		制作が主となる活動です。この実習を通じて、水彩絵の具とポスターカラーの扱い、色彩、画面構成、レタリングを学んでいきます。概ね中学校課程に準ずる内容になっているのは、小学校の学習が次に何に繋がっていくのかを理解しておくことはとても大切だからです。とはいえ、一つのパターンに導くのではなく、児童に個人差や個性があるように、皆さんの個性を重視しながら、創意・工夫や完成させる意欲が高まるような関わり方を模索していきます。 小学校教諭二種免許状：必修				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 水彩画、ポスターの制作の手順や画材、用具、色彩について説明することができる。	ほぼ完璧に基本を説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・問題解決力)	5%
	ほぼ完璧に基本を説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (関心・意欲・理解・思考力)	5%
(2) 水彩画、ポスターの特質を知り、意欲的に取材し、画面構成力を高める事ができる。	ほぼ完璧に正しく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	大きな手違いがなく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	理解不足のため手違いはあるが自分なりに制作・助言ができる。	理解を怠り、自分の考えで制作できていない。また制作しない。	作品 (意欲・思考力・表現力・創造性・問題解決力)	20%
	ほぼ完璧に正しく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	大きな手違いがなく理解して、自分の考えで制作・助言ができる。	理解不足のため手違いはあるが自分なりに制作・助言ができる。	理解を怠り、自分の考えで制作できていない。また制作しない。	授業への取り組み (意欲・理解・思考力・判断力・創造性)	20%
(3) 透明水彩、ポスターカラーの扱いに熟達し、表現したい内容を描く事ができる。	ほぼ完璧に技法の特性を理解して表現でき完成することができる。	大きな手違いがなく技法の特性を理解して表現でき、完成することができる。	技法の特性の理解不足のため手違いはあるが、自分なりの表現ができる。	技法の特性の理解を怠り、自分なりの表現もできていない。また制作しない。	作品 (意欲・技能・表現力・問題解決力・作品の完成度)	20%
	ほぼ完璧に技法の特性を理解して表現でき完成することができる。	大きな手違いがなく技法の特性を理解して表現でき、完成することができる。	技法の特性の理解不足のため手違いはあるが、自分なりの表現ができる。	技法の特性の理解を怠り、自分なりの表現もできていない。また制作しない。	授業への取り組み (意欲・判断力・表現力・創造性・問題解決力)	20%
(4) お互いの作品を鑑賞して考えを説明し合い、高め合うことができる。	ほぼ適切に作品のよさや作者の心情、自分の考えを説明できる。	大きな間違いがなく、作品のよさや自分の考えを説明できる。	不適切な表現はいくつかあるが、自分の考えを説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (関心・知識・思考力・創造性)	5%
	ほぼ適切に作品のよさや作者の心情、自分の考えを説明できる。	大きな間違いがなく、作品のよさや自分の考えを説明できる。	不適切な表現はいくつかあるが、自分の考えを説明できる。	説明できていない。	発表・プレゼンテーション (思考力・判断力・表現力・協働性・問題解決力)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
工芸 Craft		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS1012		1 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員
演習	2	必修	西村 直記				
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。						○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。						○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。						
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。						
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。						○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。						○
概 要		粘土と木を主材料として制作過程を理解しながらその技法を身につける。前期では、付け加えながら造形する粘土を使用し、粘土の性質を理解しながらデザイン感覚を養う。土地柄、大道は萩焼きの粘土が産出する場所でもあるので、その特性を活かして萩焼きの制作をおこなう。後期では、削って造形する木を使用し、木の特性を理解しながら前期で扱った粘土との違いを学ぶ。実際に木材を使って鍋敷きやペーパーナイフを制作し、電動糸のこ盤の使用方法や木材の加工方法を学習する。					
到達目標		(1) 粘土と木の素材の違いを認識し、技法及び道具の基本的な知識を身につけることができる。					
		(2) 課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができる。					
		(3) 素材の違いを考慮しながら、各自の制作意図を反映した作品を創造することができる					
授業内容 と 進め方		回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
		1	授業の概要についての説明と心構え			授業の概要と心構えをまとめる。	2 時間
		2	概要及び焼物用粘土の取扱いについて	本時の内容に該当する教科書の項目を読む。	2 時間	焼物用粘土の取り扱いについて振り返り、まとめる。	2 時間
		3	粗練りと菊練りの練り方	前時に指定した教科書の項目を読む。	2 時間	粗練りと菊練りの注意事項をまとめる。	2 時間
		4	土鈴の制作	土鈴のデザインを考える。	2 時間	土鈴を作る時の注意事項をまとめる。	2 時間
		5	玉づくりの制作方法と制作	玉づくりの器のデザインを考える。	2 時間	玉づくりで器を作る時の注意事項をまとめる。	2 時間
		6	玉づくりの底削り方法	底削りに該当する教科書の項目を読む。	2 時間	底削りの注意事項をまとめる。	2 時間
		7	板づくりの制作方法と制作	板づくりの器のデザインを考える。	2 時間	たた板を使用する板づくりの注意事項をまとめる。	2 時間
		8	板づくりの制作	板づくりに該当する教科書の項目を読む。	2 時間	板づくりのパーツの組み立ての注意事項をまとめる。	2 時間

9	板づくりの底削り方法	板づくりの底削りに該当する教科書の項目を読む。	2 時間	板づくりならではの底削りの注意事項をまとめる。	2 時間
10	ひもづくりの制作方法と制作	ひもづくりの器のデザインを考える。	2 時間	ひもづくりで器を作る時の注意事項をまとめる。	2 時間
11	ひもづくりの制作（１）成形	ひもづくりに該当する教科書の項目を読む。	2 時間	自らのデザインに近づけるための注意事項をまとめる。	2 時間
12	ひもづくりの制作（２）仕上げ	自らのデザインを形にするための制作方法を考える。	2 時間	大きな器を作る時の注意事項をまとめる。	2 時間
13	ひもづくりの底削りの方法	ひもづくりの底削りに該当する教科書の項目を読む。	2 時間	ひもづくりならではの底削りの注意事項をまとめる。	2 時間
14	施釉	釉薬を掛けて仕上げた状態の器のデザインを考える。	2 時間	釉薬を掛ける時の注意事項をまとめる。	2 時間
15	鑑賞・評価	焼成の方法に該当する教科書の項目を読む。	2 時間	陶芸の作業を振り返り、注意事項をまとめる。	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	概要及び木工について	教科書の木工編を読む。	2 時間	概要と木工についての説明を振り返り、まとめる。	2 時間
17	ペン皿鍋敷き作品のデザインを決定	鍋敷きのデザインを考える。	2 時間	木材の製材方法とそれぞれの適性と長所・短所をまとめる。	2 時間
18	ペーパーナイフのデザインを決定	ペーパーナイフのデザインを考える。	2 時間	木の種類とそれぞれの適性と長所・短所をまとめる。	2 時間
19	糸のこ盤の使用方法	糸のこ盤の使用方に該当する教科書の項目を読む。	2 時間	糸のこ盤の使用にあたっての注意事項をまとめる。	2 時間
20	切削手順と方法	自らのデザインを形にするための切削方法を考える。	2 時間	切削の方法と手順についての注意事項をまとめる。	2 時間
21	彫刻刀による切削方法	彫刻刀の使用に該当する教科書の項目を読む。	2 時間	彫刻刀の種類と使用に関する注意事項をまとめる。	2 時間
22	鍋敷きの切削（１）荒彫り	浮き彫り（レリーフ）をイメージしてデザインを考える。	2 時間	本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。	2 時間
23	鍋敷きの切削（２）中彫り	荒彫りから仕上げ彫りに該当する教科書の項目を読む。	2 時間	本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。	2 時間
24	鍋敷きの切削（３）仕上げ彫り	立体的なデザインを考え、本時の作業の進行方法を考える。	2 時間	本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。	2 時間
25	ペーパーナイフの切削（荒・中彫り）	ペーパーナイフを立体的にイメージして本時の作業を考える。	2 時間	本時の作業を振り返り、作業の問題点をまとめる。	2 時間
26	ペーパーナイフの切削（仕上げ彫り）	作品の完成状態をイメージして、本時の作業を考える。	2 時間	彫刻刀の切削作業全般を振り返り、注意事項をまとめる。	2 時間
27	サンドペーパーによる研き作業	作品の完成状態をイメージして、本時の作業を考える。	2 時間	サンドペーパーの使用に関する注意事項をまとめる。	2 時間

	28	アクリル絵の具による着色	色付けのデザインを考える。	2 時間	アクリル絵の具の適性と長所・短所をまとめる。	2 時間
	29	仕上げ(水性ウレタン・ワックス)	水性ウレタン・ワックスに該当する教科書の項目を読む。	2 時間	水性ウレタン・ワックスの注意事項をまとめる。	2 時間
	30	鑑賞・評価	工芸の授業全般を振り返り、疑問点・質問事項をまとめる。	2 時間	工芸の授業全般の注意事項をまとめて、定期試験に備える。	2 時間
成 績 評 価		レポート（知識・理解・判断力）（10%） 作品（関心・意欲・態度・技能・発想・表現力）（90%）				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		作品の評価・改善方法及びレポートについては授業の中で随時指導する。				
テキストおよび参考文献		「工芸」山口短期大学 小学校学習指導要領 第7節 図画工作				
メッセージなど		毎回の授業への取り組みとやる気が作品の良し悪しに関わってきます。 小学校教諭二種免許状：必修				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 粘土と木の素材の違いを認識し、技法及び道具の基本的な知識を身につけることができる。	粘土と木の素材の特性を理解し、技法及び道具の基本的な知識が十分に身につけている。	粘土と木の素材の特性を理解し、技法及び道具の基本的な知識が概ね身につけている。	粘土と木の素材の特性を概ね理解し、技法及び道具の使用方法は理解している。	粘土と木の素材の特性を理解できず、技法及び道具の使用方法も理解していない。	レポート (知識・理解・判断力)	10%
(2) 課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができる。	課題の内容を理解し、使いやすいデザインを考案することができる。	課題の内容を概ね理解し、自分なりのデザインを考案することができる。	課題の内容を概ね理解し、一般的なデザインであれば考案することができる。	課題の内容を理解できず、一般的なデザインを考案することができない。	作品 (関心・意欲・態度・技能・表現力)	45%
(3) 素材の違いを考慮しながら、各自の製作意図を反映した作品を創造することができる	素材の違いを理解し、自らの制作意図のとおり作品を創造することができる。	素材の違いを理解し、自らの制作意図のとおり作品を概ね制作することができる。	素材の違いを概ね理解し、自らの制作意図に近い作品を制作することができる。	素材の違いを理解できず、作品を制作することができない。	作品 (関心・意欲・態度・技能・表現力)	45%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
体育Ⅰ Physical EducationⅠ		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2013	1年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業 認定	担当教員			実務家 教員
演習	2	必修	田中 邦明			○
実務家教員 の詳細	中学校保健・体育科教員としての実務経験を生じ、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					
概 要	小学校免許修得にふさわしい力を身に付けることを主眼に授業を行う。主に、小学校の体育科教育において学習指導要領に示されている学習内容の指導ができるということが中心である。子どもの教育に責任をもつためにふさわしい資質能力を身に付けることができるように授業を進めていく。そのために、「体育の見方・考え方」、「運動の系統的指導」、「豊かなスポーツライフの実現」という言葉をキーワードにして行う。					
到達目標	(1) 全学年に渡ってできるだけ多くの運動領域の内容を経験し、基本的な動作を習得する。 (2) 運動種目に応じた系統的指導のあり方を理解し、段階的な指導方法を習得する。 (3) 指導案の作成に慣れ、指導案に基づいて実際に模擬授業を行うことができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーションー前期授業の概要と見通しについてー学習指導要領をどう捉えるか			授業の振り返り	2時間
	2	低学年：体づくりの運動遊び1	事前配布資料を読んでおく	2時間	授業の振り返り	2時間
	3	低学年：体づくりの運動遊び2	縄跳びの練習	2時間	授業の振り返り	2時間
	4	中・高学年：体づくり運動	事前配布資料を読んでおく	2時間	授業の振り返り	2時間
	5	中学年：走・跳の運動	事前配布資料を読んでおく	2時間	授業の振り返り	2時間
	6	低学年：器械・器具を使った運動遊び	事前配付資料を読んでおく	2時間	授業の振り返り	2時間
	7	全学年：水遊びと水泳学習	事前配布資料を読んでおく	2時間	授業の振り返り	2時間
	8	中学年：器械運動1 マット運動を中心に	事前配布資料を読んでおく	2時間	授業の振り返り	2時間
	9	中学年：器械運動2 跳び箱運動を中心に	事前配布資料を読んでおく	2時間	授業の振り返り	2時間
	10	低学年：パスパスゲーム 作戦の立て方	事前配布資料を読んでおく	2時間	授業の振り返り	2時間
	11	ワークショップ：体育科指導案の作り方	事前配付資料を読んでおく	2時間	指導案作成	2時間

	12	演習：模擬授業①・②	指導案作成	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	13	演習：模擬授業③・④	指導案作成	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	14	演習：模擬授業⑤・⑥	指導案作成	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	15	前期授業のまとめ レポートへの対応、個人面接について	事前配付資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	オリエンテーションー後期授業の概要と見通しについてー 中学年：表現運動「忍者」イメージづくり		2 時間	授業の振り返り	2 時間
	17	中学年：表現運動「忍者」動きづくり、動きの構成	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	18	中学年：表現運動「忍者」グループごとに発表、振り返り	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	19	低・中学年：スポーツ鬼ごっこ	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	20	高学年：スポーツ鬼ごっこ	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	21	低学年：ドッジボール（工夫したゲームを考える）	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	22	高学年：ソフトバレーボール	事前配付資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	23	低学年：ならびっ子ゲーム	事前配付資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	24	高学年：バスケットボール	事前配付資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	25	高学年：サッカー	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	26	中学年：キックベースボール	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	27	高学年：陸上運動「走り高跳び」	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	28	中学年：ポートボール	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	29	高学年：陸上運動「リレー」	事前配布資料を読んでくる	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	30	後期授業のまとめ レポートへの対応	後期授業資料のまとめ	2 時間	課題レポート	2 時間
成 績 評 価	課題レポート（30%）、授業への取組・態度（30%）、演習：模擬授業（30%）、授業中のグループワーク（10%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	レポートはコメントをつけてお返しします。					
テキストおよび参考文献	小学校学習指導要領 第9節 体育 授業時に随時資料を配布					
メッセージなど	小学校教諭二種免許状：必修					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 全学年に渡ってできるだけ多くの運動領域の内容を経験し、基本的な動作を習得する。	ほぼ完璧に習得できている。	大きな間違いがなく習得できている。	最低限のことは習得できている。	ほとんど習得できていない。	授業への取組 (関心・意欲・理解・技能・表現力)	20%
	ほぼ完璧に習得できている。	大きな間違いがなく習得できている。	最低限のことは習得できている。	ほとんど習得できていない。	発表 (関心・意欲・理解・技能・表現力)	10%
(2) 運動種目に応じた系統的指導のあり方を理解し、段階的な指導方法を習得する。	ほぼ完璧に習得できている。	大きな間違いがなく習得できている。	最低限のことは習得できている。	ほとんど習得できていない。	授業への取組 (関心・意欲・理解・技能・思考力)	20%
	ほぼ完璧に習得できている。	大きな間違いがなく習得できている。	最低限のことは習得できている。	ほとんど習得できていない。	課題レポート (知識・理解・判断力・創造性・協働性)	30%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく表現できる。	最低限のことは表現できる。	ほとんど表現できない。	グループワーク (理解・知識・思考力・表現力・協働性)	10%
(3) 指導案の作成に慣れ、指導案に基づいて実際に模擬授業を行うことができる。	ほぼ完璧に行うことができる。	大きな間違いがなく行うことができる。	最低限のことは行うことができる。	ほとんど行うことができない。	授業への取組 (知識・理解・判断力・創造性・協働性)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
体育Ⅱ Physical Education Ⅱ		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2014	2年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	大本 学司			○
実務家教員 の詳細	中学校保健・体育科教員としての実務経験を生じ、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	「体育科」において、目標や内容とともに子どもの実態に合わせた教材選択が大切である。本授業では、様々な教材を選択することや運動やスポーツの文化的視野を広げることを目標にする。主な内容は、フライングディスクを教材とした運動やスポーツの体験、体づくり運動や陸上運動などにおける教具づくりとする。また、保健の授業や障害児体育についても実践報告を通して授業づくりをする上での着眼点を学ぶ。					
到達目標	(1) フライングディスクを使用した運動・スポーツの教材価値を理解し、実践できる。 (2) 体育科の運動理解や意欲につながる教具づくりができ、改善点や工夫点を述べることができる。 (3) 保健の授業の1つの指導案が作成でき、提案・検討できる。 (4) 障害児体育の実践報告から、教具の意味を理解し工夫点が説明できる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーションー授業の概要についてー			授業の振り返り	2時間
	2	フライングディスクを使った運動・スポーツの歴史と実践（ディスタンス・TRC）	事前配布資料を読んでおく	2時間	課題レポート	2時間
	3	アルティメットのルールと実践	事前配布資料を読んでおく	2時間	課題レポート	2時間
	4	アルティメットの実践（攻めと守り）と教材価値	事前配布資料を読んでおく	2時間	課題レポート	2時間
	5	教材の選択と教具づくりの計画	事前配布資料を読んでおく	2時間	課題レポート	2時間
	6	材料あつめと教具製作	材料を収集し、事前資料を読んでおく	2時間	教具の完成をさせる	2時間

	7	教具を使用した活動の計画	事前の資料を読んでおく	2 時間	計画の完成と実践の練習	2 時間
	8	教具を使った実践①②	計画の資料を読んでおく	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	9	教具を使った実践③④	計画の資料を読んでおく	2 時間	授業の振り返り	2 時間
	10	障害児体育について（ボンボンホッケーの実践報告から学ぶ）	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	11	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」からー	事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業づくりの構想をする	2 時間
	12	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」から授業案の作成①	事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業づくりの計画を見直す	2 時間
	13	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」から授業案を作成②	事前配布資料を読んでおく	2 時間	授業づくりの計画を見直す	2 時間
	14	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」から発表①	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
	15	保健の授業づくりー「子どもが動き出す授業づくり」から発表②	事前配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間
成 績 評 価	授業への取り組み（30%）、教材作成（15%）、指導案（15%）グループワーク・グループ討議（30%）、課題・レポート（10%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	レポートはファイルにとじて提出してもらい、次の時間に返却し復習に使用します。					
テキストおよび参考文献	小学校学習指導要領 第9節 体育 資料は随時配布					
メ ッ セ ー ジ な ど	学びたいことを出し合って、教具づくりや提案、検討会が協力しながらできるように取り組みましょう					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)フライングディスクを使用した運動・スポーツの教材価値を理解し、実践できる。	教材価値を理解し、数多く実践できる	大きな間違いがなく理解でき、実践できる	最低限のことは説明でき、実践できる	教材価値を理解できず、実践できない	授業への取り組み (関心・意欲、技能、・協同性)	30%
(2)体育科の運動理解や意欲につながる教具づくりができ、改善点や工夫点を述べることができる。	教具づくりができ、数多く改善や工夫点を述べることができる	教具づくりがある程度でき、改善や工夫点を述べることができる	最低限度の教具づくりができる	教具づくりができない	教材作成 (理解・思考力・創造力)	15%
	教具づくりができ、数多く改善や工夫点を述べることができる	教具づくりがある程度でき、改善や工夫点を述べることができる	最低限度の教具づくりができる	教具づくりができない	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力・表現力)	15%
(3) 保健の授業の1つの指導案が作成でき、提案・検討できる。	指導案の作成と提案・検討ができる	大きな間違いがなく指導案の作成と提案・検討ができる	最低限の指導案の作成と提案・検討ができる	指導案の作成ができず、検討できない	指導案 (知識・理解・思考力、創造性)	15%
	指導案の作成と提案・検討ができる	大きな間違いがなく指導案の作成と提案・検討ができる	最低限の指導案の作成と提案・検討ができる	指導案の作成ができず、検討できない	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力・表現力)	15%
(4) 障害児体育の実践報告から学び、教具の意味を理解し工夫点が説明できる。	教具の意味を理解し、多くの工夫点が説明できる	大きな間違いがなく、教具の意味を理解し、工夫点が説明できる	最低限度の教具の意味を理解し、工夫点が説明できる	説明できない	課題・レポート (知識・理解・思考力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
リズム運動 Rhythmical Movement		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS1015	1 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	必修	田村 千代子			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					
概 要	新学習指導要領の内容を踏まえ、各学年の運動発達段階に応じた表現運動の指導について理解する。なかでも日本の民族舞踊を中心に、歴史的な背景や特有の身体づかいを学びながら日本の踊りの独自性について理解する。また、表現の楽しさを追求するとともに、ペア学習、グループ学習などの学習方法やその有効性を学びながら、基本的な指導法を修得する。					
到達目標	(1) 民族舞踊である「荒馬」「ソーラン節」の踊りの歴史を学び、基本動作を修得する。 (2) 個人練習からグループ練習、そして発表までの授業づくりの流れを理解し、構成できる。 (3) 模擬授業を行い、通して、表現運動の基本的な指導法について学習者、指導者の立場から意見を述べることができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーションー今日のダンス・踊りを取り巻く背景と教育の中の表現運動ー			学習指導要領をダンスの領域を読む。	2 時間
	2	日本の伝統文化「荒馬」について学ぶー「今別荒馬」の歴史ー	学習指導要領のダンスの領域を読む。	2 時間	学習指導要領の領域を読む。	2 時間
	3	「荒馬」の基本の動き①ー踏み、探り足、踏み遊びー	荒馬についての資料を読む。	2 時間	基本の動きの復習。	2 時間
	4	「荒馬」の基本の動き②ー一つ踏み、三つ踏み、足踏みー	基本の動きの確認。	2 時間	基本の動きの復習。	2 時間
	5	馬をつけて、前半の動きのまとめと発表	基本の動きの確認。	2 時間	前半部分の練習。	2 時間
	6	荒馬（後半）の動きの学習とペア学習	前半の通りの復習。	2 時間	後半の踊りの練習。	2 時間
	7	身体の使い方の違いを知る動き（ペア）	後半の動きの復習。	2 時間	踊りの練習。	2 時間

	8	全体の構成づくりと踊りの練習	踊りの復習。	2 時間	全体の構成の確認と練習。	2 時間
	9	「正調ソーラン節」の学習① 歴史と実践例	ソーラン節について調べる。	2 時間	ソーラン節の練習。	2 時間
	10	「正調ソーラン節」の学習② 踊りを学ぶ	ソーラン節の復習。	2 時間	ソーラン節の練習。	2 時間
	11	模擬授業の指導案づくり	指導案の作成方法について参考資料を読む。	2 時間	授業指導案の作成。	2 時間
	12	模擬授業 その1（導入から動きの指導）	指導案の作成または練習。	2 時間	指導方法の要点をまとめる。	2 時間
	13	模擬授業 その2（導入から動きの指導）	指導案の作成または練習。	2 時間	指導方法の要点をまとめる。	2 時間
	14	荒馬の発表に向けての構成づくりと練習	発表に向けて練習。	2 時間	発表に向けて練習。	2 時間
	15	荒馬の発表（まとめと振り返り含む）	発表に向けて練習。	2 時間	授業のまとめをレポートに書く。	2 時間
成 績 評 価	授業での取り組み 40%、模擬授業 30%、グループワーク・グループ討議 20%、課題・レポート 10%					
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法	授業中に踊りについての良い点、改善点を伝えていく。踊りの発表と模擬授業では、学生同士が互いに評価しフィードバックする。また教員からも同様に行う。課題レポートは授業外で返却する。					
テキストおよび 参 考 文 献	小学校学習指導要領 第9節 体育 授業時に随時配布資料					
メ ッ セ ー ジ な ど	踊りが苦手な人も得意な人も”ともに踊る”楽しさや意味を感じ取れるよう、一生懸命に取り組んでください。 小学校教諭二種免許状：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 民族舞踊である「荒馬」「ソーラン節」の踊りの歴史を学び、基本動作を修得する。	歴史について理解し、基本動作を修得し、自分なりに表現し踊ることができる。	ほぼ基本動作を修得し、前に出て踊ることができる。	多少の間違いはあるが、基本動作を覚え、踊ることができる。	部分的には踊れるが、全体を通して踊ることができない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	40%
(2) 個人練習からグループ練習、そして発表までの授業づくりの流れを理解し、構成できる。	クラス全体での発表会の構成がイメージでき、提案できる。	ペア学習、グループ学習の取り組み方がわかり、良い視点で踊りを評価できる。	ペア学習の取り組み方がわかり、自分や他者の良い点を評価することができる。	個人練習はできるが、ペア以上の取り組みができない。自分や他者の良い点を見つけることができない。	グループワーク・グループ討議 (意欲・思考力・創造性)	20%
(3) 模擬授業を行い、通して、表現運動の基本的な指導法について学習者、指導者の立場から意見を述べるができる。	動きや表現が「わかる」ための適切な言葉や指導方法を考え、指導することができる。	指導者の適切な向きがわかり、指導案を見ないで、指導内容を進めることができる。	部分的な踊りの指導案を計画することができ、大まかに指導することができる。	指導案の書き方がわからず、大まかな動きの指導ができない。	模擬授業 (知識・理解・思考力・判断力・表現力・協同性・創造性)	30%
	動きや表現が「わかる」ための適切な言葉や指導方法を考え、指導することができる。	指導者の適切な向きがわかり、指導案を見ないで、指導内容を進めることができる。	部分的な踊りの指導案を計画することができ、大まかに指導することができる。	指導案の書き方がわからず、大まかな動きの指導ができない。	課題・レポート (知識・理解・問題解決力)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
家庭 Home Economics		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS1016	1 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	選択	三時 貴久子			○
実務家教員 の詳細	小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					
概 要	小学校学習指導要領の「家庭」の目標および内容を理解する。教育実践に必要な知識と技術を習得する。全領域の教材を扱い、指導案の作成を練習し、模擬授業を体験する。模擬授業への検討・反省を通して教育実践への力を培いたい。					
到達目標	(1) 小学校家庭科の内容・指導上の留意点を分かりやすく説明できる。					
	(2) 実技指導に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。					
	(3) 模擬授業を行い、改善点を協議することができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	「家庭」の目標	指導要領解説（以下解説）5～10P を読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	2	学習指導要領（目標・内容）	解説 12～19P を読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	3	指導計画の作成・内容の取扱い	解説 71～81P を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	4	「家庭・家庭生活」の内容	解説 20～31P を読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	5	「家族・家庭生活」の指導	児童用教科書の該当ページを読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	6	食事の役割と調理の基礎	解説 34～43P を読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間

7	「食領域」の教材を使った調理実習① ・調理器具の取扱いとゆで方	児童用教科書の該当ページを読み、安全上の留意点をまとめておく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
8	「食領域」の教材を使った実践研究	児童用教科書の該当ページを読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
9	「食領域」の教材を使った調理実習② ・ごはんのみそ汁	児童用教科書の該当ページを読んで指導上の留意点をまとめておく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
10	「消・費生活と環境」の構成	解説 64～70P を読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
11	「消費生活」の基礎	児童用教科書の該当ページを読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
12	「物や金銭の使い方と買い物」の指導	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
13	「環境に配慮した生活」の指導	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
14	家族・家庭生活についての課題の設定	解説 29～31P を読み、課題の設定例を考えておく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
15	「家庭」と他教科との関連	解説 76～77P と児童用教科書の関連ページを読んでおく	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	「衣料域」の展開	解説 49～57P を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
17	「衣料域」の実技演習①	児童用教科書の該当ページを読んで安全上の留意点をまとめておく。	2 時間	授業で学んだ実技内容を再度実践する。	2 時間
18	「衣領域」の実技演習② 手縫いの基礎	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
19	「布を用いた製作」材料と手順	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
20	「布を用いた製作」ミシンの基礎	児童用教科書の該当ページを読み、ミシン操作の手順を予習しておく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
21	「布を用いた製作」袋の製作①	児童用教科書の該当ページを読み、製作上の留意点をまとめておく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間

	22	「布を用いた製作」袋の製作②	児童用教科書の該当ページを読み、作品完成までの手順をまとめておく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	23	「住領域」の内容	解説 58～63P を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	24	「快適な住まい方」の指導	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	25	「食領域」の教材を使った調理実習③ いためる調理	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	26	「食領域」の教材を使った調理実習④ じゃがいも料理	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	27	指導案の作成の手順と演習	配付資料を読んでおく。	2 時間	模擬授業の準備をする。	2 時間
	28	模擬授業の実践と改善点の討議	共通課題の指導案を作成する。	2 時間	模擬授業で学んだことと改善点をまとめる。	2 時間
	29	模擬授業の実践と改善点の討議	共通課題の指導案を作成する。	2 時間	模擬授業で学んだことと改善点をまとめる。	2 時間
	30	「食領域」と家族のだんらん	児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	家庭科授業の意義と重要性をまとめる。	2 時間
成 績 評 価		定期試験（35%）、課題・レポート（15%）、作品（35%）、指導案（8%）、授業への取り組み（7%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		評価できる点や改善点を、口頭又は文書で指導する。				
テキストおよび参考文献		小学校家庭科教科書・「小学校学習指導要領解説 家庭編」文部科学省適宜、プリントを配布する。				
メッセージなど		小学校家庭科は、誰の実生活にも役立つ基本を学びます。 小学校教諭二種免許：選択必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校家庭科の内容・指導上の留意点を分かりやすく説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	不足している部分はあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	不足している部分はあるが、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解)	15%
(2) 実技指導に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。	実習に積極的に参加し、基礎的な知識・技能を十分に身に付けている。	実習に参加し、基礎的な知識・技能を身に付けている。	基礎的な知識・技能は身に付けているが、作品製作には個別指導が必要である。	基礎的な知識・技能を十分身に付けていない。	定期試験 (知識・理解)	20%
	実習に積極的に参加し、基礎的な知識・技能を十分に身に付けている。	実習に参加し、基礎的な知識・技能を身に付けている。	基礎的な知識・技能は身に付けているが、作品製作には個別指導が必要である。	基礎的な知識・技能を十分身に付けていない。	作品 (関心・意欲・態度・技能・作品の完成度)	35%
(3) 模擬授業を行い、改善点を協議することができる。	模擬授業の指導案を書くことができ、授業後の協議で改善点を提案できる。	模擬授業の指導案を書くことができ、授業後の協議に参加できる。	模擬授業の指導案を書くことはできるが、改善点への意欲が不足している。	模擬授業の指導案を書くことができない。	指導案 (思考力・表現力・問題解決力)	8%
	模擬授業の指導案を書くことができ、授業後の協議で改善点を提案できる。	模擬授業の指導案を書くことができ、授業後の協議に参加できる。	模擬授業の指導案を書くことはできるが、改善点への意欲が不足している。	模擬授業の指導案を書くことができない。	授業への取り組み (思考力・表現力・問題解決力)	7%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
外国語 Foreign Language (English)		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS1017		1 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員
演習	2	選択	西村 浩子				
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。						○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。						○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。						○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。						○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。						○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。						○
概 要	小学校における外国語活動・外国語科の授業実践に必要な実践的な英語運用力と英語に関する背景的な知識を身に付ける。						
到達目標	(1)-1 授業実践に必要な聞く力を身に付けている。						
	(1)-2 授業実践に必要な話す力〔やり取り・発表〕を身に付けている。						
	(1)-3 授業実践に必要な読む力を身に付けている。						
	(1)-4 授業実践に必要な書く力を身に付けている。						
	(2)-1 英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）について理解している。						
	(2)-2 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。						
	(2)-3 児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について理解している。						
授業内容 と 進め方	(2)-4 異文化理解に関する事柄について理解している。						
	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。						
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間	
	1	オリエンテーション、シラバスを参照し、評価方法などを確認する。小学校における外国語活動・外国語科とはどのような内容か。外国語教育教科化の経緯と目的・理念など、これまでの歴史的背景も含めて学ぶ。	“Let’s Try! 1” Unit1 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間	
	2	授業実践に必要な、聞く、話す、読む、書く力とはどのようなものなのか。またどのように身につけるのか、今後の授業展開と見比べながら知る。	“Let’s Try! 1” Unit 2 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間	
3	英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法）の基本を知る。また、今後の授業内容と照らし合わせながら、どの内容がどの学習内容に対応するのかの説明を聞き本講義を通じて基本的な事柄をどのように身につけるかイメージできるようになる。	“Let’s Try! 1” Unit3 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間		

4	第二言語習得理論に触れながら、第二言語の発達を学び、コミュニケーション(やりとりによる学習)の大切さを知る。	"Let's Try! 1" Unit4 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
5	教材研究① Let's Try! 1 大文字の指導、文字の名称を正しく発音できるようにする。文字には音があることを知る(フォニックス)。	"Let's Try! 1" Unit6 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
6	小学校における外国語指導助手とのチーム・ティーチングについて理解する。クラスルームイングリッシュを知る。	"Let's Try! 2" Unit1 を読んでくる	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
7	外国語の授業で活用できる指導方法と指導技術について学ぶ。児童の発達段階と学習段階に合った望ましい指導について考える。	"Let's Try! 2" Unit3 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
8	英語の歌・チャンツの必要性和その指導について学ぶ。授業でどのような活動ができるか考える。	"Let's Try! 2" Unit4 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
9	教材や教具の選定・活用法を学ぶ。小学校のクラスサイズ、また児童の発達段階を踏まえた教材や教具を考える。 教材研究② Let's Try! 2 既習事項や学習時期を考慮してどのような指導ができるか考える。	"Let's Try! 2" Unit5 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
10	英語の絵本を使った指導とその目的を学ぶ。異文化の指導と理解について知る。	絵本を探して内容を研究、授業に持参する。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
11	学習指導案の構成と作成について学び、模擬授業の準備をする。	Let's Try! 1 のうち授業で取り上げていない Unit に目を通してくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。模擬授業準備。	1 時間
12	外国語活動模擬授業①とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業準備	1 時間	模擬授業準備とふり返り。文法や表現を復習する。	1 時間
13	外国語活動模擬授業①とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業準備	1 時間	模擬授業準備とふり返り。文法や表現を復習する。	1 時間
14	外国語活動模擬授業②とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業準備	1 時間	模擬授業準備とふり返り。文法や表現を復習する。	1 時間
15	外国語活動模擬授業②とふり返り 模擬授業を行い、ピア評価し協議する。 学期の総復習。	模擬授業準備	1 時間	文法や表現を復習する。模擬授業と学期で学んだことのふり返り。	1 時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	既習事項のふり返りとシラバス・評価方法・授業の進め方などを再確認する。小・中・高の外国語教育における小学校英語の役割について考える。	Here We Go! 6 Let's Start 1 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
17	発達心理学と学習者要因について学ぶ。	Here We Go! 6 Unit 1 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
18	シラバスとテキストの構成と内容について学ぶ。他国のテキストを知る。	Here We Go! 6 Unit 2 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間

	19	指導目標、年間指導計画の立て方を具体例を参照するなどして学ぶ。	Here We Go! 6 Unit 3 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	20	4 技能習得の指導について学ぶ。文字指導について知る。	Here We Go! 6 Unit 4 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	21	児童の学齢に合った望ましい活動について知る。条件や改善点、コミュニケーション・自己表現活動について学ぶ。	Here We Go! 6 Unit 5 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	22	アクティブ・ラーニングと協働学習、学級担任による単独授業やチーム・ティーチングにおける留意点について学ぶ。	Here We Go! 6 Unit 6 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	23	評価のあり方、進め方について学ぶ。様々な評価方法について知る。	Here We Go! 6 Unit 7 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	24	授業づくりを学ぶ。事前準備、授業中、ふり返りに必要なこと、また教材研究、ALT や特別非常勤講師等の外部講師との打ち合わせの留意点を知る。	Here We Go! 6 Unit 8 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	25	外国語の授業に適した歌・チャンツ・ゲーム、絵本指導を考える。	Here We Go! 6 Unit 9 を読んでくる。	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。	1 時間
	26	外国語の模擬授業で使用する Unit を決め、各自で準備する	Here We Go 6 全体の内容を確認してくる	1 時間	授業内容の復習。文法や表現を復習する。模擬授業の準備。	1 時間
	27	外国語模擬授業①とふり返り模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業の準備。	1 時間	模擬授業の準備。文法や表現を復習する。	1 時間
	28	外国語模擬授業①とふり返り模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業の準備。	1 時間	模擬授業の準備。文法や表現を復習する。	1 時間
	29	外国語模擬授業②とふり返り模擬授業を行い、ピア評価し協議する。	模擬授業の準備。	1 時間	模擬授業の準備。文法や表現を復習する。	1 時間
	30	外国語模擬授業②とふり返り模擬授業を行い、ピア評価し協議する。学期・1 年間の学習事項の総復習	模擬授業の準備。	1 時間	文法や表現を復習する。既習事項のふり返り。	1 時間
成 績 評 価		小テスト(40%), 模擬授業 (30%), 指導案 (20%), 授業への取り組み (10%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		一人一人確認する。				
テキストおよび参考文献		『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編（平成 29 年 7 月 文部科学省）』開隆堂出版、Let's Try! 1, Let's Try! 2（児童用）、Here We Go! 6（児童用）、『新編 小学校英語教育法入門（樋口忠彦他）』研究社 ISBN 978-4-327-41098-8				
メ ッ セ ー ジ な		外国語活動・外国語は、児童が学校で始めて英語に触れる大変重要な時間・時期です。みなさんが、言語の指導に留まらず、文化や積極性、価値観、など多くのことを伝える授業ができるようになるお手伝いをしたいと思います。 小学校教諭二種免許状：必修				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 授業実践に必要な聞く力を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、聞く力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	小テスト (知識・理解・技能)	10%
	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、聞く力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
(1)-2) 授業実践に必要な話す力〔やり取り・発表〕を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、話す力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	模擬授業 (技能・表現力)	10%
	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、話す力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
(1)-3) 授業実践に必要な読む力を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、読む力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	模擬授業 (技能)	10%
(1)-4) 授業実践に必要な書く力を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、書く力を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を身に付けている。	身に付けていない。	模擬授業 (技能)	10%
(2)-1) 英語に関する基本的な事柄（音声、語彙、文構造、文法、正書法等）について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	小テスト (知識・理解・技能)	10%
	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	指導案 (知識・理解)	10%
(2)-2) 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	小テスト (知識・理解・技能)	10%
	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	指導案 (知識・理解)	10%
(2)-3) 児童文学（絵本、子供向けの歌や詩等）について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	小テスト (知識・理解・技能)	5%
(2)-4) 異文化理解に関する事柄について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解していない。	小テスト (知識・理解・技能)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
特別講義 Special Lecture		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPSL1001	1 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	中村 浩・加藤 浩久			○
実務家教員 の詳細	中学校教員としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	本講義では、今の自分に何ができるかを問い、自分自身を多角的に分析し自己理解を深めることを目的とする。また、集団討論や小論文、面接を通して、将来の教育者としての基礎的な態度を養う。さらに、他者と対話することを通して、自己を表現する技術を身につけていく。					
到達目標	(1) 現在の教育課題について基礎的な知識を説明することができる (2) 課題や他者との対話を通して、自分の意見を述べることができる (3) 課題や他者との対話に対して、主体的に取り組むことができる					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション（中村）	—		本時の内容を振り返る。	2 時間
	2	情報収集、情報整理について （中村）	資料を読む。	2 時間	時事問題を調べる。	2 時間
	3	教育に関する時事問題を紹介する （加藤）	発表資料を用意する。	2 時間	本時の内容を振り返る。	2 時間
	4	集団討論(1) 教育課題全般について①（加藤）	テーマについて調べる。	2 時間	本時の内容を振り返る。	2 時間
	5	集団討論(2) 教育課題全般について②（加藤）	テーマについて調べる。	2 時間	本時の内容を振り返る。	2 時間
	6	小論文(1) 書き方を知る （中村）	テーマについて調べる。	2 時間	もう一度書く。	2 時間
	7	小論文(2) 試作する① （中村）	テーマについて調べる。	2 時間	もう一度書く。	2 時間
	8	小論文(3) 試作する② （中村）	テーマについて調べる。	2 時間	もう一度書く。	2 時間
	9	小論文(4) 試作する③ （中村）	テーマについて調べる。	2 時間	もう一度書く。	2 時間
	10	集団討論(3) 道徳・学級活動について（加藤）	テーマについて調べる。	2 時間	本時の内容を振り返る。	2 時間
	11	集団討論(4) 教授で出題されたテーマ（加藤）	テーマについて調べる。	2 時間	本時の内容を振り返る。	2 時間
	12	自己推薦書を書く(1)（加藤）	自分について考える。	2 時間	もう一度書く。	2 時間

	13	自己推薦書を書く(2)(加藤)	自分について考える。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
	14	講義・講師＝防府市教育委員会(中村)	資料を読む。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
	15	本授業を振り返って(加藤)	自分について考える。	2時間	本時の内容を振り返る。	2時間
成績評価		課題・レポート(20%)、グループワーク・グループ討議(20%)、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(60%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		計画書や振り返りレポートは、コメントを書いて返却する。提出物には、コメントを書いて返却する。				
テキストおよび参考文献		プリントを配布する。				
メッセージなど		主体的に学ぶ学生を求めています。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 現在の教育課題について基礎的な知識を説明することができる	テーマについて、具体例を挙げながら説明することができる。	テーマについて、基礎的な意味を間違いなく説明することができる。	テーマについて、基礎的な意味を何とか説明することができる。	テーマについて、説明することができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(知識・理解)	30%
(2) 課題や他者との対話を通して、自分の意見を述べることができる	自分の意見を十分に述べるができる。	自分の意見を概ね述べるができる。	自分の意見を何とか述べるができる。	自分の意見を述べるができない。	課題・レポート(思考力・判断力・表現力)	20%
	相手の意見を受け止め、自分の意見を十分に述べるができる。	相手の意見を受け止め、自分の意見を概ね述べることができる。	相手の意見を受け止め、自分の意見を何とか述べることができる。	自分の意見を述べるができない。	グループワーク・グループ討議(思考力・判断力・表現力・協働性)	20%
(3) 課題や他者との対話に対して、主体的に取り組むことができる	主体的に取り組むことができる。	概ね主体的に取り組むことができる。	最低限、課題に主体的に取り組むことができる。	主体的に取り組むことができない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・態度)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
卒業研究 Graduation Research		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPGR2001	2 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	必修	中村 浩・加藤 浩久			
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	子どもの教育に関する研究課題を自ら見つけ、その課題を解決するための方法を決定する。調査した結果をまとめ、検討する。さらに、今後の課題を見つけて出す。その成果を卒業研究・保育総合研究発表会で、展示もしくは舞台上で発表する。最後に、報告集にまとめる。					
到達目標	(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。					
	(2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。					
	(3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。					
	(4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。					
授業内容 と 進め方	授業内容					
	令和4年度は、下記のようなテーマで研究が行われた ① 教育実習の授業を振り返って ② 各地の初等英語教育の取り組み ③ レジ袋を取る理由を探るー小学校における環境教育の効果についてー ④ 子どもが元気になる由はこれだ！ ー児童の活動場面におけるもっとも効果的な校内音楽放送とはー ⑤ いじめ早期発見のチェックリストを通した自己理解					
成 績 評 価	課題・レポート（20%）、授業への取り組み（50%）、発表・プレゼンテーション（10%）、その他（20%）					
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法	研究活動の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。 レポートや発表は、ルーブリック評価の結果を渡す。					
テキストおよび 参 考 文 献	必要に応じて自分自身で選択、購入すること					
メ ッ セ ー ジ な	2年間で学んだことの集大成となるよう取り組んで欲しいと思います。					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 適切なテーマを決め、研究計画が作成できる。	何を明らかにしたいか、何を表現したいかという研究の目的を明確にし、研究方法を適切に選択できる。研究計画書に必要な内容を記載できる。	テーマを設定し、研究計画書に必要な内容をほぼ記載することができる。	テーマは設定したが、研究計画書の記載には不足している点が認められる。	テーマが設定できず、研究計画書の提出がない。	課題・レポート (知識・理解)	20%
(2) 各自のテーマに沿った内容で、研究活動を深めていくことができる。	意欲を持ち、自ら考え、工夫し、指導教員からの助言・指導を受け入れて、研究を深めることができる。	ほぼ主体的に研究活動に取り組み、指導や助言を受け入れて研究を進めることができる。	研究活動に取り組む意欲はみられるが、自分で進めていこうとする力に欠けるところがある。	研究活動に取り組む姿勢がみられない。	授業への取り組み (意欲・思考力・表現力・創造性・協働性)	50%
(3) 研究の内容を、他者にわかるように発表することができる。	研究の成果を他者にわかりやすい方法で完璧に表現することができる。	ほぼ、わかりやすい方法で表現することができる。	わかりやすく表現するための工夫がやや不足している。	研究の成果を発表会で発表していない。	発表・プレゼンテーション (表現力)	10%
(4) 各自が発表した内容を原稿として文章にまとめることができる。	研究の成果を適切に文章にまとめることができる。	書式に従い、ほぼ必要な内容を文章に記述することができる。	誤字、脱字があり、記述内容が不明瞭であり、指導教員からの助言・指導を受ければ、報告集を提出できる。	報告集原稿提出なし。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
現代教師論 Teaching Modern Teachers		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPBE1001	1 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	必修	中村 浩			○
実務家教員 の詳細	教育委員会指導主事としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	国民の大きな負託の中で営まれる学校教育の社会的意義を認識するとともに、その担い手としての教職の意義・役割・職務内容、教育をとりまく現況や今日的課題などを明確に理解することを通して、教員に求められる基礎的な資質能力を身に付け、教職をめざす者としての確固たる覚悟を培う。					
到達目標	(1)-1 学校教育の目的とその担い手である教職の存在意義を説明できる。 (1)-2 教職の制度上の身分、専門職としての教員免許制度を自分の問題として説明できる。 (2)-1 教職の勤務実態を調べ、他の職業と比較した職業的特殊性を説明できる。 (2)-2 学校の担う役割が複雑化・多様化する中で、いわゆる「チーム学校」という組織の一員としての在り方を具体的にイメージできる。 (3)-1 専門職としての身分保障、職務遂行の義務を踏まえて、生涯にわたって「学び続ける教師」であるための研修の全体像、権利と義務を具体的に説明できる。 (3)-2 求められる教師像について考察し、めざす教師像を述べることができる。 (3)-3 教育をとりまく今日的な諸課題を把握し、対応の仕方について具体的に述べることができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション —現代教師論でなにを学ぶか—	シラバスを通して、 現代教師論での学び のイメージを持つ。	1 時間	授業を受けて自分 なりの教師論につ いて考える	
	2	教員の身分① —法的な身分、資格、免許状・ 免許更新制—	テキスト 3 ページか ら 13 ページまで読 む。	1 時間	法令問題等のプリ ントで復習する。	1 時間
	3	目指す教師像① —子どもたちにどう向き合うか —	テキスト 26 ページ から 34 ページまで 読む。	1 時間	子どもに向き合う ために自分に足り ないものは何かま とめる。	1 時間
	4	目指す教師像② —演習「わたしの出会った先 生」—	テキスト 18 ページ 「好きだった先生嫌 いだった先生」につ いて考えをまとめて くる。	1 時間	仲間の意見を振り 返り自分の経験と 比べる。	1 時間

	5	目指す教師像③ —求められる教師像・教師力—	採用試験を受ける県の「求める教師像」を調べる。	1 時間	「求める教師像」に近づくための戦略を整理する。	1 時間
	6	目指す教師像④ —教師観の確立のために—	テキスト 165 ページから 180 ページまで読む。	1 時間	どのような教師を目指すか、考えを整理する。	2 時間
	7	教師の職務① —勤務実態と教職の特殊性、教員の多忙—	「1 日の教師の仕事」について想像し、メモしてくる。	1 時間	教師の多忙感について考えをまとめる。	1 時間
	8	教師の職務② —「チーム学校」の一員・組織における役割—	テキスト 141 ページから 159 ページまで読む。	1 時間	「チーム学校」について考えをまとめる。	1 時間
	9	教育をとりまく現状と課題① —不易の課題と流行の課題—	教育をとりまく問題について考え、メモしてくる。	1 時間	教育をとりまく多くの問題について分類し整理する。	2 時間
	10	教育をとりまく現状と課題② —演習「課題に対応する力」1—	テキスト 185 ページから 218 ページまで読む。	2 時間	自分が関心のある課題について、発表に向けた戦略を考える。	2 時間
	11	教育をとりまく現状と課題③ —演習「課題に対応する力」2—	自分が関心のある課題について、発表に向けた戦略を考える。	2 時間	課題への対応について、書物やインターネット等で調べる。	2 時間
	12	教育をとりまく現状と課題④ —演習「課題に対応する力」3—	よりよい発表ができるように準備する。	2 時間	発表会を通して不足の部分や良さを整理する。	2 時間
	13	教員の身分② —教員の任免—	テキスト 91 ページから 105 ページまで読む。	1 時間	法令問題等のプリントで復習する。	1 時間
	14	教員の身分③ —研修・サービス—	テキスト 91 ページから 105 ページまで読む。	1 時間	法令問題等のプリントで復習する。	1 時間
	15	まとめ —教師をめざして—	現代教師論を終えるにあたって、今思うことを書いてくる。	1 時間	自己評価をもとに、今後の在り方について、考えをまとめる。	2 時間
成 績 評 価		定期試験（50%）、課題・レポート（50%）				
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法		授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。				
テキストおよび 参 考 文 献		テキスト：『現代の教師論 ミネルバ書房 佐久間重紀・佐伯胖（編書）』 資料プリントはその都度配布				
メ ッ セ ー ジ な		「教師とはなにか」という原点に立ち、教職を目指す上での皆さん自身の課題の解明を中心に、「主体的で、対話的な、深い学び」を通して、自分の中にめざす教師像を創りあげていってほしいと願っています。 小学校教諭二種免許状：必修				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 学校教育の目的とその担い手である教職の存在意義を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-2) 教職の制度上の身分、専門職としての教員免許制度を自分の問題として説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(2)-1) 教職の勤務実態を調べ、他の職業と比較した職業的特殊性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)-2) 学校の担う役割が複雑化・多様化する中で、いわゆる「チーム学校」という組織の一員としての在り方を具体的にイメージできる。	ほぼ完璧にイメージできる。	認識に大きな間違いがなく、具体的にイメージできる。	認識の間違いはいくつかあるが、イメージできる。	イメージができていない。	課題・レポート (関心・意欲・態度・思考力・表現力)	10%
(3)-1) 専門職としての身分保障、職務遂行の義務を踏まえて、生涯にわたって「学び続ける教師」であるための研修の全体像、権利と義務を具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(3)-2) 求められる教師像について考察し、めざす教師像を述べることができる。	ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	大きな論理的な問題もなく、自分の考えを述べている。	認識にいくつか誤りがあり、誤字・脱字もあるが、最低限の自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	20%
(3)-3) 教育をとりまく今日的な諸課題を把握し、対応の仕方について具体的に述べることができる。	ほぼ完璧に述べることができる。	大きな間違いがなく、具体的に述べることができる。	間違いはいくつかあるが、具体的に述べることができる。	具体的に述べるできていない。	課題・レポート (関心・意欲・思考力・表現力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
学校教育の制度と経営 School Education System and School Management		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPBE2002	2 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	正長 清志			
実務家教員 の詳細						
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	・教育制度論は教育実践と密接に関連しており、これを深めていくにはさまざまな学問への広い知識も求められる。それは日本国憲法や教育基本法、学校教育法など多数の法規や教育制度を通じて具体化されていくため、法規や制度はいわば教育の現場を下支えする役割を負っている。そこで、現代の教育制度に関するさまざまな状況を取り上げ、日々の学校教育の営みと教育に関する法規などがどのように関わっているのかを理解することで、教員として基礎知識を習得するとともに、教育実習をとおして実践に取り組んできたことをふり返りながら考察していく。また同時に、地域にとって学校がどういう役割を果たすべきかを、学校と地域との連携および学校安全への対応などに関わる時事的な教育問題を視野に入れながら講義を進める。					
到達目標	(1) 教育行政や教育法規の動向から、教育制度に関する基本的な用語を中心に知識を深める。 (2) 日々の学校教育の営みから教育に関する法規などと、どのように関わっているのかプレゼンテーションをする。 (3) 現在の教育制度に関する具体的な改善案を自らの学習からふり返り、適切な改善が考察できる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	社会の状況が学校に及ぼす影響		2 時間	課題レポート	2 時間
	2	子どもを取り巻く生活環境の変化とこれに応じた教育政策の動向	第 1 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	3	日本の学校制度・教育制度をめぐる課題、海外の教育政策	第 2 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	4	教育行政と教育関連法規	第 3 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	5	学校組織のマネジメントー学校評価ガイドラインを基にー	第 4 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	6	学級経営の基本・学級経営のあり方と課題	第 5 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	7	教職員や学校外の関係者との協働と今日的課題ーよりよい学校経営を目指してー	第 6 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	8	地域学校協働活動の推進に関する社会教育法の改正	第 7 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	9	地域学校協働活動とコミュニティ・スクール	第 8 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間

	10	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の理念・役割	第 9 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	11	学校の管理下で発生する事故や自然災害の実情、学校安全のめざすべき姿・学校安全の目標	第 10 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	12	地域ぐるみの学校安全体制整備の実践事例	第 11 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	13	学校保健安全法に基づく学校安全の推進に関する計画、学校安全計画及び危機管理マニュアルの策定	第 12 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	14	危機管理と安全教育の取り組み事例、教育委員会とスクールカウンセラーが協働した緊急支援の事例をもとに	第 13 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
	15	「地域連携教育と学校安全」に関する現代的課題への対応	第 14 回の配付資料を読む	2 時間	課題レポート	2 時間
成 績 評 価		定期試験（70%）、課題・レポート（20%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（10%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		履修上の注意事項として、テキストを持参し、配付した資料を各自のファイルに整理し課題をふり返し、提出に備えてください。課題のフィードバックについては課題レポート提出後に解説を行います。質問は授業内で対応します。				
テキストおよび参考文献		【テキスト】篠原清昭編著(2018)『教育の社会・制度と経営』ジダイ社 その他参考文献を提示するとともに、適宜資料を配付します。オープン教材等を活用し、授業、授業後の振り返り、予習・復習に役立ててることがあります。 【持参物】 記録ファイル				
メ ッ セ ー ジ な		学校は、知識や技術の習得のみならず、友達や教員など同世代・異世代の多様な人々との出会いを通じて、子どもたちに豊かな成長を保障する場でもあるのです。ですから、教育実践としての教育実習をとおして実践に取り組んできたことをふり返しながらか、積極的に自分の意見を発表しながら考察していきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 現在の教育制度に関する具体的な改善案を自らの学習から振り返り、適切な改善が考察できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（関心・意欲・知識・理解）	10%
(2) 教育行政や教育法規の動向から、教育制度に関する基本的な用語を中心に知識を深める。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解）	70%
(3) 日々の学校教育の営みから教育に関する法規などと、どのように関わっているのかプレゼンテーションをする。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（思考力・判断力・表現力）	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
教育原論 Principles of Education		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPBE1003	1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	必修	中村 浩			○
実務家教員 の詳細	教育委員会指導主事としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	教育の基本的概念や教育の理念について学び、教育を成り立たせている諸要因とそれら相互の関係を理解する。また、教育の歴史、思想や制度等を学び、これまでの教育及び学校の営みがどのように変遷してきたのかを理解し、学校を取り巻く今日的な教育課題について自分の考えや意見を述べることができる教師としての資質・能力を養う。					
到達目標	(1)-1 教育原論とは何かが説明できる。 (1)-2 パスカルの言葉をもとに、教育とは何かについて説明できる。 (1)-3 現代の学校・園制度ができた理由を、歴史的背景を踏まえて説明できる。 (1)-4 教育方法の先人たちについて、その特色の概要を説明できる。 (2)-1 古代から現代にいたる日本の教育の歴史を、時代ごとの特色を踏まえて説明できる。 (2)-2 日本の教育の基本的なスタンスについて、学校教育法や教育基本法から説明できる。 (2)-3 学校・園経営や学級経営の重要性を、具体的な事例をもとに説明できる。 (2)-4 生徒指導や学習指導や保育活動について、その概要や考え方の基本を説明できる。 (2)-5 教育評価について、それぞれの考え方の違いや評価方法について説明できる。 (2)-6 社会教育や家庭教育について、その概要や考え方の基本を説明できる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「教育原論とは何か」が明確になる。	「教育は、何のためにあるのか」の資料を読む。	2 時間	教育原論の概要について、内容をまとめる。	2 時間
	2	パスカルや孔子の言葉をもとに「教育とは何か」を考える。	「教育とは何か」の資料を読む。	2 時間	カントや孔子の教育に関する考えについて、内容をまとめる。	2 時間
	3	古代から現代までの教育の歴史を「学校・園はどのようにしてきたのか」の視点で探ることで理解する。	教育の歴史(欧米)の資料を読む。	2 時間	欧米の教育の歴史の概要について、内容をまとめる。	2 時間

	4	ソクラテスからデューイまで「教育の先人たち」の概要を学ぶことで、教育方法の歴史を理解する。	教育方法の歴史(欧米)の資料を読む。	2 時間	教育方法の歴史(欧米)の概要について、内容をまとめる。	2 時間
	5	古代から現代の教育基本法に至る「日本の教育」の歴史の概要を学ぶことで、日本の教育の目的を理解する。	日本の教育の歴史の資料を読む。	2 時間	日本の教育の歴史の概要をまとめる。	2 時間
	6	日本の学校教育・幼児教育の法的根拠を、演習問題を解くことで理解する。	学校教育と法規の資料を読む。	2 時間	学校教育に関する諸法規についてまとめる。	2 時間
	7	学校・園制度のあり方について、日本とドイツの違いから考察する。文部科学省と教育委員会、学校・園の関係を理解する。	学校制度と教育行政の資料を読む。	2 時間	学校制度のあり方について、内容をまとめる。	2 時間
	8	学校・園の責任者としての校長・園長の視点を通して、学校・園経営の仕組みや運営のあり方について理解する。	学校経営の資料を読む。	2 時間	学校経営のしくみや学校運営について、内容をまとめる。	2 時間
	9	学級担任になったつもりで「安心安全でいじめのない学級づくり」について、グループ学習で考えをまとめる。	学級経営の資料を読む。	2 時間	いじめのない学級づくりについて考え、内容をまとめる。	2 時間
	10	グループ学習での成果を発表し合うことで、担任としてもつべき「学級経営の基本的な構えと手だて」について理解する。	子どもの学級力の育成の資料を読む。	2 時間	学級経営の基本についてまとめる。	2 時間
	11	生徒指導の原理と方法について生徒指導提要をもとに学び、「生徒指導とは何か」について理解する。	生徒指導提要を読む。	2 時間	生徒指導とは何かについてまとめる。	2 時間
	12	学習指導や保育指導の原理と方法について具体的な授業例から学び、「授業とは何か」について理解する。	授業研究の資料を読む。	2 時間	授業づくりの基本について、内容をまとめる。	2 時間
	13	教育評価にまつわる基礎知識を学び、絶対評価と相対評価の考え方の違いやPDCAの意味について理解する。	教育評価の資料を読む。	2 時間	教育評価の基本についてまとめる。	2 時間
	14	教育の原点としての家庭教育のあり方について、具体的な事例をもとに考える。	家庭教育のあり方の資料を読む。	2 時間	家庭教育のあり方について、自分のことにはめて考え、内容をまとめる。	2 時間
	15	社会教育についての考え方の変遷について学び、生涯学習時代を生き抜く知恵について考える。	社会教育の資料を読む。	2 時間	社会教育についての基本をまとめる。	2 時間
成績評価	定期試験 (50%)、授業への取り組み (50%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。					
テキストおよび参考文献	テキスト：『やさしい教育原理』有斐閣アルマ 参考文献：『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月 文部科学省）』東洋館出版、『幼稚園教育要領解説（平成 30 年 3 月 文部科学省）』フレーベル館 『問いからはじめる教育学』有斐閣ストゥディア					

メッセー ジ な ど	教育の根本的な理論について、その概要を学ぶ。授業 教育の未来について、考える楽しみを味わいながら、理解を深める授業 小学校教諭二種免許状：必修
---------------------	---

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1)-1) 教育原論とは何かの説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(1)-2) パスカルの言葉をもとに、教育とは何かについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(1)-3) 現代の学校制度や幼児教育制度ができた理由を、歴史的背景を踏まえて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(1)-4) 教育方法の先人たちについて、その特色の概要を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-1) 古代から現代にいたる日本の教育の歴史を、時代ごとの特色を踏まえて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%

	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-2) 日本の教育の基本的なスタンスについて、学校教育法や教育基本法の条文から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-3) 学校・園の経営や学級経営の重要性を、具体的な事例をもとに説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	8%
(2)-4) 生徒指導・学習指導・保育活動について、その概要や考え方の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-5) 教育評価について、それぞれの考え方の違いや評価方法について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-6) 社会教育や家庭教育について、その概要や連携について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
教育心理学 Educational Psychology		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPBE1004	1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	必修	田中 佑弥			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関 係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	心理学の中でも教育分野に関連する内容を学ぶ。 さまざまな事象・問題を心理学的視点から考える。					
到達目標	(1)教育心理学の理論および基礎知識について説明できる。 (2)教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について、説明できる。 (3)現代社会における教育上の問題について心理学的観点から理解し説明できる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	教育心理学とは何か概要を知る	-		配布資料の内容をまとめる。	2 時間
	2	教育心理学の歴史を理解する	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	3	学習理論について理解する	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	4	動機づけの種類と重要性を理解する	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	5	教育と発達（レディネス）について理解する	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	6	学習方法について学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	7	記憶のメカニズムについて学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	8	教師と児童、保育者と幼児の関係性を学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	9	乳幼児期から学童期の発達特徴と課題を学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間

	10	幼児・児童の評価方法を学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
	11	基本的な統計法を学び評価を実践する	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
	12	教育現場でのカウンセリング的かかわりについて学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
	13	教育現場で起こる様々な問題（不登校・いじめ）について学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
	14	教育現場で起こる様々な問題への対応について学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
	15	特別な支援が必要な幼児・児童への対応を学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
成 績 評 価		定期試験（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		試験はルーブリック評価に基づき結果を示す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：中澤 潤 編著 よくわかる教育心理学 ミネルヴァ書房 参考図書 『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）』東洋館出版 『幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）』 『幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）』『保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）』				
メッセージなど		教育や子どもたちの抱える問題を心理学的視点から把握する力を身につけて理解を深めていきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修，ピアヘルパー受験資格：必修				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)教育心理学の理論および基礎知識について説明できる。	教育心理学の理論や基礎知識について十分に説明することができる。	教育心理学の理論や基礎知識について概ね説明することができる。	教育心理学の理論や基礎知識について最低限の説明ができる。	教育心理学の理論や基礎知識について説明することができない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	20%
	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	20%
(2)教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について、説明できる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について十分に説明することができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について概ね説明することができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について最低限の説明ができる。	教育場面での応用、実践的な対応方法、評価方法について説明することができない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	15%
	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	15%
(3)現代社会における教育上の問題について心理学的観点から理解し説明できる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から十分に説明することができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から概ね説明することができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から最低限の説明ができる。	現代社会における教育上の問題について心理学的観点から説明することができない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	15%
	内容について、自分の意見をもち、それを十分に表現することができる。	内容について、自分の意見をもち、それを概ね表現することができる。	内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別					
児童心理学 Child Psychology		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPBE1005		2 年次		前期					
講義・演習・実技・ 実習・実験		単位数		卒業 認定		担 当 教 員				実務家 教員			
講義		2		選択		田中 佑弥							
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。									○			
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。												
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。												
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。												
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。									○			
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。									○			
概 要		児童期における児童の心身の発達、発達課題について学ぶ。発達の連続性、幼児期からの継続、青年期への移り変わりについて理解する。児童の子どもの心の、問題、関わりの基礎について学ぶ。											
到達目標		(1)児童の心身の発達の課程および特徴を理解する。 (2)児童の学習の基本的知識を身につけ、発達を踏まえた上での関わりについて学ぶ。											
授業内容 と 進め方		回		授業内容		予習内容		予習 時間		復習内容		復習 時間	
		1		児童心理学とは何かその特徴を理解する						本時の内容をまとめる。		2 時間	
		2		乳幼児期の発達を理解する		キーワードから印象を書く。		2 時間		テキストの該当箇所を読む。		2 時間	
		3		児童の身体的発達について理解する		キーワードから印象を書く。		2 時間		テキストの該当箇所を読む。		2 時間	
		4		現代の児童の生活特徴を理解する		キーワードから印象を書く。		2 時間		テキストの該当箇所を読む。		2 時間	
		5		児童期の運動機能の発達を理解する		キーワードから印象を書く。		2 時間		テキストの該当箇所を読む。		2 時間	
		6		代表的な発達段階と児童期の位置づけを学ぶ		キーワードから印象を書く。		2 時間		テキストの該当箇所を読む。		2 時間	
		7		言語・思考の発達について学ぶ		キーワードから印象を書く。		2 時間		テキストの該当箇所を読む。		2 時間	
		8		認知の特徴を理解する		キーワードから印象を書く。		2 時間		テキストの該当箇所を読む。		2 時間	
		9		自己・自我の発達を理解する		キーワードから印象を書く。		2 時間		テキストの該当箇所を読む。		2 時間	
		10		仲間関係と集団行動（遊びの発達）を学ぶ		キーワードから印象を書く。		2 時間		テキストの該当箇所を読む。		2 時間	
		11		学校生活と児童の発達の関連を知る		キーワードから印象を書く。		2 時間		テキストの該当箇所を読む。		2 時間	
		12		学年ごとの発達の違いを知る（低学年を中心に）		キーワードから印象を書く。		2 時間		テキストの該当箇所を読む。		2 時間	
		13		学年ごとの発達の違いを知る（高学年を中心に）		キーワードから印象を書く。		2 時間		テキストの該当箇所を読む。		2 時間	

	14	青年期への接続について学ぶ	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間
	15	児童を取り巻く環境の変化と子どもの変化について考える	キーワードから印象を書く。	2 時間	テキストの該当箇所を読む。	2 時間
成 績 評 価	定期試験 (50%)、授業への取り組み (50%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	課題はコメントを書いて返却する。 定期試験はルーブリック評価に基づいて結果を示す。					
テキストおよび参考文献	プリントを配布する。 購入図書は第1回オリエンテーションにてお伝えします。 ピアヘルパーの受験希望者は、日本教育カウンセラー協会が出版しているハンドブックとワークブックの購入が必要です。					
メ ッ セ ー ジ な	児童期の子どもの心身面の発達特徴を知るとともに、生涯における児童期の重要性を眺めていきましょう。 小学校教諭二種免許状：選択科目、ピアヘルパー受験資格：必修					

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)児童の心身の発達の課程および特徴を理解する。	児童の心身の発達の課程および特徴について十分に説明することができる。	児童の心身の発達の課程および特徴について概ね説明することができる。	児童の心身の発達の課程および特徴について最低限の説明はできる。	児童の心身の発達の課程および特徴について説明することができない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	25%
	これまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを十分に述べることができる。	これまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを概ね述べることができる。	これまでの経験や知識と関連づけているが、自分の考えを述べることが不十分である。	これまでの経験や知識と関連づけることができず、自分の考えを十分に述べることができない。	授業への取り組み (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	25%
(2)児童の学習の基本的知識を身につけ、発達を踏まえた上での関わりについて学ぶ。	児童の学習の基本的知識を身につけ、発達を踏まえた上での関わりについて十分に説明することができる。	児童の学習の基本的知識を身につけ、発達を踏まえた上での関わりについて概ね説明することができる。	児童の学習の基本的知識を身につけ、発達を踏まえた上での関わりについて最低限の説明をすることができる。	児童の学習の基本的知識を身につけ、発達を踏まえた上での関わりについて説明することができない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	25%
	これまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを十分に述べることができる。	これまでの経験や知識と関連づけて、自分の考えを概ね述べることができる。	これまでの経験や知識と関連づけているが、自分の考えを述べることが不十分である。	これまでの経験や知識と関連づけることができず、自分の考えを十分に述べることができない。	授業への取り組み (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	25%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
初等教育課程論 Lecture on Curriculum Theory		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPBE1006	1 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	加藤 浩久			○
実務家教員 の詳細	教育委員会指導主事としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関 係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	教育課程の原理及び教育課程の編成と管理について学び、学校における教育指導計画の価値がわかり、その作成方法について理解する。小学校教育を法的根拠や学習指導要領からとらえるとともに、教育課程編成をめぐる今日的な教育課題についての認識を深める。					
到達目標	(1)-1) 初等教育課程論とは何かが説明できる。					
	(1)-2) 教育課程の意義を3つの観点から説明できる。					
	(1)-3) 教育課程編成にかかわって、学校教育目標の大切さを説明できる。					
	(1)-4) 教育課程編成にかかわって、指導内容の組織化の意味を説明できる。					
	(2)-1) 教育課程にかかわる法令について、その主な内容を説明できる。					
	(2)-2) 戦後の学習指導要領の変遷史について、各時代の特色を簡潔に説明できる。					
	(2)-3) 現在の生きる力を育む教育になった理由を、歴史的社会的背景を踏まえて説明できる。					
	(2)-4) 今日的な課題である学力向上・特別支援教育・生徒指導について、その概要を説明できる。					
	(3)-1) 学力向上プランについて、自分の考えを述べることができる。					
	(3)-2) 生徒指導の演習問題に、的確に迅速に自分の意見を述べることができる。					
	(3)-3) 実習校の教育指導計画について調べ、発表資料と原稿を作成できる。					
	(3)-4) 各実習校の発表をもとに、互いに適切な質疑応答ができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	教育課程をめぐる様々な問題の中でも学力との関係について理解する。	学習指導要領の総則編を読む。	2 時間	改訂の主旨について振り返る。	2 時間
	2	教育課程の基準、編成及び実施の概要について理解する。	学習指導要領の総則編を読む。	2 時間	教育課程編成の法的根拠について確認する。	2 時間
	3	教育課程を通して育成すべき資質・能力について理解する。	学習指導要領の総則編を読む。	2 時間	知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう人間性等	2 時間

	4	教育課程における道徳教育の位置づけについて理解する。	学習指導要領の総則編を読む。	2時間	道徳科の内容項目教科における道徳教育の在り方を振り返る。	2時間
	5	経験主義からの影響を受けた戦後最初の教育課程について理解する。	「第2章の1」を読む。	2時間	社会科、家庭科、自由研究について振り返る。	2時間
	6	経験主義から系統性重視への転換について理解する。	「第2章の2」を読む。	2時間	特設道徳や学力論争について振り返る。	2時間
	7	系統性重視から教育の現代化への転換について理解する。	「第2章の3」を読む。	2時間	学力テストと能力論争、教育内容の精選について振り返る。	2時間
	8	教育の現代化から人間性重視への転換について理解する。	「第2章の4」を読む。	2時間	基準の大綱化とゆとり、知・徳・体の調和について振り返る。	2時間
	9	人間性重視から新しい学力観の追求への転換について理解する。	「第2章の5」を読む。	2時間	新しい学力観、選択教科について振り返る。	2時間
	10	新しい学力観から「確かな学力」への転換について理解する。	「第2章の6」を読む。	2時間	総合的な学習の時間や選択幅の拡大について振り返る。	2時間
	11	確かな学力から活用能力への転換について理解する。	「第2章の7」を読む。	2時間	活用能力重視、国際水準のリテラシーについて振り返る。	2時間
	12	活用能力から主体的・対話的で深い学びへの転換について理解する。	「第2章の8」を読む。	2時間	キーコンピテンシーと資質・能力の三つの柱について振り返る。	2時間
	13	主体的・対話的で深い学びとカリキュラム・マネジメントとの関係について理解する。	総則編を読む。	2時間	授業の重要性について振り返る。	2時間
	14	諸外国の教育課程改革の動きから日本の教育課程について理解する。	「第9章」を読む。	2時間	「優秀性」を求める改革、資格試験等を振り返る。	2時間
	15	具体例を基に、教育課程の今日的課題について理解する。	「第8章」を読む。	2時間	市民性、環境教育について振り返る。	2時間
成 績 評 価		定期試験（28%）、授業への取り組み（32%）、グループワーク・グループ討議（40%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：『新しい時代の教育課程』有斐閣アルマ 参考文献：『小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）』東洋館出版				
メッセージなど		小学校教育について、教育課程の編成（指導計画の作成）の観点から、基本的なことを学ぶ授業 小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 初等教育課程論とは何かが説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(1)-2) 教育課程の意義を3つの観点から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(1)-3) 教育課程編成にかかわって、学校教育目標の大切さを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(1)-4) 教育課程編成にかかわって、指導内容の組織化の意味を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(2)-1) 教育課程にかかわる法令について、その主要内容を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%

(2)-2 戦後の学習指導要領の変遷史について、各時代の特色を簡潔に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-3 現在の生きる力を育む教育になった理由を、歴史的社会的背景を踏まえて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-4 今日の課題である学力向上・特別支援教育・生徒指導について、その概要を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(3)-1 学力向上プランについて、自分の考えを述べることができる。	様々な角度から述べることができる。	いくつかの角度から述べるができる。	1つ以上述べるができる。	述べるできない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力・表現力)	5%
(3)-2 生徒指導の演習問題に、的確に迅速に自分の意見を述べるができる。	ほぼ完璧に述べるができる。	大きな間違いがなく、基本を述べることができる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を述べることができる。	述べるできない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力・表現力)	5%
(3)-3 実習校の教育指導計画について調べ、発表資料と原稿を作成できる。	ほぼ完璧に作成できる。	大きな誤りがなく、基本をおさえて作成できる。	最低限の基本を踏まえて作成できる。	作成できない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力・表現力)	20%
(3)-4 各実習校の発表をもとに、互いに適切な質疑応答ができる。	質問も応答もほぼ完璧にできる。	質問はできないが、応答はきちんとできる。	基本的な対応はできるが、さらなる努力を要する。	質疑応答ができない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力・表現力)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
国語科指導法 Teaching Methods of Japanese Language		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2018	2 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	必修	中村 浩			○
実務家教員 の詳細	中学校国語科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	授業を実践に際しての指導事項との関連を踏まえた教材分析上の観点を学ぶ。 典型的な教材を例に、教材の構造と内容の把握、精査と解釈について実践的に学ぶ。 〔知識及び技能〕と〔思考力、判断力、表現力等〕の二つの柱を意識して授業を設計する。 「言語による見方・考え方」を念頭に置いた授業実践のあり方を、ICTを適宜活用しながら、具体的な方法として身に付ける。					
到達目標	(1)-1 教材に対する学習者の初発の捉え方を分類・考察することができる。 (1)-2 学習者の初発の感想を基に、教材の中核に迫る「問い」を予測することができる。 (1)-3 学習者相互の対話を成立させる教材のキーワードを捉えることができる。 (1)-4 授業の流れを「板書計画」という形で構想することができる。 (2)-1 対象をどういう言葉で表現しているかで教材の特質を説明できる。 (2)-2 話し手や作者・筆者がなぜそのような表現をしているのかその意図が説明できる。 (2)-3 伏線やオノマトペ等の表現技法で登場人物のどういう状況を表しているか説明できる。 (2)-4 文章の論展開のためにどういう工夫をしているか表現の仕方を基に説明できる。 (3)-1 「導入部」における「問い」を学習者に意味づけできる。 (3)-2 「展開部」における「対話」が成立するための条件を整えることができる。 (3)-3 授業全体の学習の流れが学習者に理解できる「板書」を作成することができる。 (3)-4 学習過程での「形成的評価」で様々な手立てを工夫することができる。 (3)-5 「終末部」における「授業評価（自己評価）」を具体的に講じることができる。 (4)-1 どの言葉（表現）で話や文章が理解できたとしているかを掴むことができる。 (4)-2 話や文章の中で言葉の価値に気付いた発言をしているかを掴むことができる。 (4)-3 既習の言葉に新たな意味を見出した発言をしているかを見定めることができる。 (4)-4 「振り返り」の中でだれの言葉で考えが深まったとしているかを見取ることができる。					

授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	教材研究って何？①—新見南吉「あめだま」の構造を考える。	教材文を読み、授業内容を概観する。	1 時間	「あめだま」の結末の予測ができた訳を表現に求める。	2 時間
	2	教材研究って何？②—新見南吉「あめだま」における「問いづくり」を中心にして「アクティブ・ラーニング」を体験する。	前時に書いた考えを基に予測の理由が説明できるよう準備する。	1 時間	「教材を教材として捉える」ことを整理する。	2 時間
	3	「国語」を教える意味？—国語科の目標、三つの構造を復習する。	学力の三層との関係で「目標」について考えておく。	1 時間	「学力観の変遷」と関わせ整理する。	2 時間
	4	低学年教材「お手紙」—登場人物の背負っている表現を掴む。	学習指導要領を基に「説明」について考えておく。	1 時間	教材構造図に沿って「お手紙」の特徴を整理する。	2 時間
	5	低学年教材「どうぶつの赤ちゃん」—「説明」とは何かを掴む。	学習指導要領の「指導事項のウ」を読んでおく。	1 時間	教材文中から「説明」に気付かせる発問を考える。	1 時間
	6	中学年教材「ありの行列」—キーワードで段落相互の関係を掴む。	段落相互の関係を掴むキーワードを探しておく。	2 時間	ワークシートを軸に「学習の流れ」を考える。	2 時間
	7	中学年教材「つり橋わたれ」—心情・情景の「変化」を掴む。	「変化」をキーワードに音読し、概観しておく。	2 時間	教材構造図に沿って発問を考える。	2 時間
	8	高学年教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」—「問題提起」の答え—文章全体の論理の展開の仕方を掴む。（電子黒板の活用）	「問題提示の解答はどこに」の答えとその理由を考えておく。	2 時間	内容読解に際してのキーワードを、教材構造図を基に説明できるように復習する。	2 時間
	9	高学年教材「海のいのち」—「クライマックス」の場面を見つけその根拠を語り合うことで「精査と解釈」の仕方を学ぶ。（電子黒板の活用）	「クライマックスはどこか」を考えながら音読しておく。	2 時間	電子黒板の利用法や利用場面について考えを整理する。	2 時間
	10	教材研究から学習指導案の作成へ①学習指導案のしくみを知る。	例示された学習指導案を読み特徴を掴んでおく。	1 時間	授業の三要素を踏まえ「指導案のしくみ」を整理する。	2 時間
	11	教材研究から学習指導案の作成へ②低学年教材「ニャーゴ」で教材構造図を作成する。	学習指導案づくりの対象となる「ニャーゴ」の教材研究をしておく。	2 時間	授業中に示された構造図作成の手順を基に作成する。	2 時間
	12	教材研究から学習指導案の作成へ③低学年教材「ニャーゴ」で学習指導案を作成する。	先例をヒントにして自分の学習指導案の素案を考えておく。	2 時間	授業中の班別話し合いを参考に指導案を作成する。	3 時間
	13	学習指導案の作成から授業実践へ①各自の作成した学習指導案を基にプロジェクターでプレゼンテーションを行う。	一人 10～15 分で要点発表の準備をする。	2 時間	仲間の発表や指導者の評を参考にして完成させる。	2 時間
	14	学習指導案の作成から授業実践へ②各自の作成した学習指導案をもとにプロジェクターでプレゼンテーションを行なう。	一人 10～15 分で要点発表の準備をする。	2 時間	仲間の発表や指導者の評を参考にして完成させる。	2 時間
	15	授業の総括—望ましい反応の取り上げ方の映像と各プレゼンテーションを比較し、教師による「反応喚起・反応解釈・反応組織」についてレポートする。	教師と児童との遣り取りの例を軸に、「教師の出番」について考えておく。	2 時間	最後の指導者の解説を基に「教師の出番」についてレポートを書く。	2 時間

成 績 評 価	毎回の授業の感想・振り返り（48%）、毎回の授業課題（52%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	①授業後の感想を提出させ、それへのコメントを書き、次時に返却する。 ②各自の提出した「教材構造図」「学習指導案」「授業全般の感想レポート」等を提出させ、それへのコメント・評定を示して、後日返却する。
テキストおよび参考文献	『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説 国語編（平成 29 年 7 月文部科学）』和田征文・渡邊亮太編著『教育実習の研究』山口短期大学 『平成 29 年度小学校学習指導要領ポイント総整理・国語』吉田裕久・水戸部修治東洋館出版社
メ ッ セ ー ジ な	今日的な教育課題の「アクティブ・ラーニング」を意識した授業展開。後期の教育実習に繋がる授業技術を実践的な形で学ぶ授業。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)「言葉による見方・考え方」を軸に授業を構想する要件を理解することができる。	授業を構想する要件を十分に理解することができる。	授業を構想する要件を凡そ理解することができる。	授業を構想できるが、要件を理解することが不十分である。	授業を構想する要件を理解することができない。	毎回の授業の感想・振り返り （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	12%
	授業を構想する要件を十分に理解することができる。	授業を構想する要件を凡そ理解することができる。	授業を構想できるが、要件の理解が不十分である。	授業を構想する要件を理解することができない。	毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	13%
(2)「思考力・判断力・表現力等」を育成することに繋がる教材の捉えができる。	諸能力を育成することに繋がる教材の捉えが十分できる。	諸能力を育成することを意識した教材の捉えができる。	諸能力を育成することに繋がる教材の捉え方に努めている。	諸能力を育成することに繋がる教材の捉えが十分でない。	毎回の授業の感想・振り返り （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	12%
	諸能力の育成に繋がる教材の捉えが十分できる。	諸能力の育成を意識した教材の捉えができる。	諸能力の育成に繋がる教材の捉え方に努めている。	諸能力の育成に繋がる教材の捉えが十分でない。	毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	13%
(3)「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を設計することができる。	「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を十分設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習過程を設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」に触れた学習過程を設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を設計できない。	毎回の授業の感想・振り返り （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	12%
	「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を十分設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」を意識した学習過程を設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」に触れた学習過程を設計できる。	「主体的・対話的で深い学び」実現のための学習過程を設計できない。	毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	13%
(4)「言葉による見方・考え方」が働いている学習状況を学習者の姿で捉えることができる。	「言葉による見方・考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えられる。	「言葉による見方・考え方」が働く学習状況を意識して学習者の姿で捉えられる。	「言葉による見方・考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えようとしている。	「言葉による見方・考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えることができない。	毎回の授業の感想・振り返り （関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	12%
	「言葉による見方・考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えられる。	「言葉による見方・考え方」が働く学習状況を意識して学習者の姿で捉えられる。	「言葉による見方・考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えようとしている。	「言葉による見方・考え方」が働く学習状況を学習者の姿で捉えることができない。	毎回の授業課題（関心・意欲・思考力・判断力・表現）	13%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
社会科指導法 Teaching Methods of Social Studies		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2019	2 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	加藤 浩久			○
実務家教員 の詳細	中学校社会科教員としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関 係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	社会科の教材研究、学習指導案の作成、模擬授業の実践と授業検討等を通して、公民的資質の基礎と養う社会科の I C Tを活用した「授業のつくり方」と「授業のしかた」についての基礎・基本を学ぶ。 社会科の学習指導者としての使命感と実践力を身につけて、教壇に立つ準備ができる。					
到達目標	(1)-1 社会科における教材研究の必要性を説明できる。					
	(1)-2 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、その要旨を説明できる。					
	(1)-3 教科書が主たる教材である理由と教科書の選定の仕組みを説明できる。					
	(1)-4 各社の教科書の長短所を指摘し、よりよい教科書の選定ができる。					
	(1)-5 社会科学学習指導案作成のための基礎知識を説明できる。					
	(2)-1 題材「聖徳太子の国づくり」を例に、指導内容を整理できる。					
	(2)-2 他の人の学習指導案を読んで、そのよさや問題点を指摘できる。					
	(2)-3 各自で模擬授業の教材を選択し、社会科学学習指導案を書くことができる。					
	(2)-4 授業を展開するうえで必要になる発問・資料・板書の計画を立てることができる。					
	(3)-1 自分の学習指導案をもとに 4 5 分間の模擬授業ができる。					
	(3)-2 自評・質疑応答・感想意見の手順に従って、授業検討をすることができる。					
(3)-3 授業の実践・検討を通して、教えることの厳しさと楽しさを実感する。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	社会科の目標を構造的にとらえるとともに、教材研究の価値と方法について理解する。	学習指導要領解説 社会編の目標を読む。	2 時間	社会科の目標、教材研究の価値と方法についてまとめる。	2 時間
	2	学習指導要領改訂の方向性を理解し、社会科授業の充実に向けて、3つのポイントに分けて理解する。	学習指導要領において期待される学びについての資料を読む。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

3	「主体的・対話的で深い学び」における「深い学び」の具体像を提示し、これらの学びを促進するために必要な教師力について理解する。	「主体的・対話的で深い学び」についての資料を読む。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
4	学習指導案作成のための基礎知識（学習指導案の考え方、学習指導案の書き方、社会科授業の仕組み方）について、理解する。	学習指導案の考え方、書き方、仕組み方の資料を読む。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
5	各学年の教科書を参考に自分の模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、ICT 機器を活用した資料準備を行う。	自分の模擬授業の教材選び。	2時間	自分の模擬授業の学習指導案を作成する。	2時間
6	各学年の教科書を参考に自分の模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、ICT 機器を活用した資料準備を行う。	自分の模擬授業の学習指導案の作成。	2時間	自分の模擬授業の学習指導案を作成する。	2時間
7	ICT 機器を活用した模擬授業①を行いVTRで記録に残す。その後授業検討を行う。自評・質疑応答・感想・教師のコメントの順で進行する。	自分の模擬授業の準備と反省①。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
8	ICT 機器を活用した模擬授業②を行いVTRで記録に残す。その後授業検討を行う。自評・質疑応答・感想・教師のコメントの順で進行する。	自分の模擬授業の準備と反省②。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
9	ICT 機器を活用した模擬授業③を行いVTRで記録に残す。その後授業検討を行う。自評・質疑応答・感想・教師のコメントの順で進行する。	自分の模擬授業の準備と反省③。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
10	ICT 機器を活用した模擬授業④を行いVTRで記録に残す。その後授業検討を行う。自評・質疑応答・感想・教師のコメントの順で進行する。	自分の模擬授業の準備と反省④。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
11	ICT 機器を活用した模擬授業⑤を行いVTRで記録に残す。その後授業検討を行う。自評・質疑応答・感想・教師のコメントの順で進行する。	自分の模擬授業の準備と反省⑤。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
12	小学校3年生の社会科の課題について、各自5分間の模擬授業を実施し、振り返りを行うことにより、授業の作り方の理解を深める。	学習指導要領解説社会編の小学校3年の目標、内容を読む。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
13	小学校6年生の社会科の課題(1)について、各自5分間の模擬授業を実施し、振り返りを行うことにより、授業の作り方の理解を深める。	学習指導要領解説社会編の小学校6年の目標、内容を読む。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
14	小学校6年生の社会科の課題(2)について、各自5分間の模擬授業を実施し、振り返りを行うことにより、授業の作り方の理解を深める。	学習指導要領解説社会編の小学校6年の目標、内容を読む。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
15	15回の授業を振り返り、自身の授業内容の理解、教師への授業評価、自己評価などを行い、自分の学び方の改善につなげる。	これまでの授業の振り返りシートを読む。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間

成 績 評 価	定期試験（10%）、指導案（8%）、授業への取り組み（27%）、模擬授業、ロールプレイ（55%）
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートは、ルーブリック評価の結果を渡す。
テキストおよび参考文献	テキスト：授業時に資料を配布する。 参考文献：『小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）』、『小学校社会科教科書』東京書籍 『小学校社会科教科書』日文
メッセージなど	後期 10 月から始まる教育実習に向けて、社会科の授業づくりの基本を学ぶ。学習指導案を書いて、模擬授業に挑戦する実践的な講座。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 社会科における教材研究の必要性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	2%
(1)-2) 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、その要旨を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	2%
(1)-3) 教科書が主たる教材である理由と教科書の選定の仕組みを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	2%
(1)-4) 各社の教科書の長短所を指摘し、よりよい教科書の選定ができる。	ほぼ完璧に長短所を指摘できる。	大きな間違いがなく、長短所を指摘できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の指摘ができる。	長短所の指摘ができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に長短所を指摘できる。	大きな間違いがなく、長短所を指摘できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の指摘ができる。	長短所の指摘ができない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	2%

(1)-5) 社会科学学習指導案作成のための基礎知識を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（知識・理解・思考力・判断力・表現力）	2%
(2)-1) 題材「聖徳太子の国づくり」を例に、指導内容を整理できる。	ほぼ完璧に整理できる。	大きな間違いがなく、基本が整理できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の整理ができる。	整理できない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に整理できる。	大きな間違いがなく、基本が整理できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の整理ができる。	整理できない。	指導案（思考力・判断力・表現力）	2%
(2)-2) 他の人の学習指導案を読んで、そのよさや問題点を指摘できる。	様々な角度から指摘できる。	幾つかの角度から指摘ができる。	1つ以上指摘ができる。	指摘できない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	様々な角度から指摘できる。	幾つかの角度から指摘ができる。	1つ以上指摘ができる。	指摘できない。	指導案（思考力・判断力・表現力）	2%
(2)-3) 各自で模擬授業の教材を選択し、社会科学学習指導案を書くことができる。	ほぼ完璧に書くことができる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて書くことができる。	形式的に最低限の記述ができる。	書くことができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	ほぼ完璧に書くことができる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて書くことができる。	形式的に最低限の記述ができる。	書くことができない。	指導案（思考力・判断力・表現力）	2%
(2)-4) 授業を展開するうえで必要になる発問・資料・板書の計画を立てることができる。	子どもの立場に立ったほぼ完璧な準備ができる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえた準備ができる。	最低限の準備ができる。	準備ができない。	授業への取り組み（関心・意欲・態度）	3%
	子どもの立場に立ったほぼ完璧な準備ができる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえた準備ができる。	最低限の準備ができる。	準備ができない。	指導案（思考力・判断力・表現力）	2%
(3)-1) 自分の学習指導案をもとに45分間の模擬授業ができる。	よい授業の3条件を生かした、ほぼ完璧な授業ができる。	大きな間違いがなく、基本をおさえた授業ができる。	最低限授業の形にはなっている。	授業ができない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	30%
(3)-2) 自評・質疑応答・感想意見の手順に従って、授業検討をすることができる。	様々な角度から、適切な質問や意見を述べることができる。	幾つかの角度から、質問や意見を述べることができる。	1つ以上、質問や意見を述べることができる。	意見を述べることができない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	20%
(3)-3) 授業の実践・検討を通して、教えることの厳しさと楽しさを実感する。	教壇に立つことの自覚をもって、積極的に協働的に取り組む。	基本はできている、創造性や柔軟性も一部身についている。	授業をすることを義務的にとらえている。	その場にはいない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（関心・意欲・思考力・判断力・表現力）	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
算数科指導法 Teaching Methods of Arithmetic		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2020	2 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	西 田 稔			○
実務家教員 の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	小学校算数科の目標、内容及び学習内容を支える数理等への理解を深めるとともに、問題解決の過程を通して、児童自らが数学的な見方・考え方を働かせながら主体的に学ぶ算数科学習指導のあり方について学ぶ。これらを踏まえて教材研究を行い、授業案を作成したり、模擬授業を実施したりして主体的・対話的で深い学びの実現に向けた算数科の実践的な指導力を身につける。					
到達目標	(1)-1 算数科の目標、各学年の指導目標及び指導内容、指導上留意すべきことを理解し説明することができる。 (1)-2 算数科における各領域の構成やねらい、発展系列を理解し説明することができる。 (1)-3 観点別学習状況評価の評価規準及び評価計画作成の手順を理解し作成することができる。 (1)-4 各領域の主たる内容に係る数理的背景や数学的概念についての的確に説明することができる。 (2)-1 学習指導理論を背景においた授業設計に必要な諸要素について理解し、説明することができる。 (2)-2 児童が問題意識を持って意欲的に学習し、わかる喜びを味わう算数科の学習指導を計画することができる。 (2)-3 児童が主体的に学ぶ算数科の学習指導の実現に向け、意欲を持って創意ある指導案の作成に取組み、作成することができる。 (2)-4 応答、反応に適切に対応しながら、算数科模擬授業を適切に進めることができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	算数教育の目標と各学年における 目標・内容①1～3 年	学習指導要領の該当 箇所を読んでおく。	2 時間	目標構造と内容の 概要をまとめる。	2 時間
	2	算数教育の目標と各学年における 目標・内容② 4～6 年	学習指導要領の該当 箇所を読んでおく。	2 時間	目標構造と内容の 概要をまとめる。	2 時間
	3	各領域と内容の発展系列① 「A数と計算」「B図形」[C測定]	学習指導要領の該当 箇所を読んでおく。	2 時間	領域別内容の発展 系列をまとめる。	2 時間
	4	各領域と内容の発展系列② 「C変化と関係」「Dデータの活用」	学習指導要領の該当 箇所を読んでおく。	2 時間	領域別内容の発展 系列をまとめる。	2 時間
	5	算数科における基本的な学習過程	学習指導要領の該当 箇所を読んでおく。	2 時間	問題解決的な学習 の要点をまとめる。	2 時間
	6	主体的な学びを促す 教材・教具の 工夫開発と教材との対話や児童相互 の対話を深め確かな学びを促す ICT 機器の活用	算数科での ICT 機器 の活用事例や意義に ついて調べる。	2 時間	主体的な学びと確 かな理解につなぐ る課題設定や ICT 機器活用の在り方 をまとめる。	2 時間

	7	主体的な学びと確かな理解を図る 学習形態及び評価の在り方	学習形態や観点別 学習状況評価につ いて調べておく。	2 時間	TTや観点別評価 についてまとめ る。	2 時間
	8	教材研究と ICT 機器を活用した算 数科学習指導案の作成の仕方 ー3 年 重さーの事例を通して	ICT 機器を活用し た算数科の事例に ついて調べておく。	2 時間	作成要領、作成ボ イントと指導案例 との対比による指 導案の読み。	2 時間
	9	教材研究及び ICT 機器を活用した 学習指導案の作成 ー2 年 100 をこえる数ー 協同研究	ICT 機器を活用した 2 年生「1000 ま での数」の授業構想 を練っておく。	2 時間	協議をもとに「10 00までの数」の学 習指導案を銘々で 完成させる。	3 時間
	10	学習指導案及び ICT 機器を活用し た教材教具の作成 ー3 年 三角形ー	ICT 機器を活用した 「三角形」の授業の 原案を作成する。	2 時間	3 年「三角形」の学習 指導案を作成する。	2 時間
	11	学習指導案及び ICT 機器を活用し た教材教具の作成 ー5 年 面 積ー	ICT 機器を活用した 「面積」の授業の原 案を作成する。	2 時間	5 年「面積」の学習 指導案を作成する。	2 時間
	12	学習指導案及び ICT 機器を活用し た教材教具の作成 ー3 年 三角形ー ー5 年 面 積ー	模擬授業で使用す る教材、教具作成に 必要な材料等の計 画や準備にあたる。	2 時間	それぞれの指導案 を完成させる。(模 擬授業実施分、模 擬授業省略分)	2 時間
	13	模擬授業の実施	模擬授業の準備を する。	2 時間	模擬授業の反省事 項をまとめる。	2 時間
	14	模擬授業の実施	模擬授業の準備を する。	2 時間	模擬授業の反省事 項をまとめる。	2 時間
	15	模擬授業の実施	模擬授業の準備を する	2 時間	模擬授業の反省事 項をまとめる。	2 時間
成 績 評 価		定期試験 (20%)、指導案 (16%)、授業への取り組み (20%)、グループワーク・グル ープ討議 (14%)、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (30%)				
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法		授業内容の整理メモや課題プリントへコメントしたり、気づきを記入したりして返却 する。 模擬授業に関しては、指導案作成中のアドバイスや指導案へのコメントの記入、授業 講評等を通じて行う。試験については、ルーブリック評価の結果を伝える。				
テキストおよび 参 考 文 献		テキスト：講義資料はその都度、プリント類は必要に応じて配付する。 『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説 算数編（平成 29 年 7 月 文部科学省）』 小学校算数教科書 各学年 啓林館				
メ ッ セ ー ジ な ど		国語に次いで、授業時数の多い教科です。教員は教えやすいと思いがちですが、児童 にとっては意外と学びにくい教科です。児童の学びに視点をあて、主体的にかつ深く 学ぶことの喜びを喚起する教材研究の在り方について究明しましょう。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 算数科の目標、各学年の指導目標及び指導内容、指導上留意すべきことを理解し説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	4%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	授業への取り組み (知識・理解)	4%
(1)-2) 算数科における各領域の構成やねらい、発展系列を理解し説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	4%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	授業への取り組み (知識・理解)	4%
(1)-3) 観点別学習状況評価の評価規準及び評価計画作成の手順を理解し作成することができる。	ほぼ完璧に作成することができる。	大きな誤りがなく作成することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて作成できる。	作成することができない。	定期試験 (知識・理解)	4%
	ほぼ完璧に作成することができる。	大きな誤りがなく作成することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて作成できる。	作成することができない。	授業への取り組み (知識・理解)	4%
(1)-4) 各領域の主たる内容に係る数理的背景や数学的概念についての的確に説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	4%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	授業への取り組み (知識・理解)	4%
(2)-1) 学習指導理論を背景においた授業設計に必要な諸要素について理解し、説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	4%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りがなく説明することができる。	誤りはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明することができない。	授業への取り組み (知識・理解)	4%
(2)-2) 児童が問題意識を持って意欲的に学習し、わかる喜びを味わう算数科の学習指導を計画することができる。	ほぼ完璧に計画することができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて計画できる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて計画できる。	計画することができない。	指導案 (意欲・思考力・表現力・創造性・協働性)	8%
	ほぼ完璧に計画することができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて計画できる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本を踏まえて計画できる。	計画することができない。	グループワーク・グループ討議 (意欲・思考力・表現力・創造性・協働性)	7%

(2)-3) 児童が主体的に学ぶ算数科の学習指導の実現に向け、意欲を持って創意ある指導案の作成に取組み、作成することができる。	ほぼ完璧に作成することができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本は踏まえて作成できる。	作成することができない。	指導案 (意欲・思考力・表現力・創造性・協働性)	8%
	ほぼ完璧に作成することができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本は踏まえて作成できる。	作成することができない。	グループワーク・グループ討議 (意欲・思考力・表現力・創造性・協働性)	7%
(2)-4) 応答、反応に適切に対応しながら、算数科模擬授業を適切に進めることができる。	ほぼ完璧に進めることができる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえて進めることができる。	問題点はいくつかあるが、最低限の基本は踏まえて進めることができる。	適切に進めることができない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (意欲・思考力・判断力・表現力・創造性)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別	
理科指導法 Teaching Methods of Science Studies		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2021		2 年次	前期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員	
講義	2	選択	西田 稔				○	
実務家教員 の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。							
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。						○	
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。						○	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。						○	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。							
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。						○	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。						○	
概 要	理科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容の背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。							
到達目標	(1)-1 学習指導要領における教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解できる。							
	(1)-2 個別の学習内容について指導上の留意点を理解できる。							
	(1)-3 教科の学習評価の考え方を理解できる。							
	(1)-4 教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。							
	(2)-1 教科の特性を理解し、単元全体の見通しを持つことができる。							
	(2)-2 教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。							
	(2)-3 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。							
	(2)-4 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。							
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容		予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	小学校理科教育の目標と内容		小学校理科の指導要領を読んでおく。		2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	2	第 3 学年の理科教育における単元指導計画の作成と ICT 活用授業の位置付け		3 年生理科の単元指導計画の中で ICT 活用を行う授業を考える。		2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
	3	第 4 学年の理科教育における単元指導計画の作成と ICT 活用授業の位置付け		4 年生理科の単元指導計画の中で ICT 活用を行う授業を考える。		2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

	4	第5学年の理科教育における単元指導計画の作成とICT活用授業の位置付け	5年生理科の単元指導計画の中でICT活用を行う授業を考える	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	5	第6学年の理科教育における単元指導計画の作成とICT活用授業の位置付け	6年生理科の単元指導計画の中でICT活用を行う授業を考える。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	6	理科評価計画の位置づけとICT活用授業の位置付け	前時で作った単元指導計画に評価計画を位置付けてみる。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	7	第3年生理科の学習指導案の作成とICT活用授業の位置付け	3年生理科の一単位授業計画を自分で作ってみる。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	8	第3学年理科授業の実際と振り返りとICT活用授業の位置付け	前時に作成した学習指導案に基づき授業準備をする。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	9	第4年生理科の学習指導案の作成とICT活用授業の位置付け	4年生理科の一単位授業計画を自分で作ってみる。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	10	第4学年理科授業の実際と振り返りとICT活用授業の位置付け	前時に作成した学習指導案に基づき授業準備をする。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	11	第5年生理科の学習指導案の作成とICT活用授業の位置付け	5年生理科の一単位授業計画を自分で作ってみる。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	12	第5学年理科授業の実際と振り返りとICT活用授業の位置付け	前時に作成した学習指導案に基づき授業準備をする。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	13	第6年生理科の学習指導案の作成とICT活用授業の位置付け	6年生理科の一単位授業計画を自分で作ってみる。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	14	第6学年理科授業の実際と振り返りとICT活用授業の位置付け	前時に作成した学習指導案に基づき授業準備をする。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	15	授業における指導と評価	これまでの学習のまとめをしておく。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
成 績 評 価		定期試験 (5%)、課題・レポート (15%)、指導案 (20%)、教材作成 (20%)、授業への取り組み (5%)、グループワーク・グループ討議 (5%)、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (20%)、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (10%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		授業後実施する振り返りを確認するとともに、毎回講義用学習シートをチェックして次の授業時に返却する。レポートや定期試験はルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび参考文献		『小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)』『各学年理科教科書』『小学校指導要領(平成29年告示)解説 理科編(平成29年7月 文部科学省)』				
メ ッ セ ー ジ な		理科離れを防ぎ、理科好きな子どもを育てる楽しい理科教育の実践に取り組みましょう。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 学習指導要領における教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験（思考力・判断力・表現力）	5%
(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（思考力・判断力・表現力）	5%
(1)-3) 教科の学習評価の考え方を理解できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート（知識・理解）	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（思考力・判断力・表現力）	5%
(1)-4) 教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。	ほぼ完璧に説明でき、その活用もできる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	指導案（関心・意欲・態度）	5%
	ほぼ完璧に説明でき、その活用もできる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	教材作成（技能・表現力）	5%
(2)-1) 教科の特性を理解し、単元全体の見通しを持つことができる。	ほぼ完璧に説明でき、活用もできる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	教材作成（技能・表現力・創造性）	5%
	ほぼ完璧に説明でき、活用もできる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議（表現力・協働性）	5%
(2)-2) 教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。	ほぼ完璧に、活用することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	指導案（技能・思考力・判断力・表現力）	5%
	ほぼ完璧に、活用することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、活用ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み（意欲・態度・知識・理解）	5%

(2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に説明でき、作成することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、作成できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を作成できる。	作成できない。	教材作成 (関心・意欲・態度・技能)	10%
	ほぼ完璧に説明でき、作成することができる。	大きな間違いがなく、基本を説明し、作成できる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を作成できる。	作成できない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (技能・表現力・創造性)	10%
(2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けることができる。	ほぼ完璧に実施することができる。	大きな間違いがなく、実施ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を実施できる。	実施できない	指導案 (知識・理解)	10%
	ほぼ完璧に実施することができる。	大きな間違いがなく、実施ができる。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本を実施できる。	実施できない	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (技能・表現力・創造性)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
生活科指導法 Teaching Methods of Life Environments		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2022		2 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員
講義	2	選択	川上 認				○
実務家教員 の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。						
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。						○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。						○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。						○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。						
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。						○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。						○
概 要	「教材」が「学習体験や活動を左右する」ことの認識を深め、生活科における「教材研究の視点」や「教材開発の必要性や留意点」を理解し、身近な社会や自然の中にある素材の教材化と効果的活用方法を身に付ける。 生活科における年間指導計画や単元計画並びに指導案作成について理解する。 生活科における体験的な活動の実践を通してながら指導の在り方を探求する。 生活科における評価の在り方を理解する。						
到達目標	(1)-1 生活科授業における教材の大切さを説明できる (1)-2 素材と教材の意味の違いを比較できる (1)-3 効果的な教材選択や教材の授業への位置づけができる (2)-1 直接的な体験や活動の教材化ができる (2)-2 ICT 等の活用や多様な表現活動を展開する指導の在り方を説明できる (3)-1 年間指導計画・単元計画の作成ができる (3)-2 単位時間の指導案の作成ができる (3)-3 評価規準を作成することができる (3)-4 多様な評価方法を列記できる						
授業内容 と 進め方							
	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	生活科の授業における教材の特質性を説明できる		テキスト 8～11P を読む	1 時間	授業の特質を箇条書きにする	1 時間
	2	教材化の意味・意義を理解し、指導計画への生かし方を学ぶ		テキスト第 1 章を 読む	1 時間	教材化の意味をまとめる	2 時間
	3	①人と関わる活動の教材化について学ぶ		テキスト 12～13P を読む	1 時間	どんな人と関わるかまとめる	1 時間

	4	②飼育栽培活動の教材化について学び、体験活動する	テキスト 14～15P を読む	1 時間	実際に世話をしてみる	3 時間
	5	③探検活動の教材化について説明できる	テキスト 16～17P を読む	1 時間	探検場所と方法をまとめる	2 時間
	6	④遊びの教材化について学び、体験活動する	テキスト 18～19P を読む	1 時間	教育実習等で児童と遊ぶ	3 時間
	7	⑤ものづくりの教材化について学び、教材を作成する	テキスト 20～21P を読む	1 時間	制作作品を実際に試してみる	2 時間
	8	⑥表現・イベント活動の教材化について学ぶ	テキスト 22～23P を読む	1 時間	多様な表現方法をまとめる	1 時間
	9	⑦交流活動を実践し、動画や静止画として記録する	テキスト 24～25P を読む	1 時間	画像を整理する	2 時間
	10	町探検の振り返り学習時にタブレットを活用して発表活動をする	プレゼン内容をまとめる	2 時間	プレゼン方法を修正する	1 時間
	11	映像や音声機器等、多様な表現活動を図った指導事例を検討する	指導事例を調べる	2 時間	指導事例をまとめる	1 時間
	12	地域実態に即した生活科の年間・単元計画の作成事例を検討する	テキスト 12～13P を読む	1 時間	他の事例を調べる	1 時間
	13	生活科の指導案を作成し、模擬授業を行なう	生活科指導案を作成する	3 時間	授業の反省文を書く	1 時間
	14	評価基準と評価規準の違いについて学ぶ	文科省「指導要録」を調べる	1 時間	単位時間の評価基準を書く	1 時間
	15	多様な評価方法を理解する	指導要領解説 92～93P を読む	1 時間	多様な評価方法をまとめる	1 時間
成 績 評 価		定期試験 (10%)、課題・レポート (50%)、指導案 (20%)、授業への取り組み (10%)、発表・プレゼンテーション (10%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		活動体験の記録 (レポート等) を学習成果物として累積し、フィードバックに生かす				
テキストおよび参考文献		『小学校指導要領 (平成 29 年告示) 解説 生活編 (平成 29 年 7 月 文部科学省)』東洋館出版 『生活科教材研究』山口短期大学				
メ ッ セ ー ジ な ど		小学校低学年児童が喜ぶ直接的な体験活動の実践と指導方法の体得が主な授業内容である。具体的な教材との触れ合いを大切にする。 小学校教諭二種状：選択必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 生活科授業における教材の大切さを説明できる	ほぼ完璧に教材の大切さを説明できる	十分教材の大切さを説明できる	おおむね教材の大切さを説明できる	まったく説明できない	定期試験 (理解)	10%
(1)-2) 素材と教材の意味の違いを比較できる	ほぼ完璧に意味の違いを比較できる	十分意味の違いを比較できる	おおむね意味の違いを比較できる	まったく意味の違いを比較できない	課題・レポート (知識)	20%
(1)-3) 効果的な教材選択や教材の授業への位置づけができる	ほぼ完璧に教材の授業への位置づけができる	十分に教材の授業への位置づけができる	おおむね教材の授業への位置づけができる	まったく教材の授業への位置づけができない	指導案 (判断力)	10%
(2)-1) 直接的な体験や活動の教材化ができる	ほぼ完璧に体験活動の教材化ができる	十分に体験活動の教材化ができる	おおむね体験活動の教材化ができる	まったく体験活動の教材化ができない	授業への取り組み (関心)	10%
(2)-2) ICT等の活用や多様な表現活動を展開する指導の在り方を説明できる	ほぼ完璧にICT等の活用の在り方を説明できる	十分にICT等の活用の在り方を説明できる	おおむねICT等の活用の在り方を説明できる	まったくICT等の活用の在り方を説明できない	発表・プレゼンテーション (技能)	10%
(3)-1) 年間指導計画・単元計画の作成ができる	ほぼ完璧に年間・単元計画の作成ができる	十分に年間・単元計画の作成ができる	おおむね年間・単元計画の作成ができる	まったく年間・単元計画の作成ができない	課題・レポート (問題解決力)	10%
(3)-2) 単位時間の指導案の作成ができる	ほぼ完璧に単位時間の指導案が作成できる	十分に単位時間の指導案が作成できる	おおむね単位時間の指導案が作成できる	まったく単位時間の指導案が作成できない	指導案 (理解)	10%
(3)-3) 評価規準を作成することができる	ほぼ完璧に評価規準を作成することができる	十分に評価規準を作成することができる	おおむね評価規準を作成することができる	まったく評価規準を作成できない	課題・レポート (理解)	10%
(3)-4) 多様な評価方法を列記できる	ほぼ完璧に評価方法を列記できる	十分に評価方法を列記できる	おおむね評価方法を列記できる	まったく評価方法を列記できない	課題・レポート (理解)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
音楽科指導法 Teaching Methods of Music		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2023	2 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	必修	久保田 尚			○
実務家教員 の詳細	小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					
概 要	学習指導要領における小学校教科音楽の目標を概説し、音楽教育の現状と問題について考察する。 指導案の作成方法を学ぶことにより授業展開の方法を学ぶ。 模擬授業を演習実習し、実践的な技能の伸長を図る。					
到達目標	(1)-1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、児童の主体的・対話的で深い学びの実現が図れるような計画を立てることができる。					
	(1)-2) 学校内・校外の諸行事を見通して、長期的指導計画を立てることができる。					
	(1)-3) 他者との協働を尊重し合いながら、表現する音楽を模索し合う過程を大切にする指導計画を考 えることができる。					
	(2)-1) 他教科等との関連を積極的に図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけ、豊かで幅 広い授業展開ができるよう工夫した計画を立てることができる。					
	(2)-2) 指導のねらいに即して身体を動かし表現させたり、情報機器や教育機器の活用方法を模索したり し、深く多様で幅広い体験をさせる授業展開を考え計画を立てることができる。					
	(2)-3) 自分たちが作った曲を大切にさせることにより、著作者の創造性を尊重し、音楽文化の継承、発 展、創造を支える素地になることに気がつく展開を考え計画を立てることができる。					
	(3)-1) 題材、題材研究、題材設定の理由を、多岐にわたり精査することができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	学習指導要領「音楽」の概説・音楽 科教育の目標	テキストまえがきを 読んでおく	1 時間	自分の考えをまとめる	2 時間
	2	年間指導計画の立案の考え方	テキスト 21 ページ、 教科書の 26～31 ページを読んでおく	2 時間	考えをまとめる	2 時間
	3	歌唱共通教材の授業展開の考え方	教科書の 50 ページ ～55 ページを読ん でおく	2 時間	再度 50～55 ペー ジを読み、考えをま とめる	2 時間
	4	指導案の作成① 目標、概念	教科書の 32～35 ページを読んでおく	1 時間	レポート課題を参考 にして試作してみる	2 時間

	5	歌唱共通教材模擬授業① 1年「うみ」「かたつむり」「日のまる」－ICT機器の活用(CD デッキ、画像の提示、授業の録画)	教科書の 136 ～ 141 ページを演習練習しておく	2 時間	反省をもとに演習する	2 時間
	6	指導案の作成② 題材、題材研究、題材感	テキスト 22,23 ページを完成させておく	1 時間	暗記できるようにする	2 時間
	7	歌唱共通教材模擬授業② 1年「ひらいたひらいた」、2年「かくれんぼ」「春がきた」－ICT機器の活用(CD デッキ、画像の提示、授業の録画)－	教科書の 142 ～ 147 ページを演習練習しておく	2 時間	反省をもとに演習する	2 時間
	8	指導案の作成③ 題材の指導計画	テキスト25ページを試作しておく	1 時間	学習成果を生かして再度試作してみる	2 時間
	9	歌唱共通教材模擬授業③ 2年「虫のこえ」「夕やけこやけ」3年「うさぎ」－ICT機器の活用(CD デッキ、画像の提示、授業の録画)－ビデオ録画自己批評	教科書の 148 ～ 153 ページを演習練習しておく	2 時間	他人の評価表 A を参考にして演習する	2 時間
	10	指導案の作成④ 本時の目標、ねらいの設定	テキスト26、27 ページを読んでおく	1 時間	モデルを試作してみる	2 時間
	11	歌唱共通教材模擬授業④ 3年「茶つみ」「春の小川」「ふじ山」－ICT機器の活用(CD デッキ、画像の提示、授業の録画)－	教科書の 154 ～ 159 ページを演習練習しておく	2 時間	評価表をもとに演習する	2 時間
	12	指導案の作成⑤ 授業展開の方法	テキスト28ページを読んでおく	1 時間	テキスト30ページを完成させる	1 時間
	13	歌唱共通教材模擬授業⑤ 4年「さくらさくら」「とんび」「まきばの朝」「もみじ」－ICT機器の活用(CD デッキ、画像の提示、授業の録画)－ビデオ録画相互批評	教科書の 160 ～ 169 ページを演習練習しておく	2 時間	評価表 B をもとに演習する	2 時間
	14	指導案の作成⑥ 模擬授業の録画映像を見て、工夫・改善点をまとめる	教科書の 227 ～ 241 ページを読んでおく	2 時間	工夫改善をもとに指導案を作成してみる	1 時間
	15	歌唱共通教材模擬授業⑥ 5年「こいのぼり」「子守歌」「スキーの歌」「冬げしき」－ICT機器の活用(CD デッキ、画像の提示、授業の録画)－評価、振り返りの方法	教科書の 170 ～ 181 ページを演習練習しておく	2 時間	録画の反省をもとに演習する	2 時間
成績評価	課題・レポート (40%)、指導案 (30%)、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (30%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	模擬授業の評価表 A,B を提出させ評価する。模擬授業の録画を利用し評価する。全体的にはルーブリックを用いて評価する。					
テキストおよび参考文献	『初等科音楽教育法・小学校教員養成課程用』音楽之友社 『小学校指導要領(平成 29 年告示)解説 音楽編(平成 29 年 7 月 文部科学省)』東洋館出版					
メッセージなど	教育現場に通じる指導法を会得するために指導案の作成をし、実際の授業を模擬体験してみる。音楽の実力が必要であることはもちろんであるが、他者の模擬授業を評価することなどを通し、さらなる資質のレベルアップを図りましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、児童の主眼的・対話的で深い学びの実現が図れるような計画を立てることができる。	全般にわたって完璧に近い計画が立てられる。	大きな考え違いがなく計画が立てられる。	自分の考えのみではあるが最低限の授業計画を立てることができる。	計画を立てられない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	10%
(1)-2) 学校内・校外の諸行事を見通して、長期的指導計画を立てることができる。	年間を通しての計画がほぼ完璧に立てられる。	大きな考え違いがなく計画が立てられる。	最低限の長期的指導計画が立てられる。	計画が立てられない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	10%
(1)-3) 他者との協働を尊重し合いながら、表現する音楽を模索し合う過程を大切にす指導計画を考えることができる。	過程を大切にした指導計画が考えられる。	大きな考え違いがなく計画が立てられる。	計画だけは考え、立てることができる。	考えることができない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	10%
(2)-1) 他教科等との関連を積極的に図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置づけ、豊かで幅広い授業展開ができるよう工夫した計画を立てることができる。	工夫した計画に基づく指導案を作成することができる。	大きな考え違いがなく計画が立てられる。	豊かで工夫した計画には至らないが、最低限の計画はできる。	計画ができない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	10%
(2)-2) 指導のねらいに即して身体を動かし表現させたり、情報機器や教育機器の活用方法を模索したりし、深く多様で幅広い体験をさせる授業展開を考え計画を立てることができる。	深く多様な体験をさせる授業展開を充分考えることができる。	ほぼ間違いない授業展開が考え計画を立てられる。	勘違いがあるが最低限の授業展開ができる。	深く多様で幅広い体験をさせる授業展開ができない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	15%
(2)-3) 自分たちが作った曲を大切にさせることにより、著作者の創造性を尊重し、音楽文化の継承、発展、創造を支える素地になることに気がつく展開を考え計画を立てることができる。	幅広く豊かな展開を考え計画を立てることができる。	大きな間違いない考えにより展開を考え計画を立てることができる。	勘違いがあるが最低限の授業展開ができる。	授業展開がつかれない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	15%
(3)-1) 題材、題材研究、題材設定の理由を、多岐にわたり精査することができる。	多岐にわたり精査できる。	充分とは言えないが精査しようとしている。	基本を踏まえることはできる。	基本が理解できていない。	指導案 (知識・理解・思考力・判断力・問題解決力)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
図画工作科指導法 Teaching Methods of Art and Handicrafts		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2024	2 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	必修	佐古 淳子			○
実務家教員 の詳細	中学校美術教員としての実務経験を生じ、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	図画工作科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場면을想定した授業設計を身に付ける					
到達目標	(1)-1) 学習指導要領における図画工作科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。					
	(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。					
	(1)-3) 図画工作科の学習評価の考え方を理解している。					
	(1)-4) 図画工作科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。					
	(2)-1) 子どもの認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。					
	(2)-2) 図画工作科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。					
	(2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。					
	(2)-4) 模擬授業の実施との振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	図画工作科指導法とはどのような授業か、図画工作は何のためにあるのか、その目標及び主な内容、全体構造を理解する。ファイルを作成する。	事前に配った指導要領を読む	2 時間	図画工作科指導法の目標、内容理解について考察し感想を書く	2 時間
	2	低学年～中学年の教科書を見ながら、低学年～中学年の学習内容と特徴を学び、個別の指導内容や指導上の留意点を理解する	前時に配った小学生の教科書に目を通す	2 時間	低学年、中学年教科書の内容理解について考察し感想を書く	2 時間
	3	中学年～高学年の教科書を見ながら、学習内容と特徴を学び、個別の指導内容や指導上の留意点を理解する。教科書の中のものを演習する	前時に配った小学生の教科書に目を通す	2 時間	中学年、高学年教科書の内容理解について考察し感想を書く	2 時間

4	造形遊びの意義とその内容について実践し、その意義を理解する。また、造形遊びの背景となる学問領域、芸術表現との関係を知る	前時に配った「造形遊び」のプリントに目を通す	2 時間	「造形遊び」の内容理解について考察し感想を書く	2 時間
5	小学校の図画工作科と絵画・デザイン・工芸・彫刻の各領域との位置づけを理解する	前時に配った「各領域」についてのプリントに目を通す	2 時間	「各領域」の内容理解について考察し感想を書く	2 時間
6	図画工作で使用する用具の特質と使い方を学ぶ①(クレヨン、パス・コンテ・マーカー・色鉛筆で線遊びをする)	前時に配った「用具の特質①」についてのプリントに目を通す	2 時間	用具の特質を知った上で使えたかを考察し感想を書く	2 時間
7	図画工作で使用する用具の特質と使い方を学ぶ②(竹ペン・墨で観察画を描く「にぼし」)	前時に配った「用具の特質②」についてのプリントに目を通す	2 時間	用具の特質を知った上で使えたかを考察し感想を書く	2 時間
8	図画工作で使用する用具の特質と使い方を学ぶ③(透明水彩・ポスターカラーでバチックなどを体験する)	前時に配った「用具の特質③」についてのプリントに目を通す	2 時間	用具の特質を知った上で使えたかを考察し感想を書く	2 時間
9	「コラージュ」(モダンテクニック)の歴史(美術史)について映像資料を通して授業を想定しながら雑誌、新聞紙をちぎり、「見立て遊び」を経験する	前時に配ったプリントに目を通す	2 時間	コラージュの歴史を知り、紙を使用して制作できたかを振り返り感想を書く	2 時間
10	「コラージュ」のテクニックを学び、授業を想定しながら枯れ葉で「見立て遊び」を経験する	前時に配ったプリントに目を通す	2 時間	コラージュの技法で自然物を使用して制作できたかを振り返り感想を書く	2 時間
11	「コラージュ」のテクニックを学び、授業を想定しながら雑誌から「同じ色集め」を経験する(色彩学)	前時に配ったプリントに目を通す	2 時間	コラージュの技法で「同じ色」を集めて制作できたかを振り返り感想を書く	2 時間
12	コラージュ作品を並べ、先生、児童になってお互いの作品の良いところを見つけて評価する	前時に配ったプリントに目を通す	2 時間	教師の立場に立って、お互いの作品の講評ができたかを考察し感想を書く	2 時間
13	画像や映像をもとにしたイメージトレーニングを通して、発想力を身につける	前時に配ったプリントに目を通す	2 時間	教師自身の想像力、創造力が身に付いたかを考察し感想を書く	2 時間
14	好きな物や人形を好きな場所に配置し、ICT 機器を活用して撮影、編集する。タイトルをつける	前時に配ったプリントに目を通す	2 時間	教師自身の想像力、創造力が身に付いたかを考察し感想を書く	2 時間
15	紙の種類と特質を知り、使いこなせるようになる(飛び出すカード、六角返し他)	前時に配った「紙」に関するプリントに目を通す	2 時間	紙の特質を理解した上で制作できたかを振り返り感想を書く	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	牛乳パック、コロッコで「私たちの町」を作って共同作品のたのしさを味わい、その意義を学ぶ	共同制作についてのプリントに目を通す	2 時間	共同制作について理解し制作ができたかを振り返り感想を書く	2 時間

17	感想画・空想画について① モダンテクニック①マーブリング やデカルコマニー、スクラッチ ステンシル、ドリップング、スクラ ッチ等で感想画または空想画を描 いてみる	モダンテクニック ①についてのプリ ントに目を通す。	2 時間	モダンテクニック ①について理 解 し、制作ができた かを振り返り感想 を書く	2 時間
18	感想画・空想画について② モダンテクニック①マーブリング やデカルコマニー、スクラッチ ステンシル、ドリップング、スクラ ッチ等で感想画または空想画を描 いてみる	モダンテクニック ②についてのプリ ントに目を通す	2 時間	モダンテクニック ②について理 解 し、制作ができた かを振り返り感想 を書く	2 時間
19	キット教材の研究と作成① 特質や問題点を認識し、授業計画 の中に取り込むことができる	前時に配ったキッ ト教材についての プリントに目を通 す	2 時間	キット教材につい て理解しているか 考察し感想を書く	2 時間
20	キット教材の研究と作成② 授業計画の中でキット教材を効果 的な活用ができる	前時に配ったキッ ト教材についての プリントに目を通 す	2 時間	キット教材につい て理解しているか 考察し感想を書く	2 時間
21	版画の研究① 作品の画像をもと に版画の種類を各技法の特徴と用 具を学ぶ	前時に配った版画 の研究①のプリ ントに目を通す	2 時間	版画の特質を理 解 し作品制作ができた かを振り返り感 想を書く	2 時間
22	版画の研究② 映像資料をもとに スチレン版画、回転版画の制作手 順を知る（低学年）	前時に配った版画 の研究②のプリ ントに目を通す	2 時間	版画の特質を理 解 し作品制作ができた かを振り返り感 想を書く	2 時間
23	版画の研究③ 映像資料をもとに 紙版画、木版画の制作手順を知る （中学年・高学年）	前時に配った版画 の研究③のプリ ントに目を通す	2 時間	版画の特質を理 解 し作品制作ができた かを振り返り感 想を書く	2 時間
24	立体に表すとは？粘土、紙、木、廃 材を使った立体作品の鑑賞を通して 、立体造形のたのしさと意義を 学ぶ。粘土の種類と特質を知り、使 いこなせるようになる（本物そっ くり）	前時に配った「立 体造形、粘土」につ いてのプリントに 目を通す	2 時間	立体を表す事の意 義、鑑賞について の理解ができてい るか考察し感想を 書く	2 時間
25	絵巻物の作成（鳥獣人物戯画）日本 の美術への理解を深め、授業に取り 入れる事ができる	絵巻物の作成（鳥 獣人物戯画）日本 の美術への理解を 深め、授業に取り 入れる事ができる	2 時間	絵巻物の歴史を理 解しているかを考 察し感想を書く	2 時間
26	制作した教材から好きなものを選 んで指導案を書いてみる（後期の 模擬授業にむけて）	前時に配った指導 案についてのプリ ントに目を通す	2 時間	学年を想定して今 までの教材を使っ た指導案が書けた か考察し感想を書 く	2 時間
27	模擬授業の実践① 各自の作成し た低学年の指導案を元にして実践 する	低学年用の指導案 に目を通す	2 時間	指導案を元に実践 できたかを考察し 感想を書く。	2 時間
28	模擬授業の実践② 各自の作成し た中学年の指導案を元にして実践 する	中学年用の指導案 に目を通す	2 時間	指導案を元に実践 できたかを考察し 感想を書く。	
29	模擬授業の実践③ 各自の作成し た高学年の指導案を元にして実践 する	高学年用の指導案 に目を通す	2 時間	指導案を元に実践 できたかを考察し 感想を書く。	2 時間

	30	模擬授業を振り返り、互いに良いところ、改善点など評価してみる 「何のために図画工作科があるのか」を考え、学習評価にどう生かすかを理解する	ファイルを整理して実際の授業に使用できそうな教材を選ぶ	2 時間	作品を整理する。	2 時間
成 績 評 価	「作品」(作品の完成度・技能・発想力)50% 「課題・レポート」(理解・思考力)20% 「授業への取り組み」(意欲・関心・態度・表現力)30%					
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法	毎回の考察・感想文の提出 前半、後半の作品ファイルを作成し、毎回振り返りを行う。後に返却する。					
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト：『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説 図画工作編（平成 29 年 7 月 文部科学省）』日本文教出版、					
メ ッ セ ー ジ な ど	図画工作は、子どもの「心」を育てる大切な科目であり、アクティブラーニングその ものといえます。子どもの素直な表現を認め、評価できる教師を育成します。 小学校教諭二種状：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1)-1) 学習指導要領 における図画工作科 の目標及び主な内容 並びに全体構造を理解している。	ほぼ完璧に理解、説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解、説明できる。	全く理解できていない。 説明できない。	課題・レポート (理解・思考力)	4%
(1)-2) 個別の学習内容 について指導上の 留意点を理解している。	ほぼ完璧に理解、説明できる。	大きな間違いがなく理解、説明できる。	間違いはいくつかあるが理解説明できる。	全く理解できていない。	課題・レポート (理解・思考力)	4%
(1)-3) 図画工作科の 学習評価の考え方を 理解している。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが理解し、説明できる。	全く理解できていない。 説明できない。	課題・レポート (理解・思考力)	4%
(1)-4) 図画工作科の 背景となる学問領域 との関係を理解し、 教材研究に活用する ことができる。	ほぼ完璧に理解し、教材研究を活用した作品制作ができる。	大きな間違いがなく理解し、教材研究を活用し作品制作できる。	間違いはいくつかあるが、理解し、教材研究を活用した作品制作ができる。	全く理解できない。教材研究を活用した作品制作ができない。	作品作成 (作品の完成度・ 技能・発想力)	15%
	ほぼ完璧に意欲・関心を持って取り組んでいる。	大きな間違いもなく意欲・関心を持って取り組んでいる。	間違いはいくつかあるが意欲・関心を持って取り組んでいる。	全く意欲・関心がなく、取り組めていない。	授業への取り組み (意欲・関心・態度・表現力)	10%
(2)-1) 子どもの認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解して模擬授業に取り組める。	ほぼ完璧に理解し、学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。	大きな間違いがなく、基本を理解し学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。	間違いはいくつかあるが基本を理解し学年や発達を視野に入れた教材選択ができる。	全く理解できていない。 学年や発達を視野に入れた教材選択ができない。	作品作成 (作品の完成度・ 技能・発想力)	15%

	ほぼ完璧に意欲・関心を持って取り組んでいる。	大きな間違いもなく意欲・関心を持って取り組んでいる。	間違いはいくつかあるが意欲・関心を持って取り組んでいる	全く意欲・関心がなく、取り組めていない。	授業への取り組み(意欲・関心・態度・表現力)	10%
(2)-2) 図画工作科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し授業設計や模擬授業に活用することができる。	ほぼ完璧に教材、用具を効果的に活用した作品制作ができています。	大きな間違いがなく教材、用具を活用した作品制作ができています。	間違いは少しあるが教材、用具を活用した作品制作ができています。	全く教材、用具を活用した作品制作ができていない。	作品作成 (作品の完成度・技能・発想力)	10%
	ほぼ完璧に意欲・関心を持って取り組んでいる。	大きな間違いもなく意欲・関心を持って取り組んでいる。	間違いはいくつかある意欲・関心を持って取り組んでいる	全く集中力がなく、取り組めていない。	授業への取り組み(意欲・関心・態度・表現力)	10%
(2)-3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に指導案を書くことができる。	大きな間違いがなく指導案を書くことができる。	間違いはいくつかあるが、指導案を書くことができる。	全く指導案を書けない。	課題・レポート(理解・思考力)	4%
	ほぼ完璧に指導案に合った教材作品制作ができる。	大きな間違いがなく指導案に合った教材作品ができる。	間違いはいくつかあるが指導案に合った教材作品ができる。	全く指導案に合った教材作品ができない。	作品作成 (作品の完成度・技能・発想力)	10%
(2)-4) 模擬授業の振り返り、授業改善の視点を身に付けている。	ほぼ完璧に振り返りができている。	大きな間違いがなく、振り返りができている。	間違いはいくつかあるが、振り返りができている。	全く振り返りができない。	課題・レポート(理解・思考力)	4%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
体育科指導法 Teaching Methods of Physical Education		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2025	2 年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家教員
演習	2	必修	大本 学司			○
実務家教員の詳細	中学校保健・体育科教員としての実務経験を生じ、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	今日の社会及び将来の社会において求められている『スポーツの主人公』として、「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する」ために必要な資質・能力を、学習指導要領に示された体育教科の学習内容を中心に理解する。また、それを子どもたちが身につけるための学習指導理論を実践的に学修し、実践できる基礎的な資質・能力を理解する。					
到達目標	(1)-1 今日及び将来の社会とスポーツの価値について述べることができる。					
	(1)-2 学習指導要領の目標について説明できる。					
	(1)-3 学習指導要領の内容について説明できる。					
	(2)-1 各学習内容の指導上の留意点を挙げることができる。					
	(2)-2 体育教科の評価の在り方について述べることができる。					
	(3)-1 スポーツそれ自体の面白さに基づいた取り組みの必要性を理解できる					
	(3)-2 スポーツを行うための必要条件について理解し説明できる。					
	(3)-3 器械運動及び陸上競技（短・長距離走）特有の面白さを理解し、授業計画作成ができる。					
	(3)-4 器械運動及び陸上競技（短・長距離走）の基礎技術を理解し、授業計画作成ができる。					
	(4)-1 「目的・目標―内容―教材―方法―評価の統一」の意味を理解し、授業計画案を作成できる。					
(4)-2 自分で作成した授業計画を 1)に基づき検討することができる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	スポーツの価値について（討論） 学習指導要領「体育教科」の読み方			配布資料を読み返す。	2 時間
	2	学習指導要領「体育教科」の目標と現代社会について	学習指導要領を体育科の目標について読んでおく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	3	学習指導要領「体育教科」の学年別にみる内容について	学習指導要領を体育科の内容について読んでおく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間

4	学習指導要領「体育教科」の内容と指導上の留意点	学習指導要領を体育科の内容の取り扱いについて読んでおく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
5	自分達が受けてきた「体育教科」を振り返る（意見交換及び報告）	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
6	体育教科の授業計画をつくるときの基礎知識	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
7	器械運動（マット運動）の特質と基礎技術とは何かについて	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
8	器械運動（マット運動）の基礎技術と運動学習法について①	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
9	器械運動（マット運動）の基礎技術と運動学習法について②	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
10	表現としてのマット運動（連続技の特質）	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
11	マット運動の連続技の構成の違いによる感覚の違い（意見交換及び報告）	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
12	連続技づくりの技術習得のための指導法の検討①（グループでの活動）（ICT の活用）	前回の資料を読んで復習しておく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
13	連続技づくりの技術習得のための指導法の検討②（グループでの活動）（ICT の活用）	指導案の作成をする。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
14	連続技の発表および指導法への気づきの共有（報告）①（ICT の活用）	指導案の作成をする。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
15	器械運動のマット運動の評価方法についての検討	指導案の作成をする。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	「豊かなスポーツライフの実現」を視点とした小学校での体育教科の授業の検討（意見交換）	学習指導要領を体育科の目標について読んでおく。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
17	学習指導要領体育教科における陸上競技（短・長距離走）目標及び内容について	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
18	短距離走の基礎技術と指導法の検討	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
19	短距離走を科学的に考察するーデータの収集とその意味ー（私の 50m 走）	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
20	短距離走の技術習得のためのグループ学習（情報機器の使用の検討）	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
21	ペースを維持するための方法の検討①（グループによる検討）指導案の作成	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間

	22	ペースを維持するための方法の検討②（グループによる検討）指導案の作成	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	23	ペースを維持するための方法の検討③（グループによる検討）指導案の作成	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	指導案の作成をする。	2 時間
	24	距離を伸ばしたときのペースと心拍数と心理的運動強度の関係	指導案の作成と実践。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	25	気持ちよく走るための条件を探る①	指導案の作成と実践。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	26	気持ちよく走るための条件を探る②	指導案の作成と実践。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	27	保健の授業（体きづき）と実践に学ぶ①	指導案の作成をする。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	28	保健の授業（体きづき）と実践に学ぶ②	指導案の作成をする。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	29	様々な運動・スポーツの歴史（運動文化）	自身の指導案を見直す。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
	30	授業計画作成における「目的・目標－内容－教材－方法－評価の統一」という視点と評価の観点	前回の資料を読んで復習する。	2 時間	授業の要点をまとめる。	2 時間
成 績 評 価	授業への取り組み（30%）、グループワーク・グループ討議（30%）、指導案（30%）課題・レポート（10%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	各授業でレポートをした場合は、翌週にコメントを付けて返却する。また授業の検討会や意見交換会では授業内でフィードバックをする。（形成的評価）					
テキストおよび参考文献	『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説 体育編（平成 29 年 7 月 文部科学省）』授業中に適時資料を配付する。					
メッセージなど	実践と理論（身体を動かして実践しながら、考えるということ）を大切に、みんなで学び合える環境をつくりましょう。 小学校教諭二種状：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1)今日及び将来の社会とスポーツの価値について述べることができる。	スポーツの価値について今日の状況を踏まえて考えを述べられる。	スポーツの価値について資料などを参考に考えを述べられる。	自分なりの経験的な考えを述べるができる。	スポーツの価値について述べるができない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%
(1)-2)学習指導要領の目標について説明できる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%
(1)-3)学習指導要領の内容について説明できる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%
(2)-1)各学習内容の指導上の留意点を挙げるができる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	説明できていない。	指導案 (思考力・判断力・創造性)	10%
(2)-2)体育教科の評価の在り方について述べるができる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、述べられる。	述べられていない。	グループワーク・グループ討議 (知識・理解・思考力・判断力)	15%
(3)-1)運動・スポーツそれ自体の面白さに基づいた取り組みの必要性を理解できる	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (知識・理解・思考力・判断力)	15%
(3)-2)運動・スポーツを行うための必要条件について理解し説明できる。	自分の言葉で説明できるほど理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (思考力・判断力・創造性)	10%
(3)-3)器械運動及び陸上競技(短・長距離走)特有の面白さを理解し、授業計画作成ができる。	マット運動それ自体の面白さを押さえた授業計画ができる。	マット運動の面白さを自分の言葉で説明できるほど理解している。	マット運動の面白さの知識を知る程度で理解している。	理解できていない。	指導案 (知識・理解・思考力・判断力・創造性)	5%
(3)-4)器械運動及び陸上競技(短・長距離走)の基礎技術を理解し、授業計画作成ができる。	短距離走・長距離走それ自体の面白さを押さえた授業計画ができる。	短距離走・長距離走の面白さを自分の言葉で説明できるほど理解している。	短距離走の面白さの知識を知る程度で理解している。	理解できていない。	指導案 (知識・理解・思考力・判断力・創造性)	5%
(4)-1)「目的・目標—内容—教材—方法—評価の統一」の意味を理解し、授業計画案を作成できる。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し作成できる。	理解できていない。	指導案 (知識・理解・思考力・判断力・創造性)	5%
(4)-2)自分で作成した授業計画を 1)に基づき検討することができる。	十分に検討できる。	ある程度検討できる。	間違いはあるが、検討できる。	検討できていない。	指導案 (表現力・創造性・協働性・問題解決力)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
家庭科指導法 Teaching Methods of Home Economics		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2026	2 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	三時 貴久子			○
実務家教員 の詳細	小学校教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	小学校学習指導要領家庭における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習内容について他教科との関連や歴史的背景について理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。					
到達目標	(1)-1) 学習指導要領における家庭の目標及び内容並びに全体構造を理解している。					
	(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を説明できる。					
	(1)-3) 家庭の学習内容の理解や実技に関する評価の考え方について説明できる。					
	(1)-4) 他教科との関連や歴史的背景について理解し、教材研究に活用することができる。					
	(2)-1) 子供の認識・思考・学力、家庭の状況等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。					
	(2)-2) 情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。					
	(2)-3) 様々な指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。					
	(2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を身に付けている。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	家庭科教育の意義と歴史について理解する。	テキスト p13 から 15 を読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	2	指導要領に示された家庭の目標及び内容構成を理解する。	指導要領解説 p12 から 16 までを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	3	指導計画の作成・内容の取り扱いについて理解する。	指導要領解説 p71 から 79 までを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	4	小学校家庭科における子供の家庭理解及び家庭との連携の重要性について理解する。	指導要領解説 p80 から 83 までを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2 時間
	5	ICT を活用した「A 家族・家庭生活」について実践上の留意点を学ぶ。乳幼児の育児や高齢者の介護に関する映像を用いた授業の展開を学ぶ。	指導要領解説 p20 から 31 までを読んでおく。	2 時間	実践上の留意点と映像を用いた授業の展開についてまとめる。	2 時間

	6	ICTを活用した「B衣食住の生活」について、実践上の留意点（１）を学ぶ。－包丁、アイロン、ミシン等の用具の安全な使い方を指導するために、ICTを使用し映像資料を作成する方法を学ぶ。	児童用教科書の該当ページを読み、指導上のポイントをまとめておく。	2 時間	資料作成上の留意点をまとめる。	2 時間
	7	ICTを活用した「B衣食住の生活」について、実践上の留意点（２）を学ぶ。－道具の扱い方をタブレットで撮影しあい、映像を見て技能を高めようとするための指導を学ぶ。	児童用教科書の該当ページを読み、実践上の留意点をまとめておく。	2 時間	映像撮影上の留意点をまとめる。	2 時間
	8	ICTを活用した「C消費生活・環境」について、実践上の留意点を学ぶ。－情報通信機器を用いて生活・環境の問題を調べ、情報を収集・整理し、発表するまでを指導する方法を学ぶ。	児童用教科書の該当ページを読み、実践上の留意点をまとめておく。	2 時間	指導の手順をまとめる。	2 時間
	9	指導案作成の手順及び評価の意義や方法を理解する。	指導案作成について、配付資料を読んでおく。	2 時間	指導案作成の手順評価の意義、方法をまとめる。	2 時間
	10	「A家族・家庭生活」について模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用いて資料の準備を行う。	指導要領解説と児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	学習指導案の再考を行い完成させる。	2 時間
	11	模擬授業の実践と振り返り・評価を行う。	模擬授業の発問板書計画を準備する。	2 時間	模擬授業後の検討会で学んだことをまとめる。	2 時間
	12	「B衣食住の生活」について模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用いて資料の準備を行う。	指導要領解説と児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	学習指導案の再考を行い完成させる。	2 時間
	13	模擬授業を実践し、振り返りと評価を行う。	模擬授業の発問板書計画を準備しておく。	2 時間	模擬授業後の検討会で学んだことをまとめる。	2 時間
	14	「C消費生活・環境」について模擬授業の教材を選び、学習指導案の作成、パソコンを用いて資料準備を行う。	指導要領解説と児童用教科書の該当ページを読んでおく。	2 時間	学習指導案の再考を行い完成させる。	2 時間
	15	模擬授業の実践を録画した映像をもとに、振り返りと評価を行う。	模擬授業の発問板書計画を準備しておく。	2 時間	検討会で学んだことをまとめる。	2 時間
成 績 評 価		定期試験（35%）、指導案（18%）、教材作成（17%）、授業への取り組み（15%）、グループワーク・グループ討議（15%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		提出物について、評価できる点や改善点を示す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：なし（適宜プリント配布） 参考文献：『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説 家庭編（平成 29 年 7 月 文部科学省）』東洋館出版				
メ ッ セ ー ジ		子供が自分の家庭生活を見つめ直し、改善し、よりよい生活者としての歩みができるようにするための家庭科の授業はどうあるべきかを一緒に学びましょう。 小学校教諭二種免許状：選択必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 学習指導要領における家庭の目標及び内容並びに全体構造を理解している。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は理解し説明できる。	理解できていない。	定期試験 (知識・理解)	20%
(1)-2) 個別の学習内容について指導上の留意点を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-3) 家庭の学習内容の理解や実技に関する評価の考え方について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は説明できる。	説明できていない。	定期試験 (理解)	5%
(1)-4) 他教科との関連や歴史的背景について理解し、教材研究に活用することができる。	ほぼ完璧に理解し、活用できる。	大きな間違いがなく理解し、活用できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は理解し活用できる。	理解が不足し、活用できていない。	指導案 (理解)	3%
(2)-1) 子供の認識・思考・学力、家庭の状況等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。	実態把握の重要性を十分理解し、授業設計できている。	実態把握の重要性を理解し、授業設計できる。	実態把握の重要性は理解できているが授業設計に十分生かしていない。	実態把握の重要性を視野に入れた授業設計ができない。	指導案 (理解・判断力)	5%
(2)-2) 情報機器及び教材の効果的な活用方法を理解し、授業設計に活用することができる。	ICT等の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用できる。	ICT等の活用方法を理解し授業設計に活用できる。	ICT等の活用方法は理解しているが、授業設計に十分活用できていない。	ICT等を活用した授業設計ができない。	指導案 (理解・創造性)	5%
	ICT等の効果的な活用方法を理解し授業設計に活用できる。	ICT等の活用方法を理解し授業設計に活用できる。	ICT等の活用方法は理解しているが、授業設計に十分活用できていない。	ICT等を活用した授業設計ができない。	教材作成 (理解・創造性)	10%
(2)-3) 様々な指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。	大きな間違いがなく理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。	理解が不十分な部分はあるが、授業設計と学習指導案を作成できる。	作成できていない。	指導案 (理解・思考力・表現力)	5%
	ほぼ完璧に理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。	大きな間違いがなく理解し、授業設計と学習指導案を作成できる。	理解が不十分な部分はあるが、授業設計と学習指導案を作成できる。	作成できていない。	教材作成 (理解・思考力・表現力)	7%
(2)-4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して授業改善の視点を身に付けている。	模擬授業の実践を行い、改善の視点を身に付けている。	模擬授業の実践を行い、授業改善の視点をほぼ身に付けている。	模擬授業の実践はできるが、改善点への意欲は不十分である。	模擬授業の実践も振り返りもできていない。	授業への取り組み (態度・思考力・表現力・技能)	15%
	模擬授業の実践を行い、改善の視点を身に付けている。	模擬授業の実践を行い、授業改善の視点をほぼ身に付けている。	模擬授業の実践はできるが、改善点への意欲は不十分である。	模擬授業の実践も振り返りもできていない。	グループワーク・グループ討議 (態度・思考力・表現力・技能)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別	
道徳の理論と指導法 Moral Theory and Teachin Method		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS1027		1 年次	後期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員	
演習	1	必修	西田 稔				○	
実務家教員 の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。							
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。						○	
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。						○	
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。						○	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。							
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。						○	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。						○	
概 要	学校における道徳教育の重要性の認識のもと、道徳の根本理念に基づいて確かな識見と展望をもった教育の推進ができる技量を養うため、学校の全教育活動を通じて行う道徳教育とその要としての役割を持つ道徳科の目標や内容、指導計画、基本的な指導過程や指導法等について学ぶ。これらを踏まえて教材研究、道徳科学習指導案の作成、模擬授業を行い、道徳科の実践的指導力を身に付ける。							
到達目標	(1)-1 道徳とはどのような学問であるかを説明することができる。 (1)-2 道徳と哲学及び儒教思想との関わり、学制発布以降の道徳教育の変遷、今日の社会における道徳的な課題等について概要を説明することができる。 (1)-3 道徳性の発達について理解を深め、児童の道徳性の発達特性について説明することができる。 (1)-4 道徳教育の目標と道徳科の目標や内容構成について理解を深め、目標相互の関連や達成方法について説明することができる。 (2)-1 道徳教育全体計画に基づく全教育活動を通じた道徳教育の意義を説明することができる。 (2)-2 指導の効果を高める道徳科における多様な指導方法とその意義を説明することができる。 (2)-3 教材の特性について理解を深め、道徳科の授業設計に生かすことができる。 (2)-4 基本形式に則って、自己の生き方についての考えを深める道徳科学習指導案を作成することができる。 (2)-5 道徳科における評価の意義や目的及び方法を理解し確たる理念に基づいて評価ができる。 (2)-6 互いに協力して道徳実践力を培う模擬授業を展開することができる。							
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容		予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	人間としての生き方を学ぶ道徳教育		テキスト序章を読んでおく。		2 時間	自分の道徳教育観をまとめる。	2 時間
	2	道徳教育の変遷		テキスト第 1 章を読んでおく。		2 時間	道徳教育の歴史的経緯をまとめる。	2 時間
	3	道徳性の発達と道徳教育		テキスト第 2 章を読んでおく。		2 時間	道徳性の発達特性を整理する。	2 時間

	4	道徳教育の目標及び内容	テキスト第3章を読んでおく。	2時間	目標の相互関連、内容の整理をする。	2時間
	5	全教育活動における道徳教育	テキスト第4章1～4を読んでおく。	2時間	全教育活動で行う方法をまとめる。	2時間
	6	道徳教育計画の策定	テキスト第4章の5を読んでおく。	2時間	作成の意義と要点をまとめる。	2時間
	7	道徳科の指導過程と教材・発問	テキスト第5章を読んでおく。	2時間	基本過程に沿った指導の要点や発問についてまとめる。	2時間
	8	道徳科における評価	テキスト第6章を読んでおく。	2時間	評価の意義、対象、方法をまとめる。	2時間
	9	道徳科学習指導案の作成の仕方	テキスト第7章及び道徳科指導書の関連部分を読んでおく。	2時間	基本形式、項目、項目ごとの記載の要点をまとめる。	2時間
	10	道徳科学習指導案の作成（グループ研究）—低学年教材—「はしの上のおおかみ」	テキスト第8章を読んで、銘々が所定様式に授業シナリオを作成しておく。	3時間	協議をもとに、銘々が道徳科学習指導案「はしの上のおおかみ」を作成する。	4時間
	11	授業説明（グループ代表）及び研究協議	役割分担に従い、発表内容やその意図について考えをまとめておく。	2時間	協議をもとに、指導案を見直し、完成させる。	2時間
	12	道徳科学習指導案の作成—中学年教材—「学級文庫」 —高学年教材—「転校生がやってきた」	それぞれの教材について学習指導案の原案を作成する。	3時間	指導案を作成する。（模擬授業実施分、模擬授業省略分）	4時間
	13	模擬授業の実施	指導案作成と模擬授業の準備をする。	2時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2時間
	14	模擬授業の実施	指導案作成と模擬授業の準備をする。	2時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2時間
	15	模擬授業の実施	指導案作成と模擬授業の準備をする。	2時間	模擬授業の反省事項をまとめる。	2時間
成績評価		定期試験（14%）、指導案（26%）、授業への取り組み（6%）、グループワーク・グループ討議（24%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業内容の整理メモや課題プリントへコメントしたり、気づきを記入したりして返却する。 模擬授業に関しては、指導案作成中のアドバイスや指導案へのコメントの記入、授業講評等を通じて行う。試験については、ループリック評価の結果を伝える。				
テキストおよび参考文献		テキスト：『道徳教育の研究』山口短期大学 『小学校指導要領（平成29年告示）解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）』 『小学校指導要領（平成29年告示）解説 小学校特別の教科 道徳編（平成29年7月 文部科学省）』				
メッセージなど		特別な教科として位置づけられ、教科書の導入も確定するなど、道徳教育に対する国民の関心も一層高まっています。人格形成という教育の根幹に直接関わるだけに指導者の資質や技量の向上がより一層強く求められています。 小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 道徳とはどのような学問であるかを説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく、説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	2%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく、説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み (知識・理解)	1%
(1)-2) 道徳と哲学及び儒教思想との関わり、学制発布以降の道徳教育の変遷、今日の社会における道徳的な課題等について概要を説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく、説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	1%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく、説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み (知識・理解)	1%
(1)-3) 道徳性の発達について理解を深め、児童の道徳性の発達特性について説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく、説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	2%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく、説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み (知識・理解)	1%
(1)-4) 道徳教育の目標と道徳科の目標や内容構成について理解を深め、目標相互の関連や達成方法について説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく、説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	1%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく、説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み (知識・理解)	1%
(2)-1) 道徳教育全体計画に基づく全教育活動を通じた道徳教育の意義を説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく、説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	2%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく、説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み (知識・理解)	1%
(2)-2) 指導の効果を高める道徳科における多様な指導方法とその意義を説明することができる。	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく、説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	1%
	ほぼ完璧に説明することができる。	大きな誤りなく、説明することができる。	誤りはあるが、大筋については説明することができる。	説明することができない。	授業への取り組み (知識・理解)	1%

(2)-3) 教材の特性について理解を深め、道徳科の授業設計に生かすことができる。	ほぼ完璧に教材の特性を生かした授業設計ができる。	大きな誤りなく教材の特性を生かした授業設計ができる。	特性を生かしきれていないが授業設計の基本はできる。	教材の特性を生かした授業設計ができない。	指導案 (意欲・思考力・表現力・創造性・協働性)	13%
	ほぼ完璧に教材の特性を生かした授業設計ができる。	大きな誤りなく教材の特性を生かした授業設計ができる。	特性を生かしきれていないが授業設計の基本はできる。	教材の特性を生かした授業設計ができない。	グループワーク・グループ討議 (意欲・思考力・表現力・創造性・協働性)	12%
(2)-4) 基本形式に則って、自己の生き方についての考えを深める道徳科学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に作成できる。	大きな誤りなく作成できる。	いくつかの課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。	作成できない。	指導案 (意欲・思考力・表現力・創造性・協働性)	13%
	ほぼ完璧に作成できる。	大きな誤りなく作成できる。	いくつかの課題はあるが、基本を踏まえて作成できる。	作成できない。	グループワーク・グループ討議 (意欲・思考力・表現力・創造性・協働性)	12%
(2)-5) 道徳科における評価の意義や目的及び方法を理解し確たる理念に基づいて評価ができる。	ほぼ完璧に道徳科における評価の仕方が説明できる。	大きな誤りなく道徳科における評価の仕方が説明できる。	道徳科における評価の仕方の大筋が説明できる。	道徳科における評価の仕方が説明できない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-6) 互いに協力して道徳的实践力を培う模擬授業を展開することができる。	ほぼ完璧に模擬授業が展開できる。	若干の検討課題はあるが、基本を踏まえた模擬授業が展開できる。	問題点はあるが、最低限の基本を踏まえた模擬授業が展開できる。	模擬授業を展開することができない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (意欲・思考力・判断力・表現力・創造性)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
総合的な学習の時間の指導法 Teaching Methods of Period for Integrated Studies		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2028	2 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	川上 認			○
実務家教員 の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	総合的な学習の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく問題を解決し、自己の生き方を考えていく資質・能力の育成を目指す。 各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、広範な事象を多様な角度から見て捉え、実社会・実生活の課題を探究する総合的な学びを実現するための指導の在り方を身に付ける。					
到達目標	(1)-1) 総合的な学習の時間の教育課程における役割を説明できる。 (1)-2) 総合的な学習の時間の目標や内容を説明できる。 (2)-1) 総合的な学習の時間の年間計画作成上の留意点が説明できる。 (2)-2) 総合的な学習の時間の単元計画作成上の留意点が説明できる。 (2)-3) 総合的な学習の時間の指導事例を具体的に述べることができる。 (3)-1) 総合的な学習の時間の評価上の留意点を述べることができる。 (3)-2) 総合的な学習の時間の評価の多様性を述べることができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	総合的な学習の時間の意義と役割を学ぶ	要領解説第 1 章を読む	1 時間	意義と役割をまとめる	1 時間
	2	総合的な学習の時間の目標を理解する	要領解説第 2 章 1 節読む	1 時間	目標を箇条書きする	1 時間
	3	総合的な学習の時間で育成を目指す資質・能力を理解する	要領解説第 2 章 2 節を読む	1 時間	育てたい資質能力を表にする	1 時間
	4	各学校で定める総合的な学習の時間の目標と内容を理解する	要領解説第 3 章 1, 2 節を読む	1 時間	各学校に適する配慮点をまとめる	1 時間
	5	児童や地域の実態、学校の特色に応じた探究課題を理解する	要領解説第 3 章 3 節を読む	1 時間	課題達成のための資質能力を列記する	2 時間

	6	年間指導計画、単元計画作成上の留意点を学ぶ	要領解説第 4 章を読む	1 時間	作成上の配慮事項をまとめる	1 時間
	7	模擬的な指導計画を作成する	指導計画の要素を調べる	1 時間	配慮事項と照合してみる	1 時間
	8	総合的な学習の時間の特質を生かした指導事例を学ぶ	テキスト第 1 章を読む	1 時間	本地域に適した教材、課題を考える	1 時間
	9	学習指導事例①考えるための技法を活用した学習活動	テキスト第 2 章を読む	1 時間	技法の一覧表を作る	1 時間
	10	学習指導事例②情報活用能力を生かした学習活動	テキスト第 3 章を読む	1 時間	タブレットを利用してみる	2 時間
	11	学習指導事例③体験活動を重視した学習活動	テキスト第 4 章を読む	1 時間	体験活動の意義をまとめる	1 時間
	12	学習指導事例④地域教材や環境を生かした学習活動	テキスト第 5 章を読む	1 時間	人材バンクを作成する	2 時間
	13	学習指導事例⑤調査活動を重視した学習活動	テキスト第 6 章を読む	1 時間	調査方法の一覧表を作る	1 時間
	14	総合的な学習の時間の評価活動上の留意点を理解する	要領解説第 8 章を読む	1 時間	留意点をまとめる	1 時間
	15	児童の学習状況評価、教師や学校の評価の在り方を学ぶ	要領解説第 9 章を読む	1 時間	評価方法を列記する	1 時間
成 績 評 価		定期試験 (20%)、課題・レポート (40%)、指導案 (20%)、発表・プレゼンテーション (10%)、グループワーク・グループ討議 (10%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		個人評価や相互評価、活動の成果物等でフィードバックし、学習を深める。				
テキストおよび参考文献		『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編（平成 29 年 7 月 文部科学省）』東洋館出版				
メッセージなど		教科の学習の枠を超えた多様で創造的で、共に学ぶ楽しい授業展開の計画・実践力を身に付けよう。 小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1)総合的な学習の時間の教育課程における役割を説明できる。	ほぼ確実に役割を説明できる。	十分に役割を説明できる。	おおむね役割を説明できる。	ほとんど役割を説明できない。	定期試験 (知識)	10%
(1)-2)総合的な学習の時間の目標を説明できる。	ほぼ確実に目標を説明できる。	十分に目標を説明できる。	おおむね目標を説明できる。	ほとんど目標を説明できない。	定期試験 (知識)	10%
	ほぼ確実に目標を説明できる。	十分に目標を説明できる。	おおむね目標を説明できる。	ほとんど目標を説明できない。	課題・レポート (理解)	10%
(2)-1)総合的な学習の時間の年間計画作成上の留意点が説明できる。	ほぼ確実に作成上の留意点が説明できる。	十分に作成上の留意点が説明できる。	おおむね作成上の留意点が説明できる。	ほとんど作成上の留意点が説明できない。	課題・レポート (理解)	10%
(2)-2)総合的な学習の時間の単元計画作成上の留意点が説明できる。	ほぼ確実に作成上の留意点が列記できる。	十分に作成上の留意点が列記できる。	おおむね作成上の留意点が列記できる。	ほとんど作成上の留意点が列記できない。	課題・レポート (理解)	20%
(2)-3)総合的な学習の時間の指導事例を具体的に述べることができる。	ほぼ確実に指導法を具体的に述べることができる。	十分に指導事例を具体的に述べることができる。	おおむね指導事例を具体的に述べることができる。	ほとんど指導事例を具体的に述べるできない。	指導案 (表現力)	20%
(3)-1)総合的な学習の時間の評価上の留意点を述べることができる。	ほぼ確実に評価上の留意点を述べることができる。	十分に評価上の留意点を述べることができる。	おおむね評価上の留意点を述べることができる。	ほとんど評価上の留意点を述べるできない。	発表・プレゼンテーション (表現力)	10%
(3)-2)総合的な学習の時間の評価の多様性を述べることができる。	ほぼ確実に評価の多様性を述べることができる。	十分に評価の多様性を述べることができる。	おおむね評価の多様性を述べることができる。	ほとんど評価の多様性を述べるできない。	グループワーク・グループ討議 (表現力)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
特別活動の指導法 Teaching Methods of Extra-Curricular Activities		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2029	2 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	川上 認			○
実務家教員 の詳細	小学校教諭としての実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	学校教育全体の中で行われる特別活動の意義や目標を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の3つの視点を持ち、学年の違いによる所属集団や活動の変化や各教科や道徳のとの関連及び他の教職員・家庭や地域との連携等、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。					
到達目標	(1)-1 改定の基本方針や改善された内容を改定前と対比できる (1)-2 新学習指導要領による特別活動の目標や内容を説明できる (1)-3 特別活動の特質を列記できる (1)-4 学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標や内容を説明できる (2)-1 児童の発達段階や取り巻く環境に配慮した指導の在り方を説明できる (2)-2 特別活動の全体・年間指導計画、指導案が模擬作成できる (2)-3 話し合い活動や異集団との交流活動が計画・実践できる (2)-4 特別活動における取組の評価・改善活動の方法を説明できる					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	特別活動の改訂の基本方針や改善点を理解する	要領解説第 1 章を読む	1 時間	改善点をシートにまとめる	1 時間
	2	特別活動の目標や内容を理解する	要領解説第 2 章 1 節を読む	1 時間	振り返りシートにまとめる	1 時間
	3	特別活動の指導における他教科と異なる特質を調べる	要領解説第 2 章 2 節を読む	1 時間	テキスト 8～9P を読む	1 時間
	4	学級活動の目標と内容(1)を理解する	要領解説第 3 章を読む	1 時間	内容(1)表にまとめる	1 時間
	5	学級活動の目標と内容(2)を理解する	内容(1)(2)の分類表をつくる	2 時間	内容(2)表にまとめる	1 時間

	6	児童会活動、クラブ活動目標と内容を理解する	要領解説第 3 章 2 節 3 節を読む	1 時間	テキスト 19～22P を読む	1 時間
	7	学校行事の目標と内容を理解する	要領解説第 3 章 4 節を読む	1 時間	テキスト 23～28P を読む	1 時間
	8	児童や家庭、学校、地域の実態に即した指導の在り方を理解する	要領解説第 4 章 1 節を読む	1 時間	要領解説付録 3 を読む	1 時間
	9	特別活動の全体・年間指導計画・指導案の作成の仕方を学ぶ	全体計画の項目を列記する	1 時間	振り返りシートに記入する	1 時間
	10	話し合い活動の指導計画を作成する	活動形態を調べる	1 時間	テキスト 14～18P を読む	1 時間
	11	話し合い活動の指導実践する	指導案を作成する	3 時間	指導案を修正する	1 時間
	12	交流活動の実践計画を立てる	挨拶状を書く	2 時間	持参物を作る	2 時間
	13	交流活動を実践する	活動の事前準備をする	1 時間	お礼状を書く	1 時間
	14	特別活動の評価の在り方を理解する	要領解説第 4 章 5 節を読む	1 時間	評価表を作る	1 時間
	15	ガイダンスやカウンセリング（教育相談）の必要性を理解する	要領解説第 4 章 2 節を読む	1 時間	ガイダンスについて調べる	1 時間
成 績 評 価		定期試験（20%）、課題・レポート（30%）、指導案（30%）、発表・プレゼンテーション（20%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		過去の学習による累積した活動成果物の振り返りを通してフィードバックする				
テキストおよび参考文献		『小学校指導要領（平成 29 年告示）解説 特別活動編（平成 29 年 7 月 文部科学省）』東洋館出版社、『特別活動の研究』山口短期大学				
メ ッ セ ー ジ な ど		教科の学習活動とは異なる特別活動の趣旨に鑑み、よりよい仲間づくりと楽しい学級・学校づくりを目指す姿勢で受講してほしい。 小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1)改定の基本方針や改善された内容を改定前と対比できる	ほぼ確実に方針や内容を対比できる	十分に方針や内容を対比できる	おおむね方針や内容を対比できる	まったく方針や内容を対比できない	課題・レポート(知識)	10%
(1)-2)新学習指導要領による特別活動の目標や内容を説明できる	ほぼ確実に目標や内容を説明できる	十分に目標や内容を説明できる	おおむね目標や内容を説明できる	まったく目標や内容を説明できない	発表・プレゼンテーション(理解)	10%
(1)-3)特別活動の特質を列記できる	ほぼ確実に特質を列記できる	十分に特質を列記できる	おおむね列記できる	まったく列記できない	定期試験(理解)	10%
(1)-4)学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事の目標や内容を説明できる	ほぼ確実に目標や内容を説明できる	十分に目標や内容を説明できる	おおむね目標や内容を説明できる	まったく目標や内容を説明できない	定期試験(理解)	10%
	ほぼ確実に目標や内容を説明できる	十分に目標や内容を説明できる	おおむね目標や内容を説明できる	まったく目標や内容を説明できない	課題・レポート(理解)	10%
(2)-1)児童の発達段階や取り巻く環境に配慮した指導の在り方を説明できる	ほぼ確実に実態に配慮した指導の在り方を説明できる	十分に実態に配慮した指導の在り方を説明できる	おおむね実態に配慮した指導の在り方を説明できる	まったく実態に配慮した指導の在り方を説明できない	発表・プレゼンテーション(意欲)	10%
(2)-2)特別活動の全体・年間指導計画、指導案が模擬作成できる	ほぼ確実に指導計画が作成できる	十分に指導計画が作成できる	おおむね指導計画が作成できる	まったく指導計画が作成できない	指導案(技能)	20%
(2)-3)話し合い活動や異集団との交流活動が計画・実践できる	ほぼ確実に交流活動が計画・実践できる	十分に交流活動が計画・実践できる	おおむね交流活動が計画・実践できる	まったく交流活動が計画・実践できない	指導案(技能)	10%
(2)-4)特別活動における取組の評価・改善活動の方法を説明できる	ほぼ確実に評価・改善活動の方法を説明できる	十分に評価・改善活動の方法を説明できる	おおむね評価・改善活動の方法を説明できる	まったく評価・改善活動の方法を説明できない	課題・レポート(創造性)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
外国語指導法 Teaching Methods of Foreign Language (English)		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2030	2 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	西村 浩子			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の学習、指導、評価に関する基本的な知識や指導技術を身に付ける。					
到達目標	(1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学区の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解している。 (2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解している。英語の基本的事項（音声・語彙・文構造・文法・正書法）について理解している。 (3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付けている。 (4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けている。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション、シラバスを参照し、評価方法などを確認する。 ・うた、チャンツの指導 ・英語で自己紹介をする。 ・フォニックス	シラバスを確認しておく うた・チャンツの指導の復習 英語で自己紹介を考える	2 時間	授業内容の復習	2 時間
	2	・うた、チャンツの実習	学年に適したうた、チャンツとその指導の研究	2 時間	授業内容の復習	2 時間
	3	・TPR、ジェスチャーを使用する活動、文字の指導	TPR、ジェスチャーを使用する活動、文字指導の復習	2 時間	授業内容の復習	2 時間
	4	・TPR、ジェスチャーを使用する活動、文字指導の実習	学 年 に 適 し た TPR、ジェスチャーの活動、文字指導の研究	2 時間	授業内容の復習	2 時間
5	・絵本と自己表現活動の指導	絵本と自己表現活動の指導の復習	2 時間	授業内容の復習	2 時間	

	6	・絵本と自己表現活動の実習	学年に適した絵本と自己表現活動の研究	2 時間	授業内容の復習	2 時間
	7	ワークシート、インタラクティブ活動の指導	ワークシート、インタラクティブな活動の復習	2 時間	授業内容の復習	2 時間
	8	ワークシート、インタラクティブ活動の実習	学年に適したワークシート、インタラクティブな活動の研究	2 時間	授業内容の復習	2 時間
	9	・模擬授業評価と模擬授業①（外国語活動）準備	外国語活動の模擬授業ができるように Let's Try! 1, 2 の内容を確認しておく	2 時間	授業内容の復習 模擬授業①の準備、課題提出	2 時間
	10	・模擬授業①-a 外国語活動 ・ピア評価とディスカッション	模擬授業①の準備	2 時間	模擬授業内容を振り返る 模擬授業①-b の準備	2 時間
	11	・模擬授業①-b 外国語活動 ・ピア評価とディスカッション	模擬授業①の準備	2 時間	模擬授業①を振り返る 改善点を考える	2 時間
	12	・模擬授業①の general review ・模擬授業②外国語の準備	外国語の模擬授業ができるように Here We Go! 6 の内容を確認しておく	2 時間	授業内容の復習 模擬授業②の準備	2 時間
	13	・模擬授業②-a 外国語 ・ピア評価とディスカッション	模擬授業②の準備	2 時間	模擬授業内容を振り返る 模擬授業②-b の準備	2 時間
	14	・模擬授業②-b 外国語 ・ピア評価とディスカッション	模擬授業②の準備	2 時間	模擬授業①を振り返る 改善点を考える	2 時間
	15	・模擬授業の general review ・本講義全体のふり返し	講義全体の復習	2 時間	講義全体の復習	2 時間
成 績 評 価		小テスト（20%）、指導案（20%）、各指導法の実習（20%）、模擬授業（30%）、授業への取り組み（10%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		それぞれに対してコメントをする。				
テキストおよび参考文献		"Let's Try 1" Let's Try! 2（児童用）、"One World Simles 6" 児童用教科書（教育出版社）、『新編 小学校英語教育法入門（樋口忠彦他）』研究社 ISBN 978-4-327-41098-8、『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 外国語活動・外国語編（平成 29 年 7 月文部科学省）』				
メ ッ セ ー ジ な ど		「外国語」の授業で学んだ理論に基づき、児童の学齢に適した指導ができるようになってほしいと願っています。活発な授業参加を期待します。 小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校外国語教育に係る背景知識や主教材、小・中・高等学区の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境について理解している。	ほぼ完璧に伝わっている	大きな間違いがなく、伝わっている	最低限は伝わっている	伝わっていない	小テスト (知識・理解・技能)	10%
	ほぼ完璧に伝わっている	大きな間違いがなく、伝わっている	最低限は伝わっている	伝わっていない	指導案 (思考力・判断力・表現力)	5%
(2) 児童期の第二言語習得の特徴について理解している。英語の基本的事項（音声・語彙・文構造・文法・正書法）について理解している。	ほぼ完璧に教えている	大きな間違いがなく教えている	最低限は教えている	教えていない。	小テスト (知識・理解・技能)	10%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違いがなく教えている	最低限は教えている	教えていない。	指導案 (知識・理解・技能)	5%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違いがなく教えている	最低限は教えている	教えていない。	指導法の実習 (知識・理解・技能)	10%
(3) 実践に必要な基本的な指導技術を身に付けている。	ほぼ完璧に指導している	大きな間違いがなく指導している	最低限は指導している	指導できない	指導法の実習 (知識・理解・技能)	5%
	ほぼ完璧に指導している	大きな間違いがなく指導している	最低限は指導している	指導できない	模擬授業 (技能・表現力・問題解決力)	15%
(4) 実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けている。	ほぼ完璧に教えている	大きな間違いがなく教えている	最低限は教えている	教えることができない	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違いがなく教えている	最低限は教えている	教えることができない	模擬授業 (技能・表現力・問題解決力)	15%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違いがなく教えている	最低限は教えている	教えることができない	指導法の実習 (知識・理解・技能)	5%
	ほぼ完璧に教えている	大きな間違いがなく教えている	最低限は教えている	教えることができない	指導案 (知識・理解・技能)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
教育方法学 Educational Method		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPBE1007	1 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1	選択	加藤 浩久・平田 睦美			○
実務家教員 の詳細	教育委員会指導主事、公立幼稚園園長としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	「学習指導」を念頭に、授業を成立させるための要件を「目標→方法→評価」の観点から学習し、教育方法にかかると理論と実践について学習する。併せて、学校教育の今日的な課題を意識した実践者としての素養と指導力を醸成する。 また、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身につける。子どもの発達や興味・関心に応じて授業・保育の内容を考え、教育者に必要とされる教材の工夫、授業・保育の展開、教師の働きかけと援助について学ぶ。					
到達目標	(1)-1 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。					
	(1)-2 これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の在り方を理解している。					
	(1)-3 学級・幼児及び児童、教員、教室・保育室、教材など授業、保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。					
	(1)-4 育みたい資質・能力と幼児・児童理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。					
	(2)-1 子どもへの働きかけや援助など、授業・保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。					
	(2)-2 子どもの発達に応じて授業・保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、授業・保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーションで、これから学んでいく方向性を理解する。「教育方法学とは何か」が明確になる。 (加藤・平田)	「今、なぜ教育方法学なのか」を読む。	2 時間	教育方法学の概要についてまとめる。	2 時間
	2	これまで多くの実践者が依拠してきた授業の基本原則と、教育方法学に流れるエスプリについて理解する。 (加藤)	自分が受けてきた授業の長所や短所を想起する。	2 時間	三つの精神を確認する。	2 時間
	3	現行の学習指導要領によって構築される教育課程の構造について理解する。 (加藤)	総則編を読む。	2 時間	教科と領域の関係を振り返る。	2 時間
	4	指導案作成の実際をもとに「授業をデザインすること」の意義について理解する。 (加藤)	「第 7 章」を読む。	2 時間	授業の一般的な構造について振り返る。	2 時間
	5	教材という視点から「授業のデザイン」について理解する。 (加藤)	「第 8 章」を読む。	2 時間	教材という概念の多様性を振り返る。	2 時間

	6	学習評価という視点から「授業のデザイン」について考える。(加藤)	「第9章」を読む。	2時間	目標に準拠した評価の理念と方法について振り返る。	2時間
	7	教科外活動という視点から「授業のデザイン」について考える。(加藤)	「第10章」を読む。	2時間	集団を育てることの効果の大きさを振り返る。	2時間
	8	教師（授業者）の特性という視点から「授業のデザイン」について考える。(加藤)	「第11章」を読む。	2時間	教師のスタンスによる効果と弊害についてまとめる。	2時間
	9	子どもの資質・能力を育むために、幼児教育で何が必要とされているかについて理解する。(平田)	幼稚園教育要領総則を読む。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
	10	遊びの重要性を理解し、遊びを充実させるための教師の援助や環境構成について理解する。(平田)	配布資料を読む。	2時間	ペープサート・パネルシアターを作成する	2時間
	11	授業・保育を展開するための教材について検討する。(平田)	配布資料を読む。	2時間	ペープサート・パネルシアターを作成する	2時間
	12	教材を作成し、その使い方や演じ方について学ぶ。(平田)	配布資料を読む。	2時間	ペープサート・パネルシアターの練習をする。	2時間
	13	子どもの実態に応じたねらいや内容を考え、指導案を立案し、模擬保育を行う。(平田)	配布資料を読む。	2時間	模擬保育の振り返りをまとめる。	2時間
	14	実践を通し、反省・評価・改善を反映させた指導計画の立案について理解する。(平田)	配布資料を読む。	2時間	指導計画についての考え方をまとめる。	2時間
	15	子どもに育みたい資質・能力に基づいた評価について学ぶ。また、全15回の学習内容を振り返り、教育方法についての理解を深める。(加藤・平田)	これまでの授業資料を読み直す。	2時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2時間
成績評価	定期試験（40%）、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ（30%）、指導案（30%）、					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。					
テキストおよび参考文献	テキスト：『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ、幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 参考文献：『小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）』東洋館出版、『小学校学習指導要領 解説 総則編（平成29年3月告示 文部科学省）』東洋館出版、文部科学省『幼稚園教育指導資料第5集』チャイルド本社					
メッセージ	教壇に立って役に立つ理論や方法を模擬授業的に学習する授業グループ討議やグループでの教材作成、模擬保育などの保育実践を行い、学生の主体的な学びを重視します。 小学校教諭二種免許状：必修科目 幼稚園教諭二種免許状：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 教育方法の基礎的理論と実践を理解している。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-2) これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の在り方を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-3) 学級・幼児及び児童、教員、教室・保育室、教材など授業、保育環境を構成するための基礎的な要件を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-4) 育みたい資質・能力と幼児・児童理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)-1) 子どもへの働きかけや援助など、授業・保育を行なう上での基礎的な技術を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、基本を身に付けている。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	身についていない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (技能・判断力・表現力)	30%
(2)-2) 子どもの発達に応じて授業・保育のねらいと内容を考え、教材・教具を準備し、授業・保育の展開を考えて指導計画案を作成することができる。	ほぼ完璧に作成できる。	子どもの発達にほぼ即した内容の指導案が作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本をおさえて作成できる。	作成できていない。	指導案 (思考力・表現力)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 Theory and method of education utilizing information and communication technology		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPBE1009	1 年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家教員
演習	1	選択	寺本 公思			
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	日々進化する ICT 機器を活用した授業実践は児童の情報活用能力の育成には不可欠である。そのため、教師を目指す学生は ICT 機器について十分理解する必要がある。この授業では情報通信機器を効果的に活用した学習指導や校務の推進と児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。					
到達目標	(1)様々な ICT 機器について理解する。 (2)授業の目標実現に最適な ICT を活用した授業計画を立てることができる。 (3)授業において ICT 機器を活用できる実践力を養う。					
授業内容と進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた、情報通信技術の活用について学ぶ	ICT 機器の活用について調べる	2 時間	ICT機器の活用についてまとめる	2 時間
	2	情報通信技術を効果的に活用した指導の実践例について学ぶ	ICT 機器を活用した指導例について調べる	2 時間	ICT機器を活用した指導例についてまとめる	2 時間
	3	情報通信技術を効果的に活用した教材の作成について学ぶ	ICT 機器を活用した教材について調べる	2 時間	ICT機器を活用した教材についてまとめる	2 時間
	4	ICT 機器を使った授業での情報モラルについて理解する	ICT 機器を使った情報モラルについて調べる	2 時間	ICT機器を使った情報モラルについてまとめる	2 時間
	5	教育情報セキュリティの重要性について学ぶ	教育での情報セキュリティについて調べる	2 時間	情報セキュリティについてまとめる	2 時間
	6	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践（国語・社会）	ICT 活用の指導実践について調べる（国語・社会）	2 時間	ICT機器活用の指導実践についてまとめる	2 時間

	7	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践(算数・理科)	ICT 活用の指導実践について調べる(算数・理科)	2 時間	ICT機器活用の指導実践についてまとめる	2 時間
	8	各教科の特性に応じた情報通信技術の活用における指導実践(外国語・総合的な学習の時間)	ICT 活用の指導実践について調べる(外国語・総合学習)	2 時間	ICT機器活用の指導実践についてまとめる	2 時間
	9	児童に情報通信機器の基本的な操作を身に付けさせるための指導法について学ぶ	ICT 機器の基本操作の指導法について調べる	2 時間	ICT機器の基本操作の指導法についてまとめる	2 時間
	10	特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用について学ぶ	特別の支援を必要とする児童に対する ICT 機器の活用について調べる	2 時間	特別の支援を必要とする児童に対する ICT機器の活用についてまとめる	2 時間
	11	遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を学ぶ	遠隔授業やオンライン教育について調べる	2 時間	遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムについてまとめる	2 時間
	12	学習履歴(スタディ・ログ)など教育データの活用について学ぶ	教育データの活用について調べる	2 時間	教育データの活用についてまとめる	2 時間
	13	情報通信技術を活用した統合型校務支援システムについて学ぶ	ICT を活用した校務支援システムについて調べる	2 時間	ICTを活用した校務支援システムについてまとめる	2 時間
	14	学校における情報通信技術環境の整備における外部人材や外部機関との連携について学ぶ	ICT 環境の整備における外部人材等の活用について調べる	2 時間	ICT環境の整備における外部人材等の活用についてまとめる	2 時間
	15	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進についてのまとめ	ICT 機器を効果的に活用した事例について調べる	2 時間	ICT機器を効果的に活用した事例についてまとめる	2 時間
成 績 評 価		授業への取り組み(30%)、プレゼンテーション(40%)、提出物(30%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		調査レポートなどの返却によるフィードバック。レポートなどは、ループリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：自作プリント、小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省)				
メッセージなど		ICT 機器の活用はこれからの教育にとって必須であり、様々な機器についての理解を深めてほしい。 小学校教諭に種免許状、幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 様々な ICT 機器について理解する。	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	課題・レポート (知識・理解)	10%
	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	授業への取り組み (知識・理解)	15%
(2) 授業の目標実現に最適な ICT を活用した授業計画を立てることができる	ICT 機器について十分に理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT 機器についてについて概ね理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT 機器について概ね理解ができており、事業計画を十分に実践することができない。	ICT 機器について理解が不十分であり、授業計画実践することが出来ない。	課題・レポート (関心・意欲・理解・思考力)	10%
	ICT 機器について十分に理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT 機器についてについて概ね理解ができており、授業計画を実践することができる。	ICT 機器について概ね理解ができており、事業計画を十分に実践することができない。	ICT 機器について理解が不十分であり、授業計画実践することが出来ない。	授業への取り組み (関心・意欲・理解・思考力)	15%
(3) 授業において ICT 機器を活用できる実践力を養う。	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	課題・レポート (関心・意欲・理解・思考力)	10%
	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	発表・プレゼンテーション等 (関心・意欲・理解・思考力)	40%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別		
情報処理実習 I Information Processing Practice I		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPIE1001		1 年次		前期		
講義・演習・実技・ 実習・実験		単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員		
実習		1	選択	中谷 滋						
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。							○		
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。									
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。									
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。									
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。									
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。							○		
概 要		日常生活や諸活動における情報活用の基本的な知識について理解するとともに、ワープロソフトウェアを利用した基本的・応用的文書の作成及び表計算ソフトウェアを利用した基本的な表や各種機能を利用した表の作成を学ぶ。								
到達目標		(1) 基本的・応用的文書の作成ができる。 (2) 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。								
授業内容 と 進め方		山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。								
		回	授業内容		予習内容		予習 時間	復習内容		復習 時間
		1	ガイダンス、情報の活用		テキスト 4 ページから 52 ページを読んでおく。		1 時間	文字入力の基本操作を復習する。		1 時間
		2	文書の作成①－基本的文書－		テキスト 53 ページから 59 ページを読んでおく。		1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。		1 時間
		3	文書の作成②－文字の修飾－		テキスト 60 ページから 62 ページを読んでおく。		1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。		1 時間
		4	文書の作成③－表の活用－		テキスト 63 ページから 76 ページを読んでおく。		1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。		1 時間
		5	文書の作成④－図形の活用－		テキスト 77 ページから 84 ページを読んでおく。		1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。		1 時間
		6	文書の作成⑤－画像の活用－		テキスト 85 ページから 91 ページを読んでおく。		1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。		1 時間
		7	文書の作成⑥－総合問題①－		ビジネス文書の作成①から⑤の復習をしておく。		1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。		1 時間
		8	文書の作成⑦－総合問題②－		ビジネス文書の作成①から⑤の復習をしておく。		1 時間	授業時の文書作成方法を復習する。		1 時間
		9	表の作成①－データ入力－		テキスト 96 ページから 111 ページを読んでおく。		1 時間	授業時の表の作成方法を復習する。		1 時間

	10	表の作成②ー基本的なワークシート編集ー	テキスト112ページから117ページを読んでおく。	1時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1時間
	11	表の作成③ー関数・セル参照・罫線・行の挿入ー	テキスト120ページから137ページを読んでおく。	1時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1時間
	12	表の作成④ーグラフー	テキスト142ページから148ページを読んでおく。	1時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1時間
	13	表の作成⑤ー条件判定と順位付け・検索関数ー	テキスト152ページから166ページを読んでおく。	1時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1時間
	14	表の作成⑥ー総合問題①ー	表の作成①から⑤の復習をしておく。	1時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1時間
	15	表の作成⑦ー総合問題②ー	表の作成①から⑤の復習をしておく。	1時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1時間
成績評価		定期試験(40%)、授業への取り組み(60%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		課題レポートや定期試験は、添削・採点をし原則として次の授業時に返却する。				
テキストおよび参考文献		テキスト：「30時間でマスター Office2016」 実教出版企画開発部 編 実教出版				
メッセージなど		小学校教諭二種免許状：必修科目 「人生100年時代の社会人基礎力」を身に付けていきましょう。				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 基本的・応用的文書の作成ができる。	ほぼ完璧に基本的・応用的文書の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的・応用的文書の作成ができる。	基本的文書の作成はできるが、応用的文書の作成ができていない。	基本的・応用的文書の作成ができていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度・技能・思考力)	30%
	ほぼ完璧に基本的・応用的文書の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的・応用的文書の作成ができる。	基本的文書の作成はできるが、応用的文書の作成ができていない。	基本的・応用的文書の作成ができていない。	定期試験(知識・理解・技能)	20%
(2) 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	ほぼ完璧に基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	基本的な表の作成はできるが、各種機能を利用した表の作成ができていない。	基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度・技能・思考力)	30%
	ほぼ完璧に基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	大きな間違いがなく、基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。	基本的な表の作成はできるが、各種機能を利用した表の作成ができていない。	基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができていない。	定期試験(知識・理解・技能)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
情報処理実習Ⅱ Information Processing Practice Ⅱ		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPIE1002	1 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
実習	1	選択	中谷 滋			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	プレゼンテーションの重要性や基礎的な知識と技術について理解するとともに、プレゼンテーションソフトウェアを活用した資料作成方法や効果的なプレゼンテーション技法について理解する。 各自がテーマ設定を行い、プレゼンテーションソフトウェアを活用して資料の作成と発表を行う。					
到達目標	(1) プレゼンテーションソフトウェアを活用して分かりやすい資料の作成ができる。 (2) 発表に係るレジュメの作成ができる。 (3) 作成した資料を用いて正確で分かりやすい発表ができる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	ガイダンス スライドの作成① ー文字修飾と 図形の活用ー	テキスト 194 ページから 209 ページ を読んでおく。	1 時間	授業時のスライド の作成方法を復習 する。	1 時間
	2	スライドの作成② ーグラフの活用ー スライドの作成③ ーSmartArt の 活用とアニメーション効果ー	テキスト 210 ページから 217 ページ を読んでおく。	1 時間	授業時のスライド の作成方法を復習 する。	1 時間
	3	スライドの作成④ ー表の活用と 画像の挿入ー スライドの作成⑤ ーワードアートの 挿入ー	テキスト 218 ページから 225 ページ を読んでおく。	1 時間	授業時のスライド の作成方法を復習 する。	1 時間
	4	スライドの作成⑥ ーその他の機能ー スライドの作成⑦ ー総合演習①ー	テキスト 226 ページから 231 ページ を読んでおく。	1 時間	授業時のスライド の作成方法を復習 する。	1 時間
	5	スライドの作成⑧ ー総合演習②ー	スライドの作成① から⑥の復習をして おく。	1 時間	授業時のスライド の作成方法を復習 する。	1 時間
	6	スライドの作成⑨ ー総合演習③ー	スライドの作成① から⑥の復習をして おく。	1 時間	授業時のスライド の作成方法を復習 する。	1 時間
	7	スライドショーと資料作成	テキスト 232 ページから 239 ページ を読んでおく。	1 時間	スライドショーと 資料作成について 復習する。	1 時間
	8	発表テーマの検討	発表テーマに関する 情報を収集して おく。	1 時間	発表テーマ決定の ために収集した情報 を整理する。	1 時間

	9	発表テーマの決定	発表テーマに関するストーリーを考えておく。	1 時間	プレゼンテーションストーリーシートを完成させる。	1 時間
	10	発表用スライドの作成①	スライドの作成条件を確認し、構成を考えておく。	1 時間	発表の意図が伝わるスライドになっているか確認する。	1 時間
	11	発表用スライドの作成②	スライドの作成条件を確認し、構成を考えておく。	1 時間	発表の意図が伝わるスライドになっているか確認する。	1 時間
	12	レジュメと発表用原稿の作成	レジュメと発表用原稿の作成について準備しておく。	1 時間	発表のリハーサルを行う。	1 時間
	13	発表①	発表のリハーサルをしておく。	1 時間	発表の評価を整理する。	1 時間
	14	発表②	発表のリハーサルをしておく。	1 時間	発表の評価を整理する。	1 時間
	15	まとめ	発表の成果と課題をまとめておく。	1 時間	発表の成果と課題を整理する。	1 時間
成 績 評 価		課題・レポート (10%)、授業への取り組み (60%)、発表・プレゼンテーション (30%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		課題レポートは、添削をし、原則として次の授業時に返却する。				
テキストおよび参考文献		テキスト：「30 時間でマスター Office2016」 実教出版企画開発部 編 実教出版				
メッセージなど		小学校教諭二種免許状：必修科目 「人生 100 年時代の社会人基礎力」を身に付けていきましょう。				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) プレゼンテーションソフトウェアを活用して分かりやすい資料の作成ができる。	とても分かりやすい資料の作成ができる。	分かりやすい資料の作成ができる。	最低限の資料作成ができる。	資料の作成ができていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度・技能・思考力)	60%
(2) 発表に係るレジュメの作成ができる。	とても分かりやすいレジュメの作成ができる。	分かりやすいレジュメの作成ができる。	最低限のレジュメ作成ができる。	レジュメの作成ができていない。	課題・レポート(思考力・判断力・表現力)	10%
(3) 作成した資料を用いて正確で分かりやすい発表ができる。	とても正確で分かりやすい発表ができる。	正確で分かりやすい発表ができる。	最低限の発表ができる。	発表ができていない。	発表・プレゼンテーション(意欲・態度・技能・表現力・創造性)	30%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
プログラミング教育 Programming education		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPIE2003	2 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	寺本 公思			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	2020 年から小学校にもプログラミング教育が導入されました。現在の子供達が将来活躍する時代は AI が飛躍的に進化するといわれています。そのような世界を背景とした、Society5.0 社会の到来に対応できるように「プログラミング的思考」が出来る子供たちを育てなければなりません。そのためのプログラミング教育をどのように行えばよいかについて学習します。					
到達目標	(1) コンピュータとプログラミングについて理解し説明が出来る。 (2) 様々なプログラミング手法について理解し実践できる。 (3) プログラミング教育について理解し実践できる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	コンピュータとプログラミング	プログラムについて	2 時間	プログラミングについて	2 時間
	2	プログラミング教育が目指すもの	プログラミング教育について	2 時間	プログラミング教育が目指すのについて	2 時間
	3	アンブラグドによるプログラミング	アンブラグドについて	2 時間	アンブラグドの復習	2 時間
	4	Hour of Code の基礎	Hour of Code について	2 時間	Hour of Code の特徴をまとめる	2 時間
	5	Hour of Code によるプログラミング①	Hour of Code について	2 時間	Hour of Code でプログラミング	2 時間
	6	Hour of Code によるプログラミング②	Hour of Code について	2 時間	Hour of Code でプログラミング	2 時間
	7	スクラッチの基礎	スクラッチについて調べる	2 時間	スクラッチの特徴をまとめる	2 時間
	8	スクラッチによるプログラミング	スクラッチについて	2 時間	スクラッチでプログラミング	2 時間
	9	スクラッチによる応用プログラミング	スクラッチでプログラミング	2 時間	スクラッチでプログラムを作る	2 時間
	10	WeDo2.0 によるプログラミング基礎	WeDo2.0 について	2 時間	WeDo2.0 のブロックプログラミング	2 時間
	11	WeDo2.0 によるプログラミング応用	WeDo2.0 について	2 時間	WeDo2.0 のブロックプログラミング	2 時間
	12	マインドストーム EV3 によるプログラミング基礎	EV3 について	2 時間	WeDo2.0 で応用プログラム作成	2 時間

	13	マインドストーム EV3 によるプログラミング基礎	EV3 の特徴	2 時間	EV3 のブロックプログラミング	2 時間
	14	マインドストーム EV3 によるプログラミング応用	EV3 のブロック	2 時間	EV3 の応用ブロックプログラミング	2 時間
	15	プログラミング課題	全体のまとめ	2 時間	プログラミング課題に取り組む	2 時間
成績評価		課題・レポート (50%)、指導案 (15%)、授業への取り組み (35%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		試験やレポート等の結果について、ルーブリック評価にて返却する。				
テキストおよび参考文献		適宜プリントを配布する				
メッセージなど		2020 年から小学校でも必修化されたプログラミング教育について実践的に学ぶことが出来ます。				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) コンピュータとプログラミングについて理解し説明が出来る。	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	課題・レポート (知識・理解)	15%
	十分に理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを説明することができる。	概ね理解ができており、それを十分に説明できない。	理解が不十分であり、それを十分に説明できない。	授業への取り組み (知識・理解)	15%
(2) 様々なプログラミング手法について理解し実践できる。	プログラミングについて十分に理解ができており、それを実践することができる。	プログラミングについて概ね理解ができており、それを実践することができる。	プログラミングについて概ね理解ができており、それを十分に実践することができない。	プログラミングについて理解が不十分であり、それを実践することが出来ない。	課題・レポート (関心・意欲・理解・思考力)	20%
	プログラミングについて十分に理解ができており、それを実践することができる。	プログラミングについて概ね理解ができており、それを実践することができる。	プログラミングについて概ね理解ができており、それを十分に実践することができない。	プログラミングについて理解が不十分であり、それを実践することが出来ない。	授業への取り組み (関心・意欲・理解・思考力)	20%
(3) プログラミング教育について理解し実践できる。	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	課題・レポート (関心・意欲・理解・思考力)	15%
	十分に理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを実践することができる。	概ね理解ができており、それを十分に実践できない。	理解が不十分であり、それを十分に実践できない。	指導案 (関心・意欲・理解・思考力)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
進路指導の理論と指導法 Theory and Method of Career Consulting		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2031	2 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	加藤 浩久			○
実務家教員 の詳細	教育委員会指導主事としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	小学校・中学校における進路指導の理論や発達段階に応じた具体的な指導方法について、自らの教育体験を素材として活用しながら、体系的・組織的に学ぶ。 近年、キャリア教育への転換が図られていることから、進路指導をキャリア教育の視点から再構築していく。					
到達目標	(1)-1 具体的事例をもとに、進路指導とは何かを説明できる。					
	(1)-2 進路指導の目的が大きく転換してきた理由を学習指導要領の改訂から説明できる。					
	(1)-3 ニート・フリーター問題の現状と課題から、キャリア教育誕生の必然性を説明できる。					
	(1)-4 キャリア教育の手引きを活用し、キャリア教育とは何かを説明できる。					
	(1)-5 進路指導やキャリア教育にかかわる法令について、その主な内容を説明できる。					
	(2)-1 各教科を学ぶ意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。					
	(2)-2 道徳でよりよい生き方を探る意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。					
	(2)-3 学級活動の果たす役割を、キャリア教育と関連づけて説明できる。					
	(2)-4 児童会・生徒会活動を体験する意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。					
	(2)-5 学校行事の存在意義を、キャリア教育と関連づけて説明できる。					
	(2)-6 総合的な学習の時間の優れた実践を、キャリア教育と関連づけて説明できる。					
	(2)-7 高等学校の進路指導（キャリア教育）の現状と課題を説明できる。					
	(3)-1 幼児期から学生時代まで、キャリア教育の観点で自己の経験を書き出すことができる。					
	(3)-2 これからの自身の生き方をはっきりと展望することができる。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	職業指導から進路指導へ、進路指導からキャリア教育へと変わっていった理由を説明できる。	小中高で受けた進路指導についてノートにまとめる。	2 時間	キャリア教育の現代的な意味についてまとめる。	2 時間

	2	キャリア教育が求められるようになった理由を社会的背景との関連から理解する。	ニート、フリーターを中心とした背景を調べる。	2 時間	教育課程意義についてもまとめる。	2 時間
	3	これまで実践されてきたキャリア教育の現状を知るとともに、その課題について理解する。	「手引き」から具体的な実践を確認する。	2 時間	「形骸化」という視点からまとめる。	2 時間
	4	キャリア教育がその育成をめざす「職業観、勤労観」について理解する。	「職業観」「勤労観」という概念の辞書的な意味を調べる。	2 時間	目標、理念としてまとめる。	2 時間
	5	教科を通して身につける「職業観、勤労観」について理解する。	社会科や家庭科を例にイメージを膨らませる。	2 時間	勤労を義務と権利の両面からまとめる。	2 時間
	6	特別の教科道徳を通して身につける「職業観、勤労観」について理解する。	自分が受けた道徳の授業を想起する。	2 時間	道徳的価値としてまとめる。	2 時間
	7	総合的な学習の時間を通して身につける「職業観、勤労観」について理解する。	自分が受けた総合学習の授業を想起する。	2 時間	自己の能力・適性、興味・関心という視点からまとめる。	2 時間
	8	特別活動を通して身につける「職業観、勤労観」について理解する。	学級活動や生徒会活動を想起する。	2 時間	「実践の大切さ」という視点からまとめる。	2 時間
	9	「学習プログラムの枠組み」を検証し、育成が求められている「資質・能力」について理解する。	手引きで確認する。	2 時間	学校段階の系統性を振り返る。	2 時間
	10	小学校におけるキャリア教育の実践を考察し、その実際と課題について理解する。	手引きで実践事例を調べる。	2 時間	中学校や高等学校の例と比較する	2 時間
	11	中学校におけるキャリア教育の実践を考察し、その実際と課題について理解する。	手引きで実践事例を調べる。	2 時間	小学校や高等学校の例と比較する	2 時間
	12	高等学校におけるキャリア教育の実践を考察し、その実際と課題について理解する。	手引きで実践事例を調べる。	2 時間	小学校や中学校の例と比較する。	2 時間
	13	実際に行われている中学校の職場体験学習の計画を読み、その改善を試みる。	自分が体験した例を想起する。	2 時間	自分と向き合う時間の大切を確認する。	2 時間
	14	自らのこれまでを振り返り、望ましい「職業観、勤労観」に支えられていたかどうかを確認する。	これまでの自分自身の足跡を振り返る。	2 時間	これから変化していく可能性を確認する。	2 時間
	15	自らの今後のキャリアを展望し、「職業観、勤労観」の獲得の可能性を想像する。	自分の進路希望を確認する。	2 時間	これまで学習した内容との関係を確認し、樹形図に整理する。	2 時間
成 績 評 価		定期試験 (30%)、課題・レポート (30%)、授業への取り組み (40%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：『学校教育とキャリア教育の創造』学文社 参考文献：文部科学省『小学校キャリア教育の手引き（改訂版）』教育出版 文部科学省『キャリア教育のススメ』東京書籍				
メッセージなど		急激な社会の変化で、進学や就職に自己を見失いがちな時代の進路選択について、教える立場からの理解だけでなく、自分自身のキャリア発達も見つめながら学ぶ授業。 小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 具体的事例をもとに、進路指導とは何かを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(1)-2) 進路指導の目的が大きく転換してきた理由を学習指導要領の改訂から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(1)-3) ニート・フリーター問題の現状と課題から、キャリア教育誕生の必然性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(1)-4) キャリア教育の手引きを活用し、キャリア教育とは何かを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(1)-5) 進路指導やキャリア教育にかかわる法令について、その主な内容を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-1) 各教科を学ぶ意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(2)-2) 道徳でよりよい生き方を探る意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%

(2)-3) 学級活動の果たす役割を、キャリア教育と関連づけて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(2)-4) 児童会・生徒会活動を体験する意味を、キャリア教育と関連づけて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(2)-5) 学校行事の存在意義を、キャリア教育と関連づけて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(2)-6) 総合的な学習の時間の優れた実践を、キャリア教育と関連づけて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(2)-7) 高等学校の進路指導(キャリア教育)の現状と課題を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み(関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	2%
(3)-1) 幼児期から学生時代まで、キャリア教育の観点で自己の経験を書き出すことができる。	しっかりと自己を見つめて書いている。	自己の足跡を整理できている。	甘さはあるが、自己を見つめようとしている。	書くことができない。	課題・レポート(思考力・判断力・表現力)	20%
(3)-2) これからの自身の生き方をはっきりと展望することができる。	前向きな人生に向かって進もうとしている。	進むべき方向性は見えている。	進むべき方向を考えようとしている。	述べることができない。	課題・レポート(思考力・判断力・表現力)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
生徒指導と教育相談 Student Consulting and Educational Consulting		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTS2032	2 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2	選択	田中 佑弥・福屋 いずみ			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					
概 要	生徒指導の本来的な狙いが、一人一人の個性の伸長、社会的スキルや行動力を高めるための教育的活動であることを理解する。 児童の発達の状況に即したカウンセリング的な関わりの意義を学び、その基本的な方法を身につける。					
到達目標	(1)生徒指導の意義や原理を理解する。					
	(2)課題を抱える児童への指導を理解する。					
	(3)教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法を学ぶ。					
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和 3 年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoom による遠隔授業を行っている。					
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	生徒指導と教育相談とは何か概要を知る	-		本時の内容についてまとめる。	2 時間
	2	生徒指導の意味を理解する	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2 時間	配布資料を読む。	2 時間
	3	教育現場における生徒指導の実践について学ぶ	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	4	生徒指導上の諸問題を学ぶ	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	5	生徒指導と教育相談の関連について理解する	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	6	児童の問題行動の意味を考える（予防的な介入）	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間
	7	カウンセリングの基本を学ぶ（クライアント中心療法的介入）	配布資料を読む。	2 時間	配布資料を読む。	2 時間

	8	カウンセリングの基本を学ぶ（精神分析的介入）	配布資料を読む。	2時間	配布資料を読む。	2時間
	9	不登校問題について指導と支援を理解する	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
	10	いじめ問題についての指導・支援方法を学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
	11	非行・問題行動についての指導・支援方法を学ぶ	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2時間	配布資料を読む。	2時間
	12	生徒指導の今日的な課題について考える	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
	13	障害のある児童への支援について学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
	14	学校内での心理臨床的援助について学ぶ	配布資料を読む。	2時間	本時の内容をまとめる。	2時間
	15	SC・SSWなど他の専門家との連携について学ぶ	生徒指導提要の該当箇所を読む。	2時間	配布資料を読む。	2時間
成績評価		定期試験（50%）、授業への取り組み（50%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		試験はルーブリック評価に基づいて結果を示す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：岩田淳子編 生徒理解・指導と教育相談（新編） 学文社 参考文献 『小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）』、文部科学省『生徒指導提要（改訂版）』				
メッセージなど		生徒指導の本来の意味を知り、子どもたちが生きる力を身につけていくための教育や子どもたちの指導、支援の実践について学んでいきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 生徒指導の意義や原理を理解する。	生徒指導の意義や原理を十分に説明することができる。	生徒指導の意義や原理を概ね説明することができる。	生徒指導の意義や原理について最低限の説明はしている。	生徒指導の意義や原理を説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	授業への取り組み (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	15%
(2) 課題を抱える児童への指導を理解する。	課題を抱える児童への指導について十分に説明することができる。	課題を抱える児童への指導について概ね説明することができる。	課題を抱える児童への指導について最低限の説明はしている。	課題を抱える児童への指導について説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	20%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	授業への取り組み (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	20%
(3) 教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法を学ぶ。	教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法について十分に説明することができる。	教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法について概ね説明することができる。	教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法について最低限の説明はしている。	教育相談の基礎を学び個々の問題への支援方法について説明することができない。	定期試験 (知識・理解)	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	授業への取り組み (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
特別支援教育 Special Support Education		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPBE1008		1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員
講義	2	選択	竹内 幹雄				
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。						○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。						○
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。						○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。						○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。						○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。						○
概 要		発達障害を含む様々な障害や、その他の要因により特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒の心身の発達、障害の特性を理解するとともに、学習上、生活上の困難とその背景について理解する。その上で、特別の支援を必要とする幼児児童生徒が、達成感を持ちながら学び、生きる力を身につけることができるよう、個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成と活用する方法について、事例に基づき実践的に学んでいく。さらに、インクルーシブ教育の理念を含めた特別支援教育に関する制度や法令の内容を理解し、個別の教育的ニーズに対して学校における組織的な支援体制の在り方、関係機関との連携の在り方についても理解を深める。					
到達目標		(1)-1 インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。 (1)-2 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明できる。 (1)-3 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について説明できる。 (2)-1 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について説明できる。 (2)-2 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。 (2)-3 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別的教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。 (2)-4 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。 (3)-1 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。					
授業内容 と 進め方		回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
		1	特別支援教育の歴史について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
		2	特別支援教育における対象となる幼児児童生徒について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
		3	障害児の理解（１） 概念と就学基準について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
		4	障害児の理解（２） 心理と行動特性について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間

	5	特別支援教育の場について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	6	特別支援教育の教育課程について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	7	障害児の教育支援（１）学習指導要領、指導計画の作成を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	8	障害児の教育支援（２）自立活動、日常生活の指導を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	9	障害児の教育支援（３）各教科、遊びの指導を理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	10	個別の教育支援計画をもとにした教育支援について理解する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	11	特別支援学級における教育の実践について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	12	特別支援学校における教育の実践について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	13	障害児のライフステージと特別支援教育について学ぶ	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	14	障害はないが特別の教育ニーズのある幼児の把握と支援を学ぶとともに、特別支援教育のこれからについて考察する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
	15	特別支援教育にかかわる専門性について考察する	授業内容の言葉について調べる	2 時間	疑問点等について調べる	2 時間
成 績 評 価		定期試験（知識・理解）（70%）、毎回の授業の感想・振り返り（思考力）（30%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートに書かれた感想や質問について、代表的なものをピックアップし次の授業時にコメントする。				
テキストおよび参考文献		テキスト：「障害のある幼児と共に育つ生活の理解と指導」（令和 5 年 3 月文部科学省厚生労働省内閣府）HP 参考文献：『特別支援学校学習指導要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部（平成 30 年 3 月 文部科学省））』				
メ ッ セ ー ジ な ど		特別支援教育は、人として生きていくうえで、最も大切な教育の一つです。3 月に出た資料を使って最新の情報を一緒に学んでいきましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	6%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	11%
(1)-2) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	8%
(1)-3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等を含む様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	8%
(2)-1) 発達障害や軽度知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする幼児児童生徒に対する支援の方法について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	6%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	11%
(2)-2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付けと内容を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	8%

(2)-3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	8%
(2)-4) 特別支援教育コーディネーター・関係諸機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	8%
(3)-1) 母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児児童生徒の学習上は生活上の困難や組織的な対応の必要性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験	8%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
ボランティア実習 Volunteer Practice		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTP1005	1 年次 2 年次	後期 前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
実習	2	選択	田中 佑弥・正長 清志			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関 係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○
概 要	「ボランティア実習」は、介護等体験の実習の事前・事後指導として行う学内での授業と、介護等体験実習として、特別支援学校 2 日間、社会福祉施設 5 日間の学外での実習から成る。「教師」という職業の「資質能力」とは何かを講義や実習を通して学ぶ。					
到達目標	(1) 「介護等体験実習」の意義と目的を理解し、特別支援学校と様々な社会福祉施設について、事前に調べることができる。 (2) 「介護等体験実習」に必要な書類の作成や事前打ち合わせを通して、社会人基礎力を養うことができる。 (3) 「介護等体験実習」を行い、多様な人との交流を通し、一人一人の尊厳を大切にして関わるができる。 (4) 「介護等体験実習」を終えて、教師としての資質を高めるための自らの課題を明確にすることができる。					
授業内容 と 進め方						
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション（授業の目的、到達目標等の説明） 担当：田中・正長			授業計画と内容の把握	2 時間
	2	特別支援学校での学びについて 担当：田中・正長	授業の概要を読み、自分の課題を立てる。	2 時間	特別支援学校についてまとめる。	2 時間
	3	社会福祉施設での学びについて 担当：田中・正長	社会福祉施設について調べる。	2 時間	授業内容をまとめる。	2 時間
	4	手話のいろはと演習 担当：田中・正長	手話について調べる。	2 時間	手話の練習を行う。	2 時間
	5	介護等体験実習に出るまでの実際、実習希望調査・プロフィール作成 担当：田中・正長	実習に出るまでの心構えを明確にしておく。	2 時間	実習希望調査を充実させる。	2 時間
6	実習を経験した先輩からのアドバイス～実習に向けた目標設定と心構え～ 担当：田中・正長	先輩からのアドバイスを読んでおく。	2 時間	実習に向けての目標をまとめる。	2 時間	

	7	実習希望調査 担当：田中・正長	自身のスケジュールをまとめておく。	2 時間	実習希望調査を完成せる。	2 時間
	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	8	オリエンテーション ① 1 年後期の振り返り ② 2 年前期の「ボランティア実習」の計画・評価、等について 担当：田中・正長	1 年次の授業資料を読みかえす。	2 時間	授業内容のまとめをする。	2 時間
	9	特別支援学校への実習申込み 特別支援学校プロフィール記入 社会福祉施設の実習日程確認 担当：田中・正長	自身のスケジュールを整理しておく。	2 時間	プロフィールを完成させる。	2 時間
	10	車椅子の使い方（実習） 1（基本・応用） 担当：田中・正長	車いすについて調べる。	2 時間	車いすの操作の注意点についてまとめる。	2 時間
	11	特別支援学校・社会福祉施設での実習の在り方と日誌の書き方（実習を充実させるための「い・ろ・は」） 担当：田中・正長	実習先への連絡とそのまとめをする。	2 時間	日誌の書き方のまとめをする。	2 時間
	12	介護等体験の実習の心構え ～「社会福祉施設でのびき」～ 担当：田中・正長	実習先の概要を調べておく。	2 時間	実習に向けての心構えをまとめる。	2 時間
	13	障害者の自立を考える 担当：田中・正長	障害者施設について復習をしておく。	2 時間	授業内容をまとめる。	2 時間
	14	社会福祉施設の実習の準備 （事前オリエンテーション、検便、健康診断、プロフィール（目標の設定）） 担当：田中・正長	自分のスケジュールを確認しておく。	2 時間	社会福祉施設のプロフィールを完成させる。	2 時間
	15	今後の実習に向けての最終確認 担当：田中・正長	実習のスケジュールと持参物の確認をする。	2 時間	実習で学んだことを発表する。	2 時間
	※介護等体験実習において、特別支援学校に 2 日間、社会福祉施設に 5 日間実習に行く。 なお、実習の直前には学内の事前オリエンテーションを行う。実習先によっては事前オリエンテーションが別日にある。					
成績評価		授業への取り組み（50%）、その他（50%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		授業内で介護等体験実習の振り返りを行う。				
テキストおよび参考文献		授業時に指示				
メッセージなど		教育や教師という言葉の持つ意味を少しでも深めることができるように日頃から抽象的な言葉の持つ意味を自分なりに考えていって欲しい。 小学校教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 「介護等体験実習」の意義と目的を理解し、特別支援学校と様々な社会福祉施設について、事前に調べることができる。	「介護体験実習」の意義を理解しており、各施設について十分に調べられている。	「介護体験実習」の意義を理解し、各施設について大きな問題なく調べられている。	改善の余地はあるものの実習の意義を理解し、各施設を調べることができる。	「介護体験実習」の意義の理解と各施設についての調べができていない。	授業への取り組み (意欲・態度・知識・思考力・表現力)	15%
(2) 「介護等体験実習」に必要な書類の作成や事前打ち合わせを通して、社会人基礎力を養うことができる。	実習に必要な書類作成ができ、社会人基礎力を養うことができている。	大きな問題なく書類作成ができ、社会人基礎力を養えている。	改善の余地はあるものの書類作成ができ、社会人基礎力を身につけている。	書類作成が完成できず、最低限度の社会人基礎力を身につけられていない。	授業への取り組み (意欲・態度・知識・思考力・表現力)	15%
(3) 「介護等体験実習」を行い、多様な人との交流を通し、一人一人の尊厳を大切にすることができる。	明確な目的意識をもって実習に取り組み、一人一人の尊厳を大切にすることができる。	自分なりに目的意識を持って取り組み、人の尊厳を大切にすることができる。	目的意識は浅いが意欲的に実習に取り組み、人の尊厳を大切にしようとしている。	実習の取り組み方に課題があり、人の尊厳を大切にしたい関わりができていない。	その他 (関心・意欲・態度・理解)	50%
(4) 「介護等体験実習」を終えて、教師としての資質を高めるための自らの課題を明確にすることができる。	教師としての資質を高めるための自らの課題を明確にできている。	教師の資質につながる自らの課題をいくつか見つけることができる。	実習を通して、自分なりの課題を見つることができる。	自らの課題を見つけることができていない。	授業への取り組み (理解・思考力・判断力・表現力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
教育実習指導 Study of Practical Teaching at Elementary School		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTP1001	1 年次 2 年次	後期 前期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
演習	1	選択	中村 浩・加藤 浩久				
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○	
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○	
	(3) 子どもの発達について関心を持ち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○	
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○	
概 要		学習指導の知識を生かし、模擬授業にチャレンジすることで、教壇に立つ準備を進めるとともに、指導主事による「学習指導」「生徒指導」「人権教育」の講義や市内公立小学校における参観実習などを通して、教育現場の実態にも直接ふれ、教師として必要な資質や能力の向上を図り、教師となる心構えを培っていく。					
到達目標		(1) 教育実習の意義を理解し、使命感・緊張感をもって教壇に立てるようになる。 (2) 参観実習への参加、レポートや書類の提出、実習校との打ち合わせ等を通して、社会人としての基礎的な素養やマナー・礼儀を身に付けることができる。また、参観実習への参加を通して、自分自身の課題を鑑みることができる。 (3) 模擬授業を経験することで、教育実習に臨む自分自身の課題を発見することができる。					
授業内容 と 進め方		回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
		1	オリエンテーション 中村	教育実習に向けて の心構えを考える	2 時間	教育実習に向けての 準備、予定について まとめる	2 時間
		2	教育実習の意義と目的 中村	教育実習の意義と 目的について資料 を読む	2 時間	教育実習の意義と目 的について、まとめ る	2 時間
		3	教育実習の内容 中村	教育実習の内容につ いて資料を読む	2 時間	教育実習の内容につ いて、まとめる	2 時間
		4	授業づくりの基礎を学ぶ(1) 中村	指導案作りについ ての資料を読む	2 時間	授業の振り返りシー トに基づき内容をま とめる	2 時間
		5	授業づくりの基礎を学ぶ(2) 中村	前時の復習より、 発問、資料、板書の 課題をまとめる	2 時間	授業の振り返りシー トに基づき内容をま とめる	2 時間
		6	教育実習について先輩に学ぶ 中村	教育実習の過去の 体験談の資料を読 む	2 時間	授業の振り返りシー トに基づき内容をま とめる	2 時間
		7	小学校参観実習(1) －参観実習の説明－ 中村	小学校参観実習校 の学校要覧を読む	2 時間	参観実習校の学校要 覧について、まとめ る	2 時間
		8	小学校参観実習(2) －校長講話－ 中村	参観実習校の概要 について、資料を 読む	2 時間	校長講話の気づき、 感想をまとめる	2 時間

9	小学校参観実習(3) －授業参観－ 中村・加藤	参観実習の準備	2時間	授業参観しての気づき、感想をまとめる	2時間
10	小学校参観実習(4) －授業参観－ 中村・加藤	参観実習の準備	2時間	授業参観しての気づき、感想をまとめる	2時間
11	市教委講話 ー学習指導ー 中村	学習指導について、資料を読む	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2時間
12	市教委講話 ー生徒指導ー 中村	生徒指導について、資料を読む	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2時間
13	参観実習・学習指導・生徒指導の振り返り 中村	参観実習、学習指導、生徒指導の資料の読み直し。	2時間	参観実習、学習指導、生徒指導の資料の読み直し	2時間
14	実習日誌と実習生プロフィールの作成 中村	実習生プロフィールについて、まとめる。	2時間	実習生プロフィールについて、まとめる。	2時間
15	本授業を振り返って 中村	発表資料をまとめる。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	オリエンテーション 中村	15回の授業の見通しを立てる。	2時間	模擬授業の進め方などまとめる。	2時間
17	模擬授業の説明と準備 中村	模擬授業に向けての心構えを書く。	2時間	模擬授業の進め方についてまとめる。	2時間
18	模擬授業(1) ー授業実践と協議ー 中村・加藤	模擬授業の準備。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
19	模擬授業(2) ー授業実践と協議ー 中村・加藤	模擬授業の準備。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
20	模擬授業(3) ー授業実践と協議ー 中村・加藤		2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
21	模擬授業(4) ー授業実践と協議ー 中村・加藤	模擬授業の準備。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
22	模擬授業(5) ー授業実践と協議ー 中村・加藤	模擬授業の準備。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
23	小学校参観実習(1) ー参観実習の説明ー 中村	参観実習校の概要について、資料を読む。	2時間	参観実習校の概要について、まとめる。	2時間
24	小学校参観実習(2) ー校長講話ー 中村	参観実習の準備。	2時間	校長講話の気づき、感想をまとめる。	2時間
25	小学校参観実習(3) ー授業参観ー 中村・加藤	参観実習の準備。	2時間	授業参観しての気づき、感想をまとめる。	2時間
26	小学校参観実習(4) ー授業参観ー 中村・加藤	参観実習の準備。	2時間	授業参観しての気づき、感想をまとめる。	2時間
27	市教委講話 ー人権教育ー 中村	人権教育について、資料を読む。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間

	28	参観実習・人権教育の振り返り 実習校への事前打合せについて 中村	参観実習、人権教育の資料の読み直し。	2時間	実習校への事前打ち合わせについて、内容をまとめる。	2時間
	29	実習日誌の書き方について 実習生プロフィールの作成 中村	実習日誌の書き方について、確認する。	2時間	実習日誌の書き方について、内容をまとめる。	2時間
	30	実習中の健康管理について 教育実習の心構え 中村	実習中の健康管理と心構えについて、まとめる。	2時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる。	2時間
成績評価		課題・レポート (25%)、授業への取り組み (50%)、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (15%)、その他 (10%)				
課題(試験・レポート等)に対する フィードバックの方法		授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。課題、レポートは、ルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび 参考文献		テキスト：「教育実習の研究」山口短期大学「教育実習Q&A」山口短期大学 参考文献：文部科学省「小学校学習指導要領」東洋館出版社				
メッセージ な		教育実習のための準備を行います。実習に関する重要書類や手続きに関することも含みます。ひとつひとつ丁寧に積み上げ、教育実習へ行くことの意味を理解し、教育に携わることの使命感と緊張感をもてるようになります。 小学校教諭二種免許状：必修科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教育実習の意義を理解し、使命感・緊張感をもって教壇に立てようになる。	教壇に立つ準備がほぼできている。	基本的な準備はできている。	最低限の準備はできている。	準備ができていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・知識・理解)	50%
(2) 参観実習への参加、レポートや書類の提出、実習校との打ち合わせ等を通して、社会人としての基礎的な素養やマナー・礼儀を身に付けることができる。また、参観実習への参加を通して、自分自身の課題を鑑みることができる。	社会人としての常識がほぼ確立できている。また、自分の課題を自覚し、解決しようと努力している。	大きな間違いはなく、基本的なことはできている。また、自分の課題を自覚している。	さらに努力を要するが、最低限の基本はできている。また、自分の課題がわかりつつある。	最低限のことができていない。また、自分の課題を自覚していない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	20%
	社会人としての常識がほぼ確立できている。また、自分の課題を自覚し、解決しようと努力している。	大きな間違いはなく、基本的なことはできている。また、自分の課題を自覚している。	さらに努力を要するが、最低限の基本はできている。また、自分の課題がわかりつつある。	最低限のことができていない。また、自分の課題を自覚していない。	その他 (関心・意欲・態度)	10%
(3) 模擬授業を経験することで、教育実習に臨む自分自身の課題を発見することができる。	様々な角度から、自己の課題を明確に把握している。	いくつかの角度から、自己の課題を把握している。	1つ以上自己の課題を把握している。	課題を把握していない。	模擬授業、ロールプレイ (思考力・判断力・表現力)	15%
	様々な角度から、自己の課題を明確に把握している。	いくつかの角度から、自己の課題を把握している。	1つ以上自己の課題を把握している。	課題を把握していない。	課題・レポート (関心・意欲・態度)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
教育実習 Practical Teaching at Elementary School		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTP2003	2 年次	後期 (集中)
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
実習	4	選択	中村 浩・加藤 浩久			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					
概 要	子どもの発達や心理、教員の業務や学校組織についての理解を深め、確かな学習指導や生徒指導ができるようになるため、小学校の現場において4週間の実地実習を行う。					
到達目標	(1) 教師としての責務を自覚するとともに、良識ある社会人としての言動ができる。 (2) 子どもたちに対する愛情と教育に対する情熱をもって、子どもたちに接することができる。 (3) 子どもたちの実態を踏まえ、確かな学力の向上をめざす学習指導案の作成と、授業の基礎技術を駆使した授業を展開することができるようになる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	子どもの発達や心理について理解し、実際に子どもたちとふれあう。	子どもの発達や心理についての資料を読む。	2 時間	実習日誌で子どもたちとのふれあいの振り返りをする。	2 時間
	2	教材研究をし、学習指導案を作成し、教科指導を行い、授業技術を磨く。	教材研究をし、学習指導案を作成する。	2 時間	実施した授業について振り返りをする。	2 時間
	3	学級経営、生徒指導について理解し、学級経営力を身に付ける。	学級経営、生徒指導についての資料を読む。	2 時間	実習日誌で学級担任としての仕事について振り返りをする。	2 時間
	4	道徳、特別活動について理解し、授業実践を行う。	道徳、特別活動の学習指導案を作成する。	2 時間	実施した授業について振り返りをする。	2 時間
	5	校務分掌、学校事務、PTA、地域社会等について理解を深める。	実習校の状況について資料等で確認する。	2 時間	学校教育活動について全般的に振り返る。	2 時間
	6	国民に託された教育者としての自覚をもつ。	教師としての心構えについて、資料を読む。	2 時間	めざす教師像について、考えをまとめる。	2 時間
	※実習時期 基本的に、2 年次 1 0 月に小学校での実習（4 週間）を行う。					

成 績 評 価	指導案（10%）、その他（90%）
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	教育実習中の訪問指導の際に、実習校の校長、指導教官等からの気づき、教育実習日誌等に基づき、本人に指導助言を実施する。
テキストおよび参考文献	テキスト：「教育実習の研究」山口短期大学、「教育実習Q&A」山口短期大学 参考文献：実習校で渡される各種の資料
メッセージなど	小学校の教壇に立って実際に授業をするという得がたい経験のできる科目です。使命感と緊張感をもって取り組む真剣勝負のキャリア教育そのものです。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教師としての責務を自覚するとともに、良識ある社会人としての言動ができる。	教師としての自覚をもった言動ができる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえた言動ができる。	さらに自覚が必要だが、最低限の言動ができる。	教師としての適性が見られない。	その他 (関心・意欲・態度・知識・理解)	60%
(2) 子どもたちに対する愛情と教育に対する情熱をもって、子どもたちに接することができる。	子どもたちとの信頼関係を築けている。	大きな間違いがなく、子どもたちと基本的な関係は築けている。	さらに努力は要するが、最低限の関係は築けている。	関係を築けない。	その他 (関心・意欲・態度)	20%
(3) 子どもたちの実態を踏まえ、確かな学力の向上をめざす学習指導案の作成と、授業の基礎技術を駆使した授業を展開することができるようになる。	ほぼ完璧に授業ができる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて授業ができる。	さらに努力を要するが、最低限の基本を踏まえて授業ができる。	授業ができない。	その他 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	10%
	ほぼ完璧に授業ができる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて授業ができる。	さらに努力を要するが、最低限の基本を踏まえて授業ができる。	授業ができない。	指導案 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
学校体験活動 School Internship		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTP1002	1 年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
実習	1	選択	中村 浩・加藤 浩久			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。					○
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					
概 要	小学校教諭を目指す学生が、小学校で生活する児童の姿や学校の環境を観察するとともに、実務に対する補助的な役割を担うことを通して、児童の実態と小学校の教育活動の特色を理解することを目的とする。					
到達目標	(1) 小学校の運営方法及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。 (2) 学級担任の補助的な役割を担うことができる。 (3) 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 (4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童と関わるができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容 復習 時間
	1	オリエンテーション 学校体験活動とは（中村）		学校体験活動について先輩の報告書を読む。	2 時間	学校体験活動の概要をまとめる。 2 時間
	2	事前指導①学校体験活動にむけての準備（プロフィール作成）（中村）		学校体験活動の心構えについてまとめる。	2 時間	学校体験活動校の学校要覧をまとめる。 2 時間
	3	事前指導②学校体験活動実施校を知る（中村）		プロフィール作成に向けて必要事項を確認する。	2 時間	プロフィールを完成させる。 2 時間
	4	事前指導③学校体験活動にむけての準備（心構え、出勤簿、記録など）（中村）		学校体験活動の目標についてまとめる。	2 時間	学校体験活動に必要な物を準備する。 2 時間
	5	事後指導 学校体験活動の報告会（中村）		学校体験活動の報告書を作成する。	2 時間	学校体験活動の振り返りをする。 2 時間
	※ 授業の日程は提示します ※ 実習時期 基本的に 1 年次の 9 月に防府市内の小学校での体験活動(5 日間)					

成 績 評 価	授業への取り組み（25%）、グループワーク・グループ討議（30%）、その他（45%）
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法	学校体験活動の訪問指導の際に、活動校、指導教官からの気づき、体験活動日誌、事後の振り返りに基づき、本人に指導助言を実施する。
テキストおよび 参 考 文 献	授業時に指示
メ ッ セ ー ジ な ど	実際に小学校で先生の仕事を体験するために準備をしっかりとしましょう。 小学校教諭二種免許状：必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 小学校の運営方法及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解している。	事前指導の内容について、資料にまとめるなど整理をしており、理解を深め、また自分の言葉で述べるができる。	事前指導で理解の内容を自分なりに整理し、言葉で述べるができる。	事前指導の内容について指導・助言を受けながら、理解している。	事前指導の内容について理解できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・知識・理解)	25%
(2) 学級担任の補助的な役割を担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を十分に把握し、場に応じた補助的な役割を積極的に担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を概ね把握し、場に応じた補助的な役割を担う姿勢がみられる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握しようとしている。また最低限指示された役割を担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握できない。また最低限指示された役割を担うことができない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力・表現力)	10%
	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を十分に把握し、場に応じた補助的な役割を積極的に担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を概ね把握し、場に応じた補助的な役割を担う姿勢がみられる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握しようとしている。また最低限指示された役割を担うことができる。	小学校・学級担任の目標やその場の児童の様子を把握できない。また最低限指示された役割を担うことができない。	その他 (思考力・判断力・表現力)	15%
(3) 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。	学級担任の役割と職務内容を実地に即して十分に理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容について概ね理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容をある程度理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容を理解できていない。また、実地の内容を整理し、具体的に発表することができない。	グループワーク・グループ討議 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	10%
	学級担任の役割と職務内容を実地に即して十分に理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容について概ね理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容をある程度理解し、実地の内容を自分の言葉で整理し、発表することができる。	学級担任の役割と職務内容を理解できていない。また、実地の内容を整理し、具体的に発表することができない。	その他 (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	15%
(4) 教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童と関わるることができる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を十分に把握し、積極的に児童と関わるができる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を概ね把握し、積極的に児童と関わる姿勢がみられる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割について指導・助言を受けながら、児童と関わる姿勢がみられる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を把握できていない。また自ら児童と関わるすることができない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力・表現力)	10%
	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を十分に把握し、積極的に児童と関わるができる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を概ね把握し、積極的に児童と関わる姿勢がみられる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割について指導・助言を受けながら、児童と関わる姿勢がみられる。	教科指導以外の様々な活動の場面での教員の役割を把握できていない。また自ら児童と関わるすることができない。	その他 (思考力・判断力・表現力)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
教職実践演習（小学校） Practice of Teaching Profession (Elementary School)		児童教育学科 初等教育学専攻		23EPTP2004	2 年次	後期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
演習	2	選択	中村 浩・加藤 浩久				
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 学んだことをこれからの生活にいかし、さらに深く学び続けたいという意欲をもっている。					○	
	(2) 各教科・道徳の学習についての知識や技能を身につけ、実践的な指導力を有している。					○	
	(3) 子どもの発達について関心をもち、教育実習・学校体験活動を通して、子どもの特性を理解し知識を深めている。					○	
	(4) 教育実習・学校体験活動を通して、子どもや教職員と十分な交流ができる。						
	(5) 様々な教育課題について意欲的に自ら学び、自分の考えをさらに高めることができる。					○	
	(6) 他者の意見を尊重し、仲間と共に高め合い、お互いの良さを学ぼうとしながら、グループやペア活動に積極的に参加することができる。					○	
概 要	短大 2 年間で学んだ学習知と教育実習で得られた教科指導力や生徒指導力の実践知とのさらなる統合を図り、使命感や責任感に裏打ちされた確かな実践的指導力を有する教員としての資質の向上とその確認を行う。						
到達目標	(1) 教師としての使命感・責任感や教育的愛情、社会性やコミュニケーション力が向上している。 (2) 児童理解や学級経営の考え方や具体的方法について、説得力ある説明ができる。 (3) 学習指導の原理と方法について、模擬授業の実践を通して、具体的に表現することができる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション ー教育実習の礼状の書き方ー (中村)		教育実習の振り返りをする	2 時間	教育実習の礼状を作成する	2 時間
	2	教育実習報告会(1)ー教育実習で学んだことの発表と意見交換ー (中村)		教育実習の振り返りをする	2 時間	教育実習の報告会資料を作成する	2 時間
	3	教育実習報告会(2)ー教育実習で学んだことの発表と意見交換ー (中村)		教育実習の振り返りをする	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	4	教育実習で学んだことを伝えるー 教育実習で学んだことを後輩へ伝えるー (中村)		教育実習で学んだことの発表準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	5	模擬授業(1)ー 査定授業の再現と研究協議ー (中村・加藤)		模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	6	模擬授業(2)ー査定授業の再現と 研究協議ー (中村・加藤)		模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	7	模擬授業(3)ー査定授業の再現と 研究協議ー (中村・加藤)		模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	8	模擬授業(4)ー査定授業の再現と 研究協議ー (中村・加藤)		模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	9	模擬授業(5)ー査定授業の再現と 研究協議ー (中村・加藤)		模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間

	10	模擬授業(6)―査定授業の再現と研究協議― (中村・加藤)	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	11	模擬授業(7)―査定授業の再現と研究協議― (中村・加藤)	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	12	模擬授業(8)―査定授業の再現と研究協議― (中村・加藤)	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	13	模擬授業(9)―査定授業の再現と研究協議― (中村・加藤)	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	14	模擬授業(10)―査定授業の再現と研究協議― (中村・加藤)	模擬授業の準備	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
	15	本授業を振り返って―到達度の確認と今後の課題の発見― (中村)	15 回の授業資料を読み直す	2 時間	授業の振り返りシートに基づき内容をまとめる	2 時間
成 績 評 価		課題・レポート (20%)、授業への取り組み (20%)、グループワーク・グループ討議 (30%)、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (30%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートは、ルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：「教育実習の研究」山口短期大学、「教育実習 Q&A」山口短期大学 参考文献：教育実習報告会資料				
メ ッ セ ー ジ な ど		本学で教員免許を修得するための最終的な評価の授業です。教育実習を含め本学で学んだことを総合的に判断し、教員免許修得者としてふさわしいか、また、今後、教員としてやっていけるかどうかを判断する実践的な授業です。教育実習で学んだことをもとに授業を構成するので教育実習の経験が物を言います。 小学校教諭二種免許状：必修科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 教師としての使命感・責任感や教育的愛情、社会性やコミュニケーション力が向上している。	教師としての資質・能力が磨かれている。	教師としての基本的な資質・能力が見られる。	教師としての資質・能力の最低限の基本が見られる。	教師としての適性が見られない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	20%
(2) 児童理解や学級経営の考え方や具体的方法について、説得力ある説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	20%
(3) 学習指導の原理と方法について、模擬授業の実践を通して、具体的に表現することができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	その場にはいない。	模擬授業、ロールプレイ (思考力・判断力・表現力)	30%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	その場にはいない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力・表現力)	30%

幼稚園教諭二種免許状に 関わる科目

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
幼児教育課程論 Curriculum Theory for kindergarten		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECBE1011	1 年次	後期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
講義	2		中原 久子			○
実務家教員 の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし実務経験を生し、到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ ポリシーに 示されている 学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	乳幼児の保育は、生涯にわたる「生きる力」の基礎となる資質・能力の“3つの柱”を培う大切な時期である。保育の目標を達成するためには、保育の基本となる、「教育課程」「保育課程」を編成するとともに、具体化した「指導計画」を作成しなければならないことへの理解を深める。なお、各年齢別の発達過程を踏まえ、計画、実践、省察、評価、改善を図る重要性を学ぶ。					
到達目標	(1)-1 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び内容の取扱いを理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。 (1)-2 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。 (2)-1 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。 (2)-2 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。 (2)-3 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。 (2)-4 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。 (3)-1 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。 (3)-2 “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	幼稚園教育の基本・目標及び今日の 幼児教育の在り方について	指定された単元 について概要を 収集しておく	0.75 時間	自分なりのまと めノートを作る	0.75時間
	2	幼稚園教育要領に示された「生きる 力」の基礎となる資質・能力の“3つ の柱”について	指定された単元 について概要を 収集しておく	0.75 時間	自分なりのまと めノートを作る	0.75時間
	3	幼稚園教育の各領域のねらい・内 容・内容の取扱いについて	指定された単元 について概要を 収集しておく	0.75 時間	自分なりのまと めノートを作る	0.75時間
	4	「教育課程」「保育課程」について 理解する	指定された単元 について概要を 収集しておく	0.75 時間	自分なりのまと めノートを作る	0.75時間

	5	「教育課程」「保育課程」から「指導計画」作成の基本とその方法を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	6	乳児の特徴と指導計画について学ぶ(0～1・2歳児)	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	7	3歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	8	3歳時の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	9	4歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	10	4歳児の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	11	5歳児の発達の主な特徴を学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	12	5歳児の指導計画を作成する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	13	幼稚園教育におけるカリキュラム・マネジメントと PDCA サイクルについて理解する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	14	指導計画と教育課程・保育課程の評価について理解する	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
	15	生活と発達の連続性を踏まえた幼稚園・保育所の要録について学ぶ	指定された単元について概要を収集しておく	0.75 時間	自分なりのまとめノートを作る	0.75 時間
成 績 評 価		定期試験 (21%)、課題・レポート (17%)、指導案 (12%)、教材作成 (7%)、授業への取り組み (12%)、グループワーク・グループ討議 (12%)、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (19%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		提出課題にコメントを添えて返却する				
テキストおよび参考文献		テキスト：・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 参考文献：『保育課程論』加藤敏子・岡田耕一 編著（萌文書林）				
メッセージなど		幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所における教育課程、全体的な計画の意義やその成り立ちを理解し、年間の指導計画や、月や週の指導計画、年齢ごとの子どもの発達や様子などに触れながら、“保育の連続性”について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼稚園教育に示された5領域のねらい・内容及び内容の取扱いを理解し、小学校の教科とのつながりを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (関心・意欲・知識・理解・思考力)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (判断力・表現力・問題解決力)	7%
(1)-2) 各年齢の発達の特徴がわかり、各年齢に適した活動について討論することができる。	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。	課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・思考力・表現力)	5%
	課題を正しく認識し、ほぼ完璧に自分の考えを述べている。	課題への認識の大きな誤りはなく、自分の考えを述べている。	課題に対する認識の間違いはあるが自分の考えを述べている。	自分の考えを述べていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・意欲・態度・思考力・表現力)	5%
(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本の説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (関心・意欲・知識・理解・表現力)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・知識・理解・表現力)	7%
(2)-2) 長期・短期の指導計画の作成と留意点を説明できる。	ほぼ完璧な指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート (関心・意欲・態度・知識・理解)	5%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・態度・知識・理解)	5%
(2)-3) 各年齢に即した指導計画を作成することができ、指導上の留意点・配慮事項など説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	指導案 (関心・意欲・態度・知識・理解)	7%
	ほぼ完璧な教材を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた教材を作成できる。	最低限の基本を踏まえた教材を作成できる。	作成できていない。	教材作成 (思考力・判断力・表現力・創造性)	7%

(2)-4 教育課程と指導計画・実践・省察・評価・改善を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・態度・知識・理解)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験(関心・意欲・態度・知識・理解)	7%
(3)-1 教育課程・保育課程の意義やその成り立ちを理解し説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議(関心・意欲・理解・表現力・創造性)	7%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・理解・表現力・創造性)	7%
(3)-2 “保育の連続性”を考え指導計画を作成する力を身に付ける。	ほぼ完璧に指導計を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート(関心・意欲・理解・思考力・表現力)	5%
	ほぼ完璧に指導計を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	指導案(関心・意欲・理解・思考力・表現力)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別
幼児指導法 Infant Teaching Method		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1012		1 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員				実務家 教員
講義	2		中津 愛子				
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○
概 要	保育内容の指導法（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の基本を学び、5領域のねらいが総合的に達成されるために 幼児の自発的な活動としての遊びを通して総合的に指導するという幼稚園教育の基本について学ぶ。 子どもの興味・関心や発達段階に応じて指導するための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。						
到達目標	(1)-1 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。 (1)-2 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。 (1)-3 幼児理解に基づく評価について説明できる。 (1)-4 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。 (2)-1 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。 (2)-2 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。 (2)-3 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。 (2)-4 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。 (3)-1 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。 (3)-2 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。 (3)-3 模擬保育を実践し、導入－展開－まとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。						
授業内容 と 進め方	山口短期大学博多キャンパスを令和3年度より開設したことに伴い、本部山口短期大学と博多キャンパスに大型ディスプレイ、ビデオカメラ、パソコン等遠隔授業用の機器を準備し、zoomによる遠隔授業を行っている。						
	回	授業内容		予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	幼児期の特性を踏まえ、遊びを通して指導するという幼児教育の基本となる考え方を学ぶ。				復習プリント	2 時間
	2	子どもが身近な環境に関わり、発達に関わる経験をどのように行っているのか、保育現場の映像を観て理解する。		事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間

	3	子どもの主体的な活動が発展するための環境構成の意義について、保育場面の映像を通して理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	4	環境を構成する人、物、自然等の要素と教材の工夫について、グループ討議を行ない、理解を深める。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	5	子どもの育ちと5つの領域の「ねらいと内容」のつながりを学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	6	遊びの展開を考慮した援助の基本について、保育場面の映像を通して理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	7	幼稚園の教諭にインタビューを行い、子どもの生活・遊びに関わる教師の役割、クラス運営の実際を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	8	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と活動のつながりを理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	9	幼稚園と小学校が連携して行っている活動実践を観察し、小学校への接続が円滑に行われるための重要事項について学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	10	保育現場の映像を通して幼児教育における教育課程・指導計画の基本を学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	11	長期の指導計画と短期の指導計画を理解し、子どもの発達に応じて指導計画を立案し教材を活用するための基本を学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	指導計画の課題レポート	2 時間
	12	指導計画の作成における環境の構成と教材の工夫について理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の教材作成	2 時間
	13	模擬保育の実践の準備を行ない、子どもの活動を見通した具体的な援助方法についてグループ討議をし、教材の作成や選択を行なう。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の練習	2 時間
	14	グループで模擬保育を実践する（ビデオ録画の方法を身につける）。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の実践後の感想レポート	2 時間
	15	録画映像を再生して模擬保育の振り返りと評価を行ない、改善点を話し合う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の指導計画の修正	2 時間
成 績 評 価		定期試験（40%）、課題・レポート（30%）、授業への取り組み（16%）、グループワーク・グループ討議（14%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。				
テキストおよび参考文献		テキスト：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、 幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』チャイルド本社 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 参考文献：文部科学省『幼稚園教育指導資料第 5 集』チャイルド本社				
メ ッ セ ー ジ な		グループ討議や模擬保育を取り入れたアクティブラーニング型の授業です。遊びを通して指導するとは何かを考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼児期の教育における見方・考え方について、事例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-2) 遊びを通して総合的に指導することの意義と教師の役割を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-3) 幼児理解に基づく評価について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-4) 幼稚園から小学校への接続を円滑に行うために何が重要かを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-1) 幼稚園における指導計画作成の基本を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-2) 長期の指導計画と短期の指導計画について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-3) 子どもの姿をもとに指導計画を作成する手順と、指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(2)-4) 指導計画を評価するための基本的事項を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(3)-1) 幼児の実態から、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、工夫もできる。	環境構成の基本は身に付け、教材の工夫もできる。	工夫する力は努力を要すが、環境構成の基本は身につけた。	身につけていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	8%
					グループワーク・グループ討議 (関心・意欲・態度)	7%
(3)-2) 具体的なねらいと内容を考えて指導計画を作成する力を身に付ける。	ほぼ完璧な指導計画を作成できる。	大きな誤りはなく、ねらいに基づいた指導計画を作成できる。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	作成できていない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	30%
(3)-3) 模擬保育を実践し、導入ー展開ーまとめの過程で、集団と個に対応する力を身に付ける。	導入からまとめまで、集団と個に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	集団と個に対応する力は、部分的には身に付けている。	模擬保育は実践したが、集団と個への対応は努力を要す。	模擬保育を実践していない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	8%
					グループワーク・グループ討議 (関心・意欲・態度)	7%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
保育内容の指導法（健康） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Health)		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC2011	2 年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2		佐伯 里英子			
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	幼児期の子どもの発達のあり方を、幼稚園教育要領に示されている健康領域のねらい及び内容を基本に深く考察する資質・能力を身に付ける。同時に、今日の幼児教育において求められている対話的保育のあり方、あそびを軸にした保育のあり方を、健康領域の面から実践的に考察する資質・能力を身に付ける。					
到達目標	(1)-1 「健康領域」のねらいと内容を理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。					
	(1)-2 「健康領域」のねらいと内容を理解し、保育者の役割について説明できる。					
	(2)-1 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解し、具体的に述べることができる。					
	(2)-2 対話的な保育のあり方の重要性を理解し、実践できる。					
	(3)-1 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を説明できる。					
	(3)-2 幼児期の運動あそびの指導上の留意点を理解し、指導案に反映できる。					
	(3)-3 「おにごっこ」あそびの段階的指導法を理解し、説明できる。					
	(3)-4 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を述べることができる。					
	(3)-5 運動あそびと「幼児教育のキーワード」10項目の内容との関連性を述べることができる。					
	(4)-1 幼児期から児童期にかけての発達の違いについて述べることができる。					
(4)-2 健康に関連する領域で、小学校教育の学習や生活について、子どもの姿や課題を予測し、述べる ことができる。						
授業内容 と 進め方						
	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	幼稚園教育要領「健康領域」の今日的意義			健康領域についてわからない用語を調べる。	2 時間
	2	幼稚園教育要領のねらいについて	保育指針幼稚園教育要領「健康領域」ねらいを読む。	2 時間	保育指針幼稚園教育要領のねらいをまとめる。	2 時間
	3	幼稚園教育要領の内容等について	指針要領「健康領域」3 歳児未満の内容を読む。	2 時間	内容に関する課題レオポートをまとめる。	2 時間

4	健康領域における幼児期の発達の特徴 —保育場面の映像をもとに子どもの発達や状況の分析をする—	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
5	乳幼児期の安全（リスクとハザードについて）	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
6	自身の生活習慣と子どもの生活習慣をつなぐ	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
7	幼児の生活習慣（睡眠を中心に）とそれを支える保育者のあり方について	健康領域の内容(1)～(5)を読んでおく。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
8	保育場面の画像をもとに、生活習慣（食事・排泄を中心に）とそれを支える保育者の役割について	健康領域の内容(6)～(10)を読んでおく。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
9	生活習慣の自立に向かう保育のあり方について	健康領域の内容(7)を読んでおく。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
10	幼児期における運動あそびの重要性 —保育場面の映像をもとに保育方法・環境を分析する①—	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
11	幼児期における運動あそびの重要性 —保育場面の映像をもとに保育方法・環境を分析する②—	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
12	保育実践報告から学び、保育の今日的意義を考える①	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
13	保育実践報告から学び、保育の今日的意義を考える②	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
14	対話的保育の今日的意義と運動あそびへの応用	前回までの資料を読んで復習しておく。	2 時間	発表資料を作成する。	2 時間
15	運動場面での指導方法と安全管理について	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
16	災害時の保育について考える	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
17	運動や運動あそびにおける「楽しさの質」の発達段階	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
18	発達段階に応じた運動あそびを理解する（乳児期前半を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
19	発達段階に応じた運動あそびを理解する（乳児期後半を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
20	発達段階に応じた運動あそびを理解する（2 歳児から 3 歳児への移行の時期を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
21	発達段階に応じた運動あそびを理解する（3 歳児の時期を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
22	保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそびを理解する（4 歳児の時期を中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間

	23	保育場面の映像をもとに、発達段階に応じた運動あそび（5歳児の時期を中心に）を理解する	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
	24	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の教材作成と指導案作成	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	指導案の修正または作成。	2 時間
	25	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践の準備	指導案の作成。	2 時間	指導案の修正または作成。	2 時間
	26	「おにごっこ」あそびの初期段階における模擬保育の実践と考察	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
	27	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方を考える（段階Ⅰの取り組みを中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
	28	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方を考える（段階Ⅱ・Ⅲの取り組みを中心に）	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
	29	保育場面の映像をもとに認知機能の発達に基づく「おにごっこ」あそびの指導のあり方（段階Ⅳ・Ⅴの取り組みを中心に）を考える	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	内容に関する課題レポートをまとめる。	2 時間
	30	幼稚園教育から小学校教育への「接続」を考える	前回の配布資料を読んで復習。	2 時間	全範囲の資料を振り返る。	2 時間
成 績 評 価	授業への取り組み（30%）、課題・レポート（20%）、定期試験（50%）					
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法	レポートは翌週にコメントを書いて返却する。試験については必要に応じて次回に解説を行う。					
テキストおよび参考文献	・幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） ・吉田伊津子・砂上史子・松寄洋子『乳幼児教育・保育シリーズ 保育内容 健康』光生館					
メ ッ セ ー ジ な ど	乳幼児期の健康に関する知識や考え方などを学び、具体的な場面で子どもの主体性や自立を支援することのできる基礎的な力をつけていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1 「健康領域」のねらいと内容を理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。	ほぼ完璧に理解し、具体的な保育に結びつけて説明できる。	大きな間違いなく理解し、説明できる。	最低限の基本は理解し、説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (知識・理解・思考力)	5%
(1)-2 「健康領域」のねらいと内容を理解し、保育者の役割について説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	最低限の基本を理解し、説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (知識・理解・思考力)	10%
(2)-1 健康領域にかかわる幼児の発達の特徴を理解し、具体的に述べるができる。	ほぼ完璧に理解し、具体的に述べるができる。	大きな間違いがなく基本を理解し、述べられる。	最低限の基本を理解し、述べるができる。	述べることができていない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	10%
(2)-2 対話的な保育のあり方の重要性を理解し、実践できる。	幼児と教師との温かい触れ合いを構築する保育のあり方を理解し実践できる。	基本的な触れ合いの中での保育のあり方を理解し、実践できる。	対話的な保育の意味を自分なりに理解し、実践できる。	実践できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力)	10%
(3)-1 幼児期における運動あそびの重要性を理解し、幼児教育における評価の考え方を説明できる。	評価の考え方を説明することができる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、説明できる。	最低限の基本を理解し、説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力)	10%
(3)-2 幼児期の運動あそびの指導上の留意点を理解し、指導案に反映できる。	ほぼ完璧に留意点が示され、指導案を作成できる。	ある程度の留意点を理解し、指導案を作成できる。	留意点をいくつかあげて、指導案を作成できる。	指導案に留意点が反映できていない。	授業への取り組み (知識・思考力・判断力・創造性)	10%
(3)-3 「おにごっこ」あそびの段階的指導法を理解し、説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	ある程度、説明できる。	段階的な指導があることは説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・判断力)	10%
(3)-4 映像による保育実践の記録から、発達段階に応じたあそびのあり方について問いを見出し、発表する。また、評価の考え方を述べるができる。	自分の問いを出し、他者と協議し、発表できる。	他者と問いを出し合い、発表できる。	他者の意見を聞き、自分の考えと比較できる。	他者との意見交換・検討ができない。	授業への取り組み (意欲・思考力・表現力・協働性)	5%
(3)-5 運動あそびと「幼児教育のキーワード」10項目の内容との関連性を述べることができる。	ほぼ完璧に関連性を述べるができる。	ある程度関連性を述べることができる。	「幼児教育のキーワード」の項目について列挙できる。	「幼児教育のキーワード」を列挙できていない。	定期試験 (知識・思考力・判断力・表現力)	10%
(4)-1 幼児期から児童期にかけての発達の違いについて述べるができる。	ほぼ完璧に述べるができる。	大きな間違いがなく、述べるができる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本は述べられる。	述べることができていない。	定期試験 (知識・理解・思考力・判断力)	10%
(4)-2 健康に関連する領域で、小学校教育の学習や生活について、子どもの姿や課題を予測し、述べるができる。	子どもの姿や課題について、いくつも述べるができる。	大きな間違いなく、述べるができる。	1点か2点は述べるができる。	述べられていない。	課題・レポート (関心・知識・思考力)	10%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
保育内容の指導法（人間関係） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Human Relations)			児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC2012	2 年次	前期	
講義・演習・実技・ 実習・実験		単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
演習		1	選択	大森 洋子			○	
実務家教員 の詳細		幼稚園教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。						
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係		(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						
		(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○	
		(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						
		(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○	
		(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						
		(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概 要		人間関係が人としてこの社会を生きていく上で避けて通る事のできないことであることを理解し、乳幼児からの発達にどのような環境や人とのかわりが求められるのかを探るとともに、育ちを支える保育・教育の在り方を学ぶ。						
到達目標		(1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。 (1)-2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。 (2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。 2)-2) 自立心を育み、人との関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。 (2)-3) 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかわりが重要なのか具体的に説明できる。 (3)-1) 領域「人間関係」について理解し、指導案の構成を理解した上で、指導案を立案し、保育の構想について説明できる。						
授業内容 と 進め方		回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
		1	乳児期を取り巻く人間関係の現状と課題について理解する。		現代の子どものおかれている状況を調べておく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
		2	保育の基本と領域「人間関係」について学ぶ。		テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
		3	0歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。		テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。。	2 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	2 時間
		4	1, 2歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。		テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間

	5	3歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	6	4歳児の集団生活の中での人間関係の育ちと援助について実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	7	5歳児の集団生活の中での姿と人間関係の育ちについて実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	8	子どもたちの豊かな人間関係を育む学級経営や集団づくりについて実践事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	9	園生活の中で人とかかわりの難しい子どもへの支援の仕方について学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	10	園生活の中での異年齢のかかわりや地域の人々とかかわりと援助について学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	2 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	2 時間
	11	人間関係の育ちを支える保護者と保育者の望ましい関係について、事例を通して学ぶ。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	12	「人間関係」の育ちを支える保育の構想① 人間関係を育む指導案を作成する。	テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	13	「人間関係」の育ちを支える保育の構想② 作成した保育案をもとに、指導と援助ポイントについて考え合う。	配テキスト指定頁または配付資料を読んでおく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	2 時間
	14	「人間関係」の育ちを支える保育の構想③ 指導案に基づいた保育について発表し、保育者の援助と環境構成についてディスカッションする。	指導案を読んで、自分の考えをまとめておく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
	15	「人間関係」の育ちを支える保育の構想④ 指導案に基づいた保育について発表し、保育者の援助と環境構成についてディスカッションする。	指導案を読んで、自分の考えをまとめておく。	1 時間	授業振り返りシートを基に内容をまとめる。	1 時間
成績評価	定期試験（50%）、課題・レポート（20%）、授業への取り組み（30%）					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	課題はコメントを書き、返却する。 レポートや試験はルーブリック評価の結果を渡す。					
テキストおよび参考文献	参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）					
メッセージ	人として生きていく上で欠かすことのできない人とかかわりが乳幼児期からどのように育っていくのかを具体的に学ぶ中で、保育・教育にたずさわる者としてどのように子ども、親とのコミュニケーションをとっていくか演習を交えながらすすめていきます。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 今の子ども、親との関係、家族についての現状について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (知識・理解)	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	課題・レポート (思考力・判断力・問題解決力)	10%
(1)-2) 「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の中での人間関係の領域について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (知識・理解)	20%
(2)-1) 幼稚園教育以前の年齢の子どもの姿と他の子どもたちへのかかわりを学び、乳幼児期からのかかわりの重要性について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)-2) 自立心を育み、人との関わる力を養うために必要な、幼児が経験し身につけていく内容や指導上の留意点、配慮事項について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (知識・理解)	20%
(2)-3) 子どもの発達にとってどのような環境や人とのかかわりが重要なのか具体的に説明できる。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	授業への取り組み (関心・意欲・態度・表現力)	5%
	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	定期試験 (関心・知識・理解)	20%
(3)-1) 領域「人間関係」について理解し、指導案の構成を理解した上で、指導案を立案し、保育の構想について説明する。	ほぼ完璧に説明できる	大きな間違いがなく、基本は説明できる	間違いはあるが、最低限の基本の説明はできる	説明できていない	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次	期 別	
保育内容の指導法（環境） Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Environment)		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC2013		2 年次	前期	
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員				実務家 教員	
演習	1	選択	玉木 晃子				○	
実務家教員 の詳細	保育者としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。							
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○	
概 要	幼児教育と環境、幼児の発達と環境、幼児と環境とのかかわりについて学ぶ。 自然や社会の事象などの身近な環境に積極的にのかかわる力を育てるための基礎知識を身に付ける。 子どもの主体的な活動が確保されるための環境構成の基本について学ぶ。							
到達目標	(1)-1) 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。							
	(1)-2) 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。							
	(1)-3) 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。							
	(1)-4) 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。							
	(2)-1) 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。							
	(2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。							
	(2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。							
	(3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。							
	(3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。							
	(3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。							
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容		予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	環境を通して行う保育の基本を理解する。		授業用プリントを 読んでおく。		2 時間	授業の振り返りシ ートに基づき、内 容をまとめる。	2 時間

2	子どもが生活や遊びのなかで身近な環境とどのようにかかわりながらどんな発達をしていくか、保育映像を通して理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
3	子どもが身近な環境とかかわるなかで「環境とかかわる力」の発達を支えているものについて理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
4	環境を構成する人や身近な動植物とのかかわりについて保育場面の映像から具体的に理解する。身近な生き物をビデオカメラで撮影し、体のしくみや動き、成長過程をタブレットで見せる等、保育場面での ICT の活用を考える。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
5	環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する。－身近な素材の収集とおもちゃ製作－	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
6	環境を構成する身近な自然とのかかわりについて理解する。－生物の飼育、植物の栽培－	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
7	数量や図形、標識や文字などに関心をもつための教材とその活用方法を理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
8	地域の施設やさまざまな情報、行事などに興味や関心が高まるよう情報機器を活用した映像資料を作成する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
9	環境を通して行う幼児教育の教育課程・指導計画について学ぶ。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
10	短期の指導計画と長期の指導計画を理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
11	指導計画の作成における環境の構成と情報機器・教材の活用について理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
12	幼児期の終わりまで、発達の過程に寄り添いながら、長期的な視点をもって環境を構成していくことを保育映像から理解する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
13	幼児の周りにある環境について、その特性や価値を知り、実際の保育のなかで適切に活用できるよう ICT を活用して教材を作成する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
14	環境とのかかわりを促すアイデアを保育活動に活かした指導案を作成する。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間
15	身近な自然に関わる模擬保育を行い、保育環境を改善するための反省と評価を行う。	授業用プリントを読んでおく。	2 時間	授業の振り返りシートに基づき、内容をまとめる。	2 時間

成 績 評 価	定期試験（60%）、課題・レポート（20%）、教材作成（11%）、授業への取り組み（9%）
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。レポートや試験は、ループリック評価の結果を渡す。
テキストおよび 参 考 文 献	テキスト：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月 告示） 参考文献：酒井幸子・守 功『保育内容 環境』 萌文書林
メ ッ セ ー ジ な ど	子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで、その活動が充実するように、興味や関心、発達の実情などに応じた適切な指導・援助のあり方について学んでいきましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1 幼児の実態を考慮したねらいと、内容を実現するのにふさわしい環境について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-2 幼児期の教育・保育は、環境を通して行うことを基本とするが、具体的にはどのようなことを意味するのか説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-3 保育のなかで変容していく幼児の姿から、幼児理解に基づく評価について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(1)-4 幼稚園における生活が家庭や地域社会と連携を円滑に行うために何が重要か説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)-1 保育をよりよいものとしていくために、活動の具体的なねらいと内容を検討して指導計画を作成する力を身に付ける。	指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。	指導計画作成の基本を身に付けている。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	身に付けていない。	教材作成 (関心・意欲・態度)	5%
	指導計画を作成する力をほぼ完璧に身に付けている。	指導計画作成の基本を身に付けている。	誤字・脱字もあるが、最低限の基本を踏まえた指導計画を作成できる。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%

(2)-2) 子どもの発達を見通した短期と長期の指導計画について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)-3) 子どもの自発的活動を引き出し、長期的に発達を見通した指導計画の作成について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(3)-1) 幼児の感性、表現力を豊かに育むための指導上の留意点、配慮事項が説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(3)-2) 子どもの生活経験や発達に応じ、人、物、自然などの環境を構成する力や教材を工夫する力を身に付ける。	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	教材作成 (関心・意欲・態度)	3%
	環境を構成する力をほぼ完璧に身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本を身に付け、教材の工夫もできる。	環境構成の基本は身につけたが、工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	2%
(3)-3) 子どもが環境とかかわって活動を展開するなかで生じる疑問を、適切な援助を行うことにより、探求へと導く力を身に付ける。	探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。	適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。	身に付けていない。	教材作成 (関心・意欲・態度)	3%
	探求へと導く力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、探求へと導く力を身に付けている。	適切に援助できるが、探求へと導く力は努力を要す。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	2%
(3)-4) 子どもの行う活動が、個人、グループ、学級全体など多様に展開される過程で、個と集団に対応する力を身に付ける。	個と集団に対応する力をほぼ完璧に身に付けている。	個と集団に対応する力は部分的に身に付けている。	多様な活動は調整できるが、個と集団への対応は努力を要す。	身に付けていない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	10%
(3)-5) 保育はオーダーメイドデザインという発想のもとに、環境構成と環境に込められた保育のデザインを工夫する力を身に付ける。	保育のデザインを工夫する力をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違いがなく、保育のデザインを工夫する力を身に付けている。	環境構成の基本は身につけたが、保育のデザインを工夫する力は努力を要す。	身に付けていない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	10%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別		
保育内容の指導法（言葉） Teaching Methods of Child Care and Education (Language)			児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC2014		2 年次		通年		
講義・演習・実 技・実習・実験		単位 数	卒 業 認 定		担 当 教 員				実務家 教員		
演習		2			竹内 幹雄						
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。								○		
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。								○		
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。								○		
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。								○		
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。								○		
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。								○		
概 要		幼稚園教育要領「言葉」のねらい・内容・内容の取扱いについて、発達段階に応じて指導するための基礎知識を学ぶ。 理論と実践を結び付け、遊びを通して総合的に指導する上での適切な言葉かけや対応について学ぶ。 言葉の獲得に関わる環境構成の基本について学ぶ。 言葉の重要性を理解し、保護者や学校・地域社会との連携を深めるための基礎知識を身に着ける。									
到達目標		(1)-1 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。 (1)-2 子どもの心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。 (1)-3 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。 (2)-1 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。 (2)-2 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。 (2)-3 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。 (3)-1 実社会における言葉に関する課題について理解できる。 (3)-2 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。 (3)-3 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを、事例をあげて説明できる。 (4)-1 領域「言葉」について特別な配慮や支援を理解し、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。 (4)-2 海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。									
授業内容 と 進め方		回	授業内容			予習内容		予習 時間	復習内容		復習 時間
		1	乳幼児期にふさわしい「生活」の保障について理解する。			教科書 P1～5 を読み、考えをテキストにまとめる。		2 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。		1 時間
		2	領域「言葉」の位置づけ、ねらい・内容・内容の取扱いについて、理解するとともに、図表にしてまとめる。			教科書 P6～17 を読み、考えをテキストにまとめる。		2 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。		1 時間

3	ヒトのコミュニケーションの特徴・非言語から言語への視点から、誕生から3歳ころまでの言葉の発達について理解し、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P20～29 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
4	要領・指針で大切にされていることを基に、乳児期の言葉の発達と保育における配慮について理解し、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P30～36 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
5	伝え合う言葉、考える言葉の発達、読み・書きの発達の理解を基に、乳幼児期から幼児期への言葉の発達過程をつかみ、グループで表にまとめ、発表し合う。	教科書 P37～41 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
6	集団保育への参加、クラスの一員としての役割や意識を理解の基に、個と集団との関係のなかで幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P42～43 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
7	仲間関係と言葉、言葉と思考・表現についての理解を基に、幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P43～47 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
8	言葉の楽しさや美しさの理解を基に、幼児期の言葉の発達過程をつかみ、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P48～50 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
9	幼児期と児童文化財について理解を深め、幼児期の言葉の発達過程についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P51～55 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
10	幼児期から児童期の言葉、接続期と言葉についての理解を基に、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P56～58 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
11	記号や文字との出会い、絵本とともに環境、文字で伝える、を理解の基に、文字環境についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P59～62 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
12	幼児期の読み書き、言葉による伝え合い、を理解の基に、幼児期から児童期の言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P63～66 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
13	保・小・こ・小の接続で大切にしたいこと、言葉に関する家庭との連携、を理解の基に、幼児期から児童期の言葉や小学校「国語」との関連性についてグループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。また「おてて絵本」で遊ぶ。	教科書 P67～70 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
14	子どもの言葉と保育者の役割、子どもの遊びや学びを支える保育者の援助、を理解の基に、保育者の専門性と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P71～77 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間
15	子どもの言葉と保育者の役割、子どもの遊びや学びを支える保育者の援助、を理解の基に、保育者の専門性と言葉について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P78～85 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	1 時間

	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	伝え合う言葉を育むための保育環境、文字との出会いと文字環境、を理解の基に、保育環境と言葉について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P86～94 を読み、テキストに記述する。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	17	保育における絵本との出会い、発達に応じた絵本との出会い、を理解の基に、保育と児童文化財について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。また、読み聞かせのポイントをつかむ。	教科書 P95～96 を読み、テキストにまとめる。	3 時間	グループの発表、読み聞かせのポイント、をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	18	伝え合う言葉を育む環境構成と指導計画、評価と改善、を理解の基に、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。また、紙芝居のポイントをつかむ。	教科書 P97～104 を読み、テキストの図にまとめる。	3 時間	グループの発表、紙芝居のポイント、をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	19	遊びや生活に必要な言葉、自分の思いを伝える言葉、出来事を他者に伝える言葉、を理解の基に、乳幼児期の遊びと生活のなかの言葉について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P105～109 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストをまとめ直す。	2 時間
	20	遊びを支える言葉、ごっこ遊びをめぐる言葉のやりとり、ルールのある遊びと言葉、を理解の基に、様々な遊びと言葉について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P62～66 を読み、テキスト P5～7 にまとめる。	2 時間	グループ発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	21	言葉のリズムや響きを感じる・楽しむ、様々な言葉遊びを楽しむ、を理解の基に、言葉のリズムや響き・言葉遊びについて、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P114～116 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	22	自分なりの言葉、言葉に対する感受性、を理解の基に、子どもの発達にふまえた遊びや生活と指導援助の実践について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P117～121 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	23	一人一人の特性に応じるために、発達障害（自閉症スペクトラム障害等）について、を理解の基に、領域「言葉」についての特別な配慮や支援を、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P122～125 を読み、テキストにまとめる	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	24	障害のある子どもの保育で大切な考え方について、行為を言葉でなぞる、生活の見通しを示す工夫—登園してからすること、を理解の基に、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や支援について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P126～130 を読み、テキストにまとめる。	2 時間	グループの発表をふまえ、テキストにまとめ直す。	2 時間
	25	はじめに、個別の教育支援計画と個別の指導計画について、個別の指導計画の一例、を理解の基に、個別の教育支援計画と個別の指導計画について、グループで話し合い、ICTを活用して発表し合う。	教科書 P131～132 を読み、テキストにまとめる。	3 時間	授業メモをもとに、テキストにまとめ直す。	2 時間

	26	海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や支援、家庭や地域・関係機関（医療や福祉、保健等）との連携、を理解の基に、言葉の問題や援助について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P133～138 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	グループの発表を ふまえ、テキスト にまとめ直す。	2 時間
	27	言葉の環境と活動、全体的な計画、カリキュラムマネジメント、主体的・対話的で深い学び、を理解の基に、保育計画と評価について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P139～156 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	授業メモをもと に、テキストにま まとめ直す。	2 時間
	28	情報革命と社会の変化、グローバル化と英語教育、育つことが期待される姿「言葉による伝え合い」、を理解の基に、子どもが育つ社会の変化と子どもの「言葉」について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P107～114 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	グループの発表を ふまえ、テキスト にまとめ直す。	2 時間
	29	言わずにはいられない言葉、みんなの前で話す体験、形だけ整っている言葉、謝ると言う行為と言葉、を理解の基に、実践のなかで考えるべき課題について、グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P159～164 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	グループの発表を ふまえ、テキスト にまとめ直す。	2 時間
	30	聞き手としての保育者、話し手としての保育者、やりとりする保育者、集団生活と言葉、を理解の基に、保育者の関わりについて、ICT を活用して発表し合う。グループで話し合い、ICT を活用して発表し合う。	教科書 P123～129 を読み、テキスト にまとめる。	2 時間	グループの発表を ふまえ、テキスト にまとめ直す。	2 時間
成 績 評 価		定期試験（21%）、課題・レポート（20%）、授業への取り組み（14%）、発表・プレゼンテーション（32%）、グループワーク・グループ討議（13%）				
課題(試験・レポート等) に対する フィードバックの方法		授業の振り返りシートや試験にコメントを書き、次の授業時に返却する。				
テキストおよび 参 考 文 献		テキスト：『保育内容 言葉』 秋田喜代美・野口隆子 編著 光生館、 『幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）』、『保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）』、『幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）』				
メ ッ セ ー ジ な		乳幼児の言葉獲得過程と保育者の適切な対応・言葉かけをテキストや実習体験からともに考えていきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目、保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1 領域「言葉」の位置づけを理解するとともに、基本的な指導のありかた、評価を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-2 子どもの心身の発達と言葉獲得の過程を関連付け理解し発達段階に応じた言葉かけができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	8%
	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・技能・思考力・判断力・表現力)	7%
(1)-3 領域「言葉」と他領域との関係を理解して適切な言葉かけをすることができる。	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	3%
	ほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなくできる。	間違いはいくつかあるが、最低限できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・技能・思考力・判断力・表現力)	2%
(2)-1 言葉を獲得することと人間としての成長との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-2 言葉獲得に資する発達段階に応じた環境設定のありかたを説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (知識・理解・思考力・判断力・表現力)	5%
(2)-3 言葉を育てる文化財について理解し、それらを利用できる。	ほぼ完璧に理解し、利用できる。	理解に偏りがあるが、利用できる。	理解への偏りが大きい、何とか利用できる。	理解できず、利用できない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力)	15%
	ほぼ完璧に理解し、利用できる。	理解に偏りがあるが、利用できる。	理解への偏りが大きい、何とか利用できる。	理解できず、利用できない。	発表・プレゼンテーション (技能・表現力)	15%
(3)-1 実社会における言葉に関する課題について理解できる。	ほぼ完璧に広く、深く捉えている。	課題の捉え方が、やや限定的である。	課題の捉え方が限定的である。	理解できていない。	発表・プレゼンテーション (思考力・判断力・表現力)	8%
	ほぼ完璧に広く、深く捉えている。	課題の捉え方が、やや限定的である。	課題の捉え方が限定的である。	理解できていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・態度・思考力・判断力・協働性)	7%
(3)-2 領域「言葉」と小学校「国語科」との関連性を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	5%

(3)-3) 地域社会が言葉の獲得・発達に関わっていることを事例をあげて説明できる。	多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。	いくつかの事例をあげ、説明できる。	事例が限定的であるが、何とか説明できる。	説明できていない。	発表・プレゼンテーション (思考力・判断力・表現力)	3%
	多くの事例をあげ、ほぼ完璧に説明できる。	いくつかの事例をあげ、説明できる。	事例が限定的であるが、何とか説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・態度・思考力・判断力・協働性)	2%
(4)-1) 領域「言葉」について特別な配慮や支援を理解し、特別な配慮を必要とする子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	発表・プレゼンテーション (思考力・判断力・表現力)	3%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・態度・思考力・判断力・協働性)	2%
(4)-2) 海外から帰国した子どもや生活に必要な日本語の習得に困難のある子どもの園生活適応のための配慮や保護者への支援が説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	発表・プレゼンテーション (思考力・判断力・表現力)	3%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく理解し、説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	理解できず、説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (関心・態度・思考力・判断力・協働性)	2%

授業科目			対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期 別
保育内容の指導法 (表現Ⅰ (音楽・造形)) Teaching Methods of Contents of Child Care and Education (Expression I)			児童教育学科 初教育学専攻	23ECCC2015	2年次	通年
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	2	選択	田中 奏子・大森 洋子			
実務家教員 の詳細						
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					
概 要	【音楽】豊かな感性はどのようにして生まれるのか。 授業で様々な表現活動を通し、子どもたちが創造性を深められるような援助の仕方を学ぶ。 またその状況に適した応用などを学ぶ。					
到達目標	(1)-1 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。 (1)-2 表現を生成する過程について理解している。 (1)-3 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 (2)-1 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 (2)-2 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。 (2)-3 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。 (2)-4 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。 (2)-5 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	幼児と表現、音楽表現について理解する (オリエンテーション)	テキスト 3P、4P を読んでおく	2 時間	授業を振り返り テキストを見て復習する	2 時間
	2	音楽を中心とした音楽劇について DVD を視聴して具体的に理解する	テキスト 5P から 7P を読んでおく	2 時間	授業を振り返り テキストを見て復習する	2 時間
	3	「表現あそび」を体験し、幼児の感性 と表現について学ぶ。「表現遊び」に おける ICT の活用法について保育場 面の映像から学び、保育構想に活用 するアイデアを考える	テキスト 8P、9P、 14P を読んでおく	2 時間	授業を振り返り テキストを見て復習する	2 時間
	4	「音あそび」を体験し、イメージ活動 の基礎を学ぶ。自分たちで作った音 を録音し、音の教材を作成する	テキスト 15P を 読んでおく	2 時間	授業を振り返り テキストを見て復習する	2 時間

	5	「音楽とイメージ」について考え、感情と音楽の関係について学び、ICTを用いて音楽のイメージを映像化した教材を作成する	テキスト 16P、23P、24P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	6	「即興演奏」や「表現あそび」を行い、その場면을録画しその映像を観ることで言葉と動きの関連性を学ぶ	テキスト 10P、11P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	7	「即興演奏」や「音あそび」を行い、その場면을録画しその映像を観ることで音とイメージの関係を学ぶ	テキスト 12P、13P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	8	グループ練習。絵本からイメージする音づくりを通し想像力を高める。	テキスト 17P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	9	グループで創作活動について指導計画を立案する。	テキスト 18P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	10	グループによる創作活動の練習①練習場면을録画し、その映像をもとに改善していく。	テキスト 19P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	11	中間発表を行い、各グループ評価しあう。発表の様子を録画し、その映像を観て自己評価と反省を行い、指導計画案を練り直す。	テキスト 20P、21P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	12	グループによる創作活動の練習②録画映像をもとに最終確認	テキスト 22P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	13	模擬保育①音楽（演奏）を中心とした活動	テキスト 25P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	14	模擬保育②表現（演劇）を中心とした活動	テキスト 26P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
	15	模擬保育の反省を行なう。保育者として必要な表現力や想像力について、また、保育現場での理想的な表現活動について話し合う。	テキスト 29P、30P を読んでおく	2 時間	授業を振り返りテキストを見て復習する	2 時間
成績評価		課題・レポート（41%）、授業への取り組み（50%）、グループワーク・グループ討議（9%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		音楽：振り返りシートに毎回コメントを記入し提出する。				
テキストおよび参考文献		参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『幼児の音楽教育』神原雅之 鈴木恵津子他 教育芸芸術社、『うたっておどっっておもちゃ箱 2』鈴木 恵津子 教育芸芸術社				
メッセージなど		この授業は、受講者自身が豊かな表現力、コミュニケーション能力、を獲得するための内容です。表現力豊かな子どもを育てるには、接する保育者の想像力や表現力を磨くことが必須です。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置付けについて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。	説明できていない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはあるが、最低限の基礎を説明できる。	説明できていない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力)	2%
(1)-2 表現を生成する過程について理解している。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。	理解していない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	3%
	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはあるが、最低限の基礎を理解している。	理解していない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力)	2%
(1)-3 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。	表現の基本を受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することが最低限できる。	表現を受け止め、共感することができない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	5%
	表現を受け止め、共感することがほぼ完璧にできる。	表現の基本を受け止め、共感することができる。	表現を受け止め、共感することが最低限できる。	表現を受け止め、共感することができない。	グループワーク・グループ討議 (思考力・判断力)	5%
(2)-1 様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。	課題・レポート (知識・思考力)	5%
	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることが最低限できる。	様々な表現を感じ、イメージを豊かにすることができない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	5%
(2)-2 身の周りのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした表現ができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を表現できる。	基礎を表現できるが努力を要す。	表現できない。	課題・レポート (知識・思考力)	8%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を表現できる。	基礎を表現できるが努力を要す。	表現できない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	7%
(2)-3 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。	ほぼ完璧に分析することができる。	大きな間違いがなく、基本を分析できる。	分析することは最低限できるが、努力を要す。	分析できない。	課題・レポート (知識・思考力)	8%
	ほぼ完璧に分析することができる。	大きな間違いがなく、基本を分析できる。	分析することは最低限できるが、努力を要す。	分析できない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	7%

(2)-4) 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが最低限できる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。	課題・レポート (知識・思考力)	10%
	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことが最低限できる。	他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	10%
(2)-5) 様々な表現の基礎的な知識技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することが最低限できる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。	課題・レポート (知識・思考力)	10%
	知識技能を生かし、表現活動に展開することがほぼ完璧にできる。	大きな間違いがなく、知識技能を生かし、表現活動に展開することができる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することが最低限できる。	知識技能を生かし、表現活動に展開することができない。	授業への取り組み (表現力・判断力)	10%

概 要	【造形】保育内容の各領域を総合的に捉え表現活動を中心に乳幼児の発達段階に応じた保育内容の展開や指導法を学ぶ。形、色、手触りなど様々な表現方法を使って表現活動の特徴や面白さを確認し応用や発展を考え実践を重ね、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身につける。					
到達目標	(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。 (1)-2) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 (1)-3) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 (1)-4) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教育とのつながりを理解している。 (2)-1) 幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。 (2)-2) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。 (2)-3) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。 (2)-4) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。模擬授業の計画を練り、経験した後に、その反省点を踏まえ、改善できる。 (2)-5) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	16	表現とは何か、その中の領域「造形表現」の意義を理解する	授業前に配付したプリントを読んでおく	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	17	表出と表現の違いを、実際の幼児作品の観察と映像を通して理解する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	18	遊びの中の幼児の様々な表現活動を捉え、造形表現の可能性を考える。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	「授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	19	0 歳～6 歳までの幼児画を観察観察し、各年齢の発達と表現の特徴を理解する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	20	身近な素材を用いた表現活動と保育者の援助について実践例を通して学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	描画材料を理解したかどうか復習し感想を書く	2 時間
	21	教材や用具・材料等の特性や発達に応じた使い方の実践について、実践例を通して学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	22	年齢による発達や幼児の実態、季節を踏まえた教材や指導法を検討する①	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	23	年齢による発達や幼児の実態、季節を踏まえた教材や指導法を検討する②	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	「授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

	24	映像視聴を通して乳幼児の表出、表現の背景や要因を考察し、表現における情報機器・活用法について検討する	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	25	小学校の「図画工作」や様々な教科と幼児期の表現・造形教育の関連性や学びの連続性について学ぶ。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	26	授業から題材を選び、豊かな感性と心を育てる「指導案」を立案する。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	27	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるととともに、ディスカッションにより振り返る①	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	28	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるととともに、ディスカッションにより振り返る②	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	29	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるととともに、ディスカッションにより振り返る③	模擬保育が出来るよう準備する	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	30	指導案をもとに模擬保育を実施し、年齢に応じた造形指導法を身に付けるととともに、ディスカッションにより振り返る④	模擬保育が出来るよう準備する	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
成 績 評 価	小テスト (8%)、課題・レポート (19%)、作品 (18%)、指導案 (32%)、教材作成 (5%)、模擬授業、模擬保育、ロールプレイ (10%)、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (8%)					
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法	造形:毎回授業後に振り返りシートに記入。作品ファイルを作成し、授業後に返却し、実習にいかす。					
テキストおよび参考文献	テキスト：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省） 参考文献：林建造他『領域「表現」』国文書院					
メ ッ セ ー ジ な ど	造形教育は、子どもの豊かな感性と表現を育てるものです。子どもの心を育てる造形指導法を学びましょう。 保育士証：必修科目、幼稚園教諭二種免許状：必修科目					

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい、内容、構造を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-2) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。領域「表現」の内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-3) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(1)-4) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」ねらい及び内容を理解する。領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校教育とのつながりを理解している。	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	課題・レポート（理解・思考力・知識）	3%
	ほぼ完璧に理解し説明できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し説明できる。	理解していない。説明できない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（理解・思考力・知識）	2%
(2)-1) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける：幼児の表現活動の特性を視野に入れた保育の構想の大切さを理解している。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、完璧に説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きな間違いがなく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違った理解が少なく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違った理解が少なく理解し説明できる。	小テスト（知識・理解・思考力）	8%
	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを良く理解し、完璧に説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを大きな間違いがなく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違った理解が少なく理解し説明できる。	幼児の表現活動の特質を視野に入れた保育の構想の大切さを間違った理解が少なく理解し説明できる。	課題・レポート（知識・理解・思考力）	7%

(2)-2) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける: 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性を考慮し、幼児の発達に合った教材、材料の活用法を理解し活用できる。	ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	理解していない。活用できない。	作品(技能・表現力・創造性・作品の完成度)	18%
	ほぼ完璧に幼児画を理解し、発達に合った材料で制作できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	間違いは少しあるが、基本を理解し発達に合った材料で制作できる。	理解していない。活用できない。	指導案(技能・表現力・創造性・作品の完成度)	17%
(2)-3) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける: 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。指導案の構造を理解し、設定保育を想定した指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	大きな間違いがなく、基本を理解し、設定保育を想定した指導案を作成できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解し設定保育を想定した指導案を作成できる。	理解していない。指導案を作成できない。	指導案(知識・理解)	10%
(2)-4) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける: 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。模擬授業の計画を練り、経験した後、その反省点を踏まえ、改善できる。	ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	計画を練ることができない。	指導案(技能・判断力・問題解決力)	5%
	ほぼ完璧に計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	大きな間違いがなく、計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の計画を練り、経験後反省点を踏まえ、改善できる。	計画を練ることができない。	模擬授業、模擬保育、ロールプレイ(技能・判断力・問題解決力)	5%
(2)-5) 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける: 幼児の発達段階を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を設定した保育を構想する方法を身に付ける。領域「表現」の特性に応じた知識、技能、指導法を身に付け、向上に取り組むことができる。	ほぼ完璧に知識、技能、指導法を身に付けている。	大きな間違いがなく、知識、技能、指導法を身に付けている。	間違いは少しあるが、最低限の知識、技能、指導法を身に付けている。	知識、技能、指導法を身に付けていない。	教材作成(技能・表現力)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
幼児理解と教育相談 Infant Comprehension and Educational Counseling		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECUI2011	2 年次	前期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家教員
講義	2		田中 佑弥			
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	幼児の生活や遊びの実態に即して幼児の発達を理解する。 子どもの臨床的問題について考え、つまずきの要因、親子の支援について学ぶ。 発達上の問題の把握、介入方法の仕方などについて学ぶ。					
到達目標	(1)幼児理解についての基本的な知識を身につける。 (2)幼児の理解、保護者を含めた関係者について理解する。 (3)幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ。					
授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	幼児理解とは何か概要を知る			幼児理解の概要をまとめる。	2 時間
	2	幼児理解の必要性・意義について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
	3	幼児の生活状況について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
	4	幼児を取り巻く環境について知り、その影響について理解する	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
	5	親子関係を中心に重要な他者との関係性が幼児に与える影響を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
	6	保育者との関係を中心に重要な他者との関係性が幼児に与える影響を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
	7	教育相談の意義と関連するカウンセリングの基礎を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間
	8	カウンセリング技術（受容・傾聴・共感）に基づく子どもとの関わりについて学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2 時間	テキストの該当箇所を読む	2 時間

	9	発達をつまづきとは何か学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	10	発達障害の基本について知り、気づき、対応について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	11	発達の問題への支援方法について学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	12	保護者支援の実践を知りその方法を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	13	社会的資源について知り活用方法を学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	14	カウンセラーとの協働について実例を元に学ぶ	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
	15	幼児を取り巻く環境の今後について考える	テキストの該当箇所を読む	2時間	テキストの該当箇所を読む	2時間
成績評価		定期試験（50%）、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題（50%）				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		試験の採点方法と点数をルーブリック評価に基づき示す。				
テキストおよび参考文献		テキスト：横山 洋子 監修 保育の現場で使える文章と言葉がけ 池田書店 参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）				
メッセージなど		幼児理解の必要性を知り子どもたちを取り巻く環境が子どもの成長にどのように影響しているのか教育、支援の実践について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)幼児理解についての基本的な知識を身につける。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	15%
(2)幼児の理解、保護者を含めた関係者について理解する。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	15%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	15%
(3)幼児教育現場での教育相談のありかたについて学ぶ。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解・思考力)	20%
	問題意識をもって講義に参加し、それを十分に表現することができる。	問題意識をもって講義に参加し、それを概ね表現することができる。	問題意識をもって講義に参加しているが、それを表現することが不十分である。	問題意識をもって講義に参加していない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
保育・教職実践演習（幼稚園） Practice of Teaching Profession(Kindergarten)		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECTP2004	2 年次	後期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
演習	2		田中 奏子 他				
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概 要	教育実習と教職に関する既習の科目の知識と技術の統合をはかり、幼稚園教諭として資質能力を高めることを目的に、グループ活動やロールプレイ、地域子育て支援行事への参加などの実践を組み入れ演習形式で授業を行う。						
到達目標	(1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。						
	(2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。						
	(3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	オリエンテーション・教育実習の振り返り（自己評価）・教職履修ファイルの記入		教育実習日誌を まとめる	2 時間	授業の振り返りとフ ァイルのまとめ	2 時間
	2	1 年生に対する実習についての話①・ 模擬保育の準備と練習		事前配布資料を 読んでくる	2 時間	模擬保育の準備	2 時間
	3	1 年生に対する実習についての話 ①・模擬保育		模擬保育の練習	2 時間	課題レポート	2 時間
	4	地域の子育て支援に関する行事参加 の準備①・内容確認とグループ編成		事前配布資料を 読んでくる	2 時間	グループ課題	2 時間
	5	地域の子育て支援に関する行事参加 の準備②・企画と立案		グループ企画の 立案	2 時間	グループ企画の立 案と確認	2 時間
	6	地域の子育て支援に関する行事参加 の準備③・教材作成		グループ企画の 教材作成	2 時間	グループ企画の教 材作成と確認	2 時間
	7	地域の子育て支援に関する行事参加 の準備④・練習及び流れの確認		グループ企画の 練習と準備物の 確認	2 時間	グループ企画の練 習と確認	2 時間
	8	地域の子育て支援に関する行事での 実践①		グループ企画の 練習	2 時間	グループ企画の確 認	2 時間
	9	地域の子育て支援に関する行事での 実践②		グループ企画の 練習	2 時間	課題レポート	2 時間
	10	地域の子育て支援に関する行事参加 の振り返り 実習評価票に基づく今後の課題の明確化 ①		行事の振り返り	2 時間	課題レポート	2 時間

	11	実習評価票に基づく今後の課題の明確化②	事前配布レポート	2 時間	課題レポート	2 時間
	12	1 年生に対する実習についての話②の準備	実習日誌のまとめ	2 時間	グループでの話の立案と確認	2 時間
	13	1 年生に対する実習についての話②	グループでの話のまとめ	2 時間	課題レポート	2 時間
	14	各自の課題への取り組み	事前配布資料を読む	2 時間	各自の課題への取り組み	2 時間
	15	課題についてのまとめ	各自の課題への確認とまとめ	2 時間	課題レポート	2 時間
成績評価		課題・レポート (30%)、指導案 (10%)、授業への取り組み (15%)、発表・プレゼンテーション (30%)、毎回の授業の感想・振り返り (15%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		レポートや配布資料はファイルにとじ、次の時間の復習や授業の振返りに使用します。				
テキストおよび参考文献		参考文献：幼稚園教育要領				
メッセージなど		幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼稚園教諭としての使命感・責任感、社会性やコミュニケーション力が向上している。	幼稚園教諭としての資質・能力が磨かれている。	幼稚園教諭としての基本的な資質・能力が見られる。	幼稚園教諭としての資質・能力の最低限の基本が見られる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・協働性・表現力)	15%
	幼稚園教諭としての資質・能力が磨かれている。	幼稚園教諭としての基本的な資質・能力が見られる。	幼稚園教諭としての資質・能力の最低限の基本が見られる。	幼稚園教諭としての適性が見られない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(関心・意欲・態度・協働性・表現力)	15%
(2) こども理解やクラス運営の考え方や具体的方法について説明ができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	課題・レポート (知識・理解・思考力・判断力・問題解決力)	30%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	発表・プレゼンテーション (知識・理解・思考力・判断力・問題解決力)	10%
(3) 保育内容の指導の原理と方法について、模擬保育の実践を通して表現することができる。	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	表現することができない。	指導案 (知識・理解・技能・判断力・表現力)	10%
	ほぼ完璧に表現できる。	大きな間違いがなく、基本を踏まえて、表現できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の表現ができる。	表現することができない。	発表・プレゼンテーション (知識・理解・思考力・判断力・問題解決力)	20%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
幼児と言葉 Infant and Language		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1001	1 年次	後期
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員
演習	1		中津 愛子			
実務家教員 の詳細						
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					
概 要	領域「言葉」の指導の基礎となる専門的知識を身に付けるため、次の3つをテーマとした授業を行う。 ①乳幼児期の言葉の発達と言葉の意義や機能を学ぶ。 ②言葉に対する感覚を豊かにするための実践の基礎を学ぶ。 ③言葉を育て、想像する楽しさを広げる児童文化財の意義を学ぶ。					
到達目標	(1)話し言葉や書き言葉などの言葉の意義や機能を説明できる。 (2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきを含めて説明できる。 (3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。 (4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。 (5)言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。 (6)児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける (7)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。					
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容 復習 時間
	1	領域「言葉」のねらい・内容・内容の 取扱いについて学ぶ。				復習プリント 2 時間
	2	領域「言葉」のねらい・内容・内容の 取扱いについて学ぶ。		事前配布資料を 読んでおく	2 時間	復習プリント 2 時間
	3	言葉による伝え合いや言葉遊び、文字 への関心について学び、映像資料をも とに具体的な子どもの姿を理解する。		事前配布資料を 読んでおく	2 時間	復習プリント 2 時間
	4	前言語期のコミュニケーションの発 達について、映像資料を通して具体的 な子どもの姿を理解する。		事前配布資料を 読んでおく	2 時間	復習プリント 2 時間
	5	幼児期の言葉の発達過程について、映 像資料をもとに具体的に子どもの姿 を通して学ぶ。		事前配布資料を 読んでおく	2 時間	復習プリント 2 時間

	6	映像資料をもとに、保育者の適切な言葉がけについてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	7	保育場面の映像から、言葉を生み出す環境と豊かな体験についてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	8	子どもの言語障害について学び、映像を通して実際の子どもの姿を理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	9	言葉の遅れがみられる子どもへの援助、保育場面での配慮についてグループ討議を行い、グループごとにプレゼンテーションを行って学び合う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	10	児童文化財としての絵本・紙芝居の実践を行い、言葉の豊かさや楽しさを子どもたちがどのように経験するかをグループ討議する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	復習プリント	2 時間
	11	ストーリーテリングの実践と、しりとりやなぞなぞなどの言葉遊びの実践を行い、言葉に関する感覚を高めることについてグループ討議を行う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	指導計画の課題レポート	2 時間
	12	ペープサートの作成とパネルシアターの実演を学ぶ。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の教材作成	2 時間
	13	言葉に対する感覚を豊かにするための ICT を用いた保育教材の作成を行う。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の練習	2 時間
	14	幼児の児童文化財の意義を学ぶ。領域「言葉」と他領域との関わりについて理解する。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の実践後の感想レポート	2 時間
	15	領域「言葉」と小学校「国語科」との関係を理解したうえで、言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにするための幼児期の教育の重要性について、発表しあう。	事前配布資料を読んでおく	2 時間	模擬保育の指導計画の修正	2 時間
成 績 評 価		授業への取り組み（15%）、グループワーク・グループ討議（15%）、プレゼンテーション（30%）、定期試験（40%）				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		復習プリントは添削して返却します。成績はルーブリック評価を行い、配布します。				
テキストおよび参考文献		テキスト：事前配布資料、幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 参考文献：文部科学省『幼稚園教育指導資料第 5 集』チャイルド本社				
メ ッ セ ー ジ な ど		グループ討議や模擬保育を取り入れたアクティブラーニング型の授業です。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)話し言葉や書き言葉などの言葉の意義や機能を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(2)乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気づきを含めて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(3)言葉の楽しさや美しさについて、具体的な例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(4)言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について、基礎的な知識を身に付ける。	ほぼ完璧に身に付けている。	基礎的な知識をおおよそ身に付けている	最低限の知識を身に付けている。	身に付けていない。	授業への取り組み (関心、意欲、態度)	15%
(5)言葉の楽しさや美しさに気づき、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解)	10%
(6)児童文化財（絵本・物語・紙芝居等）について、基礎的な知識を身に付ける	ほぼ完璧に身に付けている。	基礎的な知識をおおよそ身に付けている	最低限の知識を身に付けている。	身に付けていない。	プレゼンテーション (思考力・判断力、表現力)	30%
(7)幼児の発達における児童文化財の意義について理解する。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いはなく、おおよそ理解している。	最低限、理解している。	理解していない。	グループワーク・グループ討議 (関心、意欲、態度)	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
幼児と音楽表現 Infant and musical expression		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1002	1 年次	後期	
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
演習	1		田中 奏子				
実務家教員 の詳細							
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概 要		表現領域とは何か、幼児の音楽的な表現方法を、発達を理解しながら手あそび、わらべうた、リトミック等の知識を習得する。また具体的な例を例をあげながら、状況に適した表現方法を学ぶ。					
到達目標		(1) 幼児の音楽表現に関する知識・技能を習得する。					
		(2) 子どもの能力を引き出す表現の工夫や展開を考えることができる。					
		(3) 豊かな表現力、コミュニケーション能力を高め、自身の創造力や表現力を磨くことができる。					
授業内容 と 進め方		回	授業内容	予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
		1	表現領域のねらい	領域「表現」について簡単に調べてくる	2 時間	課題レポート	2 時間
		2	イメージから表現へのプロセス	事前配布資料を読むでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
		3	幼児期における表現活動の芽生え	事前配布資料を読むでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
		4	手あそびの必要性 (1)	手あそびを 2 つ調べてくる	2 時間	発表できるように練習しておく	2 時間
		5	手あそびの必要性 (2)	手あそびを練習してくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
		6	幼児とわらべうた	わらべうたを 1 つ調べてくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
		7	リズムあそびと表現活動の関わり (1)	事前配布資料を読むでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
		8	リズムあそびと表現活動の関わり (2)	事前配布資料を読むでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
		9	歌うことと聴き合うこと	事前配布資料を読むでくる	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間
		10	絵本と音楽	絵本を 1 つ持参する	2 時間	授業の振り返りとレポート	2 時間

	11	音楽の基礎知識	事前配布資料を読ん でくる	2 時間	授業の振り返り とレポート	2 時間
	12	リズムアンサンブル	事前配布資料を読ん でくる	2 時間	授業の振り返り とレポート	2 時間
	13	テーマから表現する	事前配布資料を読ん でくる	2 時間	授業の振り返り とレポート	2 時間
	14	表現活動のグループ発表	事前配布資料を読ん でくる	2 時間	授業の振り返り とレポート	2 時間
	15	なぜ「表現」をするのか考える	事前配布資料を読ん でくる	2 時間	授業の振り返り とレポート	2 時間
成 績 評 価		授業への取り組み（関心・意欲・態度）50%、 グループワーク・グループ討議（思考力・表現力・判断力）35% 課題・レポート（知識・理解）15%				
課題（試験・レポート等） に対する フィードバックの方法		授業計画表内のフィードバック欄に毎回記入をする。 レポートや配布資料を適切に管理し、予習復習に使用する。				
テキストおよび 参 考 文 献		テキスト：表現指導法 上野奈初美 編著 萌文書林 参考文献：幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こ ども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省） 保育内容 領域「表現」 堂本真実子 編 わかば社 子どものための音楽表現技術 今泉明美他編著 望月たけ美他 萌文書林				
メ ッ セ ー ジ な ど		幼稚園教諭二種免許：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 幼児の音楽表現に 関する知識・技能を習 得する。	ほぼ完璧に 知識・技能 を習得でき る	大きな間違 いなく、知 識・技能を 習得できる	最低限の知 識・技能を 習得できる	知識・技能 を習得でき ない	授業への取り組み （関心・意欲・態 度）	50%
(2) 子どもの能力を引 き出す表現の工夫や 展開を考えることが 出来る。	ほぼ完璧に 工夫や展開 を考えるこ とができる	大きな間違 いなく、工 夫や展開を 考えること ができる	最低限の工 夫や展開を 考えること ができる	工夫や展開 を考えると ができな い	グループワーク・グ ループ討議 （思考力・表現力・ 判断力）	30%
(3) 豊かな表現力、コ ミュニケーション能 力を高め、自身の創造 力や表現力を磨くこ とができる。	ほぼ完璧に できる	大きな間違 いなくでき る	最低限でき る	磨くことが できない	課題・レポート （知識・理解）	20%

授業科目			対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
幼児と造形表現 Young Children and Plastic Arts Expressing			児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1006	1 年次	通年
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員				実務家教員
演習	2	必修	大森 洋子				○
実務家教員の詳細	幼稚園教諭としての実務経験を生かし、到達目標達成のための実践的な授業を行う。						
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。						○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。						
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。						
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。						○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。						
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。						○
概 要	幼児の発達段階と造形表現の変化を関連づけながら、幼児期にふさわしい造形表現を援助するための方法を考える。また、幼児の造形表現の基本となる知識・技能、造形活動に関する基本的な素材の扱い方や環境構成等について、自ら作る喜びを味わう中で習得する。						
到達目標	(1) 領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の生活や遊びの中にみられる表現の姿 とその発達を理解する。 (2) 造形表現の基礎知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 (3) 身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。						
授業内容と進め方	回	授業内容		予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	幼児の造形についての概要。当授業のねらい。		授業前に配付したプリントを読む	2 時間	授業の概要理解について考察し感想を書く	2 時間
	2	実際の絵を見ながら、幼児の発達と造形表現の特徴を理解する		前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	3	造形活動を進めていく上で必要となる環境づくりと素材・道具等について学ぶ。		前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	4	幼児のための様々な描画材料の特徴を知り、試作する。(クレヨン、クレパス、マーカー)		前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	5	幼児のための様々な描画材料の特徴を知り、試作する。(筆、竹ペン、色鉛筆、墨、コンテ)		前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	6	幼児のための様々な描画材料を知り、試作する。(彩液、水彩絵の具、ポスターカラー等)		前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	7	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、その時期にふさわしい壁面装飾を制作する。		前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

8	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、その時期にふさわしい壁面装飾を制作する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
9	描画材料を用いたモダンテクニックを習得する①(クレヨン、クレパスの特質を利用したスクラッチをする。)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
10	描画材料を用いたモダンテクニックを習得する②(鉛筆、色鉛筆の特質を利用してフロタージュをする。)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
11	描画材料を用いたモダンテクニックを習得する ③(クレヨン、パス、水彩絵の具の特質を利用してパチックをする。)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
12	描画材料を用いたモダンテクニックを習得する④(絵の具を用いてデカルコマニーをする。)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
13	描画材料を用いたモダンテクニックを習得する⑤(彩液を用いてマーブリング、染め紙をする)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
14	描画材料を用いたモダンテクニックを習得する⑥(絵の具を用いてスタンピング、ドリップングをする)	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
15	中間発表:これまでの学んだ技法を活用した幼児の造形活動について考え、発表する。	発表準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
16	前時に考えた造形活動について実際に指導法も含めて実践する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
17	前時に考えた造形活動について実際に指導法も含めて実践する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
18	紙の特徴を理解し、接着や構成を工夫することを意識して作品制作を行う。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
19	紙の特徴を理解し、接着や構成を工夫することを意識して作品制作を行う。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
20	粘土の特徴を理解し、その特徴を生かし遊びや製作について考え、実施する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
21	粘土の特徴を理解し、その特徴を生かし遊びや製作について考え、実施する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
22	廃材などの身近な素材を活用した造形遊びや製作について考え、実施する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
23	廃材などの身近な素材を活用した造形遊びや製作について考え、実施する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間

	24	自然物を生かした造形遊びや製作について考え、実施する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	25	自然物を生かした造形遊びや製作について考え、実施する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	26	これまでに学んだ教材を活用した幼児の造形活動について考え、発表する。	発表の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	27	前時に考えた造形活動について実際に指導法も含めて実践する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	28	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、その時期にふさわしい壁面装飾を制作する。	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	29	園の環境や季節、子どもの年齢などを想定し、その時期にふさわしい壁面装飾を制作する	前時に配付したプリントを読んでおく。教材の準備	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
	30	自分たちの制作物を見ながら、子どもの造形活動の評価と援助の方法について考える。	前時に配付したプリントを読んでおく。	2 時間	授業内容の振り返りシートを書く。	2 時間
成績評価		課題・レポート（知識・理解・思考力）30%、作品（意欲・態度・作品の完成度）30%、教材作成（表現力・判断力・創造性）20%、毎回の授業の感想・振り返り（関心・意欲・理解）20%				
課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法		・試験は実施しない（ただし、授業内で小テストを行う） ・授業の振り返りシート提出と、作品ファイルの提出				
テキストおよび参考文献		幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）				
メッセージなど		子どもの立場、または保育者としての立場を想定して演習します。実習にも役立つスキルを身につけます。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目 保育士証：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)領域「表現」の位置づけを理解し、幼児の生活や遊びの中にみられる表現の姿とその発達を理解する。	幼児の造形表現の特徴をほぼ完璧に理解し、説明できる。	大きな間違いがなく、幼児の造形表現の特徴を理解し説明できる。	いくつかの間違いはあるが、幼児の造形表現の特徴を理解し説明できる。	幼児の造形表現の特質を全く理解できず説明もできない。	課題・レポート(知識・理解・思考力)	30%
	ほぼ完璧で意欲的な感想、振り返りができている。	大きな間違いがなく、意欲的な感想、振り返りができている。	いくつかの間違いはあるが、意欲的な感想、振り返りができている。	全く理解できず、意欲的な感想、振り返りができていない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	10%
(2)造形表現の基礎知識・技能を学び、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。	ほぼ完璧に描画材料を使いこなせる。	大きな間違いがなく描画材料を使いこなせる。	いくつかの間違いはあるが、描画材料を使いこなせる。	全く描画材料を使いこなせない。	作品(意欲・態度・作品の完成度)	30%
	描画材に関してほぼ完璧で意欲的な感想、振り返りができている。	描画材に関して大きな間違いがなく、意欲的な感想、振り返りができている。	いくつかの描画材に対しての間違いはあるが、感想、振り返りができている。	描画材に対して間違いが多く、感想、振り返りができていない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	5%
(3)身近な素材を用いた表現活動に取り組み、その面白さや可能性、重要性を説明する。	身近な素材をほぼ完璧かつ確に用いて想像性の高い教材作成ができている。	大きな間違いもなく、身近な素材をほぼ的確に用いて想像性の高い教材作成ができている。	いくつかの間違いはあるが、身近な素材を用いて教材作成ができている。	全く身近な素材を用いた教材ができない。	教材作成(表現力・判断力・想像性)	20%
	ほぼ完璧に、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	大きな間違いもなく、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	いくつかの間違いはあるが、身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解し自他ともに評価できる。	全く身近な素材の面白さ、可能性、重要性を理解できず、自他ともに評価できない。	毎回の授業の感想・振り返り(関心・意欲・理解)	5%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング		年 次		期 別					
幼児と健康 Young Children and Health		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1008		1 年次		通年					
講義・演習・実技・実習・実験		単位数		卒業認定		担当教員				実務家 教員			
演習		1				佐伯 里英子							
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。									○			
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。												
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。												
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。									○			
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。												
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。									○			
概要		幼稚園教育要領に示されている健康領域のねらい及び内容について理解を深め、今日の幼児教育において求められている対話的保育のあり方、あそびを軸にした保育のあり方を、発達段階を踏まえて検討していく。											
到達目標		(1) 領域「健康」の意義やねらい、内容について説明できる。											
		(2) 幼児期の心と体の成長と運動発達の特徴を説明できる。											
		(3) 安全教育の理解を深め、健康で安全な保育展開を行う知識を身に付ける。											
		(4) 年齢に応じたあそびを理解し、環境設定や子どもとの対話的保育としての関わりをイメージし保育を構想することができる。											
		(5) 幼児教育の今日的課題を模索し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な健康領域（特に運動あそび）の援助・指導の知識を身に付ける。											
授業内容 と 進め方 (前期)		回		授業内容		予習内容		予習時間		復習内容		復習時間	
		1		「健康領域」について						授業内容の振り返り		2 時間	
		2		保育所保育指針・幼稚園教育要領のねらいについて		事前資料を読んでくる		2 時間		授業内容・実技内容の振り返り		2 時間	
		3		保育所保育指針・幼稚園教育要領の内容等について		事前資料を読んでくる		2 時間		授業内容・実技内容の振り返り		2 時間	
		4		幼児の健康について①幼児期の健康課題		事前資料を読んでくる		2 時間		授業内容・実技内容の振り返り		2 時間	
		5		幼児の健康について②健康の発達の意味		事前資料を読んでくる		2 時間		授業内容の振り返りとレポート		2 時間	
		6		幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成①幼児期の発達の特徴		事前資料を読んでくる		2 時間		授業内容の振り返りとレポート		2 時間	

	7	幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成②乳幼児の基本的な生活習慣の形成	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	8	健康領域と運動あそびについて①運動あそびの重要性	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	9	健康領域と運動あそびについて②運動あそびでの子どもの具体的な姿	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	10	健康領域と運動あそびについて③保育場面での子どもの姿の分析	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	11	運動あそびでの対話的保育について①子ども中心の保育	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	12	運動あそびでの対話的保育について②具体的な保育指導の検討	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	13	安全な生活と病気の予防①幼児の安全教育・健康管理	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	14	安全な生活と病気の予防②幼児期の怪我の特徴や病気の予防と安全管理	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容の振り返りとレポート	2時間
	15	前期のまとめ	授業資料のまとめ	2時間	授業資料のまとめと課題プリント	2時間
授業内容と進め方(後期)	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	16	幼児期の運動発達と身体活動①乳幼児の運動発達の特徴			授業内容の振り返り	2時間
	17	幼児期の運動発達と身体活動②幼児期において多様な動きを獲得することの意義	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	18	運動あそびの実践事例から考える①実践事例1	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	19	運動あそびの実践事例から考える②実践事例2	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	20	食育について①事例紹介	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	21	食育について②具体的な指導の検討	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	22	子どもと一緒に育つ①事例紹介	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	23	子どもと一緒に育つ②グループワーク	事前資料を読んでくる	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間
	24	おにごっこ指導①発達段階を踏まえた指導	発表課題の準備	2時間	授業内容・実技内容の振り返り	2時間

	25	おにごっこの指導②模擬保育の検討	発表課題の準備	2 時間	授業内容・実技内容の振り返り	2 時間
	26	ICT 機器の活用について	事前資料を読んでもくる	2 時間	授業内容・実技内容の振り返り	2 時間
	27	健康領域での保育指導案の作成① 保育指導案の計画・立案	発表課題の準備	2 時間	授業内容の振り返りとレポート	2 時間
	28	健康領域での保育指導案の作成② 保育指導案の作成	発表課題の準備	2 時間	授業内容の振り返りとレポート	2 時間
	29	幼小連携について	事前資料を読んでもくる	2 時間	授業内容の振り返りとレポート	2 時間
	30	健康領域のまとめ	授業資料のまとめ	2 時間	授業資料のまとめ	2 時間
成 績 評 価		授業レポート（関心・意欲・態度・理解）20%、課題（思考力・判断力）30%、定期試験（知識・理解・表現）50%				
課題（試験・レポート等）に対する フィードバックの方法		課題やレポートはファイルにとじて提出してもらい、後日返却します。				
テキストおよび 参 考 文 献		幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働 省） 、 保育所保育指針（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省） 、 伊狩芳子『演習 保育内容 健康—大人から子どもへつなぐ健康の視点』萌文書林				
メ ッ セ ー ジ な ど		幼稚園教諭二種免許状：必修科目 子どもの姿をイメージしながら、運動あそびや領域「健康」の基礎知識に触れることで幼児の健康について考えてもらいたい。				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 領域「健康」の意義やねらい、内容について説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる	大きな間違いがなく理解し、説明できる	最低限理解し、説明できる	理解しておらず、説明できない	毎回の授業課題（思考力・判断力）	5%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる	大きな間違いがなく理解し、説明できる	最低限理解し、説明できる	理解しておらず、説明できない	定期試験（知識・理解・表現）	10%
(2) 幼児期の心と体の成長と運動発達の特徴を説明できる。	ほぼ完璧に理解し、説明できる	大きな間違いがなく理解し、説明できる	最低限理解し、説明できる	理解しておらず、説明できない	毎回の授業課題（思考力・判断力）	5%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる	大きな間違いがなく理解し、説明できる	最低限理解し、説明できる	理解しておらず、説明できない	レポート（思考力・判断力）	5%
	ほぼ完璧に理解し、説明できる	大きな間違いがなく理解し、説明できる	最低限理解し、説明できる	理解しておらず、説明できない	定期試験（知識・理解・表現）	5%
(3) 安全教育の理解を深め、健康で安全な保育展開を行う知識を身に付ける。	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	毎回の授業課題（思考力・判断力）	5%
	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	レポート（関心・意欲・知識・理解・表現力）	5%
	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	定期試験（知識・理解・表現）	5%
(4) 年齢に応じたあそびを理解し、環境設定や子どもとの対話的保育としての関わりをイメージし保育を構想することができる。	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	毎回の授業課題（思考力・判断力）	5%
	ほぼ完璧に理解し、発表することができる	大きな間違いがなく理解し、発表することができる	最低限理解し、発表することができる	理解していない	レポート（思考力・判断力）	5%
	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	定期試験（知識・理解・表現）	15%
(5) 幼児教育の今日的課題を模索し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な健康領域（特に運動あそび）の援助・指導の知識を身に付ける。	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	毎回の授業課題（思考力・判断力）	10%
	ほぼ完璧に理解し、発表することができる	大きな間違いがなく理解し、発表することができる	最低限理解し、発表することができる	理解していない	レポート（思考力・判断力）	5%
	ほぼ完璧に理解している	大きな間違いがなく理解している	最低限理解している	理解していない	定期試験（知識・理解・表現）	15%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別	
幼児と人間関係 Relationships with infants		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1010	1 年次	前期	
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担 当 教 員			実務家 教員	
演習	1		平田 睦美			○	
実務家教員 の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。						
ディプロマ・ ポリシーに 示されてい る学習成果 との 関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○	
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○	
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○	
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○	
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○	
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○	
概 要	幼児を取り巻く様々な社会的問題や実際の姿を考察することを通じて、人間関係の発達のために必要な事柄について理解を深める。領域「人間関係」の基本的事項を学習し、人とかかわる筋道を理解し、子どもの姿を捉える視点について学ぶ。						
到達 目標	幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。 乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。 乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。 自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明できる。 家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。						
授業内容 と 進め方	回	授業内容		予習内容	予習 時間	復習内容	復習 時間
	1	幼稚園教育要領, 保育所保育指針, 幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいや内容・内容の取扱いについて学ぶ。		幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2 時間	領域「人間関係」のねらいや内容についてまとめる。	2 時間
	2	幼児を取り巻く人間関係と現代的特徴とその社会的背景について理解する。		幼児の人間関係について考えをまとめる。	2 時間	授業で学んだことをまとめる。	2 時間
	3	自分や周りの人などとの関係性の中から、印象的な場面を取り上げ、グループで紹介し合い、様々な場面の人間関係について考えを深める。		自分の生活の中で印象的な人とかかわりについて考える。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	4	0～2 歳児における人とかかわりの姿の映像を通して、人間関係の発達の姿を考察する。		保育所保育指針解説 P101～109、P135～144 を読む。	2 時間	映像記録をまとめる。	2 時間
	5	幼児期の遊びや生活の映像を通し、その中にみられる人とかかわる力の育ちについてグループで話し合い、理解する。		幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2 時間	映像記録をまとめる。	2 時間
	6	自我の芽生えから自立へ向かう過程について映像や事例を通して理解し、保育者の援助について学ぶ。		幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2 時間	映像や事例についてまとめる。	2 時間

	7	子ども同士のトラブルやいざこざの実際の場面を映像や事例から考え、幼児の発達とどのように関係しているかをグループで話し合い探る。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2時間
	8	幼児の仲間意識の形成と協同する存在へと変容する過程をグループで話し合い理解し、保育者の役割について考える。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2時間
	9	個の育ちと集団の育ちについての関係性を映像や事例を通して考察し、保育者の役割について考える。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	映像や事例についてまとめる。	2時間
	10	人とかかわりが難しい子どもに対して、様々な事例を通しその要因について理解し対応について考察する。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	事例から考えたことをまとめる。	2時間
	11	幼児が葛藤体験を通し、きまりの重要性を理解したり、気持ちを調整し折り合いをつけたりする過程について理解し道徳性・規範意識の芽生えの関係性について考える。	幼稚園教育要領解説第2章「人間関係」を読む。	2時間	授業を振り返り、自分の考えをまとめる。	2時間
	12	小学校との連携や地域の様々な人々との交流の意義について考え、実際の事例を通してそのあり方や保育者の役割を学ぶ。	地域との交流はどのようなものがあるか調べる。	2時間	授業を振り返り、要点をまとめる。	2時間
	13	保護者との連携について事例を通してグループで話し合い子どもの育ちを支える上で大切であることを理解し、保護者との関係づくりについて学ぶ。	保護者との連携について自分の考えをまとめる。	2時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2時間
	14	保育者同士が連携しながら保育にあたることや情報を共有することが子どもの生活に極めて重要であることを理解する。	保育者同士の連携について自分の考えをまとめる。	2時間	授業を振り返り、要点をまとめる。	2時間
	15	授業内容を振り返り学びを整理しながら、人とかかわる力を育てる保育者の役割や現代的課題について自分の考えをまとめる	15回の資料を読み直す。	2時間	振り返りシートによりまとめる。	2時間
成績評価		定期試験(50%)、レポート (30%)、授業への取組 (20%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		振り返りシートやレポートはコメントをつけて返却します。ルーブリックによる成績評価を配布します。				
テキストおよび参考文献		テキスト：『幼稚園教育要領』（平成29年3月 告示 文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成29年3月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『保育所保育指針』（平成29年3月 告示 厚生労働省）、『幼稚園教育要領解説』（平成30年3月 文部科学省）フレーベル館、『保育所保育指針解説』（平成30年3月 厚生労働省）フレーベル館 参考文献：『事例で学ぶ保育内容 領域 「人間関係」』無糖隆 監修 岩立京子 編集代表 萌文書林				
メッセージなど		人が成長し生きていくためには、人間関係が極めて重要な要因です。人間関係の発達のために必要な事柄を映像や事例の幼児の姿から考え、学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許状：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)幼児を取り巻く人間関係をめぐる現代的課題を理解する。	ほぼ完璧に理解している。	大きな間違いがなく、基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験 (知識・理解)	20%
(2)乳幼児期に育つ人と関わる力の発達について、身近な大人との関係から説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(3) 乳幼児期の遊びや生活の中で育つ人と関わる力の発達について、教師との関係、幼児との関係、集団の中での育ちを観点として説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	定期試験 (知識・理解)	15%
(4)自立心の育ち、協同性の育ち、道徳性・規範意識の芽生えについて発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組 (関心・意欲・態度)	10%
(5)家族や地域との関わりと育ちについて、発達の姿と合わせて説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度)	10%

授業科目		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期 別
幼児と環境 Toddlers and the environment		児童教育学科 初等教育学専攻		23ECCC1011	1 年次	後期
講義・演習・実技・実習・実験	単位数	卒業認定	担 当 教 員			実務家教員
演習	1		平田 睦美			○
実務家教員の詳細	公立幼稚園園長としての実務経験を生かした到達目標達成のための実践的な授業を行う。					
ディプロマ・ポリシーに示されている学習成果との関係	(1) 子どもの発達に関する専門知識を有し、一人一人の子どもの特性を理解する力を身につけている。					○
	(2) 子どもの発達や興味・関心を理解したうえで保育を計画し、実践をする力を身につけ、集団と個への対応を考えた指導、援助ができる。					○
	(3) 子どもに関わるための豊かなコミュニケーション能力を身につけている。					○
	(4) 一つの課題に対して様々な視点から考え、自分の意見を述べる力を身につけているとともに、保育に関する課題に誠実に向き合い、解決に向けて考える力を身につけている。					○
	(5) 他者の意見を取り入れ、協働して物事を進めていく力を身につけている。					○
	(6) 自らの課題に対して学び続ける姿勢をもち、保育者としての資質・能力を高めるために主体的に学ぶ力を身につけている。					○
概 要	幼児を取り巻く様々な環境の教育的意義を理解し、幼児期の環境と関わる力の発達について、事例や映像を通して、幼児の実際の姿から学ぶ。					
到達目標	(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義を理解する。 (2) 乳幼児の物理的、数量・図形との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。 (3) 乳幼児の生物・自然との関わり的事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。 (4) 乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。 (5) 乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとのかかわり方について説明できる。					
授業内容と進め方	回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	日々の生活を基に環境の関係性についてグループで考え、環境の意味を理解する。	幼児を取り巻く環境について自分のイメージしたことをまとめる。	2 時間	生活と環境の関係性についてまとめる。	2 時間
	2	幼稚園教育要領,保育所保育指針,幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」のねらいや内容について具体的に学ぶ。	幼稚園教育要領解説第2章「環境」を読む。	2 時間	領域「環境」のねらいや内容を復習する。	2 時間
	3	現代社会の幼児を取り巻く環境と現代課題についてグループで話し合い理解する。	幼児を取り巻く環境の課題について考えをまとめる。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	4	乳幼児期の発達における環境との関わりについて映像を通して理解する。	幼稚園教育要領解説第2章「環境」を読む。	2 時間	映像記録をまとめる。	2 時間
	5	実際の保育現場での保育室の環境構成の映像を見て、グループで話し合い、環境を構成する身近な物とのかかわりについて理解する。	幼稚園教育要領解説第2章「環境」を読む。	2 時間	映像記録をまとめる。	2 時間

	6	大学の近辺を散策し、見たり、感じたり、触れたりすることを通し、幼児の生活と関係する環境について考えたことをグループでまとめる。	今時期の自然の様子（草花・虫など）について調べておく。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	7	季節の自然物を使った遊びを体験する。	身近な自然物を使った遊びについて考えておく。	2 時間	体験した遊びについてまとめる。	2 時間
	8	身近に育つ植物の種類を調べ、これらと幼児の生活や遊びについて考える。	身近に育っている植物について調べておく。	2 時間	授業を振り返り、考えたことをまとめる。	2 時間
	9	実際に花や野菜の栽培をし、どのように成長していくのか、そのためにはどのようなことが必要かについて学ぶ。	自分が育てたい花や野菜の育て方について調べ、まとめておく。	2 時間	授業を振り返り、考えたことをまとめる。	2 時間
	10	身近な生き物の種類、特性について映像を通して学ぶ。また、幼児の生き物への興味・関心について学び、生き物の不思議さや命の大切さを認識する。	自分が育ててみたい生き物の育て方について調べておく。	2 時間	幼児と生き物の関係についてまとめる。	2 時間
	11	幼児の自然（自然現象・土・水など）との関わりについて映像や事例を通して学び、自然体験活動の大切さを理解する。	自然と関わる遊びについて考えておく。	2 時間	幼児と自然との関わりについてまとめる。	2 時間
	12	「数・量・図形」について、幼児が遊びや生活を通して学んでいく方法を理解する。	「数・量・図形」に関わる遊びについて考えておく。	2 時間	幼児の「数・量・図形」について学んでいく方法をまとめる。	2 時間
	13	乳幼児を取り巻く標識・文字と幼児の生活について考え、どのようなものがあるかグループで話し合い、具体的な場面や活動を学ぶ。	乳幼児を取り巻く標識にはどのようなものがあるか調べておく。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	14	乳幼児期の生活に関係の深い情報や施設などについて調べ、それらにかかわる具体的な活動について考える。	乳幼児期の生活に関係する施設について調べておく。	2 時間	グループで話し合ったことをまとめる。	2 時間
	15	幼児と環境の関わりについて振り返り、環境の重要性と課題についてまとめる。	15 回の資料を読み直す。	2 時間	振り返りシートによりまとめる。	2 時間
成 績 評 価		定期試験(50%)、レポート(30%)、授業への取組・グループワーク (20%)				
課題(試験・レポート等)に対するフィードバックの方法		振り返りシートやレポートはコメントをつけて返却します。ループリックによる成績評価を配布します。				
テキストおよび参考文献		テキスト：『幼稚園教育要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省）、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』（平成 29 年 3 月告示 文部科学省・内閣府・厚生労働省）、『保育所保育指針』（平成 29 年 3 月告示 厚生労働省）、『幼稚園教育要領解説』（平成 30 年 3 月 文部科学省）フレーベル館 参考文献：『無藤隆 監修 福元真由美 編集代表 事例で学ぶ保育内容 領域「環境」』 萌文書林				
メ ッ セ ー ジ な ど		子どもたちは周囲の様々な環境に主体的にかかわる中で、発達に必要な経験をします。周囲の様々な環境とはどのようなものなのでしょうか。環境に関わる幼児の姿や、実際の環境を見たり、触れたり、考えたりすることを通して幼児にとっての環境の重要性について学んでいきましょう。 幼稚園教諭二種免許：必修科目				

ループリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 幼児を取り巻く環境と、幼児の発達についての意義を理解する。	ほぼ完璧に理解できる。	大きな間違いがなく基本を理解している。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を理解している。	理解できていない。	定期試験 (知識・理解)	50%
(2)乳幼児の物理的、数量・図形との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
(3)乳幼児の生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心、理解の発達を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組・グループワーク (関心・意欲・態度、思考力・表現力)	10%
(4)乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	レポート (思考力・判断力・表現力)	15%
(5)乳幼児の生活に係りの深い情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとのかかわり方について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく基本を説明できる。	間違いはいくつかあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できない。	授業への取組グループワーク (関心・意欲・態度、思考力・表現力)	10%

学校法人 第二麻生学園

YJC 山 口 短 期 大 学

〒747-1232 山口県防府市大字台道字大繁枝 11346 番の2

TEL 0835-32-0138

FAX 0835-32-0149

URL <https://www.yamaguchi-jc.ac.jp/>

E-mail info@yamaguchi-jc.ac.jp

山口短期大学 博多キャンパス

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東1丁目 19 番 18 号

山口短期大学オープンカレッジ

〒747-0801 山口県防府市駅南町 8-30